

現代生活学部 人間栄養学科
栄養教諭一種免許状

科目名	生活と情報処理	授業番号	NC101A	サブタイトル	(超スマート社会の生活術)
教員	石原 洋之				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期
				授業形態	講義(対面授業科目)
					必修・選択
					必修
授業概要	現代社会では、パソコンやスマートフォンなどのICTデバイスの活用が欠かせない。いつでもどこでも情報を利用できる環境が整い、AIの発展によって社会はますます高度化している。このような時代において、情報がどのような役割を果たし、人間とどのように関わるのかを学ぶ。 本授業では、「パソコンの基本操作や仕組み」、「ネットワークやAIの基本的な利用方法」、「情報化社会における情報モラルの課題」を中心に学び、現代社会で必要とされるICTリテラシーを身につけ、社会で活躍するための基礎を養う。				
到達目標	本授業の具体的な目標は、以下である。 (1) 積極的に授業に取り組みICTリテラシー(デジタルな道具を活用する能力)の向上を図るために、新しい知識やスキルを習得しようとする。 (2) パソコンの基本操作と基礎的知識を学び、必要なICTツールが使用できる。 (3) インターネットやAIを利用した情報収集、編集、発信の仕方を学び適切な情報共有が行える。 (4) 情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学び安全な情報共有を理解する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要				担当
第1回	授業ガイダンスとパソコン操作についての基礎知識 I まず、ICTの活用と授業の進め方について説明を受け理解する。PC教室の使い方、ログインの仕方(ID、パスワード)、eメールのログインの仕方等パソコン操作の基本について理解する。Google Classroomでの授業テキスト用のファイルの参照方法を知る。				
第2回	パソコン操作についての基礎知識II 演習用課題のファイルのアクセスの仕方、課題の提出の仕方等を理解し、実際に使えるようになるための操作を習得する。Gmail で e-mail 送信も行う。				
第3回	ワードの基礎知識 I MS WORDの起動、終了、文字入力の基本、印刷等を学び、簡単な文章を入力し、プリントアウトできる技術を習得する。音声読み上げ、画像-文字変換による文章の取り込みを経験する。				
第4回	ネットワークとインターネット利用についての基礎知識 I LANで構成されたネットワークとインターネットについて説明し、web 検索 を行い 画像を引用するなどの活用方法について理解する。また、その際に起こるセキュリティや著作権の問題について理解する。				
第5回	エクセルの基礎知識 I 表を作成して、グラフの作成を体験する。インターネットで取得可能なデータを利用して操作と簡単なデータ分析を実際に体験する。				
第6回	エクセルの基礎知識 II セルの値の参照やセル関数を使う。標準偏差を用いて特異データを示す処理方法を理解する。				
第7回	スマートフォンの利用とファイル共有 クラウドサービスとe-mailを使ってスマートフォンとPCでファイル共有する。Gmail, Googleドライブ, Microsoft One Drive の使用方法を学ぶ。				
第8回	ワードの基礎知識 II 音声読み上げ、画像→文字変換(OCR)による文章の取り込みを経験する。Microsoft(Office) 365 も体験し自己学習方法を習得する。				
第9回	パワーポイントの基礎知識 I パワーポイントの起動、終了、画像の挿入、図形の作成などパワーポイントの描画機能の基本について理解する。				
第10回	生成AIの活用 I 一般的なAIの概要説明を行い、要約や翻訳を体験する。さらに対話型AIを使用上の注意点と有効性を理解する。				
第11回	生成AIの活用 II 適切な画像の挿入やアニメーションの機能を活用し、自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。生成AIでの画像生成も体験する。				
第12回	パワーポイントの基礎知識 II 適切な画像の挿入やアニメーションの機能を活用し、自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。生成AIでの画像生成も体験する。				
第13回	生成AIの活用 III 適切な画像の挿入やアニメーションの機能を活用し、自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。生成AIでの画像生成も体験する。				
第14回	生成AIの活用 IV MS WORDで作成した自己紹介ファイルをパワーポイントで読み込み、アウトラインを理解し箇条書き文章から目的のスライドを作成してゆく。アウトラインという構造をまず作成することが、これからのAI活用で重要であることを学修する。				
第15回	情報の倫理とセキュリティ 情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるような知識・技術を習得する。また、情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりするための学修をする。				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	毎回の授業で演習に取り組む態度等を総合的に評価する。		
	レポート	80	毎回の授業での学修した情報教育の知識及び情報技術等が適正に理解・習得されているか、提出される演習課題等を総合的に評価する。レポートについては、コメントでフィードバックする。		
評価の方法：自由記載	毎回授業の初めに「本日の学修目標」を具体的に提示し、その目標が達成されたかどうかについて評価する。したがって、その目標をしっかりと意識して演習課題に取り組むこと。				
受講の心得	新聞やTV、webサイト等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 わからないことは質問すること。				

授業外学修	1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学習等を行い、考えてくること。 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いて振り返り、適宜調べ学習や実践等を行い、学びを深めていく(探究すること)。 以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。 3. Google Classroomを立ち上げ今回の授業の準備資料、復習用資料や連絡等を掲載するので視聴すること。
-------	--

使用テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	プリントの配布とプレゼンテーション。			

参考図書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	情報通信技術者歴42年。PC-CADシステムの開発。海外アプリケーションの国内販売サポート。国内企業自治体のシステム化支援。ICTを利用したミュージアムの常設システムの設計と施工管理。自治体情報化支援3か月。ICT系学生によるBPL演習における長期インターン指導（13年）。			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかけた 教育内容	システムの開発とインターネット創成期からの利活用及び海外視察と海外企業との提携で養ったICTの実践力と顧客企業のIT化でのITの活用の提案と提供、さらにミュージアムシステムでの教育現場への支援等の経験を生かして、ICTの具体的な活用を紹介しながら学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. ICTツール (アプリ) の機能と用途が理解できている。	多様なICTツールを使いこなすことができ、高度な機能も活用できる。新しいツールにも短時間で習得できる。	複数のICTツールを使いこなすことができ、使い慣れたツールでは高度な機能も活用できる。	必要なICTツールを適切に使いこなすことができる。	特定のツールにしか慣れておらず、他のツールには戸惑う。	ICTツールをほとんど使いこなせない。
知識・理解	2. 基本的な情報共有の方法が理解できている。	多様な情報共有の方法を理解し、状況に応じて最適な方法を選択できる。情報種別を意識した、効果的な情報共有を行うことができる。	複数の情報共有の方法を理解し、使いこなせる。情報共有の際に、必要な情報を漏れなく伝えられる。	基本的な情報共有の方法を理解し、使える。しかし、状況に応じた選択が難しい場合がある。	情報共有の方法が限定的で、状況に応じた選択が難しい。	情報共有の方法を十分に理解しておらず、相手に伝わらないことが多い。
知識・理解	3. 情報セキュリティと倫理を理解している。	情報セキュリティの重要性を深く理解し、実践的な知識を持っている。情報倫理に関する問題点を見抜き、適切な行動をとることができる。	情報セキュリティの知識があり、基本的な対策を講じることができる。情報倫理の重要性を理解している。	情報セキュリティの基礎知識はあるが、実践的な知識は不足している。情報倫理に関する問題点に気づきにくい。	情報セキュリティや情報倫理の重要性を十分に理解していない。	情報セキュリティや情報倫理に関する知識がほとんどない。
思考・問題解決能力	1. 課題を理解し適切に取り組める。	課題の本質を捉え、独自の解決策を提案できる。効率的な手段を選択し、課題を解決する。	課題の要点を理解し、適切な解決策を提案できる。与えられた情報から必要な情報を抽出し、課題解決に活かす。	指示された範囲内で課題に取り組み、解決を見つけることができる。	課題の意図を正確に把握できず、適切な解決ができない。	課題に取り組む意欲が低く、解決策を見つけない。
思考・問題解決能力	2. 効率的な利用や改善方法を見つけ理解の向上が行える。	ICTツールを効率的に使いこなす、作業の効率化を図る。自己学習能力が高く、常に知識を更新しようとする。	ICTツールの機能を理解し、作業の効率化を図る。新しい知識や技術を取り入れることに積極的である。	与えられたICTツールを基本的なレベルで使いこなせる。新しい知識や技術への関心は低い。	ICTツールの使い方がごちゃごちゃなく、作業の効率化が図れない。新しい知識や技術を取り入れる意欲がない。	ICTツールをほとんど使いこなせず、作業の効率化が図れない。
技能	1. PCとICTツール (アプリ) を快適に操作できる。	PCの操作に熟練しており、様々なアプリを自在に使いこなせる。トラブルが発生した場合でも、自ら解決できる。	PCの操作に習熟しており、複数のアプリを組み合わせた作業もスムーズに行える。	PCの基本的な操作ができ、指示されたアプリを操作できる。	PCの操作に慣れておらず、簡単な操作でも戸惑うことがある。	PCの操作が極めて不得手で、アプリをほとんど使いこなせない。
技能	2. インターネットの特性を理解したweb 検索や生成AIの活用が行える。	インターネットの仕組みを深く理解し、効率的な情報収集ができる。生成AIを効果的に活用し、創造的な活動が行える。	インターネットの仕組みを理解し、必要な情報を正確に検索できる。生成AIの活用方法を知っている。	インターネット検索の基本的な方法を知っており、必要な情報を見つけ出すことができる。	インターネット検索に慣れておらず、必要な情報を見つけ出すのが難しい。	インターネット検索の経験がほとんどなく、情報収集ができない。
技能	3. 意図したコンテンツの作成及び素材の収集が行える。	創造性豊かに、高度なコンテンツを作成できる。様々な素材を収集し、効果的に活用できる。	目的に合ったコンテンツを作成できる。必要な素材を効率的に収集できる。	指示された内容のコンテンツを作成できる。必要な素材をある程度収集できる。	指示された内容のコンテンツを作成するのが難しい。必要な素材を適切に収集できない。	コンテンツを作成することができず、素材の収集もできない。

科目名	英語 I	授業番号	ND101A	サブタイトル	(栄養英語)				
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習 (対面授業科目)	必修・選択	必修
授業概要	<p>本授業では、食・栄養に関する身近なテーマを英語で説明する力を養う。3回の動画課題（キッチン紹介 / 買い物・食材紹介 / レシピ紹介）を中心に、基礎文法を実践的に活用しながら、専門分野と関連付けた英語表現を習得する。</p> <p>文法理解に加え、食材の説明、食習慣の表現、調理手順の論理的説明など、人間栄養学科の専門性を意識した発信力を身につけることを目指す。</p> <p>授業では口頭練習を中心に行い、スクリプト作成および動画撮影は授業外課題とする。発表と振り返りを通して、専門内容を適切に伝える基礎力を育成する。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身近な環境や物事について、整理して分かりやすく英語で説明できる。 2. 食材や食習慣について、具体的な情報を含めて適切に伝えることができる。 3. 手順や行程を論理的な順序で説明することができる。 4. 専門分野に関する内容を、相手を意識しながら発信することができる。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	授業ガイダンスと自己紹介 授業の目的および評価方法を確認する。 自己紹介活動を通して、英語で発信する姿勢を整える。動画課題の全体像を理解する。								
第2回	動画作成の基礎と提出方法 他己紹介動画を作成し、提出方法を確認する。 基本的な話し方や撮影時の注意点を学ぶ。 動画課題①の内容を理解する。								
第3回	There is / There are の理解 There is / There are の基本構造を学び、身近な環境を説明する練習を行う。 肯定文・否定文・疑問文の使い方を確認する。								
第4回	前置詞とキッチン用品語彙 前置詞およびキッチン用品に関する語彙を学び、物の位置関係を正確に説明する練習を行う。 動画課題①に向けて理解を深める。								
第5回	発音と話し方の確認 発音およびイントネーションの基本を確認し、わかりやすい話し方について理解する。 動画発表に向けた準備を行う。								
第6回	動画課題①の鑑賞と評価 動画課題①を鑑賞し、評価を行う。 他者の発表から表現や構成を学び、動画課題②に活かす。								
第7回	可算・不可算名詞の理解 可算名詞と不可算名詞の違いを学び、基本的な数量表現を整理する。 食材説明の基礎を固める。								
第8回	頻度の副詞と食習慣 頻度の副詞の用法を学び、自分の食習慣を英語で説明する練習を行う。 繰り返し練習を行い、表現の定着を図る。								
第9回	数量表現の発展 a bottle of... などの数量表現を学ぶ。 買い物場面を想定した練習を行い、動画課題②に向けて理解を深める。								
第10回	動画課題②の鑑賞と評価 動画課題②を鑑賞し、評価を行う。 動画課題③に向けて、内容を確認する。								
第11回	命令文と調理動詞 命令文の基本構造を学び、調理動詞を用いて手順を説明する練習を行う。 レシピ紹介の基礎を固める。								
第12回	順序語と説明構成 順序語の使い方を学び、手順を論理的に説明する方法を理解する。 構成力の向上を目指す。								
第13回	栄養に関する基本表現 be rich in... などの栄養表現を学び、料理に栄養的な説明を加える練習を行う。 動画③に向けた最終準備を行う。								
第14回	レシピ説明の整理 レシピ説明の構成を確認し、模擬発表を通して改善点を整理する。 動画課題③に向けた最終準備を行う。								
第15回	動画課題③の鑑賞と振り返り 動画課題③を鑑賞し、評価を行う。 学期全体を振り返り、到達目標の達成度を確認する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、予習・復習の状況及び授業への貢献度を評価する。						
	小テスト	20	既習の語彙や文法事項の理解度を評価する。実施後に採点して、解説する。						
	動画課題①	20	キッチンの様子を具体的にかつ分かりやすく説明できているか、内容の明確さ・構成・英語の適切さ・発信態度を総合的に評価する。 動画についてのフィードバックは、授業内で全体に対して行う。						
	動画課題②	20	食材や買い物内容について具体的な情報を含めて説明できているか、構成の論理性・英語表現の正確さ、発信の明瞭さを総合的に評価する。 動画についてのフィードバックは、授業内で全体に対して行う。						
	動画課題③	30	調理手順を論理的に説明し、料理の特徴や栄養に言及できているか、内容の充実度・英語運用力・発信態度を総合的に評価する。 動画についてのフィードバックは、授業内で全体に対して行う。						
評価の方法：	自由記載								

受講の心得	本授業は発信を重視する授業であるため、毎回の準備および授業外学修に主体的に取り組むこと。 スクリプト作成および動画撮影は授業外で行い、提出期限を厳守すること。完璧さよりも、伝えようとする姿勢と継続的な改善を重視する。 他者の発表を尊重し、建設的な姿勢で相互評価に参加すること。
授業外学修	1. 授業で扱った表現・語彙・例文を復習すること 2. 小テストに備え、重要表現を整理しておくこと 3. 動画課題に向けてスクリプトを作成・修正すること 4. 音読練習を行い、発音やイントネーションを確認すること 5. 動画を撮影し、自己評価を行うこと 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	無			
担当教員以外で指導に 関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に 関わる実務経験者				
実務経験を いかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 栄養や食品に関する英語の語彙や英語表現を理解している。	専門的な語彙や表現を正確に理解し、適切に使うことができる。	ほとんどの語彙や表現を理解し、適切に使うことができる。	基本的な語彙や表現を理解しているが、誤用がある。	一部の基本語彙は理解しているが、全体的に曖昧である。	語彙や表現の理解が不十分で適切に使用することができない。
知識・理解	2. 英文法を正確に理解し、応用することができる。	文法の誤りがほぼなく、適切に応用することができる。	小さな誤りはあるが、概ね正確に文法を使うことができる。	基本的な文法は理解しているが、誤りが目立つ。	文法の誤りが多く、意味が伝わりにくい。	文法の理解がほとんどなく、文章の構成が難しい。
知識・理解	3. 栄養や食品に関して英語で自分の意見を発信することができる。	適切で流暢な英語表現を用いて明確に意見を述べることができる。	多くの場面で適切な英語を使い、自分の意見を伝えることができる。	基本的な表現を使い、ある程度意見を伝えることができる。	簡単な表現しか使えず、意見を十分に伝えることができない。	自分の意見を英語で表現することがほとんどできない。

科目名	体育講義 (全8回)			授業番号	NE101	サブタイトル			
教員	溝田 知茂								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	現代社会においては、技術革新に伴う機械化・情報化等が進み、日常生活における身体活動が減少するとともに、食生活のバランスの崩れも伴って、運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって、我々の身体は危機的な状況にさえ陥っている場合もある。本講義では、からだと心の仕組みについて、身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身に付ける。								
到達目標	人間のからだと心の仕組みについて、日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	「体力」について考える 「体力」がどのような要素で構成されているか考え理解する。								
第2回	「自律神経」の働きについて考える 人間のからだの自動調節機能である自律神経の仕組みや働きについて考え理解する。								
第3回	「ホルモン」の働きについて考える 眠りのホルモンと呼ばれている「メラトニン」について、分泌の仕組みや働きについて考え理解する。								
第4回	「睡眠障害」について考える 睡眠障害の種類を知ること、その原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。								
第5回	「高血圧」について考える 高血圧の仕組みを知ること、そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。								
第6回	「目の病気」について考える 目の病気の種類を知ること、そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。								
第7回	「健康診断」で分かることについて考える 普段学校で実施する健康診断で分かること、健康診断で分からないことについて考える。								
第8回	「背筋力」の働きについて考える 二足歩行する上で重要な働きをしている背筋力について測定しながら、生活に必要な背筋力を知る。								
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、予習・復習の状況によって評価する。フィードバックは、その時・その場で行う。						
	レポート								
	小テスト								
	定期試験	60	各回の主要なポイントの理解度を評価する。テストは、採点をして返却する。						
	その他								
評価の方法：自由記載									
受講の心得	・スポーツに関わる知識と理解を深め、スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているため、自らの生活と関連付けながら受講すること。								
授業外学修	・「スポーツ」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、興味関心を高める。 ・各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 体育講義の基本的考え 方が理解できている。	体育講義の内容が理解できて いる。	体育講義の内容がほぼ理解 できている。	体育講義の基本的な内容が 理解できている。	体育講義の基本的な内容の 理解が十分ではない。	相談援助の基本的な内容 が理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 事例に基づいて、道具や 簡単な方法でセルフチェックで きる。	事例に基づいて、道具や簡単 な方法でセルフチェックできる。	事例に基づいて、道具や簡単 な方法でセルフチェックで きる。	事例に基づいて、簡単にセル フチェックできる。	簡単なセルフチェックの方法に ついての理解が十分ではな い。	簡単なセルフチェックの方法を 理解できていない。

科目名	体育実技			授業番号	NE102	サブタイトル	(スポーツに親しもう)		
教員	梶谷 信之								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実技(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ(集団的スポーツ・個人的スポーツ)の練習や試合に取り組む。								
到達目標	健康的な生活を送るために、運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに、集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解><技能>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	卓球I(シングルのルールと基本技術の理解およびゲームの導入) シングルの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に、実際にシングル・ゲームを行います。 1対1で対戦し、リーグ戦方式でゲームを行います。								
第2回	卓球II(シングルの基本技術の習得とゲーム戦略の導入) シングルの基本技術を反復しつつ、シングル・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り、グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。								
第3回	卓球III(ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入) ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に、実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルの成績でペアを組み、2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。								
第4回	卓球IV(ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入) ダブルスの基本技術を反復しつつ、ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り、グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。								
第5回	バドミントンI(シングルのルールと基本技術の理解およびゲームの導入) シングルの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に、実際にシングル・ゲームを行います。 1対1で対戦し、リーグ戦方式でゲームを行います。								
第6回	バドミントンII(シングルの基本技術の習得とゲーム戦略の導入) シングルの基本技術を反復しつつ、シングル・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り、グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。								
第7回	バドミントンIII(ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入) ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に、実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルの成績でペアを組み、2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。								
第8回	バドミントンIV(ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入) ダブルスの基本技術を反復しつつ、ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り、グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。								
第9回	ソフトバレーボールI(ルールと基本技術の理解およびゲームの導入) 基本的なルールの確認と基本技術の練習を行います。 練習後にグループを作ってゲームを行います。								
第10回	ソフトバレーボールII(基本技術の習得とゲームの導入) 基本技術を反復しつつ、戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り、グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。								
第11回	ソフトバレーボールIII(ゲームの展開) 基本技術を反復しつつ、各チームで戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り、グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。								
第12回	室内ミニテニスI(シングルのルールと基本技術の理解およびゲームの導入) シングルの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に、実際にシングル・ゲームを行います。 1対1で対戦し、リーグ戦方式でゲームを行います。								
第13回	室内ミニテニスII(シングルの基本技術の習得とゲーム戦略の導入) シングルの基本技術を反復しつつ、シングル・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り、グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。								
第14回	室内ミニテニスIII(ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入) ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に、実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルの成績でペアを組み、2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。								
第15回	室内ミニテニスIV(ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入) ダブルスの基本技術を反復しつつ、ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り、グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。								
授業計画 備考2	受講人数により、他のスポーツ種目に変更することがある。 (バレーボール、バスケットボール、グラウンドゴルフ、など)								
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	70	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業に参加している。 フィードバックは、その時その場で行う。体操服や体育館シューズを忘れた人は見学となり、減点される。授業中に携帯電話を見ていると減点される。						
	レポート								
	小テスト	30	各競技ごとに実施した試合成績を参考に。フィードバックは、その時その場で行う。						
	定期試験								
	その他								
評価の方法:	自由記載								
受講の心得	運動着を着用し、体育館シューズを使用する。 全員協力の上、準備・片付けをする。 携帯電話は見ない。(すぐに手の届く所へ置かない)								

授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。
-------	--

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	無			
担当教員の 実務経験				
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有無	無			
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者				
実務経験を いかした教 育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ルールを細かく理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ほぼ基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解しているが、基本的なルールの理解が十分ではない。	運動の大切さや、ルールを理解できていない。
技能	1. 運動技能が優れている。	運動技能が優れている。	基本的な運動技能が優れている。	基本的な運動技能が身についている。	基本的な運動技能が十分ではない。	基本的な運動技能が身につけていない。

科目名	教職概論		授業番号	NV101	サブタイトル				
教員	小田 真一								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	教職概論では、教職の意義と内容について学ぶことを目的としている。栄養教諭の免許取得のための最低限の職業論（教職の全体像をつかむとともに、教職に関する基礎的な知識）を学習する。								
到達目標	教育公務員・栄養教諭の役割や職務内容等について、制度的、実体的側面から理解するとともに、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等を自覚し、実践する態度を身に付ける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	子どもの生活と学校 現代の子どもの現状を考えよう								
第2回	学習指導 さまざまな学習指導の内容について知ろう								
第3回	生徒指導・進路指導 新生徒指導提要等から生徒指導の内容を知ろう								
第4回	教育相談 指導に生かす教育相談の手法について知ろう								
第5回	学級経営 子どもが輝く学級経営について知ろう								
第6回	教師に何を求めてきたか考えよう いま何が求められているか考えよう								
第7回	児童生徒と教師 学ぶことと教えることについて考えよう								
第8回	教員養成の制度 教員養成や栄養教諭について考えよう								
第9回	教職課程 教職課程の仕組みと内容について知ろう								
第10回	教員の採用 教員採用の仕組みについて知ろう								
第11回	教員の研修 教員研修の種類と法的根拠等について知ろう								
第12回	教員の地位と身分 地位と身分に係る法令を知ろう								
第13回	教員の待遇と勤務条件 教員の勤務等について知ろう								
第14回	学校制度 さまざまな学校制度について知ろう								
第15回	学校管理・運営体制 学校の管理体制や運営体制について知ろう								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度、発表の有無、ノート整理、予習復習の状況によって評価する。						
	レポート	30	課題に対して意欲的に取り組んでいるか、自分の考えでまとめられているか等で評価する。提出後、概要について解説する。						
	小テスト								
	確認テスト 学修した内容の理解度等について評価する。	30	全体的な理解度等を評価する。						
	その他								
評価の方法： 自由記載									
受講の心得	教育公務員(栄養教諭)の教員免許取得の基礎単位であることから、受講に際しては、教育公務員を志願するにふさわしい言動の在り方を常に考えるとともに、現在の学校教育の課題や教育職員の社会的使命について真剣に考えること。								
授業外学修	1. 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点をあらかじめ調べたりしておく。 2. 復習として、課題のレポートやノート整理をする。 3. 発展的学習として、教育に関するニュース収集をし、自分の見解を述べられるようにする。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	教職入門 教師への道	藤本典裕	図書文化	978-4-8100-9720-7	1800				
使用テキスト：自由記載									
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。								
その他									
備考									

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の实務経験	教員(教頭を含む)28年, 小学校校長8年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	教職に関する基礎的な事柄について, 教員や学校長としての実践をもとに, より具体的な講義を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	教育公務員の役割や職務内容等について、制度的、実体的側面から理解している。	教育公務員・栄養教諭等の役割や職務内容等について、幅広くかつ深く理解している。	教育公務員・栄養教諭等の役割や職務内容等について、幅広く理解している。	教育公務員・栄養教諭等の役割や職務内容等について、おおむね理解している。	教育公務員・栄養教諭の役割や職務内容等について、基礎的事項を十分理解していない。	教育公務員・栄養教諭等の役割や職務内容等について、基礎的事項を理解していない。
態度	教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等を自覚し、実践しようとしている	教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等を常に自覚し、求められる教師像を目指して生活や学修に実践しようとしている。	教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等を常に自覚し、求められる教師像を目指して実践しようとしている。	教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等を自覚して実践しようとする態度が見られる	教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等について、他のアドバイスやよきモデルがあれば実践しようとしている。	教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等について、他のアドバイスやよきモデルがあってもなかなか実践できない。

科目名	教育原理		授業番号	NV102	サブタイトル					
教員	小田 真一									
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	選択	
授業概要	講義形式で、現代社会における教育課題を踏まえ、これらの問題解決の一助となるよう、今一度、教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。 そのため、将来、教育に携わる者が、最低限、知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学修する。 また、教育の基本的な事項について学修していく。特に、教育とは何かという根源的な問いと、教育行政や学校教育制度といった、児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。									
到達目標	教育の基本的な事項について学び、将来、教育に携わる者が、最低限、知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について理解できるようになる。 教育の目的や教育の歴史、教職という仕事、日本の教育問題等について問題を見出し、解決方法を探究し、次の問題の発見・解決につなげることができるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち「思考・問題解決能力」の修得に貢献する。									
授業計画 備考										
回	概要						担当			
第1回	子どもの発達と教育の目的 子どもの発達・教育の目的を理解する									
第2回	教育とは何か 教育の目的の歴史を理解する									
第3回	教育の歴史(1) 学校の歴史 学校の歴史を理解する									
第4回	教育の歴史(2) 海外の教育 海外の教育を理解する									
第5回	教育の歴史(3) 海外の教育史(近代の教育思想) 海外の教育思想を理解する									
第6回	教育の歴史(4) 海外の教育史(近代教育学の成立) 海外の近代の教育史を理解する									
第7回	教育の歴史(5) 日本の教育史 日本の教育史を理解する									
第8回	「教える」という仕事(1) 教育課程と授業の計画 教育課程・授業計画を理解する									
第9回	「教える」という仕事(2) 教育課程と授業実践 教育課程・授業実践のあらましを理解する									
第10回	「教える」という仕事(3) 教育評価 教育評価の歴史や現代の評価を理解する									
第11回	「教える」という仕事(4) 学校・学級経営 学校経営や学級経営について概要を理解する									
第12回	学び続ける教員となるために 教員としての不可欠な資質を考える									
第13回	学修の振り返りと確認テスト ここまでの学修について振り返るとともに、テストにより学修の定着度を確認する									
第14回	社会教育と生涯学習および地域社会と学校 「社会教育や生涯学習」や「学校と地域社会の連携」についてその概要を理解する									
第15回	現代日本の教育問題と海外の教育事情 現代の教育に関係する様々な課題や海外の教育事情を理解する									
授業計画 備考2										
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、発表、ノート、予習復習の状況等によって評価する。							
	学修について思考・問題解決力について評価する。	30	教科書の復習問題等の取組について評価する。概要について解説する。							
	小テスト									
	確認テスト									
	学修した内容の理解度等について評価する	30	全体的な理解度等を評価する。							
	その他									
評価の方法：	自由記載									
受講の心得	教育公務員・栄養教諭の教員免許取得の基礎単位であることから、受講に際しては、教育公務員を志願するにふさわしい、言動の在り方を常に考えとともに、現在の学校教育の課題と教育公務員(栄養教諭)の社会的使命について真剣に考えること。 テキストを事前に読み、疑問点をあらかじめ調べたりすること。また、学修したことをノートに整理したりすること。									
授業外学修	週当たり4時間以上、テキストを読むこと。									
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考					
	教育原理	島田和幸・高宮正貴	ミネルヴァ書房	978-4-623-08176-9	2200					
使用テキスト：自由記載										
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考					
参考書：自由記載	『教育六法』(どの出版社のものでも良い)									
その他										
備考										

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	教員(教頭を含む)28年,校長8年
担当教員 以外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員 以外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教育 内容	学校現場での教諭・主幹教諭や教頭, 小学校長としての経験をもとに, 教育の歴史や制度等の基本的な事項について, 具体例をもとに, できるだけわかりやすい講座としたい。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることができる	教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、問題を見出し、解決方法を探究し、問題を幅広くかつ深く解決につなげることができる。	講義内容である教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、問題を見出し、解決方法を探究し、問題を幅広く解決につなげることができる。	講義内容である教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、問題を見出し、解決方法を探究し、問題をおおむね解決につなげることができる。	講義内容である教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、問題を見出し、解決方法を探究するが、解決につなげることが十分ではない。	講義内容である教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることができない。

科目名	教育心理学		授業番号	NV103	サブタイトル				
教員	國田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	教育心理学とは、学び手としての子どもを心理学の視点から理解し、支援するための科学である。この授業では、子どもの学びと適応の支援という視点から、教育に関する心理学的知見を広く扱う。								
到達目標	実際に教育現場に立つ際、児童・生徒の理解を助けるために必要となる、心理学的な視点の基礎を、講義を通じて身につけることを目指す。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	教育心理学とは 教育心理学とはどのような学問で、教職のための何について学ぶのかを理解する。								
第2回	心身の発達① 乳幼児期の発達 乳幼児期の心身の発達の姿と、発達を支援する教師や保育者のかかりについて理解する。								
第3回	心身の発達② 児童期・青年期の発達 児童期・青年期の発達の特徴やその個人差、またその背景にあるものを理解し、教師としてかかわることの意味を考える。								
第4回	学びのメカニズム① 学習と知識獲得 心理学で言う「学習」の意味を理解したうえで、どのようなときに学習が生じるのかを考える。								
第5回	学びのメカニズム② 認知情報処理と記憶 人間の心の働きを情報処理になぞらえて捉える認知心理学の視点から、学校における学びを考える。								
第6回	学びのメカニズム③ 動機づけと学習 学びにおいて重要な役割を果たす動機付けの理論や機能、また動機づけの高め方について考える。								
第7回	認知発達と学習支援 知識獲得のプロセスを踏まえ、子どもの学びと効果的な学習指導や授業づくりを考える。								
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り、理解を確認する。								
第9回	学級集団と学習支援 学級をはじめとする子どもたちの集団の特徴や人間関係がどのように学習効果に影響するかを理解する。								
第10回	個性や個人差と学習支援 性格や認知特性に関する理論を踏まえて子どもの個性や個人差の捉え方を理解し、学びとの関係を考える。								
第11回	教育評価 教育評価の理論と方法について、また子どもの学力や知能について、考え方や測定方法を理解する。								
第12回	特別な支援と教育心理学① 障害の基本的理解 発達障害の特性のある子どもに対する適切な理解と、それに基づいた配慮のあり方について理解する。								
第13回	特別な支援と教育心理学② 障害児への教育的支援 発達障害の特性のある子どもの苦手なものの把握と、適切な手立ての実践について理解する。								
第14回	学校教育を取り巻く諸問題 個々の子どもに起きる学びや適応などについて、第13回までとは異なる視点から取り上げ、紹介する。								
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り、理解を確認する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度								
	レポート								
	小テスト								
	定期試験	100	理解度を評価する。						
	その他								
評価の方法：自由記載									
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。								
授業外学修	毎回の授業の前にテキストを読み、4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	よくわかる！教職エクササイズ2 教育心理学	田爪宏二（編著）	ミネルヴァ書房	978-4-623-08177-6	2200円				
	使用テキスト：自由記載								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 講義内容を多面的かつ十分に理解し、さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき、さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し、多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず、必要な知識も不足しているものの、活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず、知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず、知識が獲得されていないため、活用できない

科目名	日本国憲法		授業番号	NA206	サブタイトル	(身近な問題から「憲法のちから」を考える)			
教員	俣野 英二								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	<p>本科目では、日本国憲法および他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。</p> <p>具体的にはまず、身近な憲法問題を取り上げて関係する憲法の基本原理及び基礎知識を教員の教育委員会(24年)及び県庁における人権啓発・相談経験(4年)を踏まえて概説する。次に、基本原理等に関する憲法問題について、グループワークを行い各自でワークシートにまとめさせる。そして、各章の小テストを課題としてUniversal Passport上で行い、基礎的な知識の定着を図る。さらに、憲法の基本原理、統治機構、人権に関する発展的な問題を全体で討議し、現代的な問題を分析、考察する。</p> <p>これらの活動により、問題の全体像の把握と、多面的な分析及び多様な価値観や背景の認識を踏まえた上で、自らの見解の形成や表現の仕方を身に付ける。</p>								
到達目標	<p>憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し、それらを活用して身近な憲法問題を主体的に考えることができるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目は、到達目標達成の前提として異なる価値観、文化、背景および相互関係を知り、深い認識と理解の修得を伴うことから、職業人としての高い倫理観と豊かな人間性と社会性の修得とともに、身近な社会問題を憲法の視点から解決に向けた体系的な思考方法を学び、多面的に分析し、自らの見解を形成し、討論により解決に向けた調整を行う能力の修得を目的とするので、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち「思考・問題解決能力」<態度>の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	ガイダンス、この国の基礎にある考え方 1 学修の目標、評価方法などを説明する。 2 近代立憲主義について学修する。								
第2回	この国の基礎にある考え方2 1 法の支配について学修する。 2 土儀の女人規制について考える。 3 国家機関としての天皇制(明治憲法と天皇)について学修する。								
第3回	この国の基礎にある考え方3 国家機関としての天皇制(日本国憲法と天皇)について学修する。								
第4回	この国の基礎にある考え方4 憲法が目指す平和を守る仕組み1(憲法9条の制定と安保条約の締結)について学修する。								
第5回	この国の基礎にある考え方5 憲法が目指す平和を守る仕組み2(台湾有事と存立危機事態)について学修する。								
第6回	人権を守るための組織1 1 統治機構1(政治と国民、国会議員)について学修する。 2 若者の投票率の向上策について考える。								
第7回	人権を守るための組織2 統治機構2(選挙、選挙制度、政党)について学修する。								
第8回	人権を守るための組織3 統治機構3(国会)について学修する。								
第9回	人権を守るための組織4 統治機構4(内閣)について学修する。								
第10回	人権を守るための組織5 統治機構5(地方自治、裁判所)について学修する。								
第11回	身近な問題から考える人権1 良心をもつ自由、貴く権利について学修する。								
第12回	身近な問題から考える人権2 1 表現の自由と書かれない権利について学修する。 2 プライバシーについて考える。								
第13回	身近な問題から考える人権3 営業の自由と消費者の権利について学修する。								
第14回	学校における生徒の人権 1 子どもの教育を受ける権利と教師の教育の自由について学修する。 2 学校内における生徒の人権について学修する。 3 旭川いじめ凍死事件からいじめを考える。								
第15回	困らないための権利、差別されている人々への配慮 1 憲法25条の歴史的社会的意味及び社会保障制度について学修する。 2 積極的な格差解消の取り組みの合憲性の判断の仕方について学修する。。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	グループワークの取り組み姿勢/態度	30	講義中のグループワーク時に各自が提出したワークシートに要求された内容が整理されていること。ワークシートを通じて必要に応じて個別指導を行うとともに、講義中に全体講評を行う。						
	小テスト	30	学修に対する意欲・態度、基本原理及び基礎知識の理解を評価する。回答期限後、Universal Passportに解説を表示する。						
	定期試験	40	基本原理及び基礎知識を理解し、身近な憲法問題に対して異なる価値観・意見に配慮しながら主体的かつ論理的にこれらを活用して結論を導くことができる。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	<p>1 公民や現代社会が苦手な学生は、あらかじめ高校で使用したテキストや資料集などの日本国憲法に関する部分を読んでおくこと。</p> <p>2 事前に授業の範囲のテキストを読み、分からない用語を調べておくこと。</p> <p>3 各講義中にワークシートを提出する。それが出席カードも兼ねるとともに成績評価の対象なので必ず提出すること。</p> <p>4 各章に対応する小テスト(Universal Passportの課題)を受験すること。</p>								
授業外学修	<p>1 事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。</p> <p>2 事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、Universal Passportで小テストを受験する。また、小テスト受験後、誤った理解が不十分であった箇所について復習する。</p> <p>3 ワークシートが返却された後、グループワーク、講義、テキスト、小テスト等を踏まえて再度整理し直し、理解を深めるとともに試験に備える。</p> <p>事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。</p>								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	憲法のちから—身近な問題から憲法の役割を考える	中富公一	法律文化社	978-4-589-04343-6	2400円+税				

使用テキスト： 自由記載				
参考図書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
グラフィック憲法入門第3版	毛利透	新世社	978-4-88384-397-8	
新・判例ハンドブック【憲法】第3版	高橋和之	日本評論社	978-4-535-52793-5	
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	県教育委員会（24年）、県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	県教育委員会（24年）、県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験から、いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。			

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 憲法や法令を使って論理的に問題を考えることができる。	課題に対し、論理的整合性をもち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性をもった考察をしている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対し、結論を述べることができる。	課題に対し、結論を述べることができない、または指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	2. 多様な価値観・意見に配慮した思考ができる。	課題に対し、多様な価値観・意見に配慮した考察が論理的整合性をもっている。	課題に対し、多様な価値観・意見に配慮した思考がほぼ論理的整合性をもっている。	課題に対し、多様な価値観・意見の存在を並列的に述べるができる。	課題に対し、不十分なから複数の価値観・意見の存在を述べるができる。	課題に対し、複数の価値観・意見を述べることができない、または指示事項に沿っていない。
態度	1. グループワークに積極的に参加できる。	調査、質問などを積極的に行い、課題内容を理解した上で、適切なワークシートを提出している。	課題に積極的に臨む姿勢が見受けられ、課題内容を理解した上で、適切なワークシートを提出している。	グループワークに参加し、課題内容を理解した上で、ワークシートを提出している。	グループワークに参加し、ワークシートを提出しているが、課題の理解が不十分である。	グループワークに参加していない。または、グループワークに参加しているがワークシートを提出していない。

科目名	教育課程総論			授業番号	NV204	サブタイトル			
教員	小田 真一								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	教育課程の意義・編成の方法について学修するとともに、教育課程に関する法令や学習指導要領総則等について学修する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程関係の法令や学習指導要領総則について学び、求められる教育課程について理解する。 ・教育課程の意義・編成の方法について問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることができるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	教育課程について 意義と定義、教育課程の法的根拠を考える								
第2回	学習指導要領 「前文」について理解する								
第3回	学習指導要領の変遷 変遷についてその特徴を理解しよう								
第4回	学習指導要領の改訂 改訂の経緯を理解しよう								
第5回	学習指導要領の総則1 総則の前半の内容を理解しよう								
第6回	カリキュラム・マネジメント 意義と定義を理解しよう								
第7回	学習指導要領の総則2 学習指導要領の総則の中盤の内容を理解しよう								
第8回	学校経営のサイクルとカリキュラム・マネジメント カリキュラム・マネジメントの各プロセスを理解しよう								
第9回	学習指導要領の総則3 学習指導要領の後半の内容を理解しよう								
第10回	カリキュラムの評価 カリキュラムマネジメントの活性化や重点目標について考える								
第11回	学習指導要領の解説1 解説の前半を理解しよう								
第12回	アクティブ・ラーニングの定義と導入の教育行政的経緯 アクティブ・ラーニングとカリキュラム・マネジメントの連動について								
第13回	学習指導要領の解説2 解説の後半の内容を理解しよう								
第14回	社会に開かれた教育課程 理念とその背景、カリキュラム・マネジメントについて								
第15回	社会に開かれた教育課程 食育による実践を考えよう								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合		評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢／態度		40		意欲的な受講態度、発表の有無、ノート整理、予習復習の状況等によって評価する。					
レポート・小テスト		30		課題に対して、意欲的に取り組んでいるか、自分の考えでまとめられているか等で評価する。提出後、概要について解説する。					
確認テスト 学修した内容の理解度等について評価する。		30		全体的な理解度を評価する。					
その他									

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	これからの時代に求められる新たな教育環境を創るために、教育課程からカリキュラム・マネジメントまで学びます。 教育課程がわかると学校の教育活動の全体構造を知ることができます。しっかりと学んで下さい。 配付するプリント・資料などはファイルにとじ、整理すること。
授業外学修	1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートやノートを整理する。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校指導要領	文部科学省	東洋出版	978-4-491-03460-7	201
小学校指導要領解説総則編	文部科学省	東洋出版	978-4-491-03461-4	155
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	教員(教頭を含む)28年, 小学校校長8年			
担当教員以外で 指導に関わる実務経験 者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる実務経験 者				
実務経験を いかけた教育内容	学校教育における教育課程の編成やカリキュラムマネジメントについて、教員や学校長としての実践をもとにした講義を行うこなう			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究し、問題を解決することができる。	教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究し、問題を幅広くかつ深く解決できる。	教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究し、問題を幅広く解決できる。	教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究し、問題をおおむね解決できる。	教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究するが、問題を十分に解決できない。	教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究するが、問題を解決することができない。

科目名	教育方法学		授業番号	NV205	サブタイトル				
教員	住野 好久								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術に関する基礎的な知識・技術を身につける。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解する。 2) これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育方法のあり方 (主体的・対話的で深い学びの実現など) を理解する。 3) 学級・児童・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解する。 4) 学習評価の基礎的な考え方を理解する。 5) 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容・教材・教具・授業・保育展開、学習指導形態等を含めた学習指導案を作成することができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	教育の方法(1) これまで受けてきた教育の方法 これまで受けてきた教育はどのような教育方法であったかを振り返る。								
第2回	教育の方法(2) 教育的な教育の方法とは 教育的に教育するための方法とはどのようなものかを考える。								
第3回	教育の方法(3) 教育方法の歴史(1)ソクラテス 古代から教育の方法は工夫されてきた。ソクラテスが編み出した「産婆術」とはどのような教育方法か？								
第4回	教育の方法(4) 教育方法の歴史(2)ヘルバルト 近代を代表するヘルバルトによる「4段階教授法」とその弟子たちが編み出した「5段階教授法」を学ぶ。								
第5回	教育の方法(5) 教育方法の歴史(3)デューイ 戦後日本の教育方法に大きな影響を及ぼしたデューイの「問題解決学習」を学ぶ。								
第6回	教育の方法(6) 教育方法の歴史(4)プログラム学習からICT活用授業へ 1960年代後半に登場した、コンピュータを活用した教育方法の出発点となった「プログラム学習」から今日のICT活用授業活用授業までの変遷を学ぶ。								
第7回	教育の方法(7) 今求められている教育方法(1) 「主体的、対話的で深い学び」を実現する教育方法を「学習指導要領」等から学ぶ。								
第8回	教育の方法(8) 今求められている教育方法(2) 中央教育審議会が提起した「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に対してICTの活用が有効であることを学ぶ。								
第9回	教育の技術(1) 相互主体的な授業のための技術(1) 今求められる相互主体的な授業を実践するためのポイントを理解する。								
第10回	教育の技術(2) 相互主体的な授業のための技術(2) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教育内容の設定の仕方について理解する。								
第11回	教育の技術(3) 相互主体的な授業のための技術(3) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教材開発の仕方について理解する。								
第12回	教育の技術(4) 相互主体的な授業のための技術(4) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教授行為の工夫の仕方について理解する。								
第13回	教育の技術(5) 指導プランの作成(1) これまで学習してきたことを踏まえて指導プランを作成する。								
第14回	教育の技術(6) 指導プランの作成(2) これまで学習してきたことを踏まえて指導プランを作成する。								
第15回	教育の技術(7) 指導プランの作成(3) これまで学習してきたことを踏まえて作成した指導プランを発表する。								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
	確認テスト	40	毎回の授業で学習したことを正しく理解し、論理的に叙述すること。次時の授業で全体的な傾向についてコメントをする。						
	最終レポート	40	本科目で学習したことを踏まえて、提示した課題について論理的に叙述すること。						
	指導プラン	20	授業の中で作成する指導プランをこの科目で学んだことを踏まえて作成すること。作成過程でコメント・アドバイスをする。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	原則として毎回の授業の最後に確認テストを行うので、しっかりとノートを取り、内容を理解するようにし、不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとして整理しておくこと。								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1 予習として、配付している資料をあらかじめ読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。								
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載									
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	適宜、授業の中で紹介する。								
その他									
備考									

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもたちに求められる資 質・能力を育むために必要な 教育の方法を理解する。	歴史的な教育方法の発展を 理解した上で今日求められる 教育方法を説明できる。	歴史的な教育方法の発展を 理解した上で今日求められる 教育方法を理解している。	歴史的な教育方法の発展も 視野に入れて今日求められる 教育方法を理解している。	歴史的な教育方法の発展は 理解していないが、今日求め られる教育方法は理解してい る。	歴史的な教育方法の発展も 今日求められる教育方法も 理解していない。
知識・理解	2. 教育の目的に適した指導 技術を理解する。	教育の目的に適した指導技術 を深く理解している。	教育の目的に適した指導技術 を理解している。	教育の目的に適した指導技術 の基本を理解している。	教育の目的に適した指導技術 をだいたい理解している。	教育の目的に適した指導技術 を理解していない。
技能	1. 学習指導理論を踏まえた 学習指導案を作成することが できる。	学習指導理論を踏まえた学習 指導案を作成することができる 基礎的な能力を十分身につけ ている。	学習指導理論を踏まえた学 習指導案を作成することがで きる基礎的な能力をだいたい 身につけている。	学習指導理論を踏まえた学 習指導案を作成することがで きる基礎的な能力を少し身に つけている。	学習指導理論を踏まえた学 習指導案を作成することがで きる基礎的な能力を身につけ ようとしている。	学習指導理論を踏まえた学 習指導案を作成することがで きる基礎的な能力を身につけ ようとしていない。

科目名	生徒指導の理論と方法 (全8回)		授業番号	NV206	サブタイトル				
教員	藤井 裕士								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	生徒指導の基本的な考え方や進め方、生徒指導に関する法制度、生徒指導上の諸問題への対応について講義し、演習を通して理解を深め問題解決能力を高める。								
到達目標	一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指し、全教育活動を通して組織的・計画的に行われる生徒指導の基本的な考え方や進め方、生徒指導に関する法制度、問題行動等への対応について理解することができる。また、個別の課題に対する問題解決能力を高める。本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	生徒指導の基礎 (1) 生徒指導の意義や目的等について理解を深める。								
第2回	生徒指導の基礎 (2) 生徒指導の定義や目的を確認し、生徒指導の構造について理解する。 学校における栄養教諭の立場を知り、生徒指導上の児童生徒への関わり方を考える。								
第3回	生徒指導の基礎 (3) 集団指導と個別指導、カウンセリング等について理解し、演習を通して問題解決能力を高める。								
第4回	チーム学校による生徒指導体制・生徒指導と教育課程 教育課程上の生徒指導の位置づけや各教科等との関連について理解する。								
第5回	生徒指導体制や法制度 生徒指導体制や法制度等について理解する。								
第6回	個別の課題に対する生徒指導 (1) いじめ、暴力行為、少年非行について理解し、演習を通して問題解決能力を高める。								
第7回	個別の課題に対する生徒指導 (2) 自殺、不登校について理解し、演習を通して問題解決能力を高める。								
第8回	個別の課題に対する生徒指導 (3) 多様な背景を持つ児童生徒への対応について理解し、演習を通して問題解決能力を高める。								
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	演習や発表を含め、授業全般に対する意欲的な受講態度によって評価する。						
	ワークシート	15	ワークシートの提出を行い、記述状況について評価を行う。ワークシートは次回の授業の際に全体的な傾向についてコメントをし、返却する。						
	最終試験	55	最終的な理解度を評価する。						
評価の方法:	自由記載								
受講の心得	<ol style="list-style-type: none"> 事前・事後に配布資料や参考文献を読むこと。 発表や討議に積極的に取り組むこと。 配付する資料を整理しておくこと。 								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 予習として、授業内容にかかわる配布資料を読み、疑問点を明らかにする。 復習として、配布資料を読み授業内容の理解を深める。 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト:自由記載									
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	生徒指導提要	文部科学省	東洋館出版社	9784491051758	990円 (税込み)				
参考書:自由記載	本授業は、生徒指導提要の内容を中心に扱う。必要に応じて参考書を準備すること。購入する場合は、同名の書籍が存在するが、令和4年12月に改訂された最新のものを選択すること。								
その他									
備考									

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	特別支援学校教諭（14年）
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	特別支援学校教諭（14年）の経験から、生徒指導に関する理解を深めることができるように、学校現場における事例を紹介する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点（到達目標に 基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	生徒指導の目的、重要性、及 びそれに関連する法制度に関 して理解している。	生徒指導の基本理念と関連 する法制度について深い理解 を持ち、具体的な事例を用いて 詳細に説明できる。	生徒指導の基本理念と法制 度について正確な理解があり、 事例を用いて説明できる。	生徒指導の基本的な理念と 法制度を理解しているが、詳 細な説明や事例の適用に若 干の不足がある。	生徒指導の理念と法制度の 理解が不完全で、誤解を含む 可能性がある。	生徒指導の基本理念や法制 度についての理解がほとんど なく、重要な点を見落として いる。
思考・問題解決能力	児童・生徒の問題行動や個 別の課題に対する具体的な対 応策の考案することができる。	児童・生徒の問題行動に対 する深い理解を基に、効果的かつ 独創的な対応策を立案し、実 践できる。	児童・生徒の問題行動に対 して適切な対応策を立案し、 実践する能力がある。	児童・生徒の一般的な問題 行動への基本的な対応策を 知っており、実践できるが、複 雑な問題への対応には限界が ある。	児童・生徒の基本的な対応 策は知っているが、効果的な 実践への適用が不十分であ る。	児童・生徒の問題行動への 対応策の理解や実践能力が 著しく不足している。

科目名	教育相談		授業番号	NV207	サブタイトル	(カウンセリングを含む)				
教員	國田 祥子									
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	選択	
授業概要	この授業では、教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。									
到達目標	教育相談で扱うさまざまな問題に対し、不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し、カウンセリング・マインドを身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。									
授業計画 備考										
回	概要					担当				
第1回	教育相談とは 教育相談の必要性と意義について理解し、これからの時代の教師に求められる心理的援助の資質について理解を深める。									
第2回	カウンセリングの理論 子どもや保護者の相談対応を行う上で重要となる、カウンセリングの考え方を解説する。									
第3回	カウンセリングの技法 クライアントとのコミュニケーションに有効となる、カウンセリングの基本的な技法を解説する。									
第4回	いじめ・不登校への対応 いじめおよび不登校の現状と構造を理解し、教育相談や支援としてどのようなことができるかを考える力を身につける。									
第5回	学級崩壊・学級経営の問題への対応 学級崩壊の実情と回復ポイントを理解し、学級崩壊にならないための学級経営を考える力を身につける。									
第6回	虐待・いのちの教育への対応 保護者やそれ以外の者によって子どもの命が奪われる事件の現状を知り、必要な対応や支援を考える力を身につける。									
第7回	非行・学校不適応への対応 「問題行動」という言葉が何を指すのか、その概念を紐解きながら非行や学校不適応への理解と対応を考える。									
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回までの内容を振り返り、理解を確認する。									
第9回	発達障害への対応 個性が非常に高い発達障害について、その対応を共生社会に向けたインクルーシブ教育の観点から解説する。									
第10回	心の病への対応 児童期から青年期にみられる心の病気についてその概要を解説し、教師として何ができるかを考える力を身につける。									
第11回	校内・他機関との連携 スクールカウンセラーを始めとする校内のさまざまな立場の職員との連携および他機関との連携について学ぶ。									
第12回	アセスメント：観察・面接 子どもの状態を適切に把握し、支援するアセスメントについて、ここでは行動観察および面接の方法について学ぶ。									
第13回	アセスメント：心理検査 専門機関やスクールカウンセラーなどとの連携を踏まえ、心理検査についての概論および留意点を学ぶ。									
第14回	家庭の理解と保護者への支援 今の親が置かれている状況を理解したうえで、ともに子どもを育てていく方法を考える。									
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回までの内容を振り返り、理解を確認する。									
授業計画 備考2										
評価の方法										
	種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢／態度										
レポート										
小テスト										
定期試験		100	理解度を評価する。							
その他										
評価の方法：自由記載										
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。									
授業外学修	毎回の授業の前に、テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。									
使用テキスト										
書名	著者	出版社	ISBN				備考			
教育相談 第2版(よくわかる! 教職エクスサイズ 3)	森田健宏/田爪宏二/吉田佐治子	ミネルヴァ書房	9784623096114				2500円			
使用テキスト：自由記載										
参考図書										
書名	著者	出版社	ISBN				備考			

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者	
実務経験を いかした教育 内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 講義内容を多面的かつ十分に理解し、さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき、さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し、多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず、必要な知識も不足しているものの、活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず、知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず、知識が獲得されていないため、活用できない

科目名	特別支援教育概論			授業番号	NV208	サブタイトル			
教員	中 典子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	講義形式で、特別支援教育の基本的なことについて学習する。 特に、幼児や児童生徒に特別な配慮を必要とする状況、保育や教育課程の内容、支援・教育の方法、保育・教育施設や学校と関係機関との連携のあり方について講義する。								
到達目標	保育者・教育者は、特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒が学習の場において将来の自立に向けた学びができるよう、保育・教育していく必要がある。そのため、本講義では、幼児や児童生徒に特別な配慮を必要とする状況、保育や教育課程の内容、支援・教育の方法、保育・教育施設や学校と関係機関との連携のあり方を学び、理解できるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性について理解する。								
第2回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒一人一人の心身の発達に関するアセスメントの方法を理解する。								
第3回	特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 障害者総合支援法、障害者の権利に関する条約の内容を理解する。								
第4回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活 保育や授業をするうえで必要とされる配慮を理解する。								
第5回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程 特別支援教育における教育課程について理解する。								
第6回	発達障害をはじめとする障害のある幼児や児童生徒への合理的配慮の提供 合理的配慮の提供について理解する。								
第7回	「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ 特別支援教育における指導技術について理解する。								
第8回	「個別指導計画」の意義と方法 「個別指導計画」を実際に記載し、その意義と方法を理解する。								
第9回	「個別指導計画」に基づく指導 「個別指導計画」に基づく指導をDVD視聴に視聴により理解する。								
第10回	「個別教育支援計画」の意義と方法 「個別教育支援計画」を実際に記載し、その意義と方法を理解する。								
第11回	保育・教育施設や学校、家庭と地域の関係機関の連携のあり方 「個別教育支援計画」より、暮らしにおいて必要な社会資源を理解する。 保育・教育施設や学校をとりまく社会資源についての情報を収集し、連携の方法を理解する。								
第12回	多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方 多文化の幼児や児童生徒が置かれている状況を理解する。 多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方を理解する。								
第13回	貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ 子どもの貧困対策について理解する。								
第14回	貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒への教育保障 学習環境を整えるための支援について理解する。								
第15回	多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援 幼児や児童生徒に対して学習保障をするためにどのような対応が必要が理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度、発表への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	授業ごとに示す課題	90	毎回の授業で示す課題に対して具体的に述べていること。課題についてはコメントを記入して返却する。						

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	授業内容の理解を深めるため、授業開始前までにテキストを読んでおくこと。
授業外学修	授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。(1時間) 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。(2時間) 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。(1時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
特別支援教育と障害児の保育・福祉 切れ目や隙間のない支援と配慮	立花直樹他編	ミネルヴァ書房	978-4-623-09570-4	定価 2800 + 税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる。	幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる。	特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる。	特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方が理解できる。	特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方の理解が十分でない。	特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方が理解できていない。
思考・問題解決能力	2. 幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる。	幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる。	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる。	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の基礎を考えることができる。	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることが十分できていない。	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができていない。

科目名	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法		授業番号	NV209	サブタイトル				
教員	小田 真一								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	小学校・中学校の教育課程の編成について概観し、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標、内容を学習指導要領解説に基づき概説する。また、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の現代的意義を論議する。さらに、小学校・中学校における学習活動としての道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の重要性について理解を深め、各内容の実践的課題を整理する。								
到達目標	学習指導要領に示された道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について理解する。〈知識・理解〉 小学校・中学校の教師として、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（学級・ホームルーム活動や学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を身に付ける。〈思考・問題解決能力〉 なお、本科目はデュプロ・ポリシーに掲げた学力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	道徳教育の意義と目標・内容 学習指導要領に示された道徳教育の意義と目標・内容について理解する。								
第2回	道徳教育の歴史と現代社会における道徳教育の課題 戦前の修身から戦後の「道徳の時間」の設置、更に「道徳科」への教科化に至る道徳教育の歴史的変遷と現代社会における道徳教育の課題について理解する。								
第3回	道徳性の発達 子どもの心の成長と道徳性の発達について理解する。								
第4回	総合的な学習の時間の意義と目標・内容 学習指導要領に示された総合的な学習の時間の意義と目標・内容について理解する。								
第5回	総合的な学習の時間の指導計画 各学校の実情に応じた総合的な学習の時間の目標や内容の設定の仕方、指導計画について理解する。								
第6回	総合的な学習の時間の学習指導案 国立教育政策研究所や岡山県教育センターから示された学習指導案の様式に沿って総合的な学習の時間の学習指導案の書き方を習得する。								
第7回	総合的な学習の時間の指導と各教科等との関連 各教科や特別活動と総合的な学習の時間との関連について理解する。								
第8回	総合的な学習の時間の評価 設定した目標に対して、パフォーマンスやポートフォリオを用いて評価する方法を習得する。								
第9回	特別活動の意義と目標 学習指導要領に示された特別活動の意義と目標について理解する。								
第10回	特別活動と各教科等との関連 各教科や総合的な学習の時間と特別活動との関係について理解する。								
第11回	特別活動の内容 学習指導要領に示された、学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の内容について理解する。								
第12回	特別活動の指導と評価 学級活動における集団指導や個別指導及び設定した目標に対する、パフォーマンスやポートフォリオを用いて評価する方法を習得する。								
第13回	特別活動の学習指導案 国立教育政策研究所や岡山県教育センターから示された様式に沿って学習指導案を記述する方法を習得する。								
第14回	模擬授業 学級活動において食育の題材について教材研究を行い、模擬授業を通して実践的指導力を身に付ける。								
第15回	特別活動における家庭・地域住民や関係機関との連携 学級活動や学校行事において家庭・地域住民や関係機関と連携する方法について習得する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。							
レポート	30	課題について、要点や自分の考えを述べたレポートによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。							
小テスト	30	各回の主要なポイントの理解度を評価する。小テストは採点して返却し解説する。							
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。								
授業外学修	1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された資料や参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
小学校学習指導要領解説 道徳編	文部科学省								
小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編	文部科学省								
小学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省								
中学校学習指導要領解説 特別活動編	文部科学省								
使用テキスト：	自由記載								

参考図書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	授業ノートを用意すること。学内LANにつながるタブレットあるいはノートパソコンを用意すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	公立小学校の教員や教頭、校長（38年）としての実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	小学校の教員や教頭、学校長としての実務経験（36年）を活かし、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。			

ルーブリック						
評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	学習指導要領に示された道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について理解できる。	学習指導要領に示された道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について広範かつ詳細に理解している。	学習指導要領に示された道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について広範に理解している。	学習指導要領に示された道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を十分理解している。	学習指導要領に示された道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を十分理解していない。	学習指導要領に示された道徳、総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を理解していない。
思考・問題解決能力	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を身に付ける。	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を広範かつ詳細に身に付けている。	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を広範に身に付けている。	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を十分に付けている。	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を十分に付けていない。	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を身に付けていない。

科目名	学校栄養教育指導法 I		授業番号	NW301	サブタイトル						
教員	藤原 三保子										
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	必修	選択	
授業概要	栄養教諭制度創設の経緯を十分に把握した上で、法制度や栄養教諭の職務内容について講義する。児童生徒の発達段階に応じた給食時の指導案の立案・資料等を作成し、模擬授業を実践する。学校・家庭・地域との連携や協働・調整の具体を説明する。栄養教諭として必要な指導および給食管理について総合的に学修する。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭制度の創設の経緯を把握し、栄養教諭としての社会的使命や職務内容を理解することができるようにする。 ・児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導について理解し、考えることができるようにする。 ・学校給食を教材とし、給食時の食に関する指導の指導案等を作成することができるようにする。 ・学校給食の管理・運営ができる能力を養うことができるようにする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。										
授業計画 備考	授業形態は講義、演習になる										
回	概要					担当					
第1回	栄養教諭の制度と役割 学校栄養職員の歴史、栄養教諭創設の経緯、栄養教諭の職務内容を正しく理解し、果たすべき役割をとらえる。										
第2回	学校組織と栄養教諭 学校組織と栄養教諭の位置づけについて理解し、学校組織の中で栄養教諭が具体的にどのような働きをしていくかについて理解する。										
第3回	学校給食と日本人の食生活 学校給食は地場産物を活用し、郷土料理や行事食を提供するなど、地域の文化や伝統に対する理解と関心を深めることで教育的効果をもつ教材としての役割を担っていることを理解する。また、学校給食の歴史を理解する。										
第4回	子どもの発達と食生活 児童生徒の体位、体力、健康状態、栄養摂取状況、食生活の実態を把握し、成人期までの成長を見通した食育を実施できるように、学校における給食の位置づけと食育の重要性を理解する。										
第5回	学習指導要領の意義と食育の在り方 学校において食育を推進するにあたっては、学修指導要領の趣旨や内容などをよく理解した上で、教育課程に位置づけ、組織的・計画的な取り組みを行う大切さを理解する。										
第6回	食に関する指導の全体計画 食に関する指導の全体計画の必要性や考え方、そして、計画に盛り込むべき内容の作成の手順について理解する。										
第7回	食に関する指導の展開 食に関する指導の全体計画を踏まえて子どもの実態に応じてどのように指導計画を作成すればよいか、教科や特別活動などと関連付けた指導をどのように行えばよいかについて理解を深める。										
第8回	食に関する指導と小学生用食育教材 文部科学省「食育教材」を教材に、発達段階の合わせた食に関する指導の具体的な内容を把握し、食に関する指導について理解する。										
第9回	給食の時間における食に関する指導 学校給食を教材として、給食の時間における食に関する指導の特徴や進め方、指導の留意点について理解する。										
第10回	給食の時間における食に関する指導案・板書計画・細案作成・実践 給食の時間の「食に関する指導」の指導案、板書計画、細案の作成を行う。										
第11回	給食の時間における食に関する指導の実践、ディスカッション アクティブラーニングを取り入れ、給食時間の「食に関する指導」を実践する。										
第12回	教科等における食に関する指導 (小学校「家庭科」・中学校「技術・家庭科」、生活科、総合的な学習の時間、体育科・保健体育科、道徳、特別活動、総合的な学習時間) 食に関する指導に関連付けられている教科等について学習内容や指導の考えかたを知り、理解を深める。										
第13回	個別栄養相談指導の意義と方法 肥満、痩せ、食物アレルギー、生活習慣の予防、さらに食品や料理の選択、食べ方などが著しく偏っている児童生徒への個別栄養相談指導について理解し考える。										
第14回	家庭・地域との連携、給食だよりの作成・説明 学校と家庭・地域社会との連携を図ることは、児童生徒が地域の良さを理解するとともに、食事の重要性や食事を大切にすることを育てる上で効果があることを理解する。										
第15回	学校給食の管理・運営、まとめ、ディスカッション 学校給食の管理・運営、特に衛生管理についてより理解を深める。										
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢/態度	20		意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。								
レポート											
小テスト	10		各回の主要なポイントの理解を評価する。								
定期試験	60		最終的な理解度を評価する。								
その他	10		給食時の指導案、給食だより等、提出物により評価する。								
評価の方法：自由記載											
受講の心得	各回が独立して、15回で1つの流れとなつてつながる授業であることから、毎回しっかりと学修する態度で事前・事後学修に励み出席すること。栄養教諭を目指す気持ちを確立させてほしい。										
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業予定一覧に沿って、使用テキストを利用した予習・復習をすること。 ・指導案や資料等の作成、教材の準備をすること。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。										

書名	著者	出版社	ISBN	備考
四訂 栄養教諭論－理論と実際－	金田雅代 編著	建帛社	978-4-7679-2116-7	2, 800 + 税
食に関する指導の手引 第二次改訂版	文部科学省	健学社	978-4-7797-0496-3	1, 300 + 税
小学校教科書「私たちの家庭科5・6」		開隆堂		
学校給食調理従事者研修マニュアル	文部科学省スポーツ・青少年局学校健康課	株式会社 学建書院	978-4-7624-0884-7	1, 800+税
使用テキスト：自由記載				

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	「食育教材」文部科学省			
その他	適宜紹介する。			
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	管理栄養士・栄養教諭：公立小学校・公立中学校）15年			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	教育現場での実践的な経験を活かし、学生が栄養教諭に必要な知識をもち理解を深め、思考し問題解決能力を養い必要な技能を修得させる。			

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	ルーブリック				
		A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を理解することができる。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を広範かつ詳細に理解することができる。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を広範に理解することができる。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を十分に理解することができる。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容をあまり理解していない。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を理解していない。
知識・理解	2. 児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を広範かつ詳細に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を広範に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を十分に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を基礎的事項をあまり理解していない。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を理解していない。
知識・理解	3. 学校給食の管理についての基礎知識を理解することができる。	学校給食の管理についての基礎知識を広範かつ詳細に理解することができる。	学校給食の管理についての基礎知識を広範に理解することができる。	学校給食の管理についての基礎知識を十分に理解することができる。	学校給食の管理についての基礎知識をあまり理解することができない。	学校給食の管理についての基礎知識を理解することができない。
思考・問題解決能力	1. 児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を工夫することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を広範かつ詳細に工夫することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を広範に工夫することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を十分に工夫することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導をあまり工夫することができない。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を工夫することができない。
思考・問題解決能力	2. 学校給食の管理・運営ができる能力を養おうとすることができる。	学校給食の管理・運営ができる能力を広範かつ詳細に養おうとすることができる。	学校給食の管理・運営ができる能力を広範に養おうとすることができる。	学校給食の管理・運営ができる能力を十分に養おうとすることができる。	学校給食の管理・運営ができる能力を十分に養おうとすることができない。	学校給食の管理・運営ができる能力を養おうとすることができない。
技能	1. 学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導案を作成し、模擬授業をすることができる。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について十分に教材研究・展開を考慮した指導案を作成し、模擬授業をすることができる。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について教材研究・展開を考慮した指導案を作成し、模擬授業をすることができる。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について十分に教材研究した指導案を作成し、模擬授業をすることができる。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について十分に教材研究した指導案の作成や模擬授業をすることができない。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について指導案の作成や模擬授業をすることができない。

科目名	学校栄養教育指導法Ⅱ		授業番号	NW302	サブタイトル						
教員	藤原 三保子・山縣 綾香										
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	学校栄養教育指導法Iで学んだ内容について、実践演習を行う。栄養教諭としての効果的な食に関する指導の学習指導案の作成、模擬授業、ロールプレイング、アクティブラーニングを取り入れ、実践的指導力のスキルの育成を行う。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の心身の発達段階に応じた1単位時間の「食に関する指導」の内容を理解することができるようにする。 ・食に関する指導の指導案の立案、模擬授業等を行うことができるようにする。 ・栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキル等を身に付けることを目標とする。 <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	学校栄養教育指導法Iを踏まえて（食に関する指導、給食管理） ○特別活動、給食時間、学級活動における食に関する指導について、発達段階に合わせた題材を知り、自ら考え理解を深める。						藤原 三保子・山縣 綾香				
第2回	学校給食の衛生管理基準 ○食に関する指導の題材となる学校給食の衛生管理(学校給食衛生管理基準、食物アレルギー、危機管理)について、具体的な例を知ること、より一層理解を深める。						藤原 三保子・山縣 綾香				
第3回	実践演習(1) 1単位時間の学習指導案の作成の基本 ○学級活動 1単位時間の学習指導案の作成の基礎を知り、理解を深め作成する。						藤原 三保子・山縣 綾香				
第4回	実践演習(1) 1単位時間の学習指導案の作成の基本 ○学級活動 1単位時間の学習指導案の作成の基礎を知り、理解を深め作成する。						藤原 三保子・山縣 綾香				
第5回	教育現場に勤務するプロとしての栄養教諭 ○現場で働く栄養教諭について理解を深める。(特別講師)						藤原 三保子・山縣 綾香				
第6回	実践演習(2) 食に関する指導の学習指導案の作成、指導案の発表、相互批評、指導効果の評価、検討 ○学級活動での食に関する指導案等(指導案、板書計画、ワークシート、事前事後の調査)を作成し、模擬授業をする。相互評価をして指導技能を高める。						藤原 三保子・山縣 綾香				
第7回	実践演習(2) 食に関する指導の学習指導案の作成、指導案の発表、相互批評、指導効果の評価、検討 ○学級活動での食に関する指導案等(指導案、板書計画、ワークシート、事前事後の調査)を作成し、模擬授業をする。相互評価をして指導技能を高める。						藤原 三保子・山縣 綾香				
第8回	実践演習(2) 食に関する指導の学習指導案の作成、指導案の発表、相互批評、指導効果の評価、検討 ○学級活動での食に関する指導案等(指導案、板書計画、ワークシート、事前事後の調査)を作成し、模擬授業をする。相互評価をして指導技能を高める。						藤原 三保子・山縣 綾香				
第9回	実践演習(3) 学習指導案の作成、指導案の発表、相互批評、指導効果の評価、検討 ○給食時間・学級活動の食に関する指導案等を作成し、模擬授業を行いディスカッションすることで、改善すること、よりよい指導案に仕上げる。						藤原 三保子・山縣 綾香				
第10回	実践演習(3) 学習指導案の作成、指導案の発表、相互批評、指導効果の評価、検討 ○給食時間・学級活動の食に関する指導案等を作成し、模擬授業を行いディスカッションすることで、改善すること、よりよい指導案に仕上げる。						藤原 三保子・山縣 綾香				
第11回	実践演習(3) 学習指導案の作成、指導案の発表、相互批評、指導効果の評価、検討 ○給食時間・学級活動の食に関する指導案等を作成し、模擬授業を行いディスカッションすることで、改善すること、よりよい指導案に仕上げる。						藤原 三保子・山縣 綾香				
第12回	実践演習(3) 学習指導案の作成、指導案の発表、相互批評、指導効果の評価、検討 ○給食時間・学級活動の食に関する指導案等を作成し、模擬授業を行いディスカッションすることで、改善すること、よりよい指導案に仕上げる。						藤原 三保子・山縣 綾香				
第13回	実践演習(3) 学習指導案の作成、指導案の発表、相互批評、指導効果の評価、検討 ○給食時間・学級活動の食に関する指導案等を作成し、模擬授業を行いディスカッションすることで、改善すること、よりよい指導案に仕上げる。						藤原 三保子・山縣 綾香				
第14回	実践演習(3) 学習指導案の作成、指導案の発表、相互批評、指導効果の評価、検討 ○給食時間・学級活動の食に関する指導案等を作成し、模擬授業を行いディスカッションすることで、改善すること、よりよい指導案に仕上げる。						藤原 三保子・山縣 綾香				
第15回	学校栄養教育実習の説明、全体のまとめ ○学校栄養教育実習に向けて、事前訪問・学校栄養教育実習書等について理解を深める。						藤原 三保子・山縣 綾香				
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別		割合		評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢／態度		70		演習内容、課題への取組を評価する。意欲的な受講態度、ディスカッションへの参加状況によって評価する。							
レポート		10		食に関する指導についての理解度を評価する。評価後はフィードバックとして、コメントを付けて返却する							
小テスト		20		栄養教諭の職務についての理解度を評価する。							
定期試験											
その他											
評価の方法：自由記載											
<p>受講の心得</p> <p>グループでの活動が多いので、この機会をとりえてコミュニケーション能力を養うよう意欲的な態度で臨むこと。学習指導案の立案の際、各自で事前・事後学習に励むこと。</p>											
<p>授業外学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校栄養教育指導法Iで使用したテキストを熟読して、予習・復習をすること。 ・教材研究をしておくこと。 <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の公開時を捉え、授業を参観する。 											

使用テキスト		書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト、必要に応じて資料を用意する。					
参考図書						
書名	著者	出版社	ISBN	備考		
参考書：自由記載	担当教員が提示する。					
その他						
備考						
注意事項						
担当教員の実務経験の有無	有					
担当教員の実務経験	○管理栄養士・栄養教諭：（公立小学校・公立中学校）15年 ○小中高教員，岡山県教育委員会専門的教育職員，小学校教頭・校長（39年）					
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無					
担当教員以外で指導に関わる実務経験者						
実務経験をいかした教育内容	担当教員の教育現場での経験を活かし、学生自ら栄養教諭の職務である学校給食の管理・食に関する指導について知識・理解を深め、子どもの発達段階を考え学級活動・給食時間で行う食に関する指導を進めるための実践的スキル・技能を修得させる。					

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	ルーブリック				
		A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 児童生徒の発達段階に合わせた1単位時間の食に関する指導の内容を理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた1単位時間の食に関する指導の内容を広範囲かつ詳細に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた2単位時間の食に関する指導の内容を広範囲に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた3単位時間の食に関する指導の内容を十分に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた4単位時間の食に関する指導の内容を十分に理解することができない。	児童生徒の発達段階に合わせた5単位時間の食に関する指導の内容を理解することができない。
知識・理解	2. 学校給食衛生管理基準について理解を深めることができる。	学校給食衛生管理基準について広範囲かつ詳細に理解を深めることができる。	学校給食衛生管理基準について広範囲に理解を深めることができる。	学校給食衛生管理基準について十分に理解を深めることができる。	学校給食衛生管理基準について十分に理解することができない。	学校給食衛生管理基準について理解することができない。
思考・問題解決能力	1. 学級活動で行う食に関する指導の指導案等を工夫することができる。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を広範囲かつ詳細に工夫することができる。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を広範囲に工夫することができる。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を十分に工夫することができる。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を十分に工夫することができない。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を工夫することができない。
思考・問題解決能力	2. 1単位時間の食に関する指導を進めることができる。	1単位時間の食に関する指導をよりよく適切に進めることができる。	1単位時間の食に関する指導を適切に進めることができる。	1単位時間の食に関する指導をおおむね進めることができる。	4単位時間の食に関する指導をあまり進めることができない。	5単位時間の食に関する指導を進めることができない。
思考・問題解決能力	3. 意欲的にディスカッションすることができる。	より一層、意欲的にディスカッションすることができる。	より意欲的にディスカッションすることができる。	おおむね意欲的にディスカッションすることができる。	あまり意欲的にディスカッションすることができない。	意欲的にディスカッションすることができない。
技能	1. 栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを身に付けることができる。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを広範囲かつ詳細身に付けることができる。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを広範囲に身に付けることができる。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを十分に身に付けることができる。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを十分に身に付けることができない。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを身に付けることができない。
技能	2. 1単位時間の食に関する指導を進めることができる。	1単位時間の食に関する指導をより一層、適切に進めることができる。	単位時間の食に関する指導を適切に進めることができる。	単位時間の食に関する指導をおおむね進めることができる。	単位時間の食に関する指導をあまり進めることができない。	単位時間の食に関する指導を進めることができない。

科目名	学校栄養教育実習研究			授業番号	NV410	サブタイトル			
教員	藤原 三保子・山縣 綾香								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	小学校・中学校で行う学校栄養教育実習を有意義かつ充実した学習とするための演習を中心とした科目である。教育実習の実際について学び栄養教諭としての意識を高めるとともに、教材研究・模擬授業などの授業を通し教育実習に向けて実習課題の検討、準備を行う。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の教育現場に入るにあたって心構えができるようになる。 ・教育実習に向けて指導案・指導媒体の作成、授業の進め方等の技能を身に付け、準備することができるようになる。 ・より良い教育実習になるよう模擬授業を通して検討し考え、相互評価ができるようになる。 ・学校栄養教育実習に向けて、ふさわしい態度を養うことができるようになる。 <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	学校栄養教育実習の意義 ○プロとしての栄養教諭について、より理解を深める。						藤原 三保子・山縣 綾香		
第2回	学校栄養教育実習の事前指導 ○教育実習の概要・実習課題の検討・実習日誌の書き方・教育実習校との打合せ・連絡 ○教育実習に向けて、前向きに取り組む心構えや具体的な準備をする。						藤原 三保子・山縣 綾香		
第3回	個別的な相談指導、クラス経営、学校経営 ○個人差への配慮・食物アレルギー、偏食、肥満・痩身傾向 等・教師の援助の仕方・考え方・小中学校教育・指導の特質 ○栄養教諭として、子ども理解するための基本的なことを再確認する。						藤原 三保子・山縣 綾香		
第4回	個別的な相談指導、クラス経営、学校経営 ○個人差への配慮・食物アレルギー、偏食、肥満・痩身傾向 等・教師の援助の仕方・考え方・小中学校教育・指導の特質 ○栄養教諭として、子ども理解するための基本的なことを再確認する。						藤原 三保子・山縣 綾香		
第5回	学校栄養教育実習の実際 ○教育実習校での食に関する指導の準備(教材研究、学習指導案の作成)、検討、ディスカッション						藤原 三保子・山縣 綾香		
第6回	学校栄養教育実習の実際 ○教育実習校での食に関する指導の準備(教材研究、学習指導案の作成)、検討、ディスカッション						藤原 三保子・山縣 綾香		
第7回	学校栄養教育実習の実際 ○教育実習校での食に関する指導の準備(教材研究、学習指導案の作成)、検討、ディスカッション						藤原 三保子・山縣 綾香		
第8回	学校栄養教育実習の実際 ○教育実習校での食に関する指導の準備(教材研究、学習指導案の作成)、検討、ディスカッション						藤原 三保子・山縣 綾香		
第9回	学校栄養教育実習の実際 ○教育実習校での食に関する指導の準備(教材研究、学習指導案の作成)、検討、ディスカッション						藤原 三保子・山縣 綾香		
第10回	実習校との打合せ、模擬授業、相互評価、媒体作り ○栄養教諭一種 教育実習に向けて、大学で学んできた知識・技能や心構えを再確認する。						藤原 三保子・山縣 綾香		
第11回	実習校との打合せ、模擬授業、相互評価、媒体作り ○栄養教諭一種 教育実習に向けて、大学で学んできた知識・技能や心構えを再確認する。						藤原 三保子・山縣 綾香		
第12回	実習校との打合せ、模擬授業、相互評価、媒体作り ○栄養教諭一種 教育実習に向けて、大学で学んできた知識・技能や心構えを再確認する。						藤原 三保子・山縣 綾香		
第13回	実習校との打合せ、模擬授業、相互評価、媒体作り ○栄養教諭一種 教育実習に向けて、大学で学んできた知識・技能や心構えを再確認する。						藤原 三保子・山縣 綾香		
第14回	実習校との打合せ、模擬授業、相互評価、媒体作り ○栄養教諭一種 教育実習に向けて、大学で学んできた知識・技能や心構えを再確認する。						藤原 三保子・山縣 綾香		
第15回	実習校との打合せ、模擬授業、相互評価、媒体作り ○栄養教諭一種 教育実習に向けて、大学で学んできた知識・技能や心構えを再確認する。						藤原 三保子・山縣 綾香		
授業計画 備考2	授業形態は演習がメインになるが、教育実習に向けて講義もある。								
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加の状況によって評価する。						
	レポート								
	小テスト	10	栄養教諭の職務についての理解度を評価する。						
	定期試験								
	その他	70	指導案、課題等の提出物の内容を評価する。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養教諭を目指す者としての目線に立ち、それぞれの状況を想定しながら積極的に授業に臨むこと。 ・学校栄養教育実習および学校栄養教育指導法IIと深く関連する科目であることを意識して授業に臨むこと。 ・教材研究においては、専門的な様々な知識を活かして臨むこと。 ・学校教育の様々な課題に関心をもち、栄養教諭の社会的使命について考えること。 								
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・教育に関する時事問題に関心をもち、新聞やニュース等を把握しておくこと。 ・小中学校の教育現場を想定して、授業を進めるので課題やテキスト等の予習・復習を必ずしておくこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。 								

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	「学校栄養教育実習書」、 学校栄養教育指導法I, IIで使用したテキスト			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	担当教員が提示する。			
その他				

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	○管理栄養士・栄養教諭：地方自治体（公立小学校・公立中学校）15年 ○小中高教員，岡山県教育委員会専門的教育職員，小学校教頭・校長（39年）
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者	
実務経験を いかけた 教育内容	担当教員の実務経験を活かし、学生が教育実習に向けて心構え・態度を身に付けることができるようにする。また、教育実習での食に関する指導の実践に向けて指導案・媒体等を準備し授業ができる技能を修得させる。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を理解している。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を広範囲かつ詳細に理解している。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を十分に理解している。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を十分に理解している。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を十分に理解していない。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を理解していない。
思考・問題解決能力	1. より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、相互評価ができるようになる。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、広範囲かつ詳細に相互評価ができるようになる。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、広範囲に相互評価ができるようになる。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、十分に相互評価ができるようになる。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、十分に相互評価ができない。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、相互評価ができない。
技能	1. 食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を身に付け準備することができる。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を広範囲かつ適切に身に付け準備することができる。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を広範囲に身に付け準備することができる。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を十分に身に付け準備することができる。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を十分に身に付け準備できない。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を身に付け準備できない。
態度	1. 教育実習に向けて心構えができるようになる。	教育実習に向けて心構えがより一層できるようになる。	教育実習に向けて心構えが一層できるようになる。	教育実習に向けて心構えが十分にできるようになる。	教育実習に向けて心構えがあまりできない。	教育実習に向けて心構えができない。
態度	2. 教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度を身に付けることができる。	教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度をより一層身に付けることができる。	教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度をいっそう身に付けることができる。	教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度を十分に身に付けることができる。	教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度を十分に身に付けることができない。	教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度を身に付けることができない。

科目名	学校栄養教育実習			授業番号	NV411	サブタイトル																																																					
教員	藤原 三保子																																																										
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	実習(対面授業科目)	必修・選択	選択																																																		
授業概要	学校栄養教育実習は、大学等で学んだ理論を実践的な検証を通して、栄養教諭の職務の実際を知り理解を深める。教育実習校の現場で生徒指導、教育内容、指導方法を体験・研究する。教育実習中は、実習校の指導のもと食に関する指導について、特別活動や他教科との関連の実際を深く理解すると共に、実際に授業を展開し実践的指導力を身に付ける。大学は実習校と連携して学生の指導にあたる。原則、実習校は出身校とし、1週間(5授業日)以上の教育実習に取り組む。学校栄養教育実習後は、報告会を行う。																																																										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育現場の実際を知り、教育活動全般について理解を深めることができるようになる。 ・栄養教諭としてふさわしい態度を身に付けることができるようになる。 ・子ども理解を深めることができるようになる。 ・学習の基盤となる学習規律を踏まえ授業を進めることができるようになる。 ・自他の授業を検討し、食に関する指導に生かすことができるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。																																																										
授業計画 備考																																																											
授業計画 自由記載	1 校長、教頭、教務主任による実習受入校での指導(学校経営、校務分掌の理解、服務) 2 給食主任、学級担任、栄養教諭(学校栄養職員)による実習受入校での指導 3 養護教諭による実習受け入れ校での指導 4 校内における連携、調整(校内研修会、職員会議等)の参観、補助 5 配属学級での授業観察を通して、(1)子どもの実態把握・子ども理解を深める、(2)指導案・授業での実際、(3)教師と子どもの関わりを参観する。 6 児童生徒への教科・特別活動等における教育指導の実習 (1) 学級活動及び給食時間における指導の参観、補助 (2) 食に関する指導の実践(学級活動・給食時間など) (3) 児童生徒集会、委員会活動等における指導の参観、補助 7 家庭・地域社会との連携・調整の実際 8 学校栄養教育実習後に報告会、ディスカッション																																																										
授業計画 備考2																																																											
評価の方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>割合</th> <th>評価基準・その他備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業への取り組みの姿勢/態度</td> <td>30</td> <td>学校栄養教育実習書 他</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>70</td> <td>教育実習校での評価 評価後はフィードバックとして、コメントを付けて返却する</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									種別	割合	評価基準・その他備考	授業への取り組みの姿勢/態度	30	学校栄養教育実習書 他	レポート	70	教育実習校での評価 評価後はフィードバックとして、コメントを付けて返却する	小テスト			定期試験			その他																																		
種別	割合	評価基準・その他備考																																																									
授業への取り組みの姿勢/態度	30	学校栄養教育実習書 他																																																									
レポート	70	教育実習校での評価 評価後はフィードバックとして、コメントを付けて返却する																																																									
小テスト																																																											
定期試験																																																											
その他																																																											
評価の方法：自由記載																																																											
受講の心得	1 教育実習生は、教育者としての責任の重大さを自覚し、使命感・責任感と情熱をもって実習に臨むこと。 2 意欲的、積極的な実習に取り組む。 教育実習は、いわば教育上のインターンシップともいべき色彩をもっている。様々なことに意欲と積極的な姿勢をもって取り組むこと。 3 研究的な実習に徹し、事前・事後学習に励む。 4 健康と安全に留意し、実りの多い実習となるように努力する。 5 本実習を受ける前には、必ず事前に実習受入校を訪問し、指導教諭等と打ち合わせしておくこと。 6 教育実習生としての当然のエチケットとして、実習期間中お世話になった指導教諭や校長宛に礼状を出すことを忘れないようにすること。																																																										
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に実習受入校を訪問し学校長・指導担当者等との打ち合わせができるように準備すること。 ・実習校の指導に従って、教材研究等を行うこと。 ・指導案の作成や教材研究にあたっては、年間の授業計画も視野に入れ、他教科との関連についても考慮し準備を入念にしておく。 ・実習校がある区市町村教育振興基本計画等を調べておくこと。 以上の内容を、週当たり5時間以上学修すること。																																																										
使用テキスト	<table border="1"> <thead> <tr> <th>書名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>使用テキスト：自由記載</td> <td colspan="4">学校栄養教育実習書、学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト、必要に応じて資料等を用意する</td> </tr> </tbody> </table>									書名	著者	出版社	ISBN	備考	使用テキスト：自由記載	学校栄養教育実習書、学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト、必要に応じて資料等を用意する																																											
書名	著者	出版社	ISBN	備考																																																							
使用テキスト：自由記載	学校栄養教育実習書、学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト、必要に応じて資料等を用意する																																																										
参考図書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>書名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参考書：自由記載</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td colspan="4">特になし</td> </tr> <tr> <td>備考</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>注意事項</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>担当教員の実務経験の有無</td> <td colspan="4">有</td> </tr> <tr> <td>担当教員の実務経験</td> <td colspan="4">管理栄養士・栄養教諭：地方自治体(公立小学校・公立中学校)15年</td> </tr> <tr> <td>担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無</td> <td colspan="4">無</td> </tr> <tr> <td>担当教員以外で指導に関わる実務経験者</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>実務経験をいかした教育内容</td> <td colspan="4"> <ul style="list-style-type: none"> ○担当教員の実務経験を活かし、学生が食に関する指導について、現代的な諸課題・児童生徒の発達段階に合わせた内容・対応等について実践できる技能を修得させる。 ○栄養教諭に必要な能力を身に付けるため、教育実習指導者の指導の下、学校教育や児童生徒への理解を深め食に関する指導ができる技能を修得させる。 </td> </tr> </tbody> </table>									書名	著者	出版社	ISBN	備考	参考書：自由記載					その他	特になし				備考					注意事項					担当教員の実務経験の有無	有				担当教員の実務経験	管理栄養士・栄養教諭：地方自治体(公立小学校・公立中学校)15年				担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無				担当教員以外で指導に関わる実務経験者					実務経験をいかした教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ○担当教員の実務経験を活かし、学生が食に関する指導について、現代的な諸課題・児童生徒の発達段階に合わせた内容・対応等について実践できる技能を修得させる。 ○栄養教諭に必要な能力を身に付けるため、教育実習指導者の指導の下、学校教育や児童生徒への理解を深め食に関する指導ができる技能を修得させる。 			
書名	著者	出版社	ISBN	備考																																																							
参考書：自由記載																																																											
その他	特になし																																																										
備考																																																											
注意事項																																																											
担当教員の実務経験の有無	有																																																										
担当教員の実務経験	管理栄養士・栄養教諭：地方自治体(公立小学校・公立中学校)15年																																																										
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無																																																										
担当教員以外で指導に関わる実務経験者																																																											
実務経験をいかした教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ○担当教員の実務経験を活かし、学生が食に関する指導について、現代的な諸課題・児童生徒の発達段階に合わせた内容・対応等について実践できる技能を修得させる。 ○栄養教諭に必要な能力を身に付けるため、教育実習指導者の指導の下、学校教育や児童生徒への理解を深め食に関する指導ができる技能を修得させる。 																																																										

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 教育現場の実際を知り、教育活動全般について理解を深めることができるようになる。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について広範かつ詳細に理解を深めることができるようになる。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について広範に理解を深めることができるようになる。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について十分に理解を深めることができるようになる。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について十分に理解を深めることができない。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について理解を深めることができない。
知識・理解	2. 子ども理解を深めることができるようになる。	子ども理解を広範かつ詳細に深めることができるようになる。	子ども理解を広範に深めることができるようになる。	子ども理解を十分に深めることができるようになる。	子ども理解を十分に深めることができない。	子ども理解を深めることができない。
知識・理解	3. 栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、理解を深める。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、広範かつ詳細に理解を深める。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、広範に理解を深める。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、十分に理解を深める。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、十分に理解を深めることができない。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、理解を深めることができない。
思考・問題解決能力	1. 自他の授業を検討し、食に関する指導に生かすことができるようになる。	自他の授業を広範かつ詳細に検討し、食に関する指導に適切に生かすことができるようになる。	自他の授業を広範に検討し、食に関する指導に適切に生かすことができるようになる。	自他の授業を十分に検討し、食に関する指導に適切に生かすことができるようになる。	自他の授業を十分に検討し、食に関する指導に適切に生かすことができない。	自他の授業を検討し、食に関する指導に生かすことができない。
技能	1. 学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業を進めることができるようになる。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業を適切にスムーズに進めることができるようになる。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業をスムーズに進めることができるようになる。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業をおおむね進めることができるようになる。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業をあまり進めることができない。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業を進めることができない。
技能	2. 実践的指導ができるようになる。	実践的指導が適切にスムーズにできるようになる。	実践的指導がスムーズにできるようになる。	実践的指導がおおむねできるようになる。	実践的指導があまりできない。	実践的指導ができない。
態度	1. 栄養教諭としてふさわしい態度を身に付けることができるようになる。	栄養教諭としてふさわしい態度をよりいっそう身に付けることができるようになる。	栄養教諭としてふさわしい態度をいっそう身に付けることができるようになる。	栄養教諭としてふさわしい態度をおおむね身に付けることができるようになる。	栄養教諭としてふさわしい態度をあまり身に付けることができない。	栄養教諭としてふさわしい態度を身に付けることができない。

科目名	教職実践演習(栄養教諭)			授業番号	NV412	サブタイトル	(栄養教諭)																				
教員	藤原 三保子																										
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習(対面授業科目)	必修・選択	選択																		
授業概要	栄養教諭として求められる資質・能力(使命感や責任感・教育的愛情, 社会性や対人関係能力, 児童生徒理解, 食に関する指導力)が形成されたかを確認する教職課程最終科目である。主として教育実習のまとめを中心に相互検討及び評価し, 課題解決のための演習・ディスカッション等を行い深めていく。また, 栄養教諭の専門性に関することを再確認する。																										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・大学での講義で知り得た教養的および専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を融合し, 教員免許保有者としての望ましい資質をより一層高めることができるようになる。 ・教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ, 社会人としての優れた識見や対人能力が培われ, 豊かな人間性と思いやりを身に付けようとするができるようになる。 ・栄養教諭の専門性に関すること(給食管理・食に関する指導等)について考え, 理解を深めることができるようになる。 ・学習指導の基本的事項(知識・技能など), 板書, 話し方, 表情など授業を行う上で基本的な表現力を身に付けていることができるようになる。 なお, 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度> の修得に貢献する																										
授業計画 備考	演習を中心とするが, 講義もある。																										
回	概要					担当																					
第1回	教職実践演習の目的 「教職実践演習」の目的を知り, 栄養教諭に求められる資質・能力について履修カルテを使用し自己評価を行う。																										
第2回	学校栄養教育実習での研究報告 ディスカッション 学校栄養教諭実習の振り返りを一人ひとり報告し, ディスカッションする。																										
第3回	学校栄養教育実習での研究報告 ディスカッション 学校栄養教諭実習の振り返りを一人ひとり報告し, ディスカッションする。																										
第4回	栄養教諭に求められる資質能力 ディスカッション グループ討論等で栄養教諭に必要な必要最小限の資質・能力に関する課題について話し合うことで, 自己の課題の解決方法等を明らかにする。																										
第5回	学校における食育の推進について 学校における食育の推進のためには, 具体的にこながが必要なのか考える。																										
第6回	「学校栄養教育の現状とこれから」(特別講師) 外部講師の講話「栄養教諭の現状とこれから」から, より具体的に自己の課題を考える。																										
第7回	指導案・ワークシート・細案の作成 栄養教育実習の経験をもとに, 児童生徒の実態や発達段階に応じた「食に関する指導」の指導案, ワークシート, 板書計画, 細案を作成する。																										
第8回	指導案・ワークシート・細案の作成 栄養教育実習の経験をもとに, 児童生徒の実態や発達段階に応じた「食に関する指導」の指導案, ワークシート, 板書計画, 細案を作成する。																										
第9回	模擬授業 ディスカッション 作成した指導案等を用いて模擬授業, ディスカッションをすることで, 教員としての表現力や授業力, 児童生徒の反応を活かした食に関する授業づくり, 効果的な指導法を確認する。																										
第10回	模擬授業 ディスカッション 作成した指導案等を用いて模擬授業, ディスカッションをすることで, 教員としての表現力や授業力, 児童生徒の反応を活かした食に関する授業づくり, 効果的な指導法を確認する。																										
第11回	指導料等の作成(授業, 掲示物, 家庭や地域への配布 など) 家庭や地域への配付物(給食だより)・掲示物等を作成することで, 具体的に連携の意義を再確認する。																										
第12回	学校現場で求められる家庭・地域との連携のあり方 ディスカッション 栄養教諭は, 専門性を活かして学校内外を通じ, 食に関する教育のコーディネータとしての役割があることを再確認する。																										
第13回	社会性や対人関係能力について ディスカッション 食に関する指導の全体計画, 食物アレルギーを有する児童生徒が安全に楽しく学校生活を送るために必要なことについて討論する。																										
第14回	栄養教諭の専門性, 学校給食における危機管理 学校給食実施基準を理解し, 児童生徒の成長及び実態を把握した栄養管理ができることを再確認する。 学校給食衛生管理基準の内容を理解し, 衛生管理の基本を身に付けていることを再確認する。																										
第15回	総合的まとめ 大学で学んだこと・教育実習で学んだことを活かして栄養教諭の職務, 資質・能力について再確認する。																										
授業計画 備考2																											
評価の方法	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>割合</th> <th>評価基準・その他備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業への取り組みの姿勢/態度</td> <td>20</td> <td>意欲的な受講態度, 討議への参加, 予習・復習の状況によって評価する。</td> </tr> <tr> <td>レポート</td> <td>40</td> <td>教育実習から見てきた課題と解決策について, 自分の考えを具体的に表現することができるかを評価する。 評価後はフィードバックとして, コメントを付けて返却する</td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>定期試験</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>40</td> <td>学習指導案, 模擬授業, 提出物 の内容を評価する。</td> </tr> </tbody> </table>									種別	割合	評価基準・その他備考	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度, 討議への参加, 予習・復習の状況によって評価する。	レポート	40	教育実習から見てきた課題と解決策について, 自分の考えを具体的に表現することができるかを評価する。 評価後はフィードバックとして, コメントを付けて返却する	小テスト			定期試験			その他	40	学習指導案, 模擬授業, 提出物 の内容を評価する。
種別	割合	評価基準・その他備考																									
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度, 討議への参加, 予習・復習の状況によって評価する。																									
レポート	40	教育実習から見てきた課題と解決策について, 自分の考えを具体的に表現することができるかを評価する。 評価後はフィードバックとして, コメントを付けて返却する																									
小テスト																											
定期試験																											
その他	40	学習指導案, 模擬授業, 提出物 の内容を評価する。																									
評価の方法: 自由記載																											
受講の心得	実習校で学んだ学校・学級経営の中での児童生徒に対する深い理解などを包含した報告や相互検討を行い, 各自が将来に栄養教諭となるべく, お互いに高め合うような姿勢で事前・事後学習を十分にやり取りすること。																										
授業外学修	大学で修得した知識技能と教育実習での学びを関連づけて, 実践的な演習に臨めるように予習・復習をすること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。																										
使用テキスト	<table border="1"> <thead> <tr> <th>書名</th> <th>著者</th> <th>出版社</th> <th>ISBN</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>									書名	著者	出版社	ISBN	備考													
書名	著者	出版社	ISBN	備考																							

使用テキスト：自由記載	学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト、必要に応じて資料を用意する。			
参考図書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考	令和5年度改訂			
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	管理栄養士・栄養教諭：（公立小学校・公立中学校）15年			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	担当教員の実務経験を活かし、学生が教育実習を通じて得られた知識技能を融合し栄養教諭の専門性や果たすべき職務について理解を深め、栄養教諭に必要な技能を身に付けることができるようにする。また、教員免許保持者としての資質をより高め豊かな人間性と思いやりを身に付けようとする態度をもたせる。			

ループブック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 栄養教諭の専門性に関する理解を深めることができる。	栄養教諭の専門性に関する理解を深めることができる。	栄養教諭の専門性に関する理解を深めることができる。	栄養教諭の専門性に関する理解を深めることができる。	栄養教諭の専門性に関する理解を深めることができない。	栄養教諭の専門性に関する理解を深めることができない。
思考・問題解決能力	1. 大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を融合することができるようになる。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を広くかつ詳細に融合することができるようになる。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を広く融合することができるようになる。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を十分に融合することができるようになる。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を十分に融合することができない。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を融合することができない。
技能	1. 学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を身に付けていることができるようになる。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を広くかつ詳細に身に付けていることができるようになる。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を広く身に付けていることができるようになる。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を十分に身に付けていることができるようになる。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を十分に身に付けていることができない。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を身に付けていることができない。
態度	1. 教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりを身に付けようすることができる。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりをより一層身に付けようすることができる。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりを一層身に付けようすることができる。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりをあまり身に付けようとする事ができる。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりをあまり身に付けようとしていない。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりを身に付けようとする事ができない。
態度	2. 教員免許保有者としての望ましい資質をより一層高めようと努力する。	教員免許保有者としての望ましい資質をより一層高めようと努力する。	教員免許保有者としての望ましい資質を一層、高めようと努力する。	教員免許保有者としての望ましい資質をおおむね高めようと努力する。	教員免許保有者としての望ましい資質をあまり高めようと努力しない。	教員免許保有者としての望ましい資質を高めようと努力しない。

子ども学部 子ども学科

幼稚園教諭一種免許状

小学校教諭一種免許状

共通科目

科目名	生活と情報処理	授業番号	CC201A	サブタイトル	(超スマート社会の生活術)				
教員	石原 洋之								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	現代社会では、パソコンやスマートフォンなどのICTデバイスの活用が欠かせない。いつでもどこでも情報を利用できる環境が整い、AIの発展によって社会はますます高度化している。このような時代において、情報がどのような役割を果たし、人間とどのように関わるのかを学ぶ。 本授業では、「パソコンの基本操作や仕組み」、「ネットワークやAIの基本的な利用方法」、「情報化社会における情報モラルの課題」を中心に学び、現代社会で必要とされるICTリテラシーを身につけ、社会で活躍するための基礎を養う。								
到達目標	本授業の具体的な目標は、以下である。 (1) 積極的に授業に取組みICTリテラシー(デジタルな道具を活用する能力)の向上を図るために、新しい知識やスキルを習得しようとする。 (2) パソコンの基本操作と基礎的知識を学び、必要なICTツールが使用できる。 (3) インターネットやAIを利用した情報収集、編集、発信の仕方を学び適切な情報共有が行える。 (4) 情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学び安全な情報共有を理解する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画備考									
回	概要				担当				
第1回	授業ガイダンスとパソコン操作についての基礎知識 I まず、ICTの活用と授業の進め方について説明を受け理解する。PC教室の使い方、ログインの仕方(ID、パスワード)、eメールのログインの仕方等パソコン操作の基本について理解する。Google Classroomでの授業テキスト用のファイルの参照方法を知る。								
第2回	パソコン操作についての基礎知識II 演習用課題のファイルのアクセスの仕方、課題の提出の仕方等を理解し、実際に使えるようになるための操作を習得する。Gmail で e-mail 送信も行う。								
第3回	ワードの基礎知識 I MS WORDの起動、終了、文字入力の基本、印刷等を学び、簡単な文章を入力し、プリントアウトできる技術を習得する。音声読み上げ、画像-文字変換による文章の取り込みを経験する。								
第4回	ネットワークとインターネット利用についての基礎知識 I LANで構成されたネットワークとインターネットについて説明し、web 検索を行い 画像を引用するなどの活用方法について理解する。また、その際に起こるセキュリティや著作権の問題について理解する。								
第5回	エクセルの基礎知識 I 表を作成して、グラフの作成を体験する。インターネットで取得可能なデータを利用して操作と簡単なデータ分析を実際に体験する。								
第6回	エクセルの基礎知識 II セルの値の参照やセル関数を使う。標準偏差を用いて特異データを示す処理方法を理解する。								
第7回	スマートフォンの利用とファイル共有 クラウドサービスとe-mailを使ってスマートフォンとPCでファイル共有する。Gmail, Googleドライブ, Microsoft One Drive の使用方法を学ぶ。								
第8回	ワードの基礎知識 II 音声読み上げ、画像→文字変換(OCR)による文章の取り込みを経験する。Microsoft(Office) 365 も体験し自己学習方法を習得する。								
第9回	パワーポイントの基礎知識 I パワーポイントの起動、終了、画像の挿入、図形の作成などパワーポイントの描画機能の基本について理解する。								
第10回	生成AIの活用 I 一般的なAIの概要説明を行い、要約や翻訳を体験する。さらに対話型AIを使用上の注意点と有効性を理解する。								
第11回	生成AIの活用 II 適切な画像の挿入やアニメーションの機能を活用し、自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。生成AIでの画像生成も体験する。								
第12回	パワーポイントの基礎知識 II 適切な画像の挿入やアニメーションの機能を活用し、自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。生成AIでの画像生成も体験する。								
第13回	生成AIの活用 III 適切な画像の挿入やアニメーションの機能を活用し、自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。生成AIでの画像生成も体験する。								
第14回	生成AIの活用 IV MS WORDで作成した自己紹介ファイルをパワーポイントで読み込み、アウトラインを理解し箇条書き文章から目的のスライドを作成してゆく。アウトラインという構造をまず作成することが、これからのAI活用で重要であることを学修する。								
第15回	情報の倫理とセキュリティ 情報セキュリティの基本的な知識を身に付け、パスワードを適切に設定・管理するなど、コンピュータやインターネットを安全に利用できるような知識・技術を習得する。また、情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち、自他の権利を尊重して、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりするための学修をする。								
授業計画備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	毎回の授業で演習に取り組む態度等を総合的に評価する。						
	レポート	80	毎回の授業での学修した情報教育の知識及び情報技術等が適正に理解・習得されているか、提出される演習課題等を総合的に評価する。レポートについては、コメントでフィードバックする。						
評価の方法：自由記載	毎回授業の初めに「本日の学修目標」を具体的に提示し、その目標が達成されたかどうかについて評価する。したがって、その目標をしっかりと意識して演習課題に取り組むこと。								

受講の心得	新聞やTV, webサイト等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 わからないことは質問すること。
授業外学修	1. 予習として、授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学習等を行い、考えてくること。 2. 復習として、授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いて振り返り、適宜調べ学習や実践等を行い、学びを深めていく(探究すること)。 以上の学修を、授業1回あたり4時間以上行うこと。 3. Google Classroomを立ち上げ欠回の授業の準備資料、復習用資料や連絡等を掲載するので視聴すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	プリントの配布とプレゼンテーション。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	情報通信技術者歴42年。PC-CADシステムの開発。海外アプリケーションの国内販売サポート。国内企業自治体のシステム化支援。ICTを利用したミュージアムの常設システムの設計と施工管理。自治体情報化支援3か月。ICT系学生によるBPL演習における長期インターン指導（13年）。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	システムの開発とインターネット創成期からの利活用及び海外視察と海外企業との提携で養ったICTの実践力と顧客企業へのIT化でのITの活用の提案と提供、さらにミュージアムシステムでの教育現場への支援等の経験を生かして、ICTの具体的な活用を紹介しながら学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. ICTツール(アプリ)の機能と用途が理解できている。	多様なICTツールを使いこなす、高度な機能も活用できる。新しいツールにも短時間で習得できる。	複数のICTツールを使いこなすことができ、使い慣れたツールでは高度な機能も活用できる。	必要なICTツールを適切に使いこなすことができる。	特定のツールにしが慣れておらず、他のツールには戸惑う。	ICTツールをほとんど使いこなせない。
知識・理解	2. 基本的な情報共有の方法が理解できている。	多様な情報共有の方法を理解し、状況に応じて最適な方法を選択できる。情報種別を意識した、効果的な情報共有を行うことができる。	複数の情報共有の方法を理解し、使いこなせる。情報共有の際に、必要な情報を漏れなく伝えられる。	基本的な情報共有の方法を理解し、使える。しかし、状況に応じた選択が難しい場合がある。	情報共有の方法が限定的で、状況に応じた選択が難しい。	情報共有の方法を十分に理解しておらず、相手に伝わらないことが多い。
知識・理解	3. 情報セキュリティと倫理を理解している。	情報セキュリティの重要性を深く理解し、実践的な知識を持っている。情報倫理に関する問題点を見抜き、適切な行動をとることができる。	情報セキュリティの知識があり、基本的な対策を講じることができる。情報倫理の重要性を理解している。	情報セキュリティの基礎知識はあるが、実践的な知識は不足している。情報倫理に関する問題点に気づきにくい。	情報セキュリティや情報倫理の重要性を十分に理解していない。	情報セキュリティや情報倫理に関する知識がほとんどない。
思考・問題解決能力	1. 課題を理解し適切に取り組める。	課題の本質を捉え、独創的な解決策を提案できる。効率的な手段を選択し、課題を解決する。	課題の要点を理解し、適切な解決策を提案できる。与えられた情報から必要な情報を抽出し、課題解決に活かす。	指示された範囲内で課題に取り組み、解決を見つけることができる。	課題の意図を正確に把握できず、適切な解決ができない。	課題に取り組む意欲が低く、解決策を見つけることができない。
思考・問題解決能力	2. 効率的な利用や改善方法を見つけ理解の向上が行える。	ICTツールを効率的に使いこなす、作業の効率化を図る。自己学習能力が高く、常に知識を更新しようとする。	ICTツールの機能を理解し、作業の効率化を図る。新しい知識や技術を取り入れることに積極的である。	与えられたICTツールを基本的なレベルで使いこなせる。新しい知識や技術への関心は低い。	ICTツールの使い方がぎこちなく、作業の効率化が図れない。新しい知識や技術を取り入れる意欲がない。	ICTツールをほとんど使いこなせず、作業の効率化が図れない。
技能	1. PCとICTツール(アプリ)を快適に操作できる。	PCの操作に熟練しており、様々なアプリを自在に使いこなせる。トラブルが発生した場合でも、自ら解決できる。	PCの操作に習熟しており、複数のアプリを組み合わせた作業もスムーズに行える。	PCの基本的な操作ができ、指示されたアプリを操作できる。	PCの操作に慣れておらず、簡単な操作でも戸惑うことがある。	PCの操作が極めて不得手で、アプリをほとんど使いこなせない。
技能	2. インターネットの特性を理解したweb検索や生成AIの活用が行える。	インターネットの仕組みを深く理解し、効率的な情報収集ができる。生成AIを効果的に活用し、創造的な活動が行える。	インターネットの仕組みを理解し、必要な情報を的確に検索できる。生成AIの活用方法を知っている。	インターネット検索の基本的な方法を知っており、必要な情報を見つけ出すことができる。	インターネット検索に慣れておらず、必要な情報を見つけ出すのが難しい。	インターネット検索の経験がほとんどなく、情報収集ができない。
技能	3. 意図したコンテンツの作成及び素材の収集が行える。	創造性豊かに、高度なコンテンツを作成できる。様々な素材を収集し、効果的に活用できる。	目的に合ったコンテンツを作成できる。必要な素材を効率的に収集できる。	指示された内容のコンテンツを作成できる。必要な素材をある程度収集できる。	指示された内容のコンテンツを作成するのが難しい。必要な素材を適切に収集できない。	コンテンツを作成することができず、素材の収集もできない。

科目名	英語 I	授業番号	CD201A	サブタイトル	実践英語 I				
教員	西田 寛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習 (対面授業科目)	必修・選択	必修
授業概要	<p>本学の立地する岡山県の観光地、文化、習慣などについて外国人に紹介する対話文を扱い、英語の読解力を高めるとともに岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ、最終的には、自ら素材を選んで岡山の紹介文を書き、英語で発表できる力を育成する。また、各自の英語の能力に応じた実用英語技能検定あるいは幼保英語検定の取得を目指す。</p>								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の基本的な語彙、文法、文構造を理解できる。 ・英語の対話文を読んだり聞いたりして、その内容を理解できる。 ・日常的な話題や社会的な話題について、適切な表現を用いて伝え合うことができる。 ・地元岡山の文化や生活習慣等についての知識を身に付けている。 ・岡山の紹介文を作成し、Show and Tellの形で発表できる。 <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	Introduction: 講座の目標、内容、評価方法を確認する。 1-1-2 Welcome to Okayama : 空港でALTを迎える場面での対話の内容を理解する。								
第2回	1-1-4 At Korakuen : 後楽園を案内する場面での対話の内容を理解する。								
第3回	1-2-1 Hofukuji and Sesshu : 宝福寺と雪舟に関する対話の内容を理解する。								
第4回	1-2-2 Kibiji District : 吉備路に関する対話の内容を理解する。								
第5回	1-2-4 Ohara Museum of Art : 大原美術館に関する対話の内容を理解する。								
第6回	1-3-1 Hiruzen Height : 蒜山高原に関する対話の内容を理解する。 Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。								
第7回	1-3-2 A Trip to Inujima : 犬島への旅行に関する対話の内容を理解する。								
第8回	1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine : 吉備津神社への日帰り旅行に関する対話の内容を理解する。								
第9回	1-3-5 Yunogo Hot Springs : 湯郷温泉に関する対話の内容を理解する。								
第10回	2-1-3 Gift Wrapping : 贈り物の包装に関する対話の内容を理解する。								
第11回	2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags : 白桃の袋かけに関する対話の内容を理解する。 Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。								
第12回	Introduction Report of Okayama:岡山紹介のレポートを作成する。 Interview and Reading Test①:教員からの英語の質問に答えるとともに、テキストの中からその場で指定された箇所を音読するマンツーマンのテストを受ける。								
第13回	Okayama Introduction Practice:岡山紹介の練習をする。 Interview and Reading Test②:教員からの英語の質問に答えるとともに、テキストの中からその場で指定された箇所を音読するマンツーマンのテストを受ける。								
第14回	Show and Tell of Okayama Introduction : 岡山紹介のShow and Tellをする。視聴する学生は聞き取り内容のメモをとり、発表者への質問をする。								
第15回	Future Goals: 将来の夢に関する対話文の内容を理解し、各自の将来の夢について英語で書く。 Summary and Reflection of the Entire Lecture : 講義全体のまとめと省察								
授業計画 備考2	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の最初に、ペアでTopic Talk等のコミュニケーション活動を行い、英語によるコミュニケーション能力を高める。 ・テキストの内容理解後は、毎回ペアやグループで音読練習を行う。 								
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	40	・意欲的な受講態度 (ペアやグループワークを含む) , ノート点検による予習・復習の状況の評価する。〈態度〉						
	レポート	10	・テーマについて調査・整理・分析し、具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。(岡山の紹介) 〈技能〉 *レポートについてはコメントを記入して返却するとともに、良い例はクラス全体に紹介する。						
	小テスト	50	・既習事項の中から有用な語彙・表現の理解度を評価する。(到達度確認テスト) 〈知識・理解〉 ・授業中のコミュニケーション活動や音読の到達度を確認する。(Interview and Reading Test) 〈技能〉						
評価の方法 : 自由記載									
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・予習と復習を心がけ、自らの学びの状況を把握し向上できるように、自主的で粘り強い学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでのコミュニケーション活動をするので積極的に参加すること。 ・実用英語技能検定あるいは幼保英語検定の問題集を購入し、検定合格を目指して学修すること。 								
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。 ・前時の授業内容については2時間以上復習しておくこと。 ・課題については十分に調査してレポートを作成すること。 								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	岡山からハロー	岡山ローバル英語研究会	山陽新聞社	978-4-88197-759-0c00	1,000円				
使用テキスト : 自由記載									
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年）、公立中高一貫教育校指導教諭（6年）、公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：1年）、県教育委員会指導主事（4年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし、小学校や乳幼児教育施設等の英語教育に携わる指導者に求められる基礎的な英語力を育成する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 英語の基本的な語彙・文法・文構造の理解	英語の基本的な語彙・文法・文構造を十分正確に理解し、問いに対して9割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を正確に理解し、問いに対して8割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を理解し、問いに対して7割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について、やや理解できていないところもあるが、問いに対して6割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について、あまり理解できておらず、問いに対して6割未満の回答である。
知識・理解	2. 対話文の内容理解 (Reading)	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して読み、人物の心情を考えたり、自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、ほぼ正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いても、正確に読み取ることができない。
知識・理解	3. 対話文の内容理解 (Listening)	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して聞き、人物の心情を考えたり、自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について、未習事項があっても、文の前後関係から類推する等して正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いて、ほぼ正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について、既習事項を用いても、正確に聞き取ることができない。
知識・理解	4. 地元岡山の文化や習慣等についての知識	地元岡山の文化や習慣等に関するテキスト以外の英文も自ら進んで読み、その知識を正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み、その知識を十分かつ正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み、その知識を正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み、その知識をほぼ身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読むが、その知識が身に付いていない。
技能	1. 英語でのやりとり	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、適切な表現を用いて伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを、伝え合うことができない。
技能	2. 英文の音読	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で、感情を込めながら相手に伝わる工夫をして音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で、感情を込めて音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で音読できる。	ほぼ正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で音読できない。
技能	3. 発表原稿の作成 (書くこと)	未習の語彙・表現は自ら進んで調べ、事実や自分の考え、気持ちを入れる等して、相手に伝わりやすい英文を書くことができる。	未習の語彙・表現は自ら進んで調べ、事実や自分の考え、気持ちを入れる等して書くことができる。	既習の語彙・表現を用いて、事実や自分の考え、気持ちを入れる等して書くことができる。	簡単な語彙・表現を用いて、事実について書くことができる。	簡単な語彙・表現を用いても、事実について書くことができない。
技能	4. Show and Tell (岡山紹介の発表)	適切な声量・アイコンタクト・姿勢で、原稿を見ずに実物や写真を示しながら、聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・アイコンタクト・姿勢で、あまり原稿を見ずに、実物や写真を示しながら、聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・姿勢で、実物や写真を示しながら、聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・姿勢で、実物や写真を示しながら、聞き手に伝えることができる。	聞き手にわかりやすく伝えることができない。
態度	1. ペアやグループでのコミュニケーション活動	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し、適切な表現を用いて対話をしたり、分からない人にアドバイスしたりできる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し、適切な表現を用いて対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加できない。
態度	2. 自律的な学び (予習・復習)	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し、必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し、その内容を十分に理解した上で、自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し、その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが、その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	体育講義 (全8回)			授業番号	CE201	サブタイトル			
教員	溝田 知茂								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	現代社会においては、技術革新に伴う機械化・情報化等が進み、日常生活における身体活動が減少するとともに、食生活のバランスの崩れも伴って、運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって、我々の身体は危機的な状況にさえ陥っている場合もある。本講義では、からだと心の仕組みについて、身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身に付ける。								
到達目標	人間のからだと心の仕組みについて、日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	「体力」について考える 「体力」がどのような要素で構成されているかを考え理解する。								
第2回	「自律神経」の働きについて考える 人間のからだの自動調節機能である自律神経の仕組みや働きについて考え理解する。								
第3回	「ホルモン」の働きについて考える 眠りのホルモンと呼ばれる「メラトニン」について、分泌の仕組みや働きについて考え理解する。								
第4回	「睡眠障害」について考える 睡眠障害の種類を知ること、そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。								
第5回	「高血圧」について考える 高血圧の仕組みを知ること、そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。								
第6回	「目の病気」について考える 目の病気の種類を知ること、そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。								
第7回	「健康診断」で分かることについて考える 普段学校で実施する健康診断で分かること、健康診断で分からないことについて考える。								
第8回	「背筋力」の働きについて考える 二足歩行する上で重要な働きをしている背筋力について測定しながら、生活に必要な背筋力を知る。								
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合		評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢／態度		40		意欲的な受講態度、予習・復習の状況によって評価する。フィードバックは、その時その場で行う。					
レポート									
小テスト									
定期試験		60		各回の主要なポイントの理解度を評価する。テストは、採点をして返却する。					
その他									
評価の方法： 自由記載									
受講の心得		・スポーツに関わる知識と理解を深め、スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているため、自らの生活と関連付けながら受講すること。							
授業外学修		・「スポーツ」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し、興味関心を高める。 ・各回の授業内容に合わせた情報を収集したり、書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。							
使用テキスト									
書名		著者		出版社		ISBN		備考	
使用テキスト：自由記載		特に使用しない。(作成資料を活用)							
参考図書									
書名		著者		出版社		ISBN		備考	
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 体育講義の基本的考え 方が理解できている。	体育講義の内容が理解できて いる。	体育講義の内容がほぼ理解 できている。	体育講義の基本的な内容が 理解できている。	体育講義の基本的な内容の 理解が十分ではない。	相談援助の基本的な内容 が理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 事例に基づいて、道具や 簡単な方法でセルフチェックで きる。	事例に基づいて、道具や簡単 な方法でセルフチェックできる。	事例に基づいて、道具や簡単 な方法でほぼセルフチェックで きる。	事例に基づいて、簡単にセル フチェックできる。	簡単なセルフチェックの方法に ついての理解が十分ではな い。	簡単なセルフチェックの方法を 理解できていない。

科目名	体育実技		授業番号	CE202A	サブタイトル	(スポーツに親しもう)				
教員	梶谷 信之									
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実技(対面授業科目)	必修・選択	選択	
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら、各種のスポーツ(集团的スポーツ・個人的スポーツ)の練習や試合に取り組む。									
到達目標	健康的な生活を送るために、運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとともに、集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解><技能>の修得に貢献する。									
授業計画 備考										
回	概要					担当				
第1回	卓球I(シングルのルールと基本技術の理解およびゲームの導入) シングルの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に、実際にシングル・ゲームを行います。 1対1で対戦し、リーグ戦方式でゲームを行います。									
第2回	卓球II(シングルの基本技術の習得とゲーム戦略の導入) シングルの基本技術を反復しつつ、シングル・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り、グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。									
第3回	卓球III(ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入) ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に、実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルの成績でペアを組み、2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。									
第4回	卓球IV(ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入) ダブルスの基本技術を反復しつつ、ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り、グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。									
第5回	バドミントンI(シングルのルールと基本技術の理解およびゲームの導入) シングルの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に、実際にシングル・ゲームを行います。 1対1で対戦し、リーグ戦方式でゲームを行います。									
第6回	バドミントンII(シングルの基本技術の習得とゲーム戦略の導入) シングルの基本技術を反復しつつ、シングル・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り、グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。									
第7回	バドミントンIII(ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入) ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に、実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルの成績でペアを組み、2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。									
第8回	バドミントンIV(ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入) ダブルスの基本技術を反復しつつ、ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り、グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。									
第9回	ソフトバレーボールI(ルールと基本技術の理解およびゲームの導入) 基本的なルールの確認と基本技術の練習を行います。 練習後にグループを作ってゲームを行います。									
第10回	ソフトバレーボールII(基本技術の習得とゲームの導入) 基本技術を反復しつつ、戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り、グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。									
第11回	ソフトバレーボールIII(ゲームの展開) 基本技術を反復しつつ、各チームで戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り、グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。									
第12回	室内ミニテニスI(シングルのルールと基本技術の理解およびゲームの導入) シングルの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に、実際にシングル・ゲームを行います。 1対1で対戦し、リーグ戦方式でゲームを行います。									
第13回	室内ミニテニスII(シングルの基本技術の習得とゲーム戦略の導入) シングルの基本技術を反復しつつ、シングル・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り、グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。									
第14回	室内ミニテニスIII(ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入) ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に、実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルの成績でペアを組み、2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。									
第15回	室内ミニテニスIV(ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入) ダブルスの基本技術を反復しつつ、ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り、グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。									
授業計画 備考2	受講人数により、他のスポーツ種目に変更することがある。 (バレーボール、バスケットボール、グラウンドゴルフ、など)									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度		70	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり、自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している。 フィードバックは、その時その場で行う。体操服や体育館シューズを忘れた人は見学となり、減点される。授業中に携帯電話を見ていると減点される。							
レポート										
小テスト		30	各競技ごとに実施した試合成績を参考に。フィードバックは、その時その場で行う。							
定期試験										
その他										
評価の方法：自由記載										
受講の心得	運動着を着用し、体育館シューズを使用する。 全員協力の上、準備・片付けをする。 携帯電話は見ない。(すぐに手の届く所へ置かない)									

授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め、日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため、書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。
-------	--

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)			

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	無			
担当教員の 実務経験				
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無			
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者				
実務経験を いかした教 育内容				

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点(到達目標に 基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ルールを細かく理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ほぼ基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解しているが、基本的なルールの理解が十分ではない。	運動の大切さや、ルールを理解できていない。
技能	1. 運動技能が優れている。	運動技能が優れている。	基本的な運動技能が優れている。	基本的な運動技能が身についている。	基本的な運動技能が十分ではない。	基本的な運動技能が身につけていない。

科目名	子ども家庭支援の心理学	授業番号	CN210	サブタイトル	
教員	國田 祥子				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期
				授業形態	講義(対面授業科目)
					必修・選択
					選択
授業概要	この授業では、生涯発達の見点から人の一生を捉え、特に発達変化の著しい乳幼児期を中心に、人の生理的・心理的発達について、家族・家庭の影響を踏まえて解説する。				
到達目標	子どもの発達についての基礎知識を身につけ、子どもを取り巻く家族・家庭の意義と機能を理解する。さらに、子どもの心の健康とその課題について理解する なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	子ども家庭支援の心理学とは 子どもの育ちとそれに大きな影響を及ぼす家庭環境について、発達段階、保護者の育ちといった視点から解説する。				
第2回	乳幼児期における発達 生涯にわたる心身の土台を形成する重要な時期である乳幼児期について、愛着、応答的な関わり、基本的信頼といったキーワードから解説する。				
第3回	学童期における発達 学童期(いわゆる小学生の時期)の子どもの発達にみられる基本的な特徴と課題について、大きく前期と後期に分けて解説する。				
第4回	青年期における発達 生涯の中で乳幼児期に次いで心身が激しく変化する青年期について、心理的離乳やアイデンティティの獲得といった観点から解説する。				
第5回	成人期・老年期における発達 親としての世代である成人期および老年期において達成されるべき発達課題について理解を深め、家庭支援の視点を養う。				
第6回	家族・家庭の意義と機能 現代の子育て家庭について、家族や家庭の形態の種類や時代や社会による変化、またそれが子どもの育ちにどのように影響するかを解説する。				
第7回	親子関係・家族関係の理解 親子関係や家族関係が子どもに、また子どもの将来にどのように影響するかを解説し、保育者としての支援について理解する。				
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回までの内容(生涯発達および家族・家庭の理解)を振り返り、学習者の理解を確認する。理解が不十分だった点についてはその場でフィードバックし、復習を促す。				
第9回	子育てに関する現状と課題 少子化、さらには父親・母親の子育ての現状について、ワンオペ育児や父親の育児取得における課題などから解説する。				
第10回	ライフコースと仕事・子育て それぞれの人生の道筋について、その考え方や時代の特徴を理解し、性別役割分業および家庭と仕事のバランスについて保護者支援の視点から解説する。				
第11回	多様な家庭とその理解 子どもの貧困、ひとり親家庭、ステップファミリーといったさまざまな事情をもつ家庭の支援ニーズと子どもに及ぼす影響について解説する。				
第12回	特別な配慮を要する家庭 発達の課題を有する子どもの家庭、保護者が障害や心の病気を有する家庭、外国にルーツを持つ家庭などの特別な配慮を要する家庭について解説する。				
第13回	子どもの生活・生育環境とその影響 子どもの発達に及ぼす環境の影響について、その理論的背景を理解するとともに、時代的・社会的変化が子どもにもたらす影響について解説する。				
第14回	子どもの心の健康に関する問題 乳幼児期の子どもの起こりやすい心の健康に関する問題について、心身症および障害を中心に解説する。				
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回までの内容(子育て家庭・子どもの精神保健に関する現状と課題)を振り返り、学習者の理解を確認する。理解が不十分だった点についてはその場でフィードバックし、復習を促す。				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
授業への取り組みの姿勢/態度					
レポート					
小テスト					
定期試験		100	理解度を評価する。		
その他					
評価の方法：自由記載					
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。				
授業外学修	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。				

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
こどもまんなか社会に活かす「子ども家庭支援の心理学」	立花直樹・津田尚子(監修)	晃洋書房	978-4-7710-3901-8	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	無			
担当教員の 実務経験				
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかした教育 内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 講義内容を多面的かつ十分に理解し、自らの知識として獲得できる	呈示された知識を十分に獲得している	呈示された知識をほぼ獲得し、多少の不十分があっても獲得する努力をしている	知識の獲得は十分とは思われないもの、努力は明らかである	授業内容を十分に理解できているとは思われず、知識獲得への努力も不十分である	講義そのものを理解できておらず、知識を獲得できていない

科目名	基礎音楽A		授業番号	CO20701	サブタイトル				
教員	廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもの発達と表現を理解し、音楽に関する基本的な知識や技能を、ピアノ弾き歌いを軸として習得することを目的とする。豊かな感性を表現する基礎技法を学び、保育現場において使用する童謡、子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより、確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別にグループを組み、個人指導を行う。								
到達目標	楽曲を構成する基本的な知識を理解し、個人の習熟度に応じた演奏ができるようになることを目標とする。 練習を習慣化し、レパートリーを10曲以上作ることを目標とする。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	子どもの成長と子どもを取りまく音楽環境について…保育者に必要な音楽の知識・技能とは何か				廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二				
第2回	基本的な楽典の知識を習得する 1				廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二				
第3回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 基本的な楽典の知識を習得する 2				廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二				
第4回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 基本的な楽典の知識を習得する 3				廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二				
第5回	表現法とまとめ 1 / 基礎的な発声の練習				廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二				
第6回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 基本的な楽典の知識を習得する 4				廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二				
第7回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 基本的な楽典の知識を習得する 5				廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二				
第8回	表現法とまとめ 2 / 基本的な楽典の知識を習得する 6				廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二				
第9回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 基本的な楽典の知識を習得する 7				廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二				
第10回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 基本的な楽典の知識を習得する 8				廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二				
第11回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 基本的な楽典の知識を習得する 9				廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二				
第12回	表現法とまとめ 3 / 基本的な楽典の知識を習得する 10				廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二				
第13回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 基本的な楽典の知識を習得する 11				廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二				
第14回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 基本的な楽典の知識を習得する 12				廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二				
第15回	表現法とまとめ 4 / 基本的な楽典の知識を習得する 13				廣畑 まゆ美 川崎泰子 土師範子 河田健二				
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、予習及び復習の状況によって評価する。						
	レポート								
	小テスト	72	弾き歌い実技により、学習プロセスを含めた練習成果を定期的に評価する。小テスト実践後は、指導教員から講評を行う。						
	定期試験	18	楽典の基礎的な知識をペーパーテストで評価する。						
	その他								
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次回の授業で表現・発揮できるよう日々努力し、練習を積み重ねること。 授業担当教員から指導された内容は、次回に改善・工夫できるよう、自主的に適宜メモをとること。								
授業外学修	授業で提示される次回の内容について、毎日予習すること。 授業で提示された課題を実施すること。授業終了後は、各自、復習を行うこと。 上記の内容を、週当たり1時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	いろいろな伴奏で弾ける選曲 こどものうた100(保育実用書 シリーズ)	小林美実	チャイルド社	978-4805481868	1600				
	大人のための音楽ワークドリル		ヤマハミュージックエンタテイメント ホールディングス	978-4636801552	1100				
使用テキスト：自由記載	高等学校で「こどものうた200」を使用していた場合は、そちらを継続して使用してもよい。								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

ループブック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)				
		A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 読譜	音符・休符の長さや意味を十分理解し、演奏につなげることができている。	音符・休符の長さや意味を理解し、演奏につなげることができている。	音符・休符の長さや意味をおおむね理解し、演奏につなげようとしている。	音符・休符の長さや意味の理解が不十分で、演奏へつなげることができていない。	音符・休符の長さや意味の理解ができておらず、演奏へつなげることができていない。
技能	1. 弾き歌いの実践	自分の習熟度に応じた伴奏法・楽曲にふさわしい発声法で、流れをとめることなく演奏することができている。	自分の習熟度に応じた伴奏法・楽曲にふさわしい発声法で、演奏することができている。	自分の習熟度に応じた伴奏法・発声法で、演奏することができている。	自分の習熟度に応じた伴奏法・発声法の練習が不十分で、演奏時にミスが生じる。	自分の習熟度に応じた伴奏法・発声法の練習が不十分で、演奏時にミスが多々生じる。
技能	2. 表現	曲全体のイメージを丁寧に構築し、考えたことを十分演奏に生かすことができている。	曲全体のイメージを構築し、考えたことを演奏に生かすことができている。	曲全体のイメージを構築しようとし、考えたことを演奏に生かそうとしている。	曲全体のイメージを構築しようとするが不十分で、イメージと演奏が結びついていない。	曲全体のイメージを構築しようとするができていない。
技能	3. レパートリー数と完成度	半期で10曲以上のレパートリーを完成させているとともに、演奏内容も非常に優れている。	半期で10曲以上のレパートリーを完成させているとともに、演奏内容も優れている。	10曲には満たないものの、日々練習に向き合っていることが窺える演奏内容である。	10曲に満たないうえ、演奏内容に課題がある。	10曲に満たないうえ、演奏内容に相当の課題がある。
態度	1. 演奏に向かう態度	教員の指導を十分理解しようと努め、毎回予習復習を十分に行なって授業に参加している。	教員の指導を理解しようと努め、毎回予習復習を行って授業に参加している。	毎回予習復習を行って授業に参加している。	予習復習が不十分な回があり、教員の指摘が修正されていない。	予習復習が毎回不十分で、教員の指摘が修正されていない。

科目名	基礎音楽B		授業番号	CO30801	サブタイトル				
教員	廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもの発達と表現を理解し、音楽に関する知識や技能をピアノ弾き歌いを軸として習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び、保育現場において使用する童謡、子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより、確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別にグループを組み、個人指導を行う。								
到達目標	<p>既成伴奏及び簡易伴奏、コードを用いた伴奏など様々な伴奏法を体験したうえで、個人の習熟度に応じたものを選択して演奏の完成度を高める。</p> <p>楽典の応用的な知識を生かしながら曲に対するイメージを作り、深く考察された表現が実践できるようなことを目標とする。</p> <p>練習を習慣化し、レパートリー10曲以上を目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	子どもの成長と子どもを取りまく音楽について…発展的な学修に向けた準備				廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二				
第2回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 応用的な楽典の知識を習得する 1				廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二				
第3回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 応用的な楽典の知識を習得する 2				廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二				
第4回	表現法とまとめ 1 / 応用的な楽典の知識を習得する 3				廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二				
第5回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 応用的な楽典の知識を習得する 4				廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二				
第6回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 応用的な楽典の知識を習得する 5				廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二				
第7回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 応用的な楽典の知識を習得する 6				廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二				
第8回	表現法とまとめ 2 / 応用的な楽典の知識を習得する 7				廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二				
第9回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 応用的な楽典の知識を習得する 8				廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二				
第10回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 応用的な楽典の知識を習得する 9				廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二				
第11回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 応用的な楽典の知識を習得する 10				廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二				
第12回	表現法とまとめ 3 / 応用的な楽典の知識を習得する 11				廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二				
第13回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 応用的な楽典の知識を習得する 12				廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二				
第14回	各人の目標とする楽曲を選曲し、ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 10 応用的な楽典の知識を習得する 13				廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二				
第15回	表現法とまとめ 4 / 応用的な楽典の知識を習得する 14				廣畑 まゆ美、川崎 泰子、土師 範子、河田 健二				
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度、予習及び復習の状況によって評価する。						
	レポート								
	小テスト	72	実技により学習プロセスを含めた練習成果を定期的に評価する。小テスト実践後は、指導教員から講評を行う。						
	定期試験	18	ペーパーテストにより習熟度を評価する。						
	その他								
評価の方法： 自由記載									
受講の心得	実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次回授業で表現・発揮できるよう努力すること。担当教員から指導された内容は、次回授業までに工夫・改善できるよう、適宜メモをとること。								
授業外学修	授業で提示される次回の内容について、予習すること。 授業で提示された課題を実施すること。 授業終了後は、各自復習を行うこと。 上記の内容を、週当たり1時間以上学修すること。								

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
いろいろな伴奏で弾ける選曲 こどものうた100 (保育実用書 シリーズ)	小林美実	チャイルド社	978-4805481868	1600 + 税
大人のための音楽ワーク テキスト		ヤマハミュージックエンタテイメント ホールディングス	978-4636801552	1100 + 税
大人のための音楽ワーク ドリル		ヤマハミュージックエンタテイメント ホールディングス	978-4636801552	1100 + 税
使用テキスト： 自由記載	※基礎音楽Aと同じテキスト			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
続こどものうた200	小林美実	チャイルド社	978-4805400029	1800 + 税
いちばんカンタン! 保育のうた ピアノ伴奏	安藤真裕子、泉まりこ	ナツメ社	978-4816371561	1600 + 税

参考書：自由記載	上級者向け副教材として「続こどものうた200」、初心者向けの副教材として「いちばんカンタン！保育のうた」を推奨する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者	
実務経験を いかした教育 内容	

ループブック		評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)				
評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)		A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 楽典の知識	音楽の専門的知識を十分理解している。	音楽の専門的知識を理解している。	音楽の専門的知識をおおむね理解している。	音楽の専門的知識の理解が不十分である。	音楽の専門的知識を理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 知識の実技への応用	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分に理解し、考えたことを演奏実践に十分生かすことができている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を理解し、考えたことを演奏実践に生かすことができている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をおおむね理解し、考えたことを演奏実践に生かそうとしている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号への理解が不十分で、考えたことと演奏をつなげることができていない。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号への理解ができておらず、曲に対する考えが深まらない。
技能	1. 弾き歌いの実践	楽曲にふさわしい発声法・伴奏法で、楽曲のイメージを丁寧に表現することができている。	習熟度に応じた伴奏法、曲にふさわしい発声法で楽曲のイメージを丁寧に表現することができている。	習熟度に応じた伴奏法・発声法で演奏することができている。	習熟度に応じた伴奏法・発声法を検討することが不十分で、演奏の随所にミスがみられる。	練習が不十分で、演奏の随所にミスがみられる。
技能	2. レパートリー数	半期で10曲以上のレパートリーを完成させているとともに、演奏内容も非常に優れている。	半期で10曲以上のレパートリーを完成させているとともに、演奏内容も優れている。	10曲には満たないものの、日々練習に向き合っていることが窺える演奏内容である。	10曲に満たないうえ、演奏内容に課題がある。	10曲に満たないうえ、演奏内容に相当の課題がある。
態度	1. 演奏に向かう態度	教員の指導を十分理解しようと努め、毎回予習復習を十分に行って授業に参加している。	教員の指導を理解しようと努め、毎回予習復習を行って授業に参加している。	毎回予習復習を行って授業に参加している。	予習復習が不十分な回があり、教員の指摘が修正されていない。	予習復習が毎回不十分で、教員の指摘が修正されていない。

科目名	教育原理	授業番号	CP201	サブタイトル	
教員	中田 周作				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期
				授業形態	講義 (対面授業科目)
					必修・選択
					選択
授業概要	講義形式で、教育の基本的な事項について学習していく。 特に、教育とは何かという根源的な問いと、教育行政や学校教育制度といった、児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。				
到達目標	現代社会における教育問題は、極めて複雑な様相を呈している。歴史的に蓄積された社会構造的な問題もあるだろうし、教育の目指すべき方向を再構築しなければならない問題もあるだろう。本講義では、こうした社会状況を踏まえつつ、これらの問題解決の一助となるよう、今一度、教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。 そのため、将来、教育に携わる者が、最低限、知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学習する。 なお、本科目は、ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	現代の教育をめぐる諸問題 「正しい」教育の在り方をめぐる考察				
第2回	教育とは何か 教育の定義・人間と教育				
第3回	教育の思想 西洋にみる教育の思想と実践				
第4回	教育の思想 幼児教育の思想と実践				
第5回	学校教育と学力、家庭 学校教育における学力と家庭の関係				
第6回	教員の養成とは 養成、採用、研修				
第7回	子どもの日常生活 学校、放課後、家庭における教育				
第8回	家族と社会による教育 江戸期以前				
第9回	公教育とは 制度の成立とその思想				
第10回	学制とは 明治期の学校教育制度の成立と展開				
第11回	学校教育制度の成立と展開 明治期から大正期				
第12回	学校教育制度の成立と展開 昭和期から現在				
第13回	教育に係る主な法律 教育基本法,学校教育法,教育公務員特例法など				
第14回	教育に係る法令 教育職員免許法,地方教育行政の組織及び運営に関する法律,地方公務員法,いじめ防止対策推進法など				
第15回	現代社会における教育課題 生涯学習社会,令和の日本型学校教育				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	最終試験	70	通常のペーパーテスト。基礎的な事項の学修達成を確認する。		
	コメントペーパー	30	基本的には、毎回、提出する。理解の状況の確認を行う。提出物については、次回の授業の冒頭で共有し、コメントする。		
評価の方法：自由記載	追試の評価は試験・レポートとする。再試の評価は試験のみとする。				
受講の心得	テキストを事前に読んでくること。基本的な事項は暗記すること。				
授業外学修	週当たり4時間以上、テキストを読むこと。				
使用テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	コンパス 教育原理	古賀一博ほか編著	建帛社	978-4-7679-5130-0	2090
	使用テキスト：自由記載				
参考図書					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『教育六法』（どの出版社のものでも良い）				
その他					
備考					
注意事項					

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務経 験者の有無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務経 験者	
実務経験を いかした教育 内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 教育の思想を理解でき ている。	①西洋の教育思想、②日本 の教育思想、③幼児や児童に 関わる思想や実践の3点につ いて、自分の言葉で説明する ことができる。	①西洋の教育思想、②日本 の教育思想、③幼児や児童 に関わる思想や実践の3点に ついて、周辺領域の知識とも 関連付けて理解できている。	①西洋の教育思想、②日本 の教育思想、③幼児や児童 に関わる思想や実践の3点に ついて、概要を理解できている。	①西洋の教育思想、②日本 の教育思想、③幼児や児童 に関わる思想や実践の3点に ついて、キーワードを覚えてい る。	①西洋の教育思想、②日本 の教育思想、③幼児や児童 に関わる思想や実践の3点に ついてのキーワードを覚えてい ない。
知識・理解	2. 教育の歴史を理解でき ている。	教育の歴史に係る重要事項 について、その展開と社会的背 景について理解している。	教育の歴史に係る重要事項 の展開について理解している。	教育の歴史に係る重要事項 について理解している。	教育の歴史に係るキーワー ドを覚えている。	教育の歴史に係るキーワー ドを覚えていない。
知識・理解	3. 学校教育の制度について 理解できている。	学校教育の制度について、そ の展開の歴史と根拠となる法 令を理解している。	学校教育の制度について、そ の展開の歴史、もしくは根拠と なる法令を理解している。	学校教育の制度に関する重 要事項について理解してい る。	学校教育の制度に関する キーワードを覚えている。	学校教育の制度に関する キーワードを覚えていない。
知識・理解	4. 教育に関する法令につ いて理解できている。	教育に関する主要な法令と条 文を多数、覚えているとともに、 その条文がどのように解釈され ているのかを理解している。	教育に関する主要な法令と 条文を多数、覚えている。	教育に関する主要な法令と 条文をいくつか覚えている。	教育に関する主要な法令の 名称を覚えている。	教育に関する主要な法令の 名称を覚えていない。
思考・問題解決能力	1. 身近な教育問題について 考察することができる。	身近な教育問題を考察するこ とを通して、自らの実践の質を 向上させることができる。	身近な教育問題について学 修内容に照らして考察するこ とができる。	身近な教育問題について、自 分の経験に基づき語ることが できる。	身近な教育問題について語る ことができる。	身近な教育問題を補足する ことができない。

科目名	教育心理学	授業番号	CP205	サブタイトル	
教員	國田 祥子				
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期
				授業形態	講義(対面授業科目)
					必修・選択
					選択
授業概要	教育心理学とは、学び手としての子どもを心理学の視点から理解し、支援するための科学である。この授業では、子どもの学びと適応の支援という視点から、教育に関する心理学的知見を広く扱う。				
到達目標	実際に教育現場に立つ際、児童・生徒の理解を助けるために必要となる、心理学的な視点の基礎を、講義を通じて身につけることを目指す。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。				
授業計画 備考					
回	概要				担当
第1回	教育心理学とは 教育心理学とはどのような学問で、教職のための何について学ぶのかを理解する。				
第2回	心身の発達① 乳幼児期の発達 乳幼児期の心身の発達の姿と、発達を支援する教師や保育者のかかわりについて理解する。				
第3回	心身の発達② 児童期・青年期の発達 児童期・青年期の発達の特徴やその個人差、またその背景にあるものを理解し、教師としてかかわることの意味を考える。				
第4回	学びのメカニズム① 学習と知識獲得 心理学で言う「学習」の意味を理解したうえで、どのようなときに学習が生じるのかを考える。				
第5回	学びのメカニズム② 認知情報処理と記憶 人間の心の働きを情報処理になぞらえて捉える認知心理学の視点から、学校における学びを考える。				
第6回	学びのメカニズム③ 動機づけと学習 学びにおいて重要な役割を果たす動機付けの理論や機能、また動機づけの高め方について考える。				
第7回	認知発達と学習支援 知識獲得のプロセスを踏まえ、子どもの学びと効果的な学習指導や授業づくりを考える。				
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り、理解を確認する。				
第9回	学級集団と学習支援 学級をはじめとする子どもたちの集団の特徴や人間関係がどのように学習効果に影響するかを理解する。				
第10回	個性や個人差と学習支援 性格や認知特性に関する理論を踏まえて子どもの個性や個人差の捉え方を理解し、学びとの関係を考える。				
第11回	教育評価 教育評価の理論と方法について、また子どもの学力や知能について、考え方や測定方法を理解する。				
第12回	特別な支援と教育心理学① 障害の基本的理解 発達障害の特性のある子どもに対する適切な理解と、それに基づいた配慮のあり方について理解する。				
第13回	特別な支援と教育心理学② 障害児への教育的支援 発達障害の特性のある子どもの苦手なものと把握と、適切な手立ての実際について理解する。				
第14回	学校教育を取り巻く諸問題 個々の子どもに起きる学びや適応などについて、第13回までとは異なる視点から取り上げ、紹介する。				
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り、理解を確認する。				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度				
	レポート				
	小テスト				
	定期試験	100	理解度を評価する。		
	その他				

評価の方法： 自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の前にテキストを読み、4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教育心理学(よくわかる!教職 エクスサイズ 2)	田爪宏二/森田健宏/田爪宏 二	ミネルヴァ書房	9784623081776	2200円
使用テキ スト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自 由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実 務経験の有無	無			
担当教員の実 務経験				
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無			
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者				
実務経験をい かした教育内 容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 講義内容を多面的かつ十分に理解し、さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき、さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し、多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず、必要な知識も不足しているものの、活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず、知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず、知識が獲得されていないため、活用できない

科目名	日本国憲法	授業番号	CA207	サブタイトル	(身近な問題から「憲法のちから」を考える)
教員	俣野 英二				
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期
				授業形態	講義(対面授業科目)
					必修・選択
					選択
授業概要	<p>本科目では、日本国憲法および他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。</p> <p>具体的にはまず、身近な憲法問題を取り上げて関係する憲法の基本原理及び基礎知識を教員の教育委員会(24年)及び県庁における人権啓発・相談経験(4年)を踏まえて概説する。次に、基本原理等に関する憲法問題について、グループワークを行い各自でワークシートにまとめさせる。そして、各章の小テストを課題としてUniversal Passport上でを行い、基礎的な知識の定着を図る。さらに、憲法の基本原理、統治機構、人権に関する発展的な問題を全体で討議し、現代的な問題を分析、考察する。</p> <p>これらの活動により、問題の全体像の把握と、多面的な分析及び多様な価値観や背景の認識を踏まえた上で、自らの見解の形成や表現の仕方を身に付ける。</p>				
到達目標	<p>憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し、それらを活用して身近な憲法問題を異なる価値観や考えに配慮しながら、主体かつ論理的に考えることができるようになることを目標とする。</p> <p>なお、本科目は、到達目標達成の前提として異なる価値観、文化、背景および相互関係を知り、深い認識と理解など幅広い教養の修得とともに、子どもに関わる場面を含む様々な場面から主体的に憲法の視点から問題を見だし、問題解決の方法を思考する力の修得を目的とすることから、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解><思考・問題解決能力>の修得に貢献する。</p>				
授業計画備考					
回	概要			担当	
第1回	ガイダンス、この国の基礎にある考え方1 1 学修の目標、評価方法を説明する。 2 近代立憲主義について学修する。				
第2回	この国の基礎にある考え方2 1 法の支配について学修する。 2 土俵の女人規制について考える。 3 国家機関としての天皇制(明治憲法と天皇)について学修する。				
第3回	この国の基礎にある考え方3 国家機関としての天皇制(日本国憲法と天皇)について学修する。				
第4回	この国の基礎にある考え方4 憲法が目指す平和を守る仕組み1(憲法9条の制定と安保条約の締結)について学修する。				
第5回	この国の基礎にある考え方5 憲法が目指す平和を守る仕組み2(台湾有事と存立危機事態)について学修する。				
第6回	人権を守るための組織1 1 統治機構1(政治と国民、国会議員)について学修する。 2 若者の投票率の向上策について考える。				
第7回	人権を守るための組織2 統治機構2(選挙、選挙制度、政党)について学修する。				
第8回	人権を守るための組織3 統治機構3(国会)について学修する。				
第9回	人権を守るための組織4 統治機構4(内閣)について学修する。				
第10回	人権を守るための組織5 統治機構5(地方自治、裁判所)について学修する。				
第11回	身近な問題から考える人権1 良心をもつ自由、貴く権利について学修する。				
第12回	身近な問題から考える人権2 1 表現の自由と書かれない権利について学修する。 2 プライバシーについて考える。				
第13回	身近な問題から考える人権3 営業の自由と消費者の権利について学修する。				
第14回	学校における生徒の人権 1 子どもの教育を受ける権利と教師の教育の自由について学修する。 2 学校内における生徒の人権について学修する。 3 旭川いじめ凍死事件からいじめを考える。				
第15回	困らないための権利、差別されている人たちの配慮 1 憲法25条の歴史的社会的意味及び社会保障制度について学修する。 2 積極的な格差解消の取り組みの合憲性の判断の仕方について学修する。。				
授業計画備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	グループワークの取り組み姿勢/態度	30	講義中のグループワーク時に各自が提出したワークシートに要求された内容が整理されていること。ワークシートを通じて必要に応じ個別指導を行うとともに、講義中に全体講評を行う。		
	小テスト	30	学修に対する意欲・態度、基本原理及び基礎知識の理解を評価する。回答期限後、Universal Passportに解説を表示する。		
	定期試験	40	基本原理及び基礎知識を理解し、身近な憲法問題に対して異なる価値観・意見に配慮しながら主体的かつ論理的にこれらを活用して結論を導くことができている。		
評価の方法：自由記載					
受講の心得	<p>1 公民や現代社会が苦手な学生は、あらかじめ高校で使用したテキストや資料集などの日本国憲法に関する部分を読んでおくこと。</p> <p>2 事前に授業の範囲のテキストを読み、分からない用語を調べておくこと。</p> <p>3 各講義中にワークシートを提出する。それが出席カードも兼ねるとともに成績評価の対象なので必ず提出すること。</p> <p>4 各章に対応する小テスト(Universal Passportの課題)を受験すること。</p>				
授業外学修	<p>1 事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。</p> <p>2 事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、Universal Passportで小テストを受験する。また、小テスト受験後、誤った理解が不十分であった箇所について復習する。</p> <p>3 ワークシートが返却された後、グループワーク、講義、テキスト、小テスト等を踏まえて再度整理し直し、理解を深めるとともに試験に備える。</p> <p>事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。</p>				

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法のちから―身近な問題から憲法の役割を考える	中富公一	法律文化社	978-4-589-04343-6	2400円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
グラフィック憲法入門第3版	毛利透	新世社	978-4-88384-397-8	
新・判例ハンドブック【憲法】第3版	高橋和之	日本評論社	978-4-535-52793-5	
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	県教育委員会（24年）、県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	県教育委員会（24年）、県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験から、いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 憲法に関する基本原理・基礎的事項を理解している。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、正確に理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、正確ではないがほぼ理解し述べるができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、大体述べるができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、正確に述べるができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について、全く表現することができない。
知識・理解	2. 国際社会・地域社会の多様な価値観・意見を認識し、理解している。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確に理解し述べるができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確にはないがほぼ理解し述べるができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、大体述べるができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、正確に述べるができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1. 憲法や法令を使って論理的に問題を考えることができる。	課題に対し、論理的整合性をもち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性をもった考察をしている。	課題に対し、自分の考えを述べるができる。	課題に対し、結論を述べることができる。	課題に対し、結論を述べるができない、または指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	2. 多様な価値観・意見に配慮した思考ができる。	課題に対し、多様な価値観・意見に配慮した考察が論理的整合性をもっている。	課題に対し、多様な価値観・意見に配慮した思考がほぼ論理的整合性をもっている。	課題に対し、多様な価値観・意見の存在を並列的に述べるができる。	課題に対し、不十分なから複数の価値観・意見の存在を述べるができる。	課題に対し、複数の価値観・意見を述べるができない、または指示事項に沿っていない。

科目名	教育社会学	授業番号	CN213	サブタイトル	
教員	中田 周作				
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期
				授業形態	講義（対面授業科目）
					必修・選択
					選択
授業概要	<p>子どもの発達、これまで主として、心理学的アプローチにより説明が進められてきたといっても過言ではないだろう。しかし、大きな社会変動と多面的価値観が錯綜する現代社会において、子どもの発達を説明するためには、子どもを取り巻く社会的環境を注視する必要がある。そのため、特に社会化エージェントに焦点をあてて講義する。</p>				
到達目標	<p>子どもの発達を社会学的アプローチにより理解できる基礎的素養を習得する。 特に、学校教育に関する社会的事項、学校と地域との連携、学校安全への対応に関する基礎的知識を修得し、子どもに関する問題を自ら分析し、解決に寄与できる能力を身につけることを目標とする。 なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力>の修得に貢献する。</p>				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	子どもの発達に対する研究 社会学的アプローチとは				
第2回	教育社会学の研究对象と研究方法 何が学問を規定するのか				
第3回	教育社会学の研究对象としての教育政策 我が国における教育政策の展開と現状				
第4回	教育社会学の研究对象としての諸国の教育事情 国際比較から分かること				
第5回	家族集団と子どもの社会化 家族集団における子どもの社会化の特徴				
第6回	仲間集団と子どもの社会化 仲間集団における子どもの社会化の特徴 遊戯集団と活動集団				
第7回	地域社会と学校教育 地域社会と学校の関係				
第8回	地域社会と子どもの教育 近隣集団と地域集団				
第9回	学校集団の構造と組織 学校とは何か 学校の特徴とは				
第10回	学校集団の社会化機能 学校集団における子どもの社会化の特徴				
第11回	学校の安全に関する現状と課題 学校の安全とは				
第12回	学校の安全と危機管理 学校の危機管理とは				
第13回	子どもの社会化と逸脱行動 逸脱行動とは何か				
第14回	子どもの逸脱行動の現実 逸脱行動と子どもの社会化				
第15回	少年非行 少年非行とは 少年非行をめぐる現状と法令				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	最終試験レポート	70	各自で最終レポートを作成し提出する。		
	コメントペーパー	30	講義のとき、毎回、コメントペーパーを提出する。提出物については、次回の授業の冒頭で共有し、コメントする。		
評価の方法： 自由記載					
受講の心得	<p>1) テキスト及び配付資料を事前に読んでくること。 2) 最終試験レポートの課題を探しながら受講すること。</p>				
授業外学修	事前にテキスト及び配付資料を読んでくることを、週当たり4時間以上行うこと。				
使用テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	変動社会と子どもの発達	住田正樹・高島秀樹	北樹出版	978-4-7793-0469-9	2100
使用テキスト： 自由記載					
参考図書					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	酒井朗・多賀太・中村高康編著『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房				
その他					
備考					

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもの発達に関する社会学的アプローチが理解できている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、自分の言葉で説明することができる。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、周辺領域の知識とも関連付けて理解できている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、概要を理解できている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、キーワードを覚えている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点についてのキーワードを覚えていない。
知識・理解	2. 具体的な社会化エージェントと子どもの社会化について理解できている。	家族集団、仲間集団、近隣集団、地域集団、学校集団と子どもの社会化について理解できている。	学校集団を含むいくつかの集団と子どもの社会化について理解できている。	いくつかの集団と子どもの社会化について理解できている。	社会化エージェントと子どもの社会化についてキーワードを覚えている。	社会化エージェントと子どもの社会化に関するキーワードを覚えていない。
知識・理解	3. 学校集団の構造について理解できている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能について理解できている。	学校集団の構造と組織もしくは、学校集団の社会化機能について理解できている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能の概略を理解できている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能のキーワードを覚えている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能のキーワードを覚えていない。
知識・理解	4. 学校の安全について理解できている。	学校の安全に関する現状と危機管理について理解できている。	学校の安全に関する現状もしくは、危機管理について理解できている。	学校の安全に関する現状と危機管理の概略を理解できている。	学校の安全に関する現状と危機管理に関するキーワードを覚えている。	学校の安全に関する現状と危機管理に関するキーワードを覚えていない。
知識・理解	5. 子どもの社会化と逸脱行動について理解できている。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点について、自分の言葉で説明することができる。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点のうちのいずれかについて、自分の言葉で説明することができる。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点の概要を理解している。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点について、キーワードを覚えている。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点について、キーワードを覚えていない。
思考・問題解決能力	1. 社会集団を通した子どもの発達について、考察することができる。	社会集団を通した子どもの発達を考察することにより、自らの実践の質を向上させることができる。	社会集団を通した子どもの発達について、学修内容に照らして考察することができる。	社会集団を通した子どもの発達について、自分の経験に基づき語るすることができる。	社会集団を通した子どもの発達について語るすることができる。	社会集団を通した子どもの発達について理解することができない。

科目名	教育相談	授業番号	CN215	サブタイトル	(カウンセリングを含む)				
教員	國田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	この授業では、教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。								
到達目標	教育相談で扱うさまざまな問題に対し、不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し、カウンセリング・マインドを身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	教育相談とは 教育相談の必要性と意義について理解し、これからの時代の教師に求められる心理的援助の資質について理解を深める。								
第2回	カウンセリングの理論 子どもや保護者の相談対応を行う上で重要となる、カウンセリングの考え方を解説する。								
第3回	カウンセリングの技法 クライアントとのコミュニケーションに有効となる、カウンセリングの基本的な技法を解説する。								
第4回	いじめ・不登校への対応 いじめおよび不登校の現状と構造を理解し、教育相談や支援としてどのようなことができるかを考える力を身につける。								
第5回	学級崩壊・学級経営の問題への対応 学級崩壊の実情と回復ポイントを理解し、学級崩壊にならないための学級経営を考える力を身につける。								
第6回	虐待・いのちの教育への対応 保護者やそれ以外の者によって子どもの命が奪われる事件の現状を知り、必要な対応や支援を考える力を身につける。								
第7回	非行・学校不適応への対応 「問題行動」という言葉が何を指すのか、その概念を紐解きながら非行や学校不適応への理解と対応を考える。								
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回までの内容を振り返り、理解を確認する。								
第9回	発達障害への対応 個性が非常に高い発達障害について、その対応を共生社会に向けたインクルーシブ教育の観点から解説する。								
第10回	心の病への対応 児童期から青年期にみられる心の病気についてその概要を解説し、教師として何ができるか考える力を身につける。								
第11回	校内・他機関との連携 スクールカウンセラーを始めとする校内のさまざまな立場の職員との連携および他機関との連携について学ぶ。								
第12回	アセスメント：観察・面接 子どもの状態を適切に把握し、支援するアセスメントについて、ここでは行動観察および面接の方法について学ぶ。								
第13回	アセスメント：心理検査 専門機関やスクールカウンセラーなどとの連携を踏まえ、心理検査についての概論および留意点を学ぶ。								
第14回	家庭の理解と保護者への支援 今の親が置かれている状況を理解したうえで、ともに子どもを育てていく方法を考える。								
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回までの内容を振り返り、理解を確認する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度								
	レポート								
	小テスト								
	定期試験	100	理解度を評価する。						
	その他								
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。								
授業外学修	毎回の授業の前に、テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。								

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教育相談 第2版(よくわかる!) 教職エクササイズ 3)	森田健宏/田爪宏二/吉田佐治子	ミネルヴァ書房	9784623096114	2500円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 講義内容を多面的かつ十分に理解し、さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき、さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し、多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず、必要な知識も不足しているものの、活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず、知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず、知識が獲得されていないため、活用できない

科目名	教育方法学		授業番号	CP203	サブタイトル				
教員	住野 好久								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術に関する基礎的な知識・技術を身につける。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解する。 2) これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育方法のあり方 (主体的・対話的で深い学びの実現など) を理解する。 3) 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解する。 4) 学習評価の基礎的な考え方を理解する。 5) 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標、内容、教材・教具、授業・保育展開、学習指導形態等を含めた学習指導案を作成することができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。 								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	教育の方法(1) これまで受けてきた教育の方法 これまで受けてきた教育はどのような教育方法であったかを振り返る。								
第2回	教育の方法(2) 教育的な教育の方法とは 教育的に教育するための方法とはどのようなものかを考える。								
第3回	教育の方法(3) 教育方法の歴史(1)ソクラテス 古代から教育の方法は工夫されてきた。ソクラテスが編み出した「産婆術」とはどのような教育方法か？								
第4回	教育の方法(4) 教育方法の歴史(2)ヘルバルト 近代を代表するヘルバルトによる「4段階教授法」とその弟子たちが編み出した「5段階教授法」を学ぶ。								
第5回	教育の方法(5) 教育方法の歴史(3)デューイ 戦後日本の教育方法に大きな影響を及ぼしたデューイの「問題解決学習」を学ぶ。								
第6回	教育の方法(6) 教育方法の歴史(4)プログラム学習からICT活用授業へ 1960年代後半に登場した、コンピュータを活用した教育方法の出発点となった「プログラム学習」から今日のICT活用授業活用授業までの変遷を学ぶ。								
第7回	教育の方法(7) 今求められている教育方法(1) 「主体的、対話的で深い学び」を実現する教育方法を「学習指導要領」等から学ぶ。								
第8回	教育の方法(8) 今求められている教育方法(2) 中央教育審議会が提起した「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に対してICTの活用が有効であることを学ぶ。								
第9回	教育の技術(1) 相互主体的な授業のための技術(1) 今求められる相互主体的な授業を実践するためのポイントを理解する。								
第10回	教育の技術(2) 相互主体的な授業のための技術(2) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教育内容の設定の仕方について理解する。								
第11回	教育の技術(3) 相互主体的な授業のための技術(3) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教材開発の仕方について理解する。								
第12回	教育の技術(4) 相互主体的な授業のための技術(4) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教授行為の工夫の仕方について理解する。								
第13回	教育の技術(5) 指導プランの作成(1) これまで学習してきたことを踏まえて指導プランを作成する。								
第14回	教育の技術(6) 指導プランの作成(2) これまで学習してきたことを踏まえて指導プランを作成する。								
第15回	教育の技術(7) 指導プランの作成(3) これまで学習してきたことを踏まえて作成した指導プランを発表する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	確認テスト	40	毎回の授業で学習したことを正しく理解し、論理的に叙述すること。次時の授業で全体的な傾向についてコメントをする。						
	最終レポート	40	本科目で学習したことを踏まえて、提示した課題について論理的に叙述すること。						
	指導プラン	20	授業の中で作成する指導プランをこの科目で学んだことを踏まえて作成すること。作成過程でコメント・アドバイスをする。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	原則として毎回の授業の最後に確認テストを行うので、しっかりとノートを取り、内容を理解するようにし、不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとして整理しておくこと。								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1 予習として、配付している資料をあらかじめ読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載									
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	適宜、授業の中で紹介する。								
その他									
備考									

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ループブック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもたちに求められる資 質・能力を育むために必要な 教育の方法を理解する。	歴史的な教育方法の発展を 理解した上で今日求められる 教育方法を説明できる。	歴史的な教育方法の発展を 理解した上で今日求められる 教育方法を理解している。	歴史的な教育方法の発展も 視野に入れて今日求められる 教育方法を理解している。	歴史的な教育方法の発展は 理解していないが、今日求め られる教育方法は理解してい る。	歴史的な教育方法の発展も 今日求められる教育方法も 理解していない。
知識・理解	2. 教育の目的に適した指導 技術を理解する。	教育の目的に適した指導技術 を深く理解している。	教育の目的に適した指導技術 を理解している。	教育の目的に適した指導技術 の基本を理解している。	教育の目的に適した指導技術 をだいたい理解している。	教育の目的に適した指導技術 を理解していない。
技能	1. 学習指導理論を踏まえた 学習指導案を作成することが できる。	学習指導理論を踏まえた学習 指導案を作成することができる 基礎的な能力を十分身につけ ている。	学習指導理論を踏まえた学 習指導案を作成することがで きる基礎的な能力をだいた い身につけている。	学習指導理論を踏まえた学 習指導案を作成することがで きる基礎的な能力を少し身に つけている。	学習指導理論を踏まえた学 習指導案を作成することがで きる基礎的な能力を身につけ ようとしている。	学習指導理論を踏まえた学 習指導案を作成することがで きる基礎的な能力を身につけ ようとしていない。

科目名	教育・保育課程総論		授業番号	CP206	サブタイトル						
教員	岡崎 三鈴、藤井 裕士										
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	第1～7回においては、幼児期の子どもの発達段階に沿った保育・教育課程の在り方について、基本的理念や具体的展開にふれながら講義する。 第8～15回においては、小学校期における学習指導とカリキュラムについて、歴史的展開をたどりながら教育的意義について講義する。										
到達目標	・幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を体系的に理解し、それらに基づく年間の指導計画や指導案の構造と作成上の留意点について具体的事例を通して説明できる知識を修得している。 ・児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質を説明することができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。										
授業計画 備考											
回	概要					担当					
第1回	教育・保育の共通化と施設 3歳以上児の「幼児教育」としての共通化。施設別の名称と資格の体系について理解する。					岡崎 三鈴					
第2回	全体的な計画の意義と教育課程 各施設における教育・保育の根幹となる「全体的な計画」および「教育課程」の意義と編成原理について理解する。					岡崎 三鈴					
第3回	指導計画の作成原理とカリキュラム 発達と生活リズムに応じた「全体」から「個別・クラス」への展開について理解する。					岡崎 三鈴					
第4回	指導計画の具体例と展開 「ねらい」と「環境」を繋ぎ、子どもの期待と意欲を育む計画の実際について理解する。					岡崎 三鈴					
第5回	保育の観察と記録 「やってみよう」の発見と、保育者の想いをのせるエピソード記述について理解する。					岡崎 三鈴					
第6回	保育カンファレンス 「保育カンファレンス」の定義、語り合いの意義、ファシリテーターの役割について理解する。					岡崎 三鈴					
第7回	小学校におけるカリキュラム・マネジメント PDCAサイクルによる保育の質の向上、園長を中心としたチームによる組織的な改善プロセスについて理解する。					岡崎 三鈴					
第8回	小学校における教育課程の基準 小学校における「教育課程の意義」や「教育課程に関する法制」について理解する。					藤井 裕士					
第9回	小学校教育の基本と教育課程の役割 小学校における「教育課程編成の原則」について理解する。					藤井 裕士					
第10回	小学校における、生きる力を育む各学校の特色ある教育活動の展開 小学校教育における「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」や、「育成を目指す資質・能力」について理解する。					藤井 裕士					
第11回	小学校教育におけるカリキュラム・マネジメントの充実 小学校におけるカリキュラム・マネジメントの実施上のポイントについて理解する。					藤井 裕士					
第12回	小学校における教育課程の編成① 小学校における「各学校の教育目標と教育課程の編成」について理解する。					藤井 裕士					
第13回	小学校における教育課程の編成② 小学校の「教育課程編成における共通事項」や「学校段階等間の接続」について理解する。					藤井 裕士					
第14回	小学校における教育課程の実施と学習評価 小学校における「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」や「学習評価」について理解する。					藤井 裕士					
第15回	各学校におけるカリキュラム・マネジメント 小学校における、全教職員で取り組むカリキュラム・マネジメントの方法や教育目標を意識した授業づくりについて理解する。					藤井 裕士					
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢/態度	20		意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。								
レポート・ワークシート	20		各回の終盤で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。ワークシートについては、次回授業で全体の傾向についてコメントを行う。								
定期試験	60		最終的な理解度を評価する。								
その他											
評価の方法：自由記載											
受講の心得	第1～7回においては、レポートについては、コメントを記入して返却する。 第8～15回においては、授業で記入したワークシートの回収を行うため、授業における学習内容を丁寧に記載すること。										
授業外学修	・授業で提示された課題のレポートを書く。 ・発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。										
使用テキスト											
書名	著者	出版社	ISBN					備考			
小学校学習指導要領解説 総則編	文部科学省										
幼稚園教育要領・保育所 保育指針・幼保連携型認定こ ども園教育・保育要領		チャイルド社									
使用テキスト：自由記載	「小学校学習指導要領解説 総則編」文部科学省 「保育所指導指針・解説」厚生労働省 「幼稚園教育要領・解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省										

参考図書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック						
評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	幼児教育の基本的理念や制度や専門用語を正しく理解した上で、「全体的な計画」から各指導案に至る編成の仕組みや対象別の計画構造を把握し、さらに観察・記録・カンファレンスを通じた省察の意義やカリキュラム・マネジメントの理論を修得している。	幼稚園教育要領等の基本理念を正確に記述でき、専門用語を用いて、全体的な計画から日々の指導案に至る一貫した仕組みを他者に詳しく説明できる。	各種指導計画の役割や作成原理、エピソード記述の意義、カリキュラム・マネジメントの概念を正しく理解しており、主要な専門用語の意味を適切に解説できる。	全体的な計画と指導案の関係や、3歳未満児と3歳以上児の計画の違いなど、講義で扱った基本的な構造について概ね理解し、記述できる。	施設による名称や資格の違い、指導計画の名称、記録の種類など、保育者として最低限備えておくべき基礎的な用語や仕組みを理解している。	幼児教育の基本理念や指導計画の体系について理解が不十分であり、専門用語を正しく用いて説明することができない。
知識・理解	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質を説明することができる。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質を広範かつ詳細に説明できている。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質を広範に説明できている。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質の基礎的な内容を十分に説明できている。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質の基礎的な内容を十分に説明できていない。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について、その概要と特質の基礎的な内容を説明できていない。

科目名	特別支援教育		授業番号	CP208	サブタイトル				
教員	中 典子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	講義形式で、特別支援教育の基本的なことについて学習する。 特に、幼児や児童生徒に特別な配慮を必要とする状況、保育や教育課程の内容、支援・教育の方法、保育・教育施設や学校と関係機関との連携のあり方について講義する。								
到達目標	保育者・教育者は、特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒が学習の場において将来の自立に向けた学びができるよう、保育・教育していく必要がある。そのため、本講義では、幼児や児童生徒に特別な配慮を必要とする状況、保育や教育課程の内容、支援・教育の方法、保育・教育施設や学校と関係機関との連携のあり方を学び、理解できるようになることを目的とする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性について理解する。								
第2回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒一人一人の心身の発達に関するアセスメントの方法を理解する。								
第3回	特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 障害者総合支援法、障害者の権利に関する条約の内容を理解する。								
第4回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活 保育や授業をするうえで必要とされる配慮を理解する。								
第5回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程 特別支援教育における教育課程について理解する。								
第6回	発達障害をはじめとする障害のある幼児や児童生徒への合理的配慮の提供 合理的配慮の提供について理解する。								
第7回	「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ 特別支援教育における指導技術について理解する。								
第8回	「個別指導計画」の意義と方法 「個別指導計画」を実際に記載し、その意義と方法を理解する。								
第9回	「個別指導計画」に基づく指導 「個別指導計画」に基づく指導をDVD視聴に視聴により理解する。								
第10回	「個別教育支援計画」の意義と方法 「個別教育支援計画」を実際に記載し、その意義と方法を理解する。								
第11回	保育・教育施設や学校、家庭と地域の関係機関の連携のあり方 「個別教育支援計画」より、暮らしにおいて必要な社会資源を理解する。 保育・教育施設や学校をとりまく社会資源についての情報を収集し、連携の方法を理解する。								
第12回	多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方 多文化の幼児や児童生徒が置かれている状況を理解する。 多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方を理解する。								
第13回	貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ 子どもの貧困対策について理解する。								
第14回	貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒への教育保障 学習環境を整えるための支援について理解する。								
第15回	多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援 幼児や児童生徒に対して学習保障をするためにどのような対応が必要か理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度、発表への参加、予・復習の状況によって評価する。						
	授業ごとに示す課題	90	毎回の授業で示す課題に対して具体的に述べていること。課題についてはコメントを記入して返却する。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	授業内容の理解を深めるため、授業開始前までにテキストを読んでおくこと。								
授業外学修	授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）								
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	特別支援教育と障害児の保育・福祉 切れ目や隙間のない支援と配慮	立花直樹他編	ミネルヴァ書房	978-4-623-09570-4	定価 2800 + 税				
使用テキスト：自由記載									
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。								
その他									

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる。	幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる。	特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる。	特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方が理解できる。	特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方の理解が十分でない。	特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方が理解できていない。
思考・問題解決能力	2. 幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる。	幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し、特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる。	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる。	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の基礎を考えることができる。	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることが十分できていない。	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができていない。

科目名	ICT活用の理論と実践			授業番号	CP225	サブタイトル	未来の教室「ICTを活用した学習の進化」		
教員	岸 誠一								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	本講義では、情報通信技術の意義と基礎的な理論を学ぶとともに、GIGAスクール構想における令和の日本型学校教育を展開するために必要となる社会的背景や学習指導要領との関連について、具体的な活用事例や演習等を通して学習する。すなわち教育現場におけるICT（情報通信技術）の活用について、その「背景や歴史」「これを活用して育成しようとする資質・能力」、現状および今後の方向性について学修する。授業における児童や教員によるICT活用のほか、授業の準備、学習評価に関する活用、校務の情報化における活用について解説する。また、情報社会を生き抜くための資質・能力である情報活用能力(情報モラルを含む)について、その構成要素および具体的な指導法、教育課程上の位置付けについて体験的に学修する。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。 ・情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。 ・児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。 ・教育メディアの特性を理解し、教育や保育の現場に応じて、有効なメディアを選択し、活用できる技能を修得する。 なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉と〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	ガイダンス、現代社会におけるICTの役割 高度情報化社会を生き抜く子どもたちにどのような教育が必要であるか?子どもたちの未来の教室がどのようなものであるか?ICTを活用した学習の進化について学修する。そして、この授業は、ICTの効果的な活用の経験を通して「自分が受けたいと思う理想の授業」を「自分でデザインしていく」授業であり、そういう態度で授業に臨むことを各自理解する。								
第2回	教育方法の基礎的理論と歴史 教育方法の歴史について以下の3つの視点で学修する。 ・変貌する教室、授業の様式（一斉指導から子ども中心のアクティブラーニングへ） ・授業の歴史（コメニウスの「世界図絵」からデジタル教科書まで） ・個別学習やグループ学習の理論と方法								
第3回	AIの活用による校務処理のDX化 AIを活用し、公務処理を迅速かつ確に行う具体的な方法について演習を通して理解する。また、児童自らAIを活用する場合の課題についても学修する。								
第4回	教育メディアと著作権 様々な学校での著作権の事例をクイズ形式で考えながら学修する。特にSNS等で発信する際に起こりうる実例を挙げ、著作権の問題を自分の起こりうる問題として認識する。またAIの活用時における著作権の問題についても学修する。								
第5回	対話的な学びを深めるICTの活用 新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の在り方と、その実現に必要な教師の役割について学ぶ。								
第6回	個別最適な学びを支えるICTの活用 これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力とは何かを検討した上で、主体的・対話的で深い学びを実現するための教育方法を考える。また、個別最適な学びと協働的な学びの実現などICT活用についての意義と在り方について検討する。								
第7回	遠隔授業・遠隔学習と学びの保障 遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムについて学ぶ。学習履歴などの教育データを、指導や学習評価に活用することや校務処理と教育情報セキュリティの重要性について学ぶ。								
第8回	特別支援・幼児教育におけるICT活用 特別の支援を必要とする園児・児童・生徒に対する話法や板書の仕方などの技術を学ぶと共に、ICT活用の意義と活用に応じた留意点を考える。								
第9回	校務の情報化とICT環境の整備 統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進について学ぶ。								
第10回	情報モラル・情報セキュリティ教育について インターネットの基本構造と、ソーシャルメディアが個人の生活や社会に与える影響を探究する。また、SNS等オンラインコミュニティの形成とその文化的意味について学修する。後半の講義では、学校現場における情報モラルの指導をどうするか事例をもとに各自考える。自分で模擬授業をするための授業設計を行い、指導案を作成する。								
第11回	プログラミング教育がめざすこと 子ども用プログラミング学習「スクラッチ」体験等を通して、プログラミングを取り入れた教科学習について理解する。また、本学で開発したプログラミング教材「おしゃべりなCAT」も体験する。								
第12回	学校の「外」でのICTの活用(学びの場としての美術館) 「大原美術館の見学」という授業の設計を行う。その際授業にICTの活用として盛り込む以下のポイントについて考える。 ・見学前の事前指導でICTをどう活用するか ・見学時に児童はタブレット端末を各自持っているという想定で、美術館の絵の説明や、児童の間での情報の共有等どう活用するか ・見学したあとの事後指導にどうICTを活用するか そして、実際に児童になりきって大原美術館を見学し、自分が設計した授業について反省する。								
第13回	児童生徒によるICT活用 学習場面に応じたICTを効果的に活用した指導事例(デジタル教材の作成・利用を含む)から、基礎的な指導方法を学ぶ。また、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間（以下「各教科等」という。）において、横断的に育成する情報活用能力（情報モラルを含む。）についてもその指導技術・指導法を理解する。								
第14回	教育メディアを活用した模擬授業とその評価I 模擬授業のための教育メディア教材作成およびICT活用のための指導案（ICT活用レシピ）作成について学修し、次の時間に行うICTを活用した模擬授業の企画を行い、ICT活用レシピを作成する。								
第15回	教育メディアを活用した模擬授業とその評価II 前回計画したICT活用レシピにより模擬授業を行う。その模擬授業演習において、「情報機器を効果的に活用する場面が見られたかどうか」について学生の相互評価を実施する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度		20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。						
ミニレポート		30	随時それぞれの受講内容に応じて、ミニレポートの課題を数回出し、授業内容の理解の程度を評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。						
模擬授業		20	模擬授業演習において、情報機器を効果的に活用する場面が見られるかどうか評価する。評価内容については模擬授業終了後、口頭でコメントする。						
最終レポート		30	この授業の総括として、授業内容の総合的な理解度を評価するために最終レポートを提出する。レポートの具体的な様式・評価項目については授業内で説明する。最終レポートについては、コメントを記入して返却する。						

評価の方法： 自由記載	(1) 履修者には、授業の進行に応じて出題するミニレポートに取り組んでもらう。(30%) (2) 毎時間の発言や取り組み姿勢なども成績評価に加味する。(20%) (3) 期末に全員に課す最終レポート(30%)と、模擬授業(20%)を踏まえて総合的に評価する。
受講の心得	本授業では、講義および視聴覚資料による解説・事例紹介と、学生自身が各種ICT機器、環境を活用し、体験的に学修する機会を設けることを基本とする。毎回出席し、課題をきちんと提出すること。分からないことは、質問すること。
授業外学修	1. 授業ごとに紹介する参考資料や、eラーニング教材(予習用の動画教材)を次回授業までに熟読したり、しっかり視聴したりして、よく予習しておくこと。 2. P Cの操作技能等を身につけるために、随時復習をすること。 3. 模擬授業のための学習指導案および最終レポートを作成すること。 1および2の内容については週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	稲垣忠、佐藤和紀(編著)(2021) ICT活用の理論と実践: DX時代の教師をめざして, 北大路書房 ロバートガニエほか(著) 鈴木克明(訳)(2007) インストラクショナルデザインの原理, 北大路書房 堀田龍也、佐藤和紀(2019) 教職課程コアカリキュラム対応 情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術, 三省堂 稲垣忠(編著)(2019) 教育の方法と技術: 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン, 北大路書房			
その他	パソコンを大切に使用すること。			
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	公立小学校長(8年), 公立幼稚園長(3年※小学校長と兼務), 公立小学校教諭(13年), 岡山県生涯学習センター(岡山県視聴覚ライブラリー担当3年), 岡山県情報教育センター(6年)での実務経験を有する。			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかにした 教育内容	ICT教育の推進に学校長(幼稚園長)のリーダーシップは欠かせない。自分の校長(園長)時代の具体的な経験をもとにそれについて解説をしておく。また、教諭時代、授業中でのICTの活用をした経験や、生涯学習センターで各学校のメディア教育担当の教員に対して行った研修および情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用について行った研修の経験など、様々な内容について指導してきた経験を生かして、「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら教員志望の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解する	教育現場におけるICT活用の意義や理論について十分に理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について概ね理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について最低限理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論についてやや理解していない。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について全く理解していない。
知識・理解	2. ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解する	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について十分に理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について概ね理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について普通に理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解がやや不十分。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について全く理解していない。
知識・理解	3. 情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例を理解し、基礎的な指導法を身に付けている。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を十分に理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を概ね理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を普通に理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について理解が不十分である。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について全く理解していない。
思考・問題解決能力	1. 情報活用能力を育成する意義および育成方法を身に付けている。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について課題を複数見つけ、調査し、自分なりの解決策を考え提案することができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について課題を見つ、調べ、自分なりの解決策を考えることができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について提示された多数ある課題について調べ、自分なりの解決策を考えることができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について多数ある課題のいくつかについて解決策とされていることを調べ、それについて意見を言うことができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について多数ある課題のいくつかについて考えることが不十分である。
技能	1. ICTを活用した授業のための教材制作ができる	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、子どもと使うことを想定して対象年齢を自分なりに設定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、子どもと使うことを大まかに想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し、留意点を制作に反映することができる。そして子どもと使うことを想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解しているが、子どもと実際に使うことができる程度の丁寧さが不足している。	授業提示された基礎的なICT活用の教材制作方法の理解が不十分であり、留意点を制作に反映していない。
技能	2. 児童・生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導技術を身に付けている。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために、自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法を多様な視点で考え、実際に積極的に試行しようとする。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために、自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法を考えることができるが、試行はしない。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために、自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法について少しは考えることができる。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために、自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法についてあまり考えない。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について全く考えない。

科目名	障害児援助論			授業番号	CN208	サブタイトル	
教員	藤井 裕士						
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	講義(対面授業科目)
必修・選択	必修		選択				
授業概要	障害のある子どもとその家庭(保護者)への支援,配慮を具体的に学修する。 特に,知的障害や発達障害のある子どもの実態をアセスメントを通して把握し,エビデンスを基にした支援の計画が立案できるようになることをめざす。						
到達目標	障害のある子どもの障害特性を理解し,それを説明することができる。また,実態に応じた支援を行うため,客観的な見立てを行うことができる。そして,実態に応じた支援を計画することができる。なお,本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち, <知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度> の修得に貢献する。						
授業計画 備考							
回	概要					担当	
第1回	障害とは「障害児・者」とのこれまでの出会いを振り返る中で,障害観を表出する。						
第2回	ICFの理念と自立活動 ICFや合理的配慮の理念について理解する。更に,ATやAACの理念について理解する。困難さへの援助と発達の促進の違いを知る。						
第3回	フォーマルなアセスメントとインフォーマルなアセスメント フォーマルなアセスメントとインフォーマルなアセスメントについて理解し,フォーマルなアセスメントの結果を基にした指導・支援の立案について知る。						
第4回	認知・言語の発達に遅れのある子どものアセスメントと指導・支援① N-Cプログラムによる実態把握方法の概要を知る,実態把握の結果から指導・支援を考える。						
第5回	認知・言語の発達に遅れのある子どものアセスメントと指導・支援② N-Cプログラムによる実態把握の結果から指導・支援を考える。						
第6回	見る力に困難さのある子どもの指導と支援 見る力に関する実態把握の方法及び,支援や指導について理解する。						
第7回	聞く力に困難さのある子どもの指導と支援 聞く力に関する実態把握の方法及び,支援や指導について理解する。						
第8回	覚える力に困難さのある子どもの指導と支援 覚える力に関する実態把握の方法及び,支援や指導について理解する。						
第9回	認知・言語の発達に遅れのある子どものアセスメントと指導・支援① 太田ステージによる実態把握方法の概要を知る。						
第10回	認知・言語の発達に遅れのある子どものアセスメントと指導・支援② 太田ステージの結果を基にした,支援や指導について知る。						
第11回	自閉症児の指導・支援① ABAの理念と概要を理解する。MASの実施・活用方法について理解し,指導・支援方法について考える。						
第12回	自閉症児の指導・支援② TEACHプログラムの理念と概要を理解する。						
第13回	コミュニケーションの指導・支援 コミュニケーションの表出手段(絵カードや身振り,手話など)に関する技法の指導方法について知る。情報の受容に偏りのある子どもへの伝え方(ソーシャルストーリー,コミック会話)の技法について知る。						
第14回	個別の教育支援計画・個別の指導計画 個別の教育支援計画,個別の指導計画の意義について理解し,作成方法について演習を通して学修する。						
第15回	多様な子どもを含む集団の学級経営 ギフトドなどの多様な子どもを含む集団の教育について考える。その際,モンテッソーリ教育,イエナプラン教育を例に,クラスづくり・集団づくりの方法,ポイントを学修する。						
授業計画 備考2							
評価の方法							
種別	割合	評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢/態度	30	演習への取組態度を含めて,意欲的な受講態度によって評価する。					
ワークシート	20	ワークシートへの記述状況から評価する。(課題提出後の授業で全体的な傾向についてフィードバックする)					
最終レポート	50	最終的な理解度を,レポートによって評価する。					
評価の方法:自由記載							
受講の心得	1 事前・事後に資料や参考文献を読むこと。 2 発表や演習に積極的に取り組むこと。 3 配布する資料を整理しておくこと。						
授業外学修	1 予習として,配布され資料のうち,授業内容にかかわる部分を読み,疑問を明らかにする。 2 復習として,配布された資料を読み授業内容の理解を深める。 3 発展学習として,授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を,週当たり4時間以上学習すること。						
使用テキスト							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
使用テキスト:自由記載							
参考図書							
書名	著者	出版社	ISBN	備考			
参考書:自由記載							
その他							

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	特別支援学校教諭（14年）
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	特別支援教諭（14年）の経験等を生かして、障害のある子どもの実態把握や支援の計画に関する具体的な方法を教授する。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点（到達目標に基 づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 障害のある子どもの障害 特性を理解し、それを説明す ることができる。	障害特性を、理解し説明す ることができる。	障害特性を、自分の言葉で 一通り説明することができる。	障害特性を、教員の説明通 りに一通り説明することができ る。	障害特性の一部を説明する ことができる。	障害特性を、ほとんど説明す ることができない。
思考・問題解決能力	2. 障害特性や現場の状況 に応じた支援・配慮を行うた め、客観的な見立てを行うこ とができる。	客観的な見立てを、根拠立 てて説明することができる。	客観的な見立てを、自分な りに説明することができる。	客観的な見立てを、教員の 説明通りに一通り説明するこ とができる。	見立ての方法の一部を説明 することができる。	見立ての方法を、ほとんど説 明することができない。
技能	3. エビデンスに基づく支援の 計画を立てることができる。	エビデンスに基づく支援の計 画を立てることができる。	自分なりに支援の計画を立て ることができる。	教員の助言や友人からの助 言を得て、支援の計画を立て ることができる。	支援の計画の立案ができる ときと、できないときがある。	支援の立案を行うことができな い。
態度	4. 学んだ知識をもとに、支援 のために自ら考え行動しようと する。	学んだ知識をもとに、支援のた めに自ら考え行動しようとする。	支援に関する知識を活かし、 積極的に関与しようとする。	指示があれば支援に取り組む ことができる。	支援活動に対して消極的で、 受け身の姿勢が目立つ。	支援活動への関心が低く、取 り組もうとする姿勢がほとんど 見られない。

科目名	教育史		授業番号	CP202	サブタイトル						
教員	住野 好久										
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	本科目は、教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、現代に至るまで変遷してきたのかを理解する科目である。										
到達目標	1) 家庭と社会による教育の歴史を理解する。 2) 近代教育制度の成立と展開を理解する。 3) 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解する。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	教育への歴史的視点 教育の歴史について知っていることを整理するとともに、この科目の目標・内容・方法を理解する。										
第2回	人類史のなかの教育 人間はいつからどうして教育をはじめたのか考える。										
第3回	中世の西洋教育史 中世に成立した最初の教育機関である「大学」について理解する。										
第4回	中世の日本教育史 古代・中世における日本の教育機関について理解する。										
第5回	17世紀までの西洋教育史 ルネサンス期のヒューマンイズムの教育からコメニウスの教育思想までについて理解する。										
第6回	18世紀までの西洋教育史（1） ルソーの教育思想とフランス革命期の公教育改革について理解する。										
第7回	18世紀までの西洋教育史（2） ヘストロッチの教育思想と教育実践について理解する。										
第8回	19世紀までの西洋教育史 ヘルバルトの教育思想について理解する。										
第9回	19世紀までの日本教育史 江戸時代までの教育について理解する。										
第10回	産業革命期の西洋教育史 産業革命が社会・教育にもたらした影響とこの時期の教育思想・学校制度等について理解する。										
第11回	明治時代の日本教育史 明治政府によって進められた公教育の制度化について理解する。										
第12回	20世紀前半までの西洋教育史 J.デューイの教育思想とこの時期の学校・教育改革について理解する。										
第13回	20世紀前半までの日本教育史 戦前の日本の教育制度、教育実践について理解する。										
第14回	戦後教育改革期の日本教育史 第二次世界大戦後の日本の教育、学校改革について理解する。										
第15回	まとめ 教育の過去と現在について、自分の教育経験もふまえて振り返る。最終レポートを作成し、発表する。										
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
確認テスト	50		毎回の授業内容をふまえて、課題に適切に回答する。次時の授業で全体的な傾向についてコメントをする。								
最終レポート	50		この授業科目の内容の理解度を評価する。教育の思想家や実践家の特色と意義を考察できる。課題提出後、授業の中で全体的な傾向についてコメントをする。								
評価の方法：自由記載											
受講の心得	適宜、コメント・シート（感想、意見、関心など）を使い、授業を進める。自ら学ぶ姿勢を保持し、授業に臨んでほしい。										
授業外学修	予習として、授業内容にかかわる人物や事項を調べる。 復習として、授業で配布したプリントを読み直す。 発展学修として、授業で紹介される参考文献を読む。 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。										
使用テキスト											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
使用テキスト：自由記載	必要に応じ、授業でプリント資料を配布する。 なお、参考書を下記に示すので、読んで関心を広げることを推奨する。										
参考図書											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
参考書：自由記載	1.尾上雅信他編『新・教職課程演習』教育史（第2巻）、協同出版、2022年。 2.田中卓也他編『資料とアクティブラーニングで学ぶ初等・幼児教育』明文書林、2022年。 3.尾上雅信編『西洋教育史』ミネルヴァ書房、2018年。										
その他											
備考											

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 西洋における教育の歴史 について理解している。	学修した内容について、正確 に理解し、述べることができ る。	学修した内容について、ほぼ 理解し、述べるができる。	学修した内容について、大体 述べるができる。	学修した内容について、正確 に述べるができないが、自 分の言葉で表現できる。	学修した内容について、まっ たく表現できない。
知識・理解	2. 日本における教育の歴史 について理解している。	学修した内容について、正確 に理解し、述べることができ る。	学修した内容について、ほぼ 理解し、述べるができる。	学修した内容について、大体 述べるができる。	学修した内容について、正確 に述べるができないが、自 分の言葉で表現できる。	学修した内容について、まっ たく表現できない。
知識・理解	3. 教育の歴史における西洋 と日本の関係について理解し ている。	学修した内容について、正確 に理解し、述べることができ る。	学修した内容について、ほぼ 理解し、述べるができる。	学修した内容について、大体 述べるができる。	学修した内容について、正確 に述べるができないが、自 分の言葉で表現できる。	学修した内容について、まっ たく表現できない。
思考・問題解決能力	1. 現在の教育の状況や問 題について、歴史の視点をふ まえ、その背景や原因を考え ることができる。	課題に対し、論理的整合 性を持ち、多角的に考察し ている。	課題に対し、ほぼ論理的整 合性をもった考察を加えてい る。	課題に対し、自分の考えを 述べるができる。	課題に対する結果を述べるこ とができる。	課題を作成したが、指示事 項にそっていない。

科目名	保育・教職実践演習(幼・小)			授業番号	CP428	サブタイトル	(幼・小)		
教員	齊藤 佳子、太田 憲孝、溝田 知茂、岡崎 三鈴、土師 範子								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	4年間における個々の科目の履修ならびに各種の実習において修得した専門的な知識・技能を基礎として、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、教育活動の具体的場面で生きて働く知への総合・統合を図る。この過程でのグループ討議の中で対人的なコミュニケーション能力の向上と同僚性の涵養を図ってきたい。また、履修カルテを参照し、個別的に補充指導を行う。								
到達目標	保育士、幼稚園教諭、小学校教諭のいずれにも共通して、 (1)子どもを理解する力、(2)保育(授業)をデザインする力、(3)保育(授業)を実践する力、(4)保育(授業)を省察する力の4点を身につけることができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の取得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	オリエンテーション:「教職実践演習」の目的と授業内容。 「保育者・教師への歩みと足跡」各自、保育者・教職を目指してきた思いや、履修カルテをもとにこれまでの学校生活の振り返りをワークシートにまとめる。						齊藤		
第2回	グループワーク:「保育者・教師への歩みと足跡」について、合同グループで発表し、話し合い、自分自身の思いや覚悟を確かめる。						溝田・岡崎		
第3回	グループワーク:「子どもの理解の方法と実際」保育者として、教師として、子ども理解することについて改めて考え、保育の事例、幼稚園の事例、小学校での事例について、合同グループで話し合い、自分自身の対応について考える。						溝田・岡崎		
第4回	グループワーク:「問題行動の理解と対応」子どもの問題行動に関して、保育の事例、幼稚園の事例、小学校での事例について、合同グループで話し合い、自分自身の対応について考える。						溝田・岡崎		
第5回	ロールプレイング:「保護者対応」保護者から苦情電話がかかってきたとの想定で、それぞれの立場でロールプレイングを行い、保護者の思いを共感的に受け止め、問題を整理し、誠実な態度で対応することについて考える。						岡崎・土師		
第6回	模擬保育・模擬授業(1) これまでの学修で身に付いているはずの「保育者・教師としての力」を確認するために、模擬保育・模擬授業を行い、保育実践・教育実践を通して学び合う。						太田・岡崎・土師		
第7回	模擬保育・模擬授業(2) これまでの学修で身に付いているはずの「保育者・教師としての力」を確認するために、模擬保育・模擬授業を行い、保育実践・教育実践を通して学び合う。						太田・岡崎・土師		
第8回	模擬保育・模擬授業(3) これまでの学修で身に付いているはずの「保育者・教師としての力」を確認するために、模擬保育・模擬授業を行い、保育実践・教育実践を通して学び合う。						太田・岡崎・土師		
第9回	グループワーク:「幼保小の接続」幼保小の相違点、幼保小の接続の在り方、課題、接続期のカリキュラム、接続期の実践の工夫などについて、合同グループで話し合い、保育者・教師として必要な支援について考える。						齊藤・岡崎		
第10回	グループワーク:喫緊の課題(1) 保育・教育の現代的課題を見出し、調べ、報告し、討論する						溝田・齊藤・土師		
第11回	グループワーク:喫緊の課題(2) 保育・教育の現代的課題を見出し、調べ、報告し、討論する						溝田・齊藤・土師		
第12回	グループワーク:喫緊の課題(3) 保育・教育の現代的課題を見出し、調べ、報告し、討論する。						溝田・齊藤・土師		
第13回	「これからの情報教育～保育士・幼稚園教諭・小学校教諭に向けて」 情報教育、ICT教育・プログラミング教育について、今後、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭が主体となって取り組んでいかなければならない事柄について考える。						太田・土師		
第14回	ロールプレイング:「初めて子どもに出会う日」 初めて子どもたちと出会う日という想定で、子どもたちに、また、子どもと保護者を前に、それぞれの立場でロールプレイングを行い、学級の担当者また、学級担任としての思いをどのように伝えるかについて考え、気持ちを新たにする。						岡崎・土師		
第15回	「私のめざす保育者・教師像と今の自分、これからの自分」 私のめざす保育者・教師像について、教員の講話を聴講し、最終レポートに向けて、自分の夢や決意を固める。						学校園長(齊藤)・太田		
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合		評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度	20		免許取得者としての意識をもった意欲的な受講態度であるか否かを評価する。						
レポート	40		毎回の授業内容レポートの適確な把握状況について、コメントして返却する。						
小テスト									
定期試験									
その他	40		模擬保育・模擬授業等の実践力の達成状況を評価する。						
評価の方法:自由記載	グループ討議、実技指導、補充指導などの結果を踏まえ、教員及び保育者として最小限必要な資質能力が身に付いていることを確認し、単位認定を行う。								
受講の心得	全講義への出席を基本とする。やむを得ず欠席の場合は、その状況・内容を必ず連絡すること。四月から社会人として勤務することを念頭に、向上心を持って授業に臨むこと。								
授業外学修	1 予習として、事前に配布された資料を読み、自分の考えを書きまとめておく。 2 復習として、授業内容を通して学んだことを振り返って書きまとめ、提出する。 3 発展学習として、授業に関連した参考資料や書籍を読み、記録に残す。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト									
書名	著者		出版社		ISBN		備考		
使用テキスト:自由記載	随時、必要な資料を配付する。								

参考図書		書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載						
その他						
備考						
注意事項						
担当教員の 実務経験の有無	有					
担当教員の 実務経験		小中学校教員31年・岐阜県教育委員会文部教育5年（太田憲孝）				
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無					
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者						
実務経験を いかした教育 内容						

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点（到達目標に基 づく評価項目）	評価の観点				
		A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもについて理解している。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、正確に理解し説明できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、正確ではないがほぼ理解し説明できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、大体述べることができる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、正確に説明できないが、自分の言葉では表現できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、まったく表現することができない。
知識・理解	2. 保育・授業を想定した保育・教科内容・教育課程に関する基礎的な知識を習得している。	保育・授業を想定した保育・教科内容に関する基礎的な知識について、正確に理解し説明できる。	保育・授業を想定した保育・教科内容に関する基礎的な知識について、正確ではないがほぼ理解し説明できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、大体述べることができる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、正確に説明できないが、自分の言葉では表現できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について、まったく表現することができない。
知識・理解	3. 教職に求められる教養を身に付けている。	教職の意義、教育の理念・教育史・思想の理解、学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について、正確に理解し、説明できる。	教職の意義、教育の理念・教育史・思想の理解、学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について、ほぼ理解し、説明できる。	教職の意義、教育の理念・教育史・思想の理解、学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について、大体述べることができる。	教職の意義、教育の理念・教育史・思想の理解、学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について、正確に説明できないが、自分の言葉では表現できる。	教職の意義、教育の理念・教育史・思想の理解、学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について、まったく表現することができない。
思考・問題解決能力	1. これまでの学修（履修カルテ）を振り返り、各自の課題を明確にし、その解決策について考えることができる。	自分の到達点と課題を的確に自覚し、課題を克服するための自己研鑽に努めている。	自分の到達点と課題を的確に自覚し、課題を克服するための努力をしている。	自分の到達点と課題を自覚し、課題を克服するための努力を始めている。	自分の到達点と課題を自覚している。	履修カルテに記入している。
思考・問題解決能力	2. 保育・授業のデザイン・実施・省察の実践的な問題解決全過程において探究を進めていくことができる。	自己の課題を的確に認識し、その解決に向けて、学びつづける姿勢を持ち、自己研鑽に努めている。自分の資質・能力を活かすような、優れた創造力を発揮している。	自己の課題を認識し、その解決に向けて、努力をしている。	自己の課題を認識し、その解決に向けて、努力を始めている。	自己の課題は認識できている。	自己の課題を十分に認識できていない。
思考・問題解決能力	3. 保育・教育時事問題についてに関心を持ち、意見を持つことができる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち、正確に理解し意見を持ち、それを説明できる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち、正確ではないがほぼ理解し意見を持ち、それを説明できる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち、自分の意見を持ち、大体述べることができる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち、正確に説明できないが、自分なりに意見を持つことができる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ってず、意見を持つことができない。
技能	1. 保育・授業の実践的・実務的な技能を身に付けている。	子どもの特徴を把握し、それに対応できる様々な指導上の工夫を行って、すべての子どもに効果的な学びを促すような魅力的な保育・授業を実践することができる。	子どもの特徴を把握し、それに対応できる様々な指導法を用いて、多くの子どもが学べるような保育・授業を実践することができる。	基本的な指導技術を使って、筋の通った1時間の保育・授業を実践することができる。	様々な人に対して、自分の思いや意見を、わかりやすく伝えることができる。	身近な人に対して、自分の思いや意見を伝えることができる。
技能	2. 保育者・教師に必要な不可欠な子ども、同僚教師などとの適切なコミュニケーション能力、つまり人間関係構築力が身に付いている。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚し、客観的、計画的、かつ積極的にコミュニケーション能力を発揮し、人と関わる事ができる。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚し、客観的、計画的、かつ積極的にコミュニケーション能力を発揮し、人と関わる努力をしている。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚し、客観的、計画的、かつ積極的にコミュニケーション能力を発揮し、人と関わる努力を始めている。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚している。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等を分析しようとしている。
態度	1. 授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的にを行い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	授業に出席し、授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に出席し、コメントシートを提出しているが、理解が十分ではない。	授業に出席しているが、コメントシートの提出をしていない。

子ども学部 子ども学科
幼稚園教諭一種免許状

科目名	子どもと健康			授業番号	CP212A	サブタイトル			
教員	岡崎 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習(対面授業科目)	必修・選択	必修
授業概要	<p>本科目は、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、領域「健康」の意図する目標、ねらい及び内容についての理解を深め、保育における「健康」(安全)教育の位置づけを明確にする。また、遊びや生活を通しての幼児の健康な姿や、家庭と園との生活の流れの中での幼児にとっての健康な生活リズムについて、幼児の発達の特徴や健康に関わる指導の観点を明確にし、保育者としてどのような健康観をもち、子どもたちに接するべきか常に考え、実践力ある保育者への意識の向上を図ることを目的とする講義をする。</p>								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳幼児の発達、生活習慣、食生活、安全管理、および領域「健康」のねらいと内容を体系的に理解している。 2. 子どもの発達や実態を多角的に分析し、育ちを支えるための適切な援助や環境構成、安全対策を論理的に考えることができる。 3. 領域「健康」の専門的知識に基づき、子どもの意欲を育む指導案の作成や、安全・健康を維持するための具体的な援助・配慮を記述できる。 4. 子どもの命と健康を守る保育者の責任を自覚し、現代社会の課題を捉えながら家庭や小学校と連携して健やかな育ちを支える姿勢を持っている。 <p>なお本科目はディプロマポリシーに掲げた<知識・理解><思考・問題解決能力><態度>の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	「健康」とは何か 授業の概要と、心身両面における健康の定義と概念								
第2回	保育の基本と領域「健康」 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「健康」のねらい								
第3回	乳幼児期の身体の発達と健康 0歳から3歳未満児における身体的発達の特性と生命の保持								
第4回	乳幼児期の生活リズムと習慣 睡眠、排泄、清潔など、基本的な生活習慣の形成と自立								
第5回	乳幼児期の食生活 子どもの食を取り巻く現状と課題								
第6回	乳幼児期の運動発達 運動発達における遊びの重要性								
第7回	乳幼児期の安全 施設内・外での事故防止。ヒヤリハットとリスクマネジメント								
第8回	領域「健康」と保育方法 知識としての健康を、子どもの「育ち」に繋げる援助の理念								
第9回	生活リズム・生活習慣の指導 基本的な生活習慣を心地よく身につけるための具体的な援助								
第10回	食育にかかわる指導 「食べる意欲」を育む食育計画と、アレルギー対応								
第11回	運動遊びにかかわる指導 乳児(3歳未満児)と幼児(3歳以上児)の育ちを支える環境構成と援助								
第12回	安全への配慮と安全教育 子ども自身が身を守る力を育む「安全教育」の進め方								
第13回	領域「健康」にかかわる現代的課題と動向 「10の姿」から見る健やかな心身の育ちと小学校への接続								
第14回	特別に支援が必要な子どもの健康指導 個々の発達特性に応じた健康維持と、自立への配慮								
第15回	領域「健康」にかかわる指導案の作成 「ねらい」と「環境構成」を繋ぎ、子どもの育ちを具体化する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合		評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度	20		授業への積極的な態度や取組について評価する。						
レポート	30		レポートのテーマに応じた内容や構成について評価し、コメントを記入して返却する。						
定期試験	50		領域「健康」に関する知識・理解について評価する。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	<p>子どもの命を預かる将来の専門職として自覚を持ち、遅刻・欠席をせず真摯な態度で受講してください。講義中の私語やスマホ使用は厳禁です。各回の専門知識を確実に修得し、将来の保育実践の根拠となるよう主体的に学んでください。</p>								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎授業の単元について事前に教科書で範囲を熟読すること。 2. 授業後に、講義内容の整理をしておくこと。 3. 興味を持たれた部分を更に自分自身で調べること。 <p>以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。</p>								
使用テキスト									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
保育内容「健康」	川邊貴子・鈴木康弘・渡邊英則	ミネルヴァ書房	9784623-085330	2200円+税					
使用テキスト：自由記載									
参考図書									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
参考書：自由記載									
その他									

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	乳幼児の発達、生活習慣、食生活、安全管理、および領域「健康」のねらいを正しく理解し、小学校への接続や特別な支援を要する子どもへの健康指導の在り方を修得している。	領域「健康」のねらい、乳幼児の発達、食育、安全管理に関する専門用語を正確に理解し、それらの知識を「10の姿」や「小学校との接続」「個別支援」の視点と結びつけて、論理的かつ詳細に説明できる	各回で扱った主要な概念を正しく理解しており、保育者としての具体的な配慮事項を専門用語を用いて適切に記述できる。	乳幼児期の健康に関する基礎的な知識を概ね理解しており、講義で示された標準的な内容について自身の言葉で概説できる。	領域「健康」の基本的な用語、生活習慣の種類、保育所・幼稚園における安全管理の最低限のルールなど、保育者として備えておくべき基礎的な知識を習得している。	乳幼児の健康・安全・発達に関する基本的な理解が著しく不足しており、専門用語を正しく用いて説明することができない。
思考・問題解決能力	子どもの発達特性や個別の実態を分析し、健やかな育ちを支えるための適切な援助方法や安全な環境構成を論理的に考案できる。	子どもの発達特性や生活実態、個別のニーズを多角的に分析し、育ちを支えるための具体的な援助や環境構成、安全対策を、論理性と説得力を持って提示できる	提示された事例や課題に対し、修得した知識を適切に応用して、発達段階に応じた指導の工夫や、リスク回避のための配慮事項を具体的に考案できる。	基本的な保育場面において、領域「健康」のねらいに沿った標準的な援助方法や環境構成を、大きな誤りなく選択・提案できる。	指示された状況下において、保育者として最低限必要な安全配慮や生活習慣への関わりについて、講義内容に沿って適切な判断ができる。	子どもの姿や状況を適切に捉えることができず、発達や安全に配慮した具体的な援助や対策を導き出すことができない。
態度	子どもの命を預かる保育者の責任を自覚し、心身の健康を支える専門職として、主体的に学び続ける姿勢と高い意識を持って受講している。	子どもの生命と健康の重みを深く理解し、現代的課題や多様なニーズに対して、自ら解決策を模索する極めて意欲的な姿勢が見られる。	講義に積極的に参加し、将来の専門職としての自覚を持って、各回の課題や議論に真摯に取り組んでいる。	受講の心得を遵守し、保育者の責務を理解した上で、標準的な学習態度を維持して取り組んでいる。	欠席や遅刻をせず、最低限の受講マナーを守り、出された課題に対して期限内に取り組んでいる。	受講態度が著しく不良であり、私語やスマホ使用などのマナー違反が見られ、専門職としての自覚が欠如している。

科目名	子どもと健康指導法	授業番号	CP313	サブタイトル	
教員	岡崎 三鈴				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期
				授業形態	講義 (対面授業科目)
					必修・選択
					選択
授業概要	本講義では、幼稚園教育要領および保育所保育指針等における領域「健康」のねらいと内容に基づき、乳幼児期における健やかな心身の育ちを支えるための理論的背景と指導の在り方を深く学びます。				
到達目標	<p>【知識・理解】領域「健康」の法令上の意義と、乳幼児期の情緒・社会性・身体発達に関する指導理論を体系的に理解している。</p> <p>【思考・問題解決能力】発達理論に基づき、運動・食育・安全・特別支援における指導上の課題を分析し、適切な援助方法を論理的に考案できる。</p> <p>【技能】修得した理論的根拠に基づき、子どもの実態に応じた環境構成や言葉掛けを具体化した指導計画を適切に作成できる。</p> <p>【態度】子どもの心身の健康を支える専門職としての責任を自覚し、多様な発達や現代的課題に対して理論を基に真摯に向き合う姿勢を持っている。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。</p>				
授業計画 備考					
回	概要			担当	
第1回	領域「健康」の定義 心身の健康の概念について理解する。				
第2回	法令に基づく意義 指針・要領における位置づけについて理解する。				
第3回	幼児の発育・発達 身体的成長のメカニズムについて理解する。				
第4回	乳幼児期の情緒とパーソナリティ 心の安定と健康の相関について理解する。				
第5回	乳幼児の社会性の発達 他者との関わりと健康について理解する。				
第6回	幼児の生活習慣と健康 子どもの生活習慣の現状と課題について理解する。				
第7回	幼児の健康維持・増進のための身体活動 幼児の身体活動の現状と課題について理解する。				
第8回	保育における運動指導と留意点 幼児期に身につけたい基本的動作 について理解する。				
第9回	幼児期における運動遊びの効果 体力・運動能力の向上と意欲的な心を育む。				
第10回	安全管理と安全教育 幼児ののけがや事故の現状と課題。				
第11回	食育に関する指導 (3歳未満児を対象として) 養護と教育の一体性に基づく「食べる意欲」の形成				
第12回	食育に関する指導 (3歳以上児を対象として) 集団の中での食体験と食文化について理解する。				
第13回	特別な支援の必要な幼児における領域「健康」の指導 個別の特性に応じた環境構成と健康・安全への配慮を理解する。				
第14回	小学校を見通した領域「健康」における指導 領域「健康」と小学校教育のつながりについて理解する。				
第15回	領域「健康」における指導計画の作成と評価 発達理論を実践へと統合するプロセス				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業への積極的な態度や取組について評価する。		
	レポート	30	講義内容の適確な把握状況を評価し、コメントして返却する。		
	定期試験	50	領域「健康」の指導法に関する知識・理解について評価する。		
評価の方法：自由記載					
受講の心得	本講義は、子どもの命と健やかな成長を支える「指導の根拠（理論）」を学ぶ場です。将来、子どもたちの前に立つ専門職としての自覚を持ちましょう。				
授業外学修	<p>1. 毎回、授業に使用するテキストを読み、授業内容の概要を理解すること。</p> <p>2. 受講後は自身のノートの記載事項を1時間以上かけて整理し、分からないところを明確にしておくこと。</p> <p>以上の内容を合わせて週4時間以上学修すること。</p>				
使用テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	新時代の保育双書保育内容健康 [第2版]	春日晃章	株式会社みらい		2100円
	使用テキスト：自由記載				
参考図書					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載					
その他					

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	領域「健康」の意義と心身の発達理論、生活習慣、食育、安全、および幼小接続に関する専門知識を体系的に理解している。	発達理論から幼小接続まで、各分野の専門知識を深く正確に理解し、それらの関連性を体系的に説明できる。	主要な理論を正しく理解し、専門用語を用いて適切に解説できる。	領域「健康」の基本的な用語や概念を概ね理解しており、標準的な内容を概説できる。	保育者として最低限必要な健康・安全に関する基礎知識を習得している。	乳幼児の発達や健康に関する基礎知識が著しく不足し、専門用語を正しく用いることができない
思考・問題解決能力	発達理論や運動遊びの効果に基づき、子どもの実態や現代的課題に応じた適切な指導・援助の在り方を論理的に考案できる。	子どもの「意欲」と「体力」の相関や就学後の姿を分析し、説得力のある指導案を提示できる。	学んだ発達理論や運動効果を適切に応用し、実態に応じた具体的な指導の工夫を考案できる。	基本的な事例に対し、講義で示された標準的な援助方法やリスク管理を妥当に選択できる。	指示された状況において、健康・安全に配慮した最低限の判断ができる。	子どもの姿や状況を適切に捉えることができず、安全や発達を考慮した指導を考案できない
技能	修得した理論を根拠として、子どもの育ちを支える環境構成や言葉掛けを具体化し、実践的な指導計画を適切に作成できる。	理論的根拠が明確で、子どもの姿が具体的に浮かぶ一貫性の高い指導計画を記述できる。	講義の知識を反映させ、発達段階に応じた適切なねらいや環境構成を適切に記述できる。	領域「健康」のねらいに沿って、標準的な活動案や配慮事項を大きな誤りなく記述できる。	基礎的な書式に従い、健康・安全に関する最低限の計画を記述できる。	指導案や配慮事項の記述が極めて不十分であり、指導計画作成の基礎が身についていない。
態度	専門職としての責任感を持ち、子どもの意欲や心身の健康を支える指導の在り方について、主体的かつ真摯に学ぶ姿勢がある。	子どもの生命と健康を守る重みを深く自覚し、自らの課題を模索しながら極めて意欲的に受講している。	専門職としての自覚を持ち、各回の課題や議論に真摯かつ積極的に取り組んでいる。	受講の心得を遵守し、標準的な学習態度を維持して継続的に取り組んでいる。	欠席や遅刻をせず、最低限の受講マナーを守り、課題を期限内に提出している。	受講態度が著しく不良(私語・スマホ使用等)であり、専門職としての倫理観や自覚が欠如している。

科目名	子ども人間関係			授業番号	CP214A	サブタイトル			
教員	廣畑 まゆ美								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	<p>保育内容「人間関係」は、人とかかわる力を養う観点から示されている。 この授業では、保育所保育指針等に示された「人間関係」のねらい及び内容について理解し、子どもを取り囲む様々な人間関係を考察するとともに、保育者自身の役割や援助の在り方を実践的に学ぶ。</p>								
到達目標	<p>子どもが人とかかわる力を身に付けていく過程をとらえ、「人とかかわる力の基礎」を理解する。 保育者・教育者に求められる幅広い教養と、保育・教育に関する専門的知識を習得していく。 保育者・教育者として、子どものよきモデルとなることができるよう、明るく・前向きで誠実な態度を身につける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	「人間関係」のねらいと内容…幼児期に求められる人間関係について理解する								
第2回	「人間関係」の変遷…子どもを取り巻く人的環境の変化								
第3回	子どもの人間関係の発達課題(1)…愛着関係の形成、情緒の形成、自我の発達								
第4回	子どもの人間関係の発達課題(2)…いざこざを通した育ち、いざこざに対する保育者の援助								
第5回	子どもの人間関係の発達課題(3)…道徳性と規範意識の芽生え								
第6回	幼児期の生活や遊びの中での人と関わる力…子どもの姿を個と集団の関係から読み解く								
第7回	遊びと人間関係の発達…遊びを通した様々な交流による人間関係の広がりや深まりについて								
第8回	保育者に求められるもの…カリキュラムマネジメントと関わり場の生成について								
第9回	子どもの協同性を育む保育者の援助…「あそんでばくらは人間になる」を視聴、協同から協働へ								
第10回	人間関係を結ぶ保育のあり方(1)…グループワーク①子どもの内面的な成長発達を支える遊びの探求								
第11回	人間関係を結ぶ保育のあり方(2)…グループワーク②子どもを取り巻く人的環境の探求								
第12回	人間関係を結ぶ保育のあり方(3)…グループワーク③保育場面における実践的思考の探求								
第13回	グループ発表(1)…探求に基づいた遊びの計画と実践による「保育者が子どもを見る視点」「子ども同士がかかわること」の考察								
第14回	グループ発表(2)…探求に基づいた遊びの計画と実践による「事実から客観的に子どもを把握すること」の考察								
第15回	子どもの人間関係をめぐる現代的課題 授業まとめ								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別	割合		評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度	20		授業への取組の積極性、発表、予習・復習の状況などによって評価する。						
レポート	30		テーマに沿って具体的に述べられているかを評価する。レポートはコメントをつけて返却する。						
定期試験	50		最終的な理解度を評価する。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	<p>「しっかりと話を聞く」「自分の考えを話す」「記録の整理」を大切に保育者としての基礎を体得してほしい。 また、演習ではグループワーク等をおこなう。積極的に取り組み、意見交換等から知見を広げてほしい。</p>								
授業外学修	<p>復習を欠かさないこと。授業後は授業内容の整理を行い、ノートにまとめておく。配付したプリントは順番にファイリングすること。 授業では、「人とかかわる「遊び」の計画を行う。事前の準備や事後の省察を行い、丁寧に記録すること。 このことについて、1時間以上の授業外学修をすること。</p>								
使用テキスト									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
保育内容「人間関係」第2版	濱名浩 編	株式会社みらい	9784860154455	2100円+税					
使用テキスト：自由記載									
参考図書									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
保育所保育指針(平成29年告示)	厚生労働省	フレーベル館	4577814234	149円+税					
参考書：自由記載									
その他									

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもが人とかかわる力を身 につけていく過程の理解	子どもが人とかかわる力を身に つけていく過程を十分理解 し、具体的に説明することが できる。	子どもが人とかかわる力を身に つけていく過程を理解し、説 明することができる。	子どもが人とかかわる力を身に つけていく過程をおおむね理解 し、説明することができる。	子どもが人とかかわる力を身に つけていく過程への理解が不 十分で、あまり説明できな い。	子どもが人とかかわる力を身に つけていく過程について理解が できておらず、説明できない。
知識・理解	2. 保育者・教育者に求めら れる幅広い教養と知識の習熟	一人ひとりを生かした集団形 成のために必要な専門知識を 十分理解できており、得た知 識を様々な場面で応用できて いる。	一人ひとりを生かした集団形 成のために必要な専門知識を 理解できており、得た知識を 応用しようとしている。	一人一人を生かした集団形 成のために必要な専門知識を おおむね理解することができ ている。	一人一人を生かした集団形 成のために必要な専門知識 への理解が不十分である。	一人一人を生かした集団形 成のために必要な専門知識 について理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 事例検討	学修した内容を柔軟に活用し ながら事例を考察し、具体的 に説明することができている。	学修した内容を活用しながら 事例を考察し、説明すること ができている。	学修した内容を活用しながら 事例を考察し、おおむね説明 することができている。	学修した内容を活用して考察 することが不十分で、あまり説 明できていない。	学修した内容を活用した考察 ができず、説明もできていな い。
技能	1. 保育の構想	個々の能力が存分に発揮でき る具体的な保育方法を詳細 に計画し、柔軟に実践するこ とができている。	個々の能力が存分に発揮でき る具体的な保育方法を計 画し、実践することができ ている。	個々の能力が存分に発揮で きる保育方法を計画・実践し ようとしている。	個々の能力が存分に発揮で きる保育方法を計画するこ とについての理解が不十分であ る。	個々の能力が存分に発揮で きる保育方法を計画するこ とについての理解ができていな い。
態度	1. 授業への参加	グループディスカッション、グル ープ活動、個人活動などに積極 的に取り組む様子が見られ、 他者の意見をよく聴いて、論 理的な自分の意見を構築する ことができている。	グループディスカッション、グ ループ活動、個人活動などに 積極的に取り組む様子が見ら れ、他者の意見をよく聴い て、自分の意見を構築するこ とができている。	グループディスカッション、グ ループ活動、個人活動などに 積極的に取り組む様子が見ら れ、自分なりの意見を構築す ることができている。	グループディスカッション、グ ループ活動、個人活動などに 取り組む過程で、自分なりに 意見を構築しようとしている。	グループディスカッション、グ ループ活動、個人活動など に対し積極的に参加してお らず、自分の意見を持つこと ができていない。

科目名	子ども人間関係指導法		授業番号	CP315	サブタイトル				
教員	廣畑 まゆ美								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	本科目は、幼稚園教育要領に基づき、領域「人間関係」の意図する目標、ねらい及び内容についての理解を深め、子どもが「人とかかわる力」を身に付けていくための保育者の援助・指導あり方および保育者の位置づけを明確にする。								
到達目標	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	領域「人間関係」とは(1)・・・領域成立の変遷、子どもを取り巻く人的環境の変化								
第2回	領域「人間関係」とは(2)・・・かかわりの「視点」を考察する実践								
第3回	人とかかわりから見る乳幼児期の発達(1)・・・愛着形成・感情の分化・自我の育ち								
第4回	人とかかわりから見る乳幼児期の発達(2)・・・他者意識の形成								
第5回	遊びの中の人とかかわりの育ち(1)・・・遊びとは何か								
第6回	遊びの中の人とかかわりの育ち(2)・・・遊びの中で生じるいざこざについて								
第7回	人とかかわりを支える「保育者の役割」(1)・・・就学前教育における教育課程のとらえかた								
第8回	人とかかわりを支える「保育者の役割」(2)・・・指導計画の作成における留意点								
第9回	人とかかわりを支える「保育者の役割」(3)・・・指導計画実践における留意点								
第10回	人とかかわりで「ちょっと気になる子ども」(1)・・・事例分析から出発する子ども理解								
第11回	人とかかわりで「ちょっと気になる子ども」(2)・・・保育者の視点を考察する								
第12回	人とかかわりを支え広げる実践(1)・・・子どもと子どもをつなくために								
第13回	人とかかわりを支え広げる実践(2)・・・子どもとその保護者に対する援助について								
第14回	領域「人間関係」における今日的課題(1)・・・多文化保育について								
第15回	領域「人間関係」における今日的課題(2)・・・社会情動的スキルとその育成について								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業に対する積極性、予習・復習への取り組みなどにより評価する。						
	レポート	30	テーマに沿って根拠とともに具体的に述べられているかを評価する。採点後は全体に向けてフィードバックを行う。						
	定期試験	50	最終的な理解度を評価する。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得									
授業外学修	テキストの授業内容にかかわる予習をして授業に出席する。 授業終了後は、授業中に記録した内容をノートにまとめるなどして復習する。 このことについて、週4時間以上の学修をすること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	人間関係の指導法 改訂第2版 (保育・幼児教育シリーズ)	若月芳浩・岩田恵子編著	玉川大学出版部	4472405644	2400+税				
使用テキスト：自由記載									
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	幼稚園教育要領 (平成29年告示)	文部科学省	フレーベル館	4577814226	149円+税				
参考書：自由記載									
その他									

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 教育課程の理解	就学前教育における教育課程を十分理解し、正しく説明できている。	就学前教育における教育課程を理解し、正しく説明できている。	就学前教育における教育課程を理解し、おおむね説明できている。	就学前教育における教育課程の理解が不十分で、説明内容に不確かさがある。	就学前教育における教育課程を理解しておらず、説明できない。
知識・理解	2. 幼児の人間関係構築における発達の基礎知識	子どもが人間関係を構築していく過程を十分理解できおり、学修内容を様々な場面で応用することができている。	子どもが人間関係を構築していく過程を理解できおり、学修内容を様々な場面に生かそうとしている。	子どもが人間関係を構築していく過程をおおむね理解できている。	子どもが人間関係を構築していく過程の理解が不十分である。	子どもが人間関係を構築していく過程を理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 専門領域と関連させて事例の理解を深める力	学んだ基礎的な知識を十分活用しながら、自分の意見として具体的に説明できている。	学んだ基礎的な知識を活用しながら、自分の意見として説明できている。	学んだ基礎的な知識をいくつか用いて、自分なりの意見として説明できている。	学んだ知識に対する理解・意見の内容が不十分である。	学んだ知識に対する理解が不十分で、意見をまとめることができない。
技能	1. 保育を構想する方法	子どもの人間関係の育ちを十分理解し、教育課程と関連させながら、具体的な計画を作成・実践できている。	子どもの人間関係の育ちを理解し、教育課程と関連させながら計画を作成・実践できている。	子どもの人間関係の育ちをおおむね理解し、計画を作成・実践できている。	子どもの人間関係の育ちに対する理解が不十分で、計画の作成・実践にも不十分さがある。	子どもの人間関係の育ちを理解できておらず、計画することができない。
態度	1. 授業に向かう姿勢	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ、学んだ知識を引用したり、他者の意見をよく聴いて、論理的に自分の意見を構築することができている。	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ、学んだ知識を引用したり、他者の意見をよく聴いて、意見を構築することができている。	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ、学んだ知識を生かしながら、自分なりに意見を構築することができている。	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに取り組むが、意欲的とはいえず、学修内容と関連づけながら意見を構築することがあまりできない。	グループディスカッション、グループ活動、個人活動などに対し消極的で、学修内容と関連づけながら意見を構築することができない。

科目名	子どもと環境		授業番号	CP216A	サブタイトル		
教員	齊藤 佳子						
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習(対面授業科目)
必修・選択			必修・選択	必修・選択			
選択							
授業概要	領域「環境」の指導で必要となる保育内容に関する基礎的な知識・技能について講義する。特に領域「環境」の指導の基盤となる、幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関わりや発達等について説明する。また保育内容について体験的に理解するために、具体的な活動を行い指導のための基礎力を養成する。						
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。 1. 「環境」のねらいについて、自分の言葉で語ることができる。 2. 環境の内容について、多様な視点から述べることができる。 3. 環境に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を身につける。 4. 子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得する。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><思考・問題解決能力><技能><態度>の修得に貢献する。						
授業計画備考	(1)領域「環境」についての保育内容、(2)自然を観察する時の基礎力として「理科ソング」、(3)実際の体験としての「工作」「実技」の3項目を授業で行う。						
回	概要			担当			
第1回	幼児教育・保育の基本と「環境」、幼児を取り巻く環境、幼児教育で育みたい資質・能力・理科ソング「草花」・工作など「手裏剣」 環境を通して行う教育・保育の重要性、幼児を取り巻く環境、幼児教育において育みたい資質・能力について理解する。						
第2回	領域「環境」のねらいと内容、幼児期の終わりに育てほしい姿(10の姿)・理科ソング「七草」・工作など「紙鉄砲」 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の満3歳以上の子どもと満1歳以上満3歳未満の子どもの領域「環境」のねらいと内容及び幼児期の終わりに育てほしい姿(10の姿)を理解する。						
第3回	領域「環境」の内容の取り扱い・理科ソング「野菜の歌」・工作など「兜」幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の満3歳以上と満1歳以上満3歳未満の子どもの領域「環境」の内容の取り扱いを理解する。						
第4回	領域「環境」における乳児保育のねらい及び内容・理科ソング「セミの歌」・工作など「紙テープコマ」 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の乳児期の園児の保育及び保育所保育指針の乳児保育に関わる精神的発達に対する視点「身近なものとの関わり感性が育つ」について理解する。						
第5回	植物との関わり・理科ソング「甲虫類」・工作など「紙飛行機」 身近な植物と遊べる草花や木の葉、草花や野菜の栽培及び保育者の援助について理解する。						
第6回	植物採集と標本(押し葉)づくり・理科ソング「むせきついで動物」・栽培「クロッカス」「ヒヤシンス」 草花、落ち葉や木の葉等の自然物を使用した遊びについて理解する。標本づくりと花の水栽培を体験的に学ぶ。						
第7回	自然・季節のかかわり、自然現象、季節をとらえる遊び・理科ソング「空の雲」 各季節の特徴となる動植物・自然現象や季節を感じる保育の実践について理解する。						
第8回	生き物(小動物・昆虫)との関わり・理科ソング(復習)・工作「押し葉絵」 乳幼児の身近な生き物に親しみをもて関わるといこと、飼育の意義や目的を理解する。						
第9回	物「素材・道具」との関わり・理科ソング(復習)・工作「秋の自然物を使って(1)」 乳幼児の身近な物や道具とのかかわりの意義と実践について理解する。身近な物(素材・道具)や自然物を使用しての製作をする。						
第10回	数量や図形との関わり・理科ソング(復習)・工作「秋の自然物を使って(2)」 乳幼児の日常の園環境を通して数量や図形に親しんでいく保育の実践を理解する。身近な物(素材・道具)や自然物を使用しての製作をする。						
第11回	標識や文字との関わり・理科ソング(復習)・実技「お手玉」 乳幼児の日常の園環境を通して標識や文字に親しんでいく保育の実践を理解する。お手玉など伝統的な遊びを体験する。						
第12回	文化や伝統、行事などに親しむ・理科ソング(復習)・実技「けん玉」 日本の文化や伝統・行事や園生活における行事の意義や活動について理解する。けん玉など伝統的な遊びを体験する。						
第13回	園と地域社会・施設との関わり・実技「あやとり」 地域社会における園の存在意義及び園・家庭・地域社会との連携・交流について理解する。幼児の生活と身近な施設との関わり方について理解する。 あやとりなど伝統的な遊びを体験する。						
第14回	情報との関わり、幼児教育・保育におけるICT機器の活用・理科ソング(復習)・工作「節分(1)」 近年の幼児を取り巻く情報環境と幼児教育・保育におけるICT等の情報機器の活用について理解する。節分など伝承行事への理解とそれにつながる製作をする。						
第15回	他の領域や小学校教育とのつながり、領域「環境」全体のまとめ・理科ソング(復習)・工作「節分(2)」 保幼小の連携・接続の必要性及び小1プロブレム、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム、小学校低学年の学校生活や生活力の具体的な内容との関連について理解する。節分など伝承行事への理解とそれにつながる製作を行う。						
授業計画備考2	(1)テキスト(2)ノート(3)ハサミ(4)セロテープ(5)色マジック(6)授業時間に指示した物						
評価の方法	種別						
種別	割合		評価基準・その他備考				
授業への取り組みの姿勢/態度	15		授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出をを求めるコメントシートにより、評価を行う。				
レポート	20		授業で学修した内容を深めることができたか、要点を押さえているか、自分の考えを記述しているかを評価する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。				
植物標本、工作物	15		自然物の収集や工作物の出来ばえについて総合的に評価する。				
定期試験	50		最終的な理解度を評価する。				
その他							
評価の方法：自由記載	課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。						
受講の心得	事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。 領域「環境」の内容を楽しく体験しながら、子どもの興味・関心、主体性について考えてもらいたい。						
授業外学修	・事前に授業の内容をテキストで予習しておく。 ・授業後に講義内容の整理や課題へ取り組む。 ・身近な動植物を意識的に探し、子どもがどのような反応をするか、遊びに使えるかなどを考える。 ・身近な物質で子どもが喜びそうな物を探し工作などをしてみる。 ・季節の変化に注意し言葉で表現する。 ・地域の伝統・文化を探り体験してみる。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。						

使用テキスト				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
新訂 事例で学ぶ保育内容領域 環境	無藤隆 監修	萌文書林	978-4-89347-258-8	本体2200円+税
使用テキスト ト：自由記載				
参考図書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかけた教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 領域「環境」のねらいと内容を理解している。	領域「環境」のねらいと内容を正確に理解し説明できる。	領域「環境」のねらいと内容を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	領域「環境」のねらいと内容について、概ね述べることができる。	領域「環境」のねらいと内容について、正確に説明できないが、自分の言葉では表現できる。	領域「環境」のねらいと内容について、まったく表現することができない。
知識・理解	2. 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達についての意義を理解している。	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達についての意義を正確に理解し説明できる。	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達についての意義を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達についての意義について、概ね説明できる。	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達についての意義について、正確には説明できないが、自分の言葉では表現できる。	幼児を取り巻く環境と、幼児の発達についての意義について、まったく表現することができない。
知識・理解	3. 乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり、理解の発達を理解している。	乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり、理解の発達を正確に理解し説明できる。	乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり、理解の発達を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり、理解の発達について、概ね説明できる。	乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり、理解の発達について、正確には説明できないが、自分の言葉では表現できる。	乳幼児の物理的、数量・図形、生物・自然との関わり、理解の発達について、まったく表現することができない。
知識・理解	4. 乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を理解している。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を正確に理解し説明できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、概ね説明できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、正確には説明できないが、自分の言葉では表現できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、まったく表現することができない。
知識・理解	5. 乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について理解している。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について正確に理解し説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、概ね説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、正確には説明できないが、自分の言葉では表現できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方について、まったく表現することができない。
思考・問題解決能力	1. 「環境」の内容について多様な視点から考えることができる。	課題に対し、多様な視点から考察をし、他者にわかりやすく述べることができる。	課題に対し、多様な視点から考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを概ね述べることができる。	課題に対する自分の考えを十分に述べることができていない。	課題の提出をしていない。
思考・問題解決能力	2. 「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を身につけている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を大変よく身につけている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を身につけている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を概ね身につけている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しているが、指導のための基礎力を十分に身につけていない。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験していない。
思考・問題解決能力	3. 子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを明確かつ十分に体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントをある程度体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に十分に会得できていない。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導を体験していない。
技能	1. 植物標本を作成できる。	植物標本を大変よく作成できる。	植物標本を作成できている。	植物標本をある程度作成できている。	植物標本を作成したが、未提出である。	植物標本を作成していない。
技能	2. 工作物を作成できる。	工作物が大変よく作成できている。	工作物を作成できている。	工作物をある程度作成できている。	工作物を作成したが、未提出である。	工作物を作成していない。
態度	1. 授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切なコメントペーパーを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で記述したコメントペーパーを提出している。	授業に出席し、授業内容を理解した上で記述したコメントペーパーを提出している。	授業に出席し、コメントペーパーを提出しているが、理解したことを記述していない。書いている内容が不適切である。	授業に出席しているが、コメントペーパーが未提出である。

科目名	子ども造形	授業番号	CP224A	サブタイトル					
教員	伊藤 智里								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	この講義では、幼児の造形的な「表現とその発達」について理解するとともに、幼児の感性や創造性を豊かにする専門的事項について身につけることを目的とする。								
到達目標	<p>(1)幼児の表現の姿や、その発達について理解する。</p> <p>1-1)子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。</p> <p>1-2)子どもの素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。</p> <p>(2)造形表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</p> <p>2-1)様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通じてイメージを豊かにすることができる。</p> <p>2-2)身の周りのものを諸感覚で捉え、素材の特性を活かした表現ができる。</p> <p>2-3)協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め、共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。</p> <p>2-4)様々な表現の基礎的な知識技能を活かし、子どもの表現活動を展開させることができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	「表現」に出会うー乳・幼児の造形が気づかせてくれる10のことー乳幼児の表現について理解する。								
第2回	ICTの活用、道具との出会い ドキュメンテーションについての理解、はさみ・テープ・のり・ボンドなどの使用について理解する。								
第3回	表現活動と子どもの発達ー乳児の発達と造形あそびー 0,1,2歳の発達過程を理解し、手の感触で味わう造形遊びを体験する。								
第4回	生活での出会いとイメージー幼児の発達と造形遊びー 3,4,5歳の発達過程と造形遊びの関係、描画の発達段階について理解する。								
第5回	素材との出会いー紙を知るー 画用紙、折り紙などの紙の特徴を確かめ、遊ぶ方法を工夫する。								
第6回	画用紙の加工 画用紙を立体にする方法を工夫し体験する。								
第7回	性質の違いを利用して遊ぶ 画材・材料の性質の違いを理解してマーブリングを楽しむ。								
第8回	描画材との出会い1ークレパスを使った造形遊びー クレパスの特徴を生かしスクラッチ、ステンシルを体験する。								
第9回	描画材との出会い2ー絵の具を使った色を楽しむ造形遊びー 絵の具の特性を感じ、染紙を体験する。								
第10回	いろいろな形を見つけつくり出す遊び 身近なもので行うスタンプ遊びを体験する。								
第11回	伝統と造形遊び 折り紙の5つ折りを使った切り紙で、行事と結びついた造形遊びを体験する。								
第12回	総合的な表現 1ー壁面装飾企画ー 壁面装飾の保育での役割を理解し、製作物の企画を行う。								
第13回	総合的な表現 2ー壁面装飾制作ー 企画した内容で、壁面装飾を制作する。								
第14回	総合的な表現 3ー壁面装飾制作ー 壁面装飾を仕上げ、工夫して完成させる。								
第15回	表現活動の振り返りー表現することと鑑賞することー 子どもが表現することと、他者の表現に触れることの意味を理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	授業に参加するための準備の適切さ、個人活動およびグループ活動に積極的に参加し、試し、発見し、工夫することができているか評価する。						
	小テスト	10	知識の理解により評価する。授業内で全体的に解説する。						
	その他・最終課題	60	提出されたスケッチブックにより評価する。主に材料・画材の特性を理解しているか、第三者が見て同様の活動を行うことができるように作品とともにまとめられているか、やってみた自分の心の動きを記録することができるかについて評価する。採点后、コメントをつけて返却する。						
評価の方法：自由記載	最終課題のスケッチブックが提出されていることを採点条件とする。								
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことかについて、実際にやってみるなかで探求してほしい。 図工・造形セットは、毎時間持参すること。								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習として、資料を配布することがある。 2. 復習として、課題を課すことがある。 3. 授業内で完成しなかった造形遊び、技法について課外で行うこと。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修することが望ましい。								
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	適宜、提示する。								
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	適宜、提示する。								

その他	造形遊びで体験してできた作品は、指定のスケッチブックに整理して提出する。 はさみ、のり、水彩絵の具、筆洗、筆、クレパス、色鉛筆、定規、テープなどの描画材や道具を使用する。 その他の詳しい授業の準備物は、授業の中で提示する。準備物が多いため、忘れ物がないよう注意して受講すること。
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児の表現の視点から捉えた発達について理解する。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、発達過程に応じたような表現方法を用いるかについて根拠ある推測、考察ができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、過程に応じたような表現方法を用いるかについて説明することができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、発達過程に応じた適切な表現方法があることを理解し、部分的に説明することができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程について理解し、幼児なりの表現方法があることを理解することができる。	幼児の認知的発達、手指を中心とした発達過程についての理解と、適切な表現方法があることへの理解が不十分である。
知識・理解	2. 子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し、子どもの遊びや生活における表現の位置づけを十分に説明することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し、子どもの遊びや生活における表現の位置づけを説明することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し、子どもの遊びや生活における表現の位置づけについて考えることができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通した理解が不十分である。
思考・問題解決能力	1. 子どもの造形遊びに対する適切な環境構成を設定することができる。	子どもと活動することを想定して、年齢に合わせて適切に各活動に必要な環境構成を設定することができる。	子どもと活動することを想定して、特定の年齢に合わせて適切に活動に必要な環境構成を設定することができる。	学生視点で活動にあわせて各活動に必要な環境構成を設定することができる。子どもと活動する際に改善する点を考えることができる。	学生視点で活動にあわせて活動に必要な環境構成を設定することができる。	活動に必要な環境構成の設定が不十分である。
技能	1. 造形表現の基礎的な技能を身に付ける。	モダンテクニックも含め造形表現の基礎的な技能を身につけることができ、子どもと活動、鑑賞するための造形表現活動を自分で調べたり考えたりして展開することができる。	モダンテクニックも含め造形表現の基礎的な技能を身につけることができ、子どもと活動、鑑賞するための造形表現活動を調べて展開することができる。	モダンテクニックも含め造形表現の基礎的な技能を身につけることができ、子どもと活動、鑑賞するために授業で提示した造形表現活動を展開することができる。	モダンテクニックも含め造形表現の基礎的な技能を身につけることができる。	造形表現の基礎的な技能の修得が不十分である。
技能	2. 素材の活用方法を知り、使えるようになる。	子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り、活動にあわせて子どもの興味関心を高めるような素材の活用方法を考えることができる。	子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り、子どもの興味関心を高めるような素材の活用方法を考えることができる。	子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り、素材の活用方法を考えることができる。	子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知ることができる。	子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法の知識の修得が不十分である。
態度	1. 積極的に造形活動を行う。	授業で行う造形活動について、工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組み、事後に自分で他の展開方法についても実践してみることができる。	授業で行う造形活動について、工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組み、事後に自分で他の展開方法について調べることができる。	授業で行う造形活動について、工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組むことができる。	授業で行う造形活動について、積極的に取り組むことができる。	授業で行う造形活動の取り組みが消極的である。
態度	2. 提出物準備や事前の内容学習など、自己学習をすることができる。	課外で予習復習を十分にすることができる。提出物の体裁を適切に整え、発展的な内容を取り入れて制作することができる。期限内に提出することができる。	課外で予習復習を十分にすることができる。提出物の体裁を適切に整え、自分なりに工夫して制作することができる。期限内に提出することができる。	課外での予習復習を十分にすることができる。提出物の体裁を整え、期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であるが、提出物をまとめ、期限内に提出することができる。	提出ができない。

科目名	子どもとおやつ (全8回)			授業番号	CN202	サブタイトル			
教員	齊藤 佳子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	幼児期の食事は健康な発達において重要である。その中でも間食は幼児期において不足しがちな栄養素を補うという意義をもち、欠かすことのできないものである。そこで、この授業では幼児期における補食としてのおやつを作るために必要な基礎知識と基本操作を学ぶ。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の栄養の基礎知識を習得することができる ・幼児期における間食の必要性について理解することができる ・間食を調理する上での基礎的な知識と技術を習得することができる なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考	この授業は全8回の授業である。 履修人数によっては2クラスで隔週開講となる場合がある。								
回	概要						担当		
第1回	幼児期の間食の意義 子どもにとっておやつとはどんな存在かについて理解する。								
第2回	子どものおやつ (1) 子どものおやつを作る上で必要な事項 (エネルギー、形態など)を理解する。								
第3回	子どものおやつ (2) 子どものおやつとアレルギー (アレルギーの多いもの、食品表示の見方)について理解する。								
第4回	子どものおやつ (3)								
第5回	子どものおやつ (4) 子どものおやつ (4)の作り方を理解する。								
第6回	子どものおやつ (5) 子どものおやつ (5)の作り方を理解する。								
第7回	アレルギー対応のおやつ アレルギーをもつ子どものおやつの作り方を理解する。								
第8回	子どもと一緒に作るおやつ 子どもと一緒に作るおやつについて理解する。								
第9回									
第10回									
第11回									
第12回									
第13回									
第14回									
第15回									
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合		評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢／態度		30		意欲的な受講態度によって評価する。					
授業時の提出物 (リアクションペーパー) 等		20		記述内容 (理解度、考察・感想、分量、文章) によって評価する。					
小テスト									
定期試験		50		授業の内容の最終的な理解度を評価する。					
その他									
評価の方法： 自由記載									
受講の心得		幼児の栄養や、調理の基本操作について自ら積極的に学ぶ姿勢をもって臨むこと。 髪を結ぶ、爪を切る、マニキュアは落とす、ピアス、ネックレスなどのアクセサリ類を外す等、実習にふさわしい身支度を整え、安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。							
授業外学修		1. 授業で出てきたポイントを復習すること 2. 日頃から子どもと食に関する情報に興味関心をもち、自ら情報収集を行うこと 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。							
使用テキスト									
書名		著者		出版社		ISBN		備考	
使用テキスト：自由記載									
参考図書									
書名		著者		出版社		ISBN		備考	
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児期の栄養の基礎知識を修得できている	幼児期の栄養の基礎知識を十分に修得できている、不足しがちな栄養素を補うための工夫をすることができる	幼児期の栄養の基礎知識を十分に修得できている、不足しがちな栄養素を補うための工夫を考えることができる	幼児期の栄養の基礎知識を修得できている	幼児期の栄養の基礎知識をやや修得できている	幼児期の栄養の基礎知識を修得できていない
知識・理解	2. 幼児期における間食の必要性について理解できている	幼児期における間食の必要性について十分理解でき、子どもに応じたおやつを選択ができる	幼児期における間食の必要性について理解でき、子どもに応じたおやつを選択ができる	幼児期における間食の必要性について理解できている	幼児期における間食の必要性についてやや理解できている	幼児期における間食の必要性について理解できていない
技能	1. 間食を調理する上での基礎的な知識と技術が修得できている	間食を調理する上での基礎的な知識と技術が十分に修得できている、自分で間食を作ることができる	間食を調理する上での基礎的な知識と技術が修得できている、自分で間食を作ることができる	間食を調理する上での基礎的な知識と技術が修得できている	間食を調理する上での基礎的な知識と技術がやや修得できている	間食を調理する上での基礎的な知識と技術が修得できていない

科目名	子どもと絵本Ⅰ		授業番号	CN216	サブタイトル						
教員	伊藤 智里、住野 好久、太田 憲孝、山本 房子、福澤 惇也										
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	<p>本科目は、「認定絵本士」資格取得のための科目である。本科目では、絵本の特徴と子どもの発達についての意義を理解した上で、絵本から広がり深まる様々なつながりを生み出す方法について考える。絵本に関する必要な「知識」「技能」「感性」について修得し、認定絵本士に必要な資質・能力（選択力、コーディネート力、企画力、コミュニケーション力、表現力、指導力）を体得する。認定絵本士養成講座対象科目であるため、次の条件の下に開講する。①受講定員は50名である。②「子どもと絵本Ⅰ」「子どもと絵本Ⅱ」の両方を履修し、全授業に出席することを原則とする。</p>										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絵本に対する知識を多面的に深めることができる。 2. 絵本を使う技術を知り、高めることができる。（コーディネート力、コミュニケーション力、選択力、企画力等） 3. 絵本を保育・教育の中に取り入れていく具体的な方法が提案できる。（企画をわかりやすく説明する力、感情の共有化、共感する力を修得する） <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。</p>										
授業計画 備考	本科目は、認定絵本士養成講座カリキュラムに従い構成される。カリキュラムのコマ名を使用しているため「子どもと絵本Ⅰ」「子どもと絵本Ⅱ」の2科目を通じ、コマ名の通し番号が前後する部分がある。										
回	概要					担当					
第1回	オリエンテーション（日本の読書推進活動） 日本の読書推進活動の施策の経緯について理解し、認定絵本士の役割について確認する					住野・伊藤					
第2回	絵本総論（絵本とは何か） 絵本をめぐる行為、絵本の定義や捉え方、絵本の多面性と可能性や課題について理解する					伊藤					
第3回	絵本各論①（絵本の歴史、絵本賞について） 日本及び世界の絵本の歴史、絵本賞について理解する					伊藤					
第4回	絵本各論②（視覚表現、言語表現から見た絵本） 絵本の視覚表現及び言語表現の特性について理解する					伊藤					
第5回	絵本の世界を広げる技術②（ワークショップ） 絵本を活用した表現活動について理解し、表現活動の基礎的技術を体得する					山本・伊藤					
第6回	様々なジャンルの絵本①（物語の絵本） 物語を内容とした絵本の特性について理解し、絵本における絵と言葉で語る技法を体得する					山本・伊藤					
第7回	様々なジャンルの絵本②（昔話、童話を基にした絵本） 昔話および童話を題材にした絵本の特性、絵本における再話や絵本の質のあり方について理解する					山本・伊藤					
第8回	絵本と出会う①（初めての絵本との出会い） 乳幼児を対象とした絵本の特徴を理解し、乳幼児が絵本に触れるための具体的な取り組みについて理解する					山本・伊藤					
第9回	ホスピタリティに学ぶ（人を楽しませるための手法を学ぶ） 絵本以外で人を楽しませるための手法について理解する 外部講師（竹内）					伊藤					
第10回	絵本を紹介する技術②（書評・紹介文の書き方） 絵本の内容および特質を客観的にとらえることを理解し、書評および紹介文の書き方を体得する					太田・伊藤					
第11回	様々なジャンルの絵本③（科学絵本等） 自然科学・社会科学に関する絵本の特性について理解し、科学絵本等の活用について理解する（岸）					伊藤					
第12回	絵本各論③（子どもの知的・社会的発達と絵本の関わり） 各年齢期の子どもの発達と絵本との関わりについて理解し、絵本が子どもの発達に及ぼす影響に関する学術的知見を理解する					福澤・伊藤					
第13回	絵本各論④（メディアとしての絵本の位置づけ） 情報メディアとしての絵本の特性について理解し、著作権、電子書籍と子どもの脳の関係について理解する					福澤・伊藤					
第14回	絵本と出会う②（保育・教育の場での出会い） 保育・教育の場における絵本の意義、絵本を用いた活動の具体的な取り組みについて理解する					福澤・伊藤					
第15回	絵本の持つ力（さまざまな角度から絵本を見る） 絵本の持つ可能性及び相反する力について理解し、絵本が子ども達に与える影響について多面的な視点から見つめることにより、批評力を体得する					福澤・伊藤					
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢/態度	40		授業参加のための適切な準備、授業内での活動・実践的なワークの積極的な参加状況、発表の状況によって評価する。								
レポート	40		課題について要点をおさえ、自分の考えを具体的に述べていること。コメントをフィードバックする。								
その他提出課題	20		レポート以外の提出課題の内容により評価する。提出課題は返却し、コメントをフィードバックする。								
評価の方法：自由記載	<p>本科目は「認定絵本士」資格取得に関わる科目であり、全出席を原則とする。事前・事後（指定）レポートの提出も必要である。 なお、認定絵本士は絵本専門士委員会（事務局：独立行政法人国立青少年教育振興機構）の定める資格取得要件に基づき、資格認定される。</p>										
受講の心得	絵本そのものについての理解、子どもの理解、プロデュース、絵本を活用する知識など、内容が多岐にわたる。自分が絵本に関して指導を行うことを想定しながら受講してほしい。										
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習・復習として、課題を課すことがある。 2. テキストを事前に読み、疑問点を明らかにする。 3. 発展学習として、授業で紹介された絵本・参考文献を読む。 <p>以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。</p>										
使用テキスト											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
「認定絵本士養成講座」テキスト2版	絵本専門士委員会独立行政法人国立青少年教育振興機構	中央法規出版	978-4-8243-0056-0								
使用テキスト：自由記載	販売日は別途通知する。										
参考図書											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
参考書：自由記載											
その他											

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	講義内容を多面的に十分に理解し, 得られた知識をもとに絵本の活用について考えることができる	提示された講義内容を多面的に十分に理解し, 得られた知識をもとに自ら問題意識を持ったことについて調べるなど, 絵本の活用について考えることができる	提示された講義内容を理解し, 得られた知識をもとに, 絵本の活用について深く考えることができる	提示された講義内容をおおむね理解し, 絵本の活用について考えることができる	提示された講義内容を部分的に理解し, 十分ではないが絵本の活用について考えることができる	提示された講義内容の理解が不十分であり, 絵本の活用について考えるための知識が不足している
技能	絵本の活用するための技術	絵本を活用した表現活動について十分理解し, ワークショップの企画・運営や絵本を紹介する技術について自分が将来行うことを想定した実用的な視点をもって実践ワークをすることができる	絵本を活用した表現活動について十分理解し, ワークショップの企画・運営や絵本を紹介する技術について基礎的な部分を体得した実践ワークをすることができる	絵本を活用した表現活動についておおむね理解し, ワークショップの企画・運営や絵本を紹介する技術について理解した部分を用いて基礎的なことを押さえた実践ワークをすることができる	絵本を活用した表現活動について部分的に理解し, ワークショップの企画・運営や絵本を紹介する技術について理解した部分を用いて実践ワークをすることができる	絵本を活用した表現活動についての理解が不十分であり, ワークショップの企画・運営や絵本を紹介する技術についての実践ワークが成り立たない
技能	レポート作成	レポートを作成する際の基本事項が整い, 授業で提示された内容をさらに自分で調べるなどして内容が発展的に充足している	レポートを作成する際の基本事項が整い, 授業で提示された内容について自分で調べるなどして工夫して表現されている。	レポートを作成する際の基本事項が整い, 授業で提示された内容について適切に表現されている。	レポートを作成する際の基本事項について十分に整っているとはいえないが, 授業で提示された内容について部分的に理解して表現されている。	レポートを作成する際の基本事項について十分に整っているとはいえず, 授業で提示された内容の表現が不十分である。

科目名	子どもと絵本Ⅱ		授業番号	CN217	サブタイトル						
教員	伊藤 智里、住野 好久、廣畑 まゆ美										
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	本科目は、「認定絵本士」資格取得のための科目である。本科目では、「子どもと絵本Ⅰ」での学修内容を踏まえながら、絵本の特徴と子どもの発達についての意義を理解した上で、絵本から広がり深まる様々なつながりを生み出す方法について考える。絵本に関わる様々な視点や実践事例から、絵本に関する必要な「知識」「技能」「感性」について修得し、認定絵本士に望まれる主な資質・能力（選択力、コーディネート力、企画力、コミュニケーション力、表現力、指導力）を体得する。認定絵本士養成講座対象科目であるため、次の条件の下に開講する。①受講定員は50名である。②「子どもと絵本Ⅰ」「子どもと絵本Ⅱ」の両方を履修し、全授業に出席することを原則とする。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 絵本を中心とした多様な子ども文化を体験することができる。 2. 絵本に関する世界の広がりや深まりを生み出す技術を知り、高めることができる。（選択力、コーディネート力、コミュニケーション力、企画力、指導力等） 3. 絵本を通して感性を豊かにする体験をすることができる。（表現力等） なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜技能＞の修得に貢献する。										
授業計画 備考	本科目は、認定絵本士養成講座カリキュラムに従い構成される。カリキュラムのコマ名を使用しているため「子どもと絵本Ⅰ」「子どもと絵本Ⅱ」の2科目を通じ、コマ名の通し番号が前後する部分がある。										
回	概要					担当					
第1回	子どもの心をとらえるもの（子どもの心をとらえて離さないもの） 外部講師（浅間）					伊藤・廣畑					
第2回	大人の心を豊かにする絵本（人生で3度、絵本を手にする喜び） 外部講師（浅間）					伊藤・廣畑					
第3回	絵本と出会う④（書店での出会い） 外部講師（都築）					伊藤・廣畑					
第4回	絵本の世界を広げる技術③（絵本コンシェルジュ術） 外部講師（都築）					伊藤・廣畑					
第5回	絵本を紹介する技術①（ブックトークの技術） 外部講師（都築）					伊藤・廣畑					
第6回	絵本が生まれる現場①（作家の感性に触れる） 外部講師（浅間）					伊藤					
第7回	絵本と出会う③（図書館等での出会い-絵本の活用及び地域連携の可能性-） 外部講師（高見）					伊藤					
第8回	おはなし会の手法②（おはなし会のテクニック） 外部講師（近間）					伊藤					
第9回	絵本のある空間（絵本のある望ましい空間とは） 外部講師（石原）					伊藤					
第10回	おはなし会の手法①（おはなし会を開こう） 外部講師（服部）					伊藤					
第11回	絵本の世界を広げる技術①（絵本を探す技術）（荻崎・遠藤）					伊藤					
第12回	絵本が生まれる現場②（絵本の編集） 外部講師（山川）					伊藤					
第13回	絵本を紹介する技術③（支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割） 外部講師（小坂）					伊藤					
第14回	心に寄り添う絵本（心のケアと絵本の可能性） 外部講師（小坂）					伊藤					
第15回	ディスカッション（認定絵本士に向けて）					住野・伊藤					
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢/態度	40		授業参加のための適切な準備、授業内での活動・実践的なワークへの積極的な参加、発表の状況によって評価する。								
最終課題レポート	40		課題について要点をおさえ、自分の考えを具体的に述べていること。コメントをフィードバックする。								
その他提出課題	20		提出課題の内容の適切さにより評価する。提出課題は返却し、コメントをフィードバックする。								
評価の方法：自由記載	本科目は「認定絵本士」資格取得に関わる科目であり、全出席を原則とする。事前・事後レポートの提出も必要である。 なお、認定絵本士は絵本専門士委員会（事務局：独立行政法人国立青少年教育振興機構）の定める資格取得要件に基づき、資格認定される。										
受講の心得	絵本や子どもに携わる様々な分野の外部講師の授業を受けることができる、貴重な機会である。自分の絵本への関わり方や将来絵本を使用して指導を行うことを念頭に置きながら、主体的に受講してほしい。										
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習・復習として、課題を課すことがある。 2. テキストを事前に読み、疑問点を明らかにする。 3. 発展学修として、授業で紹介された絵本・参考文献等を読む。 以上の内容を、週あたり4時間以上学修すること。										
使用テキスト											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
「認定絵本士養成講座」テキスト2版	絵本専門士委員会独立行政法人国立青少年教育振興機構	中央法規出版	978-4-8243-0056-0								
使用テキスト：自由記載	「子どもと絵本Ⅰ」「子どもと絵本Ⅱ」共通のテキストである。販売日は別途通知する。										
参考図書											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
参考書：自由記載											
その他											
備考											

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	絵本を活用するための技術	絵本を活用した活動について十分に理解し、おはなし会の企画・運営や絵本を紹介する技術について自分が将来行うことを想定した実用的な視点を持って実践ワークをすることができる。	絵本を活用した活動について十分に理解し、おはなし会の企画・運営や絵本を紹介する技術について基礎的な部分を体得した実践ワークをすることができる。	絵本を活用した活動についておおむね理解し、おはなし会の企画・運営や絵本を紹介する技術について理解した部分を用いて基礎的なことを押さえた実践ワークをすることができる。	絵本を活用した活動について部分的に理解し、おはなし会の企画・運営や絵本を紹介する技術について理解した部分を用いて実践ワークをすることができる。	絵本を活用した活動についての理解が不十分であり、おはなし会の企画・運営や絵本を紹介する技術についての実践ワークが成り立たない。
技能	レポート作成	レポートを作成する際の基本事項が整い、授業で提示された内容をさらに自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。	レポートを作成する際の基本事項が整い、授業で提示された内容について自分で調べるなどして工夫して表現されている。	レポートを作成する際の基本事項が整い、授業で提示された内容について適切に表現されている。	レポートを作成する際の基本事項について十分に整っているとはいえないが、授業で提示された内容について部分的に理解して表現されている。	レポートを作成する際の基本事項について十分に整っているとはいえず、授業で提示された内容の表現が不十分である。

科目名	子どもと楽器		授業番号	CN204A	サブタイトル						
教員	土師 範子、岡崎 三鈴										
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	<p>幼稚園教育要領等について講義を行う。子どもが豊かな音楽表現をするために楽器の種類を知る。教育（保育）現場で望ましい音楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解をする。また、楽器の扱いや奏法、応用の仕方について学ぶ。子どもの想像力を広げ、身体を使った音楽あそびを通して、「表現の楽しさ」を教える。子どもの発達段階に応じて、楽器を使用し、表現の幅を広げる指導の方法を学ぶ。</p>										
到達目標	<p>子どもの発達に応じた楽器を理解する。言葉や身体を使ってリズムの理解ができるようになる。楽器やリズムの楽しさを理解する。子どもに「表現の楽しさ」を教えるには、指導者（保育者）自身がまず、集中して音に耳を傾ける事ができ、子どもの気持ちになって、生き生きと表現することを楽しむことができるようになることが大切である。</p> <p>そして、それらを教育（保育）現場で生かすことができる知識を身に付けることを目標とする。</p> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の習得に貢献する。</p>										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	領域「表現」と楽器の関係 「表現」と音楽表現・楽器の関係について解説する						土師範子				
第2回	非言語コミュニケーションの核としての楽器 言語を超えた対話ツールとして、歴史や社会、そして保育の現場で楽器が果たしてきた役割を理解する						岡崎三鈴				
第3回	子ども楽しむレベル演奏 色分け楽譜や合図の工夫など、導入のアイデア等も理解する。						岡崎三鈴				
第4回	ヘルアンサンブルによる共感体験と幼児向けリズム楽譜作成 ・アンサンブルにおける役割分担と責任感を体験する。 ・演奏へのハードルを下げる環境構成としての楽譜作成を習得する。						岡崎三鈴				
第5回	指導者としてのパフォーマンス 子どもたちに語りかけるような明るい表情や、分かりやすい実演(デモンストレーション)を習得してグループ発表を行う。						岡崎三鈴				
第6回	「音をつくる」プロセスを学ぼう！ヴァイオリン体験ー 一つの音を生み出す喜びと、その難しさ(子どもが初めて楽器触れる時の心境)を理解する。						岡崎三鈴				
第7回	「指一本から始まるハーモニー」主要コードを習得ーウクレレ体験ー 少ない指使いで豊かな和音(コード)を奏でられるウクレレを通じて、演奏のハードルを下げ音楽を身近に引き寄せる体験をする。						岡崎三鈴				
第8回	廃材から生まれる楽器作りとプレゼンテーション 教材研究や安全への配慮の確認を行い、プレゼンテーションを通してアイデアを共有する。						岡崎三鈴				
第9回	ピアノ弾き歌いの実践 子どもの生活と共にあるピアノに改めて着目し、取り組む。						土師範子				
第10回	言葉とリズム リズムを言葉におきかけるための、拍を理解し、言葉から音楽へつなげる。						土師範子				
第11回	日本の楽器と鑑賞 1 日本の伝統楽器を鑑賞し、実際に演奏を聴く魅力や重要性を体感する。						土師範子				
第12回	日本の楽器と鑑賞 2 鑑賞態度を養うとともに、幼児の鑑賞体験について検討する。						土師範子				
第13回	日本の楽器と演奏方法 1 日本の伝統楽器の扱い方や演奏方法について理解する。						土師範子				
第14回	日本の楽器と演奏方法 2 日本の伝統楽器を用いて幼児が身近に感じられるよう模索する。						土師範子				
第15回	子どもと楽器 幼児期の楽器の意義や重要性について理解する。						土師範子				
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢/態度	40		意欲的な受講態度、発表・グループ課題への参加、予・復習の状況によって評価する。								
レポート	30		出された課題で問われている事の意味が理解でき、それに合った内容を述べているかを評価する。提出後に授業内にて講評する。								
小テスト・実践発表	30		各回の主要なポイントの理解を評価する。								
評価の方法：自由記載	追・再試有り										
受講の心得	<p>子ども、指導者の、教育（保育）現場での気持ちを想像すること。 音を出す時、出さない時のメリハリを大切にすること。 学ぶ者同士、お互いに、良い所を認め合うこと。 日常生活の中でも、さまざまな音やリズム遊びの要素を発見し、実践できるようにすること。</p>										
授業外学修	<p>1. 予習として、子どもの楽器について調べる。 2. 復習として、授業内容を実際の保育現場をイメージして実践する。または、授業の内容を踏まえて課題を行うことで復習とする。 3. 発展学習として、ピアノなどの楽器や、リズムの練習をする。また、単発の授業ではなく、それぞれの講義内容が繋がっていることを踏まえ、授業の内容を理解、発展させていく。 以上の内容を、週あたり4時間以上学修する事。</p>										
使用テキスト											
書名	著者		出版社		ISBN			備考			
使用テキスト：自由記載	「こどものうた100」、講義ごとに必要なプリントを配布します。										
参考図書											
書名	著者		出版社		ISBN			備考			
参考書：自由記載	適宜紹介します。										
その他											

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	ジュニアオーケストラ講師(岡崎)
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づき評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 子どもが豊かな音楽表現をするための、楽器の種類を知ることができる。	子どもが豊かな音楽表現をするために、積極的に楽器の種類を知り、それらの特性を理解し発展することができる。	子どもが豊かな音楽表現をするために、楽器の種類を十分に知ることができている。	子どもが豊かな音楽表現をするために、必要な楽器の種類を理解できている。	子どもが豊かな音楽表現をするために、必要な楽器の種類を理解しようと努力している。	子どもが豊かな音楽表現をするために、必要な楽器の種類を理解しようとしている。
知識・理解	2. 教育(保育)現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解をする。	教育(保育)現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解が十分にでき、発展することができる。	教育(保育)現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解が十分にできている。	教育(保育)現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解ができている。	教育(保育)現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解しようと努力している。	教育(保育)現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために、身体や言葉、楽器を使ってリズムの理解しようとしている。
思考・問題解決能力	年齢や季節などに合った曲を思考し、曲に合った楽器を選びリズムの考案や奏法について検討できる。	季節や年齢の発達に応じた楽曲や楽器を十分に考えることができる。また、年齢や楽器に合ったリズムや奏法について、十分に考えることができる。	季節や年齢の発達に応じた楽曲や楽器をある程度考えることができる。また、年齢や楽器に合ったリズムや奏法について、ある程度考えることができる。	季節や年齢の発達に応じた楽曲や楽器を選択することができる。また、年齢や楽器に合ったリズムや奏法を考えることができる。	季節や年齢の発達には相応しくない曲を選択してしまう。また、年齢や楽器に適さないリズムや奏法を検討してしまう。	季節や年齢の発達に応じた楽曲や楽器を選択することができない。リズムや奏法の検討ができない。
技能	曲や楽器に応じたリズム作成や演奏ができる。	曲や楽器に応じて適切なリズムを作成することができ、楽曲に適した表現で大変優れた演奏ができる。	曲や楽器に応じてある程度リズムを作成することができ、楽曲に適した表現で優れた演奏ができる。	曲や楽器に応じてリズムを作成することができ、楽曲に適した演奏ができる。	ある程度リズムを作成することができ、演奏ができる。	リズムの作成も演奏もできない。
態度	音楽に親しみ、演奏を楽しむことができる。	様々な楽器や楽曲に積極的に関わり親しんでおり、自分が演奏するだけでなく他の人の演奏にも関心を持って楽しむことができる。	様々な楽器や楽曲に親しんでおり、自分が演奏するだけでなく他の人とも演奏を楽しむことができる。	様々な楽器や楽曲に取り組み、みんなと演奏することができる。	取り組みが消極的であり、他の人との演奏を楽しむことが苦手である。	取り組みができない。演奏ができない。

科目名	子どもと手芸	授業番号	CN205	サブタイトル	
教員	齊藤 佳子				
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期
				授業形態	演習（対面授業科目）
					必修・選択
					選択
授業概要	乳幼児の年齢と発達や生活に即した布おもちゃの製作に関する知識と技能について講義する。また、製作した布おもちゃの特性を生かした保育への取り入れ方や具体的な保育場面を想定した布おもちゃの活用方法の考察を通して保育実践力を育成する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の年齢と発達や生活に即した布おもちゃの特徴を理解し、製作することができる。 ・製作した布おもちゃの遊び方を工夫することができる。 ・保育現場で役立つ裁縫に関する知識と技能を身につける。 ・製作を通して、計画的、能動的に作業する態度を身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。				
授業計画 備考	人形、布製ボール、フェルトのボタン・フォック・スナップ・ファスナー・ひも通し・穴通し・かりくり、指人形、布絵本など、さまざまな布おもちゃが考案されている。製作する布おもちゃに関しては、受講者の要望に柔軟に応じる。				
回	概要			担当	
第1回	布おもちゃの魅力を探る ・布おもちゃの乳幼児にとっての意義について、現在、保育現場において、どのような布おもちゃが存在しているのか、現状を調べるなどして把握する。 ・乳幼児の年齢と発達や生活に即した布おもちゃの特徴を理解する。 ・製作手順として、計画、製作の準備、製作、仕上げ、片付けといった作業の流れがあり、効率や安全のために作業の順番を決める必要があることを理解する。				
第2回	布おもちゃに関する教材研究 ・布おもちゃ作りの資料収集、題材の選定、製作に必要な材料と用具を準備する。 ・製作に必要な材料として、布の性質に適した糸や製作する物に応じて準備するものが必要であることを理解する。				
第3回	フェルトを用いた指人形の製作、素材の知識 ・布を用いて製作する際、目的や使い方に応じて布の丈夫さや縫いやすさなどの性質を考え、適したものを選ぶことを理解する。				
第4回	布（フェルトなど）を用いた名札・ワッペンづくり(1) ・製作の準備作業として布を裁ち、縫う線にしるしをつけたり、まち針で布と布をとめたりして縫い合わせる。 ・手縫いには、縫い針に糸を通したり、糸端を玉結びや玉どめしたり、布を合わせて縫ったりすることなどがあることを理解する。				
第5回	布（フェルトなど）を用いた名札・ワッペンづくり(2) ・手縫いとして、なみ縫い、返し縫い、かがり縫い、ブランケットステッチなどの縫い方の特徴を理解し、縫う部分や目的に応じて、適した手縫いを選ぶ必要があることを理解し、できるようにする。 ・縫った後に縫い目を整えたり、糸の始末をしたりする。				
第6回	布おもちゃ作り(1) 布おもちゃ製作の手順、製作計画、型紙の作り方、型紙の写し方 ・製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解する。				
第7回	布おもちゃ作り(2) 布の切り方、基本的な縫い方 ・布の裁ち方や手縫いの仕方、目的に応じた縫い方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を理解する。				
第8回	布おもちゃ作り(3) 手芸綿の入れ方 ・綿を入れる際は、かがり縫いやブランケットステッチをして布端をかがることによって綿が出ないように布と布を縫うことを理解する。				
第9回	布おもちゃ作り(4) 顔・体・手・足のつけ方 ・挟み縫いの知識及び技能を習得する。				
第10回	布おもちゃ作り(5) 手芸用ボンド、接着剤の特性 ・手芸用ボンドと接着剤の特性を理解し、使用するメリットとデメリットを考える。				
第11回	布おもちゃ作り(6) 面ファスナー・マジックテープ、ひも、安全ピン、キーホルダーのつけ方 ・面ファスナー・マジックテープの名称を確認し、縫い付け方の知識及び技能を習得する。				
第12回	布おもちゃ作り(7) 製作の工夫、表情のつけ方 ・自分の作品を上げるために、授業で身に付けた製作手順や手縫いの技能をより上手く活用できるようにする。				
第13回	布おもちゃ作り(8) 仕上げ ・縫い始めや縫い終わり、角の縫い方を考えた処理の仕方などを確認する。				
第14回	年齢と発達に適した布おもちゃと遊びの展開方法(1) ・製作した作品を活用した保育実践について考える。				
第15回	年齢と発達に適した布おもちゃと遊びの展開方法(2) ・製作した作品を活用した保育実践について発表する。				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントペーパーにより、評価を行う。 ・布おもちゃの製作に意欲をもって取り組むことができる。 ・製作計画に沿って、製作することができる。 ・布おもちゃを作る楽しさや使う喜びを感じることができる。		
	レポート	20	布おもちゃ製作の立案から遊び方への展開に関して授業で学修した内容を深めることができたかを評価する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。		
	小テスト				
	定期試験				
	その他	60	以下の製作物について、丈夫さや美しさ、保育での使用目的の視点から考え、工夫して製作に取り組むことができたかを評価する。 指人形：15%、名札・ワッペン：15%、布おもちゃ：30%		
評価の方法：自由記載	授業ごとに自分で感じたこと、工夫したこと、考えたことについてのレポートを作成して提出する。				
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・演習中心の授業なので、毎回出席することが大切である。作品だけが評価されるのではなく、授業に取り組む姿勢や態度も重要である。 ・製作において必要となる参考資料や材料等は、各自が必要に応じ自主的に準備するものとする。 				
授業外学修					

使用テキスト		書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト	自由記載					
参考図書						
書名	著者	出版社	ISBN	備考		
参考書：自由記載						
その他						
備考						
注意事項						
担当教員の 実務経験の有無	無					
担当教員の 実務経験						
担当教員以外で 指導に関わる実務経験者の有無	無					
担当教員以外で 指導に関わる実務経験者						
実務経験をいかした 教育内容						

ルーブリック						
評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴を理解している。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について、正確に理解し述べるができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について、ほぼ正確に理解し述べるができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について、概ね述べるができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について、正確に述べるができないが、自分の言葉では表現できる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について、まったく表現することができない。
知識・理解	2. 保育現場で役立つ裁縫に関する知識を理解している。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について、正確に理解し述べるができる。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について、ほぼ正確に理解し述べるができる。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について、概ね述べるができる。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について、正確に述べるができないが、自分の言葉では表現できる。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について、まったく表現することができない。
思考・問題解決能力	製作した布おもちゃの遊び方を考え工夫することができる。	製作した布おもちゃの遊び方を多角的に考え工夫することができる。	製作した布おもちゃの遊び方を考え工夫することができる。	製作した布おもちゃの遊び方を考えある程度工夫することができる。	製作した布おもちゃの遊び方を十分に考え工夫することができていない。	製作した布おもちゃの遊び方をまったく考えることができていない。
技能	1. 乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃを製作することができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃを大変よく製作することができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃを製作することができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃをある程度製作することができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃを十分に製作することができていない。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃをまったく製作することができていない。
技能	2. 保育現場で役立つ裁縫に関する技能を身につけている。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能を大変よく身につけている。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能を身につけている。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能をある程度身につけている。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能を十分に身につけていない。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能をまったく身につけていない。
態度	1. 授業への取り組みの姿勢や態度は意欲的である。	授業への取り組みに非常に意欲的な姿勢や態度がみられ、適切なコメントやレポートを提出している。	授業への取り組みに意欲的な姿勢や態度がみられ、コメントやレポートを提出している。	授業への取り組みにある程度意欲的な姿勢や態度がみられ、コメントやレポートを提出している。	授業への取り組みに十分な意欲的な姿勢や態度がみられず、不適切なコメントやレポートを提出している。	授業への取り組みに意欲的な姿勢や態度がみられず、コメントやレポートが未提出である。
態度	2. 製作を通して、計画的、能動的に作業する態度を身につけている。	製作を通して、計画的、能動的に作業する態度をしっかり身につけている。	製作を通して、計画的、能動的に作業する態度を身につけている。	製作を通して、計画的、能動的に作業する態度をある程度身につけている。	製作を通して、計画的、能動的に作業する態度を十分に身につけていない。	製作を通して、計画的、能動的に作業する態度をまったく身につけていない。

定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		
評価の方法： 自由記載	<ul style="list-style-type: none"> 授業ごとに自分で感じたこと、工夫したこと、考えたことについてのレポートを作成して提出する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。 基礎概念の理解度についての試験を実施する。 	
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。 授業に前向きに取り組み、考えたり、工夫しようとしている姿勢を重視する。 	
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> 事前に授業の内容をテキストで予習しておく。 授業後に講義内容の整理や課題に取り組む。 日常的に環境を意識し、子どもの視点で美しいものや興味を引きそうなものを探し、ノートに記録する。 身近なものを使い、子どもが喜びそうな工作を考える。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法	小櫃 智子 編著	わかば社	9784907270339	1760円(本体1600+税)
使用テキスト： 自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	無			
担当教員の 実務経験				
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかした教育 内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 領域「環境」のねらいと内容について理解している。	領域「環境」のねらいと内容を正確に理解し、わかりやすくポイントを押さえて解説することができる。	領域「環境」のねらいと内容を正確ではないがほぼ理解し、ポイントを押さえて解説することができる。	領域「環境」のねらいと内容を概ね理解し、ある程度ポイントを押さえて解説することができる。	領域「環境」のねらいと内容について、正確に解説できないが、自分の言葉では表現できる。	領域「環境」のねらいと内容について、まったく表現することができない。
知識・理解	2. 領域「環境」の内容を具体的な事例を使いながら、子どもの活動をイメージすることができる。	領域「環境」の内容を具体的な事例を使いながら、子どもの活動を大変よくイメージすることができる。	領域「環境」の内容を具体的な事例を使いながら、子どもの活動をイメージすることができる。	領域「環境」の内容を具体的な事例を使いながら、子どもの活動がある程度イメージすることができる。	領域「環境」の内容を具体的な事例を使いながら、子どもの活動を十分にイメージすることができない。	領域「環境」の内容を具体的な事例を使いながら、子どもの活動をまったくイメージすることができない。
思考・問題解決能力	1. 領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べ、保育構想の向上について多角的に考察している。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べ、保育構想の向上について考察している。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べ、自分の考えを述べることができる。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べることができているが、自分の考えを述べることができない。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べることができていない。
技能	1. 具体的な保育を想定した指導計画を作成できる	具体的な保育を想定した指導計画を正確に作成できている。	具体的な保育を想定した指導計画をほぼ作成できている。	指導計画をある程度作成することができる。	指導計画を十分に作成することができていない。	指導計画が未提出である。
技能	2. 動植物の飼育・栽培に関する活動ができる	課題に対し、写真を貼付する等の工夫をしつつ観察結果と考察を述べることができる。	課題に対し、観察結果と考察を述べることができる。	課題に対し、観察結果と考察をある程度述べることができる。	課題に対し、観察結果と考察を十分に述べることができていない。	課題が未提出である。
態度	1. 授業に意欲的に参加できる	質問など積極的に行い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切なコメントペーパーを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、コメントペーパーを提出している。	授業に出席し、授業内容を理解した上でコメントペーパーを提出している。	授業に出席し、コメントペーパーを提出しているが、理解が十分ではない。	授業に出席しているが、コメントペーパーの提出をしていない。

科目名	子ども言葉	授業番号	CP218A	サブタイトル					
教員	伊藤 智里、山本 房子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	発達にともなう子どもの「言葉」の世界の拡がりについて、テキストから詳しく学び、理解を深める。また、言葉を通して、豊かな表現力の育ちを支えるための具体的な保育実践のあり方について学ぶ。								
到達目標	保育内容領域「言葉」について理解する。幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。 人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能について説明できる。 言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。 児童文化財について基礎的な知識を身に付け、実践することができる。 なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	保育と保育内容領域「言葉」-人間と言葉- 言葉とは何かについて考え、「話し言葉」と「書き言葉」の主な機能について理解する						伊藤		
第2回	乳幼児期の言葉の獲得 子どもには言葉を獲得する力があることを理解し、乳幼児が言葉の仕組みを理解する過程を概観する						伊藤		
第3回	乳幼児の発達と言葉 母語である日本語の特徴を理解し、乳幼児が言葉を獲得する手がかりとなる点について知る						伊藤		
第4回	言葉の豊かさ-言葉遊び- 日本語の美しさ、豊かさ、美しさを感じ、子どもに伝えたい日本語を言葉遊びで体感する						伊藤		
第5回	児童文化財-紙芝居- 紙芝居の歴史、特徴、演じ方の知識を習得し、実際に紙芝居を使って確認する						山本		
第6回	児童文化財-紙芝居の実際- 紙芝居の特徴を生かし、演じ方を工夫しながら模擬保育を行い、評価する						山本		
第7回	児童文化財-お話- 素話の特徴を知り、保育に取り入れる際の配慮について理解する						山本		
第8回	児童文化財-お話の実際- 素話の模擬保育を行い、評価する						山本		
第9回	児童文化財-ペープサート- ペープサートの特徴を知り、言葉を育てる視点からねらいを設定してペープサートを制作する						伊藤		
第10回	児童文化財-ペープサートの実際- 制作したペープサートを用いた模擬保育を行い、評価する						伊藤		
第11回	児童文化財-パネルシアター- パネルシアターの特徴を理解し、言葉を育てる視点からねらいを設定して指導できるように工夫して制作する						伊藤		
第12回	児童文化財-パネルシアターの実際- 制作したパネルシアターを用いて模擬保育を行い、評価する						伊藤		
第13回	児童文化財-文字あそび-かるた- かるたの歴史、特徴を理解し、文字を育てる視点で工夫してかるたを制作する						伊藤		
第14回	児童文化財-かるたの実際- 周囲の人と関わりながら遊ぶことを意識して、制作したかるた遊びを実践する						伊藤		
第15回	児童文化財-絵本と子ども- 絵本の歴史、特徴、保育活動と絵本について理解を深め、読み聞かせ実践を行う						伊藤		
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	授業への積極的な取組（体験活動、発表など）の状況によって評価する。						
	定期試験	50	最終的な理解度について評価する。						
	制作物/提出物	30	児童文化財の制作物について、保育で使用するものとして適切か評価する。全体的な傾向について、授業内でコメントをする。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに、保育者・教育者として子どものよいモデルとなることができるよう前向きで誠実な態度でのぞむ。								
授業外学修	テキスト及び参考書の授業内容にかかわる部分を予習をして、課題を把握し、授業に出席する。授業後は振り返りをし、記録の整理をする。 様々な児童文化財による実践・演習などの授業前後の準備・振り返りをする。 このことについて、1時間以上の学修をすること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	保育学生のための「幼児と言葉」言葉指導法	馬見塚昭久/小倉直子	ミネルヴァ書房	978-4-623-09251-2	2400 + 税				
使用テキスト：自由記載									
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」								
その他									
備考	令和4年度改訂								
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者	
実務経験を いかした教育 内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 保育内容領域「言葉」の理解	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得し、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを十分に理解することができる。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができる。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき、養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを概ね理解することができる。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」について、ねらい及び内容を知識として修得することができる。	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」について必要な知識を修得することが不十分である。
知識・理解	2. 子どもが言葉を獲得するまでの発達過程の理解	人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能について十分に理解し、子どもの発達と具体的な事例を結び付けて説明することができる。	人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能について十分に理解し、子どもの発達を整理して説明することができる。	人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能についておおむね理解し、子どもの発達を整理して説明することができる。	人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能についておおむね理解することができ、その説明をすることができる。	人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能についての理解が不十分である。
知識・理解	3. 児童文化財の基礎的知識	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し、さらに調べるなどして児童文化財の種類や年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れる工夫について知識を十分に深めることができる。	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し、さらに調べるなどして児童文化財の種類や年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れる工夫について知識を深めることができる。	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し、さらに調べるなどして児童文化財の種類や年齢や場面に合わせた使い方、保育に取り入れることについて知識を修得することができる。	それぞれの児童文化財の特徴を理解し、児童文化財の種類や場面に合わせた使い方、保育に取り入れることについて知識を修得することができる。	児童文化財の特徴、使い方等の理解が不十分である。
技能	1. 言葉を育てる児童文化財の制作	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、言葉を育てる視点から子どもと使うことを想定して対象年齢を自分なりに設定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、言葉を育てる視点から子どもと使うことを大まかに想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し、留意点を制作に反映することができ、言葉を育てる視点から子どもと使うことを想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な児童文化財の制作方法を理解しているが、子どもと実際に使うことができる程度の丁寧さが不十分である。	授業提示された基礎的な児童文化財の制作方法の理解が不十分であり、留意点を制作に反映していない。
技能	2. 言葉を育てる児童文化財の活動実践	学修したすべての児童文化財で、子どもとの活動を想定した年齢、場面、ねらいに適切な保育活動となるよう、言葉を豊かにする配慮を考えて実践することができる。	8割以上の児童文化財で、子どもとの活動を想定した年齢、場面、ねらいに適切な保育活動となるよう、言葉を豊かにする配慮を考えて実践することができる。	6割以上の児童文化財で、子どもとの活動を想定した年齢、場面、ねらいに適切な保育活動となるよう、言葉を豊かにする配慮を考えて実践することができる。	子どもとの活動を想定した年齢、場面に適切な児童文化財をいくつか選択し、実践することができる。	子どもとの活動を想定した年齢、場面に適切な児童文化財を選択し、実践することが不十分である。
態度	1. グループ活動の取り組み	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、積極的に話し合いや実践に参加することで、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、グループ活動に関わることができる。	自分の意見は言えないが、他人の話を聞き、グループ活動に関わることができる。	グループ活動への参加ができておらず、個人活動となっている。
態度	2. 提出物準備や事前の内容学習など、自己学習をすることができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、発展的な内容を取り入れて制作することができる。期限内に提出することができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、自分なりに工夫して制作することができ、期限内に提出することができる。	課外での予習復習をすることができ、提出物の体裁を整え、期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であるが、提出物をまとめ、期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であり、提出ができない。

科目名	子どもと表現		授業番号	CP220A	サブタイトル						
教員	土師 範子、伊藤 智里、廣畑 まゆ美										
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことが領域「表現」の目指すものである。領域「表現」に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現あそびや環境の構成などについて実践的に学ぶ。										
到達目標	<p>(1)幼児の表現の姿や、その発達について理解できる。</p> <p>1)幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。</p> <p>2)幼児の発達段階を理解した上で、表現を生成する過程について理解できる。</p> <p>3)幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。</p> <p>(2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な技能を学ぶことを通し、幼児の表現活動を支援することができる。</p> <p>1)様々な表現を感じる・みる・きく・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。</p> <p>2)身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を活かした表現ができる。</p> <p>3)表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。</p> <p>4)協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。</p> <p>5)様々な表現の基礎的な技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。</p> <p>なお、本講義はディプロマ・ポリシーの〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>										
授業計画 備考	令和7年度改訂										
回	概要					担当					
第1回	乳幼児の生活や遊びにおける領域「表現」の位置づけ ー領域「表現」のねらいや内容・生活や遊びにおける表現とは					土師範子					
第2回	子どもの発達と表現 ー模倣と創造に着目して					廣畑まゆ美					
第3回	「表現」と「感性」 ー子どもにとって豊かな感性を育むことと表現することについて理解する					伊藤智里					
第4回	子どもの自由な表現とは ー“わざ”の概念に着目して					廣畑まゆ美					
第5回	身体的な表現 ー身体で表現するとはどういうことか検討する					土師範子					
第6回	保育の中の身体表現 ー保育の中の身体表現について検討する					伊藤智里					
第7回	造形的な表現 ー乳幼児が素材にかかわり試し感じる力を育む過程についての検討					伊藤智里					
第8回	和楽器を用いた表現活動 ー日本の伝統楽器を用いた表現の模索					土師範子					
第9回	「わらべうた」を用いた表現活動 ー音楽的な活動の出発点					廣畑まゆ美					
第10回	生活から表現へ 子どものさまざまな表現の明確化					土師範子					
第11回	自分たちの生活で物語を作る 生活の中から生まれるごっこ遊びから劇遊びにつながる表現遊び					伊藤智里					
第12回	普段の遊びから発表会へ① ー子どもの遊びの展開と表現の可能性					廣畑まゆ美					
第13回	普段の遊びから発表会へ② ー総合的な活動としての領域複合的な表現の在り方					廣畑まゆ美					
第14回	普段の遊びから発表会へ③ ー子どもの豊かな表現を支える保育者の援助の具体を検討する					伊藤智里					
第15回	これからの「表現」 子どもの表現を引き出す指導法につなげて					土師範子					
授業計画 備考2											
評価の方法											
	種別	割合	評価基準・その他備考								
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な授業態度、予・復習の状況、毎授業後に提出するコメントペーパーによって評価する。								
	実践発表	50	各課題に応じたテーマの理解や、内容の取り組みについて評価する。課題提出後に全体的な傾向についてコメントする。								
	定期試験	30	授業の内容理解を筆記試験で評価する。								
評価の方法：自由記載	科目の特性上、再試は設けない。追試は対応する。										
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはということなのかについて探求してほしい。										
授業外学修	<p>1 復習として、課題を課すことがある。</p> <p>2 予習として、資料を配布することがある。</p> <p>3 発展学修として、授業で紹介された参考文献等を読む。</p> <p>以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。</p>										
使用テキスト											
	書名	著者	出版社	ISBN	備考						
使用テキスト：自由記載	幼稚園教育要領、保育所保育指針、保幼連携型認定こども園教育・保育要領										
参考図書											
	書名	著者	出版社	ISBN	備考						
参考書：自由記載	適宜提示する。										

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務経 験者の有無	
担当教員以 外で指導に 関わる実務経 験者	
実務経験を いかした教育 内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 領域「表現」について理解し、子どもを想定したねらいや内容を考察することができる。	領域「表現」のねらいと内容を理解し、幼児の表現と発達との関連性を十分に考察し、問題提起や問題解決を図ることができる。	領域「表現」のねらいと内容を理解し、幼児の表現と発達との過程の関連性を考察し、問題提起や問題解決が概ね行うことができる。	領域「表現」のねらいと内容を理解し、幼児の表現と発達との過程の関連性を考察し、問題について考えることができる。	領域「表現」のねらいは理解できているが、関連性や問題等について考察が不十分である。	領域「表現」のねらいと内容を理解できておらず、関連性や問題等についての考察が全くできていない。
知識・理解	2. 乳幼児期の音楽表現・造形表現・身体表現の特性について理解し、ねらいや内容を考えることができる。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性と乳幼児が表現を生成する過程について十分に理解し、ねらいや内容を十分に考察し、問題意識を持ち、問題解決を図ることができる。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性と乳幼児が表現を生成する過程について理解し、ねらいや内容を概ね考察することができる。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性を理解し、ねらいや内容を考察できる。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性の理解が不十分であり、ねらいや内容を考察することが不十分である。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性を理解しておらず、ねらいや内容を考察することが全くできない。
技能	1. 基礎的な表現の技能を修得している。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して、基礎的な表現の技能を十分に修得し、幼児の表現活動を支援することができる。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して、基礎的な表現の技能を修得し、幼児の表現活動を支援することができる。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して、基礎的な表現の技能を修得している。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通じた基礎的な表現の技能の修得が不十分である。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通じた基礎的な表現の技能を修得できていない。

科目名	保育計画 I		授業番号	CQ216A	サブタイトル					
教員	岡崎 三鈴									
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習 (対面授業科目)	必修・選択	選択	
授業概要	本講義では、子ども一人ひとりの発達や生活に即した質の高い保育を実践するために不可欠な「保育計画」について学びます。幼稚園教育要領、保育所保育指針等の基本原則を理解した上で、全体的な計画から短期・長期の指導計画、さらには個別の配慮が必要な場合の計画作成まで、その意義と具体的手法を修得します。									
到達目標	【知識・理解】幼稚園・保育所等の各要領・指針における計画の意義と位置づけ、および指導計画の体系を正しく理解している。 【思考・問題解決能力】乳幼児の発達過程に基づき、適切な「ねらい」を設定し、それらを実現するための「環境構成」や「予想される子どもの姿」を論理的に考察できる。 【技能】各年齢（乳児から5歳児まで）の特性に応じた短期・長期の指導計画および部分指導案を、適切な形式と表現で作成できる。 【態度】子どもの最善の利益を保障するために、計画・実践・記録・評価（PDCAサイクル）の重要性を認識し、誠実に計画作成に取り組む姿勢を持つ。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。									
授業計画 備考										
回	概要					担当				
第1回	保育における計画の意義 なぜ計画が必要か。子どもの育ちを支える羅針盤としての役割。									
第2回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要 幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育の共通性と特性。									
第3回	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ 法令に基づく計画作成の義務と、保育の質の向上に向けた法的根拠。									
第4回	指導計画の全体構造について 全体的な計画から年間・月間・週日案まで、各計画の関連性。									
第5回	部分指導案の考え方と作成(1) 短期指導計画の種類と作成原理：活動の構成と時間の流れ。									
第6回	部分指導案の考え方と作成(2) ねらいと内容の設定：子どもの姿から導き出す具体的な意図。									
第7回	乳児の指導計画作成事例と展開 個々の生活リズムを尊重した計画の特性と援助のポイント。									
第8回	乳児の指導計画作成事例と作成 0・1歳児を想定した個別計画およびグループ計画の作成。									
第9回	乳児の指導計画作成事例と作成 2歳児を想定した「個の育ち」と「周囲との関わり」を支える計画。									
第10回	幼児の指導計画作成事例と展開と幼児の指導計画作成事例と作成(1) 生活習慣の自立と、初めての集団生活を支える計画の立案。									
第11回	幼児の指導計画作成事例と作成(2) 友だちとの関わりが深まる時期の集団遊びと環境構成。									
第12回	幼児の指導計画作成事例と作成(3) 共同作業や就学を見通した「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の反映。									
第13回	長期指導計画の作成 年間・期別計画の立て方：季節や行事、発達の見通しを盛り込む。									
第14回	長期指導計画の作成 指導計画の評価と反省：記録に基づいた次期計画への改善策。									
第15回	まとめと小テスト まとめと内容の理解度ををはかるための小テストを行う。									
授業計画 備考2										
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考							
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。							
	レポート	30	三法令に基づき、子どもの実態に合った「ねらい・環境・援助」を正しい書式で具体的に示し、改善への振り返りが適切に記述できているかを評価する。提出する指導案・レポートについてはコメントを記入して返却する。							
	小テスト	50	保育計画に関わる知識・理解について評価する。							
評価の方法：自由記載										
受講の心得	子どもの最善の利益を保障するため、実習や現場を常に見据え、発達理論に基づいた『生きた計画』を誠実に作成する姿勢を持って臨んでください。									
授業外学修	1, 次回授業までに、毎回授業終了時に出す課題を行い、練習すること。 2, 指導案作成の課題については、実際にシミュレーションし、様々な角度から突き詰めて検討すること。 以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。									

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』	内閣府・文部科学省・厚生労働省	チャイルド本社	9784805402283	本体500円＋税
保育の計画と評価	ト田真一郎	ミネルヴァ書房	9784623079650	本体2500円＋税
使用テキスト：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府 フレーベル館			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	幼稚園教育要領等の三法令における計画の位置づけや、指導計画の体系(全体的な計画、長期・短期計画)に関する専門用語を正しく理解している。	各法令の性格や計画の体系を深く理解し、用語を正しく用いて論理的に説明できる。	各要領・指針の概要と、短期・長期計画の役割を正確に理解している。	保育計画に関する基本的な概念を概ね理解している。	保育者として最低限必要な法令や計画の種類を知っている。	計画の意義や法令上の位置づけが理解できていない。
思考・問題解決能力	乳幼児の発達過程や個々の実態(興味・関心、生活リズム)を的確に分析し、子どもの育ちを支えるために最適な「ねらい」を導き出すとともに、その達成に向けた「環境構成」や「保育者の援助」の在り方を、論理的かつ具体的に考察できる。	子どもの実態と「ねらい」環境構成・援助の間に強い整合性があり、「なぜこの援助が必要か」という根拠を発達理論に基づき独創的かつ説得力を持って提示できる。想定外の子どもの姿も予測し、柔軟な対応策まで考案できている。	各年齢の発達特性を正しく捉え、子どもの「育ちの課題」に応じた適切なねらいを設定できている。保育者の援助についても、子どもの主体性を引き出すための工夫が論理的に構築されている。	提示された事例や一般的な発達指標に対し、講義で示された標準的な援助方法や配慮事項を妥当に選択できる。計画の各項目に矛盾がなく、一貫性のある思考ができていく。	指示された状況において、健康・安全への配慮など保育として最低限必要な判断ができていく。子どもの具体的な姿と「ねらい」の結びつきには乏しいが、標準的な保育の枠組みで考察できている。	子どもの発達段階を無視した活動を計画する、あるいは安全への配慮が欠けるなど、保育者として不適切な判断が見られる。ねらいと援助の内容が乖離しており、論理的な思考ができていない。
技能	三法令(幼稚園教育要領等)に基づき、各年齢(乳児から5歳児まで)の特性に応じた短期・長期の指導計画および部分指導案を、実習や現場で通用する適切な書式、専門用語、および具体的な表現を用いて作成できる。	子どもの実態と「ねらい」が極めて論理的に繋がっており、環境構成や保育者の具体的援助(言葉掛けや配慮)が、第三者が読んでも一目で実行可能なレベルで具体的に記述されている。	講義で学んだ発達理論や作成原理を正しく反映させ、各年齢にふさわしい「ねらい」と「内容」を整合性を持って記述できる。専門用語を正確に使い分け、適切な書式で作成されている。	基本的な指導案の書式に従い、各項目(ねらい、環境構成、予想される子どもの姿など)を概ね適切に記述できる。一部に表現の不十分さはあるが、保育の意図は伝わるレベルである。	基礎的な用語や書式を使い、最低限の項目を埋めた計画を作成できる。発達段階への配慮や援助の具体性には欠けるが、指導計画としての最低限の体裁を保っている。	指導案の体裁をなしていない(白紙や極端な未完成)。または、ねらいと内容が著しく乖離しているなど、計画作成の基礎技能が身につけていない。
態度	子どもの最善の利益を保障するために、計画・実践・記録・評価(PDCAサイクル)の重要性を認識し、誠実に計画作成に取り組む姿勢を持つ。	期限厳守はもちろん、子どもの姿を丁寧に想定しながら主体的に作成に取り組んでいる。	毎回の作成課題に真摯に取り組む、意欲的に技能を習得しようとしている。	授業の心得を守り、継続的に課題に取り組んでいる。	遅刻・欠席をせず、提出物を期限内に提出している。	課題の未提出が目立ち、受講態度が著しく不良である。

科目名	保育計画Ⅱ		授業番号	CQ317A	サブタイトル						
教員	岡崎 三鈴										
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習(対面授業科目)	必修・選択	必修	選択	
授業概要	本講義は、保育における指導計画を具現化し、実践へと繋げる力を養う演習科目です。絵本、わらべうた、季節の製作、伝承遊びといった具体的な保育教材を用い、対象児の発達に応じた指導案の作成と模擬授業、そしてリフレクション(振り返り)を繰り返します。グループワークを通じた協同的な学びにより、保育の意図(なぜその遊び、言葉掛けが必要か)を明確にし、子どもの姿を想定した「生きた指導案」を作成する技能を修得します。										
到達目標	<p>【知識・理解】各教材(絵本・製作・伝承遊び等)の特性と、それらを保育に取り入れる教育的意義を正しく理解している。</p> <p>【思考・問題解決能力】子どもの興味・関心や発達段階を分析し、教材を効果的に活用するための「ねらい」や「環境構成」を論理的に考案できる。</p> <p>【技能】0歳児から異年齢保育まで、対象に応じた指導案を適切な表現で作成し、それに基づいた模擬授業を実践できる。</p> <p>【態度】グループ内で積極的に発言・協力し、他者との対話を通じて自身の保育観や計画をより良く改善しようとする真摯な姿勢を持つ。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。</p>										
授業計画 備考											
回	概要					担当					
第1回	指導計画の作成の手続き 保育計画を立てる意義(意識化)と模擬保育の体験										
第2回	絵本指導案作成 年齢による絵本の選定基準と、読み聞かせにおけるねらい・配慮事項										
第3回	乳児の模擬保育 乳児期の発達と遊びの実践 身体接触を伴う援助方法など										
第4回	乳児の指導計画の作成 グループワーク: 0歳児の生活と遊びを想定した計画立案										
第5回	乳児の模擬保育実践 指導案に基づいた実践と、乳児への言葉掛け・関わり方の省察										
第6回	秋の自然物を使った製作 どんぐりや落ち葉等の素材に触れる体験と造形遊びの展開										
第7回	製作指導案作成(秋) グループワーク: 自然物を通じた感性の育ちを支える計画										
第8回	クリスマス飾り製作遊び 季節の行事への関心を高める表現活動の展開と技法										
第9回	クリスマス飾り指導案作成 グループワーク: 目的・手順・安全管理を明確にした計画										
第10回	指導案作成のポイント これまでの実践を振り返り、評価に基づいた改善点を整理										
第11回	お正月遊び指導案作成 グループワーク: 伝統文化に触れる活動のねらいと内容										
第12回	お正月遊び模擬授業 製作や伝承遊びの実践: グループによる指導と評価										
第13回	異年齢保育の指導案作成 異なる発達段階が混在する中での個別の配慮と集団の関わり										
第14回	観察と評価 実践後の記録・分析から次の指導へと繋げるPDCAサイクルの修得										
第15回	まとめ 学びの総括										
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合			評価基準・その他備考							
授業への取り組みの姿勢/態度	20			意欲的な受講態度、発表・討議・模擬保育への参加、予・復習の状況によって評価する。							
レポート	30			提出する指導案複数と模擬保育についてのレポートの内容を評価する。指導案、レポートについてはコメントを記入して返却する。							
定期試験	50			保育計画に関する知識・理解について評価する。							
評価の方法: 自由記載											
受講の心得	保育の意図を意識化し、グループでの協同や模擬保育の準備・練習に主体的に取り組むことで、子どもの育ちを支える生きた指導案作成技能を習得してください。										
授業外学修	<p>1, 指導案作成の課題については、実際にシミュレーションし、様々な角度から突き詰めて検討すること。</p> <p>2, 模擬保育については、グループ内で協力し合い、準備・練習を入念に行うこと。</p> <p>以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。</p>										
使用テキスト											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
保育の計画と評価	ト田真一郎	ミネルヴァ書房	9784623079650	本体2500+税							
使用テキスト: 自由記載	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針』チャイルド本社 『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 『保育所保育指針解説書』フレーベル館										
参考図書											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
参考書: 自由記載											
その他											
備考											

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ループブック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	各領域の教材の意義や指導 計画の基本原則を正しく習得 しているか。	教材の意義を深く理解し、それ らが子どもの心身の発達や 「10の姿」にどう関連するかを 体系的に説明できる。	各教材の役割や指導案の各 項目(ねらい・内容・環境構 成等)の意味を正しく理解 し、専門用語を適切に用いて 解説できる。	保育計画における基本的な 用語や、季節の行事・遊びの 意義を概ね理解している。	保育者として最低限必要な 基礎知識を習得しており、標 準的な指導案の形式を理解 している。	教材の教育的意義の理解が 著しく不足し、指導案の構成 や専門用語を正しく把握でき ていない。
思考・問題解決能力	対象児の発達段階や季節感 を分析し、遊びを豊かにするた めの「ねらい」や「具体的な援 助(言葉掛け)」、安全な 「環境構成」を論理的に考案 できる。	子どもの多様な反応を多角的 に予測し、意図と援助が密接 に結びついた、説得力のある独 創的な指導計画を構築でき る。	0歳児から異年齢保育まで、 発達特性に即した適切なねら いを設定し、子どもの主体性 を引き出すための環境構成や 配慮事項を論理的に考察で きる。	提示された事例や教材に対 し、講義で示された標準的な 援助方法や安全管理の在り 方を妥当に選択・判断でき る。	指示された状況において、健 康・安全に配慮した最低限の 保育の展開を考えることがで きる。	子どもの発達段階を無視した 計画を立てる、あるいは安全 への配慮が欠けるなど、保育 者として不適切な思考が見ら れる。
技能	対象に応じた指導案を適切な 表現で作成し、それに基づいた 適切な声のトーンや言葉掛け を伴う模擬授業を実践でき る。	第三者が読んでも一目で実行 可能なほど具体的で質の高い 指導案を記述し、模擬授業で は子どもの心を引きつける優れ た表現・誘導技術を発揮でき る。	発達に応じたねらいや環境構 成を適切な書式で明瞭に記 述でき、模擬授業において想 定した援助を適切に実行でき る。	指導案の各項目を大きな誤り なく記述でき、模擬授業にお いて基本的な手順や動作を 進めることができる。	基礎的な用語や書式を使 い、最低限の項目を埋めた計 画を作成できる。模擬授業に おいて最低限の進行ができ る。	指導案が未完成である、また は模擬授業において保育者と しての基本的な立ち居振る舞 いや表現が著しく不足してい る。
態度	グループワークに主体的に貢献 し、模擬保育の準備や練習に 粘り強く取り組むとともに、他者 の意見を取り入れて自身の保 育を改善しようとする姿勢を持 つ。	グループの議論を積極的にリ ードし、準備や練習において妥 協せず、自己や他者の実践に 対して高い省察(振り返り) 能力を発揮している。	専門職としての自覚を持ち、 グループ内での役割を責任 持って果たし、模擬保育の練 習や指導案の修正に真摯に 取り組んでいる。	授業の心得を遵守し、グル ープ内での発言や協力、課題 提出を継続的に行っている。	遅刻・欠席をせず、最低限の 受講マナーを守り、グル ープワークや課題に受動的であ っても参加している。	受講態度が著しく不良(私 語・スマホ使用等)である、あ るいはグループワークへの非協 力や練習不足が顕著に見ら れる。

科目名	子どもとダンス 1クラス			授業番号	CN206A	サブタイトル			
教員	溝田 知茂、土田 豊、清水 憲志、西井 愛美								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	幼児期（児童期）で扱うダンス、踊り、パフォーマンス等を工夫し、それらの適切な指導方法を工夫する。また、幼児（児童）のダンス等について適切に分析する方法を考案し、ダンス等を分析する。その結果から保育・授業を分析・評価する方法を修得する。								
到達目標	<p>(知識・理解)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスについて理解できている。 2. 幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容を理解できている。 3. 幼児（児童）のダンス等について分析した結果から、保育・授業を分析する方法を理解できている。 <p>(思考・問題解決能力)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児（児童期）のダンス等の保育・授業の発案、また有効性を考えることができる。 <p>(技能)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスができる。 2. 幼児（児童）のダンス等について各種の分析ができる。 3. 幼児（児童）のダンス等について計画できる。 <p>(態度)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に積極的に参加できる。 <p>なお本科目はディプロマ・ポリシーの<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	幼児期（児童期）の子どもの身体的発達過程とその発達過程に沿ったダンス等 幼児期から児童期にかけての身体的発達の特徴と認知的発達段階との関連を考察し、それぞれの時期にふさわしいダンスの在り方について検討する。						溝田		
第2回	幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と教育的意義(1) 幼児期から児童期にかけての身体的・認知的発達段階を考慮したダンスについて幼児期に育てたい10の姿や児童期に育成する資質・能力の3つの柱と対応させながら考察する。						溝田		
第3回	幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と教育的意義(2) 幼児期から児童期にかけてのダンスの歴史的変遷を教育課程の変遷と関連付けながら教育的意義について考察する。						溝田		
第4回	保育現場におけるダンスの検討 ダンスと体操の違いを実践しながら、理解し、指定曲を用いて対象年齢に合ったダンスをグループで検討する。						清水		
第5回	保育現場におけるダンスの発表 ダンスの中で盛り上がる部分を意識して、グループで実践する。						清水		
第6回	バルーンダンス表現（1） バルーンを使った表現方法に関する映像資料を参考にし、実際にどのような表現手法があるのかを理解する。						土田		
第7回	バルーンダンス表現（2） 課題曲を聴きながら、グループごとで保育現場で子どもたちとともにバルーンダンスすることを想像しながら動きを組み立てていく。						土田		
第8回	バルーンダンス表現（3） 全体の一体感や観客へのアピールポイント等も考えながら発表会に向け、グループごとで練習する。						土田		
第9回	バルーンダンス表現（4） これまでの取り組みを発表し合い、お互いの優れている点について意見交換したり、保育現場で展開する上での留意点等についての話し合いをする。						土田		
第10回	0～5歳児におけるダンス・身体表現の実際と指導法についての演習 指示したダンス・わらべうたなどをを用いた身体表現活動を実践しながら、0～2歳児の発達特性を踏まえた指導上の配慮や留意点について理解を深める。 また、短時間で完結する身体表現プログラムを各グループで創作し、発表する。 指示したダンスを踊りながら、3～5歳児の運動発達を踏まえた難易度設定や声かけ、展開方法について明らかにする。 また、導入～展開～まとめの構成を意識し、各グループで年齢設定を明確にしたダンスを創作し発表する。						西井		
第11回	幼児期における基本ステップの理解と分解指導の演習・創作ダンスの導入方法と展開技法の演習 幼児が習得可能な基本動作（ステップ）を実践し、動きを段階化して指導する方法を検討する。 できない場合の補助方法や成功体験につなげる声かけを演習を通して理解する。 また、基本動作（ステップ）を組み合わせた短い振付を創作する。 創作ダンスのテーマ提示（例：自然・動物・感情等）から創作へつなげる過程を体験し、模倣→変化→構成という段階的指導法について検討する。 各グループでテーマを設定し、幼児が主体的に参加できる創作過程を含んだプログラムを作成し、発表する。						西井		
第12回	衣装・小道具の教育的活用と表現拡張の演習と空間構成・安全管理と指導技術の演習 布・スカーフ・衣装などの小道具を用いた身体表現を体験し、視覚的刺激や達成感が幼児の意欲に与える影響を検討する。 また、年齢に応じた安全配慮を踏まえた衣装・小道具の活用方法を各グループで企画する。 円形配置・散開・隊形移動などの空間構成を実践し、幼児の衝突防止や集中維持のための指導法を理解する。 合図・止め方・場のまとめ方など、現場で必要となる具体的指導法を演習を通して検討する。						西井		
第13回	0～5歳児に適切なダンス・パフォーマンスの設定と計画についてとグループ演習（1） グループに分かれ、対象年齢、実施場面（発表会・日常活動・参観日等）、場所を設定し、選曲、創作内容、時間配分、安全面を含めた指導計画を立案する。 必要に応じて衣装・小道具の計画も行う。 グループ演習では、年齢設定に基づいた創作ダンスの構成を深める。 （動きの難易度調整、導入の工夫、声かけの検討、衣装・小道具準備等）						西井		
第14回	グループ演習（2） 発表に向けたリハーサルを行い、指導者役と子ども役を交代しながら実践的検討を行う。 （テンポ、展開、指示の明確さの確認等） 最終調整を行い、安全配慮、時間配分、まとめ方について再検討する。 必要に応じて構成の修正を行う。						西井		
第15回	グループ創作ダンス発表会とグループ創作ダンス発表会のフィードバック・ディスカッション 対象年齢・ねらい・指導上の工夫を明確にし、各グループが発表する。 各グループで実践内容を分析し、発達段階との適合性、安全面、創造性、指導技術の観点から検討を行う。 結果を共有し、保育現場への応用可能性について考察する。						西井		
授業計画 備考2									

評価の方法		種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度			50	意欲的な態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
その他			50	ダンス、踊り、パフォーマンス等、それに伴った準備過程を含めて評価する。
評価の方法： 自由記載				
受講の心得	授業で修得した内容が次回の授業で表現・発揮できるよう、努力すること。本科目の性質上、開講教室が変動することがあるので、確認をすること。また、欠席・遅刻がないように体調管理等に注意すること。			
授業外学習	1 予習として、幼児期（児童期）向けの音楽、ダンスを調べる。 2 復習として、授業内容をレポートにまとめ、身体を動かし授業内容の確認をする。 3 発展学習として、授業内容に関連した音楽を聴きながらリズムをとること、幼児期（児童期）が好むダンスを踊る。 以上の内容を、週当たり1時間以上学習すること。			

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				

担当教員の実務経験の有無

無

担当教員の実務経験

無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

担当教員以外で指導に関わる実務経験者

--

実務経験をいかした教育内容

--

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスについて理解できている。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスについて理解し、正確に述べることができる。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスについて正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスについて大体述べることができる。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスについて正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスについて、全く表現することができない。
知識・理解	2. 幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容を理解できている。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、正確に述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、大体述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、全く表現することができない。
知識・理解	3. 幼児（児童）のダンス等について分析した結果から、保育・授業を分析する方法を理解できている。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から、保育・授業を分析する方法を、正確に述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から、保育・授業を分析する方法を、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から、保育・授業を分析する方法を、大体述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から、保育・授業を分析する方法を、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から、保育・授業を分析する方法を、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1. 幼児（児童期）のダンス等の保育・授業の発案、また有効性を考えることができる。	課題に対し、論理的融合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的融合性を持った考察をしている。	課題に対し、自分の考えを述べるができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
技能	1. 幼児期（児童期）に適切なダンス、踊り、パフォーマンスができる。	正確に身体をコントロールして豊かに表現することができる。	ほぼ正確に身体をコントロールして表現することができる。	身体をコントロールして表現することができる。	正確ではないが身体で表現することができる。	課題とは異なるが表現をしている。
技能	2. 幼児（児童）のダンス等について各種の分析ができる。	ダンス等について分析でき、正確に再現できる。	ダンス等について分析でき、ほぼ正確に再現できる。	ダンス等について分析でき、自分なりに表現できる。	ダンス等について概ね分析でき、自分なりに表現できる。	ダンス等について概ね分析できる。
技能	3. 幼児（児童）のダンス等について計画できる。	課題に応じたダンス等の保育・授業計画が正確にできる。	課題に応じたダンス等の保育・授業計画がほぼ正確にできる。	課題に応じたダンス等の保育・授業計画ができる。	課題に応じたダンス等の保育・授業計画が概ねできる。	ダンス等の保育・授業計画はできるが課題に沿っていない。
態度	1. 授業に積極的に参加できる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切な表現ができている。	授業に前向きに望む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、表現ができている。	授業に出席し、内容を理解した上で、表現できている。	授業に出席し、表現しているが、理解が十分ではない。	授業に出席しているが、表現をしない。

科目名	幼児理解の理論と方法			授業番号	CN212	サブタイトル			
教員	國田 祥子								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	この授業では、特に乳幼児期における子ども達の発達支援に必要な理論および技法について、発達心理学および臨床心理学の観点から解説する。								
到達目標	乳幼児期の子どもの発達支援に必要な知識および技能を身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の習得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	保育における「子ども理解」とは 子どもの見ている世界を共に見て、子どもの側からその「意味」を探る、保育者の子どもを理解する「まなざし」の意味や意義を学ぶ。								
第2回	子どもを取り巻く環境の理解 子どもたちの身を置く周囲の環境との関係の中で、子どもの姿や育ちをとらえていく視点について学ぶ。								
第3回	子ども理解における発達の視点 乳幼児期の発達段階に沿った仲間入りやいざこざ、言葉での伝え合いや協同的な活動について学ぶ。								
第4回	保育カウンセリング(キンダーカウンセリング) 2021年、学校教育法施行規則が改定され、幼稚園にスクールカウンセラーが配置できるように。保育現場におけるカウンセラーの役割とは。								
第5回	子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド 保育者が子どもの気持ちに共感し温かく寄り添うことで、子どもは自分の世界を広げていくことができる。								
第6回	保育における観察と記録の実際 保育の観察や記録においては、正確さや具体性に加え、子どもの気持ちや育ちを読み取ることも必要となる。								
第7回	保育カンファレンス 子どもの姿や自分自身の関りについて自分以外の他者と語り合うことで、新しい視点や手掛かりを得られる。								
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り、理解を確認する。								
第9回	保育における個と集団の関係の理解と援助 1人の子どもが「みんな」と関り合っていくなかで、どのように「個」と「集団」が育ちあっているのか、その育ち合いを支える保育のあり方について学ぶ。								
第10回	1人1人の子どもの特別なニーズの理解と援助 多様なニーズをもつ子どもたちにとって、それぞれの育ちを支えていくために必要とされる保育のあり方を探る。								
第11回	発達臨床の現場 子どもの発達を支える現場として、保育所や幼稚園、認定こども園以外にどのような現場があるのかを解説する。								
第12回	発達臨床にかかわる人々 発達臨床の現場ではどのような人々が働いているのか、保育者以外の主な専門職を紹介する。								
第13回	保護者理解と援助の基本 保護者が子育ての喜びを感じられるよう、子育て中の不安や戸惑いに寄り添い支えることも保育者の重要な役割である。								
第14回	「子ども理解」を深めるための保育共同体 子ども理解を深めていくために求められる保育者間の関係構造について探る。								
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り、理解を確認する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度									
レポート									
小テスト									
定期試験		100	理解度を評価する。						
その他									
評価の方法： 自由記載									
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。								
授業外学修	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し、不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。								

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの理解と援助演習ブック(よくわかる!保育士エクスサイズ8)	松本峰雄/伊藤雄一郎/小山朝子/佐藤信雄/滋谷美枝子/増南太志/村松良太	ミネルヴァ書房	9784623090679	2500円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる臨床発達心理学第4版	麻生 武・浜田寿美男(編)	ミネルヴァ書房	978-4-623-06326-0	2800円
参考書：自由記載				

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 講義内容を多面的かつ十分に理解し、さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき、さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し、多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず、必要な知識も不足しているものの、活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず、知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず、知識が獲得されていないため、活用できない

科目名	保育者論		授業番号	CP204	サブタイトル						
教員	岡崎 三鈴										
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	本講義では、専門職としての「保育者」の在り方、役割、およびその本質について多角的に探究します。保育とは、単に子どもの世話をするものではありません。子どもを「自らを自らの手で育てようとする存在」として信頼し、その命がそれぞれに輝くよう、丁寧な関わりを通じて支える高度な専門職です。知識の習得にとどまらず、グループワークや教材研究を通じ、理論と実践を往還させながら、あなた自身が目指すべき「保育者像」を具体化していくプロセスを重視します。										
到達目標	〈知識・理解〉保育の本質、制度、保育者の役割を正しく理解し、専門職としての責任や倫理、多様な支援の在り方について専門用語を使って説明できる。〈思考・問題解決能力〉子どもの姿に基づいた環境構成や教材活用を論理的に構想でき、自身の省察を通じて、専門的成長に向けた課題と目指すべき保育者像を提示できる。 なお本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解><思考・問題解決能力>に貢献する。										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	保育者とは 保育の本質とは何か、保育者の特質について理解する。 WORK「よい保育者」「質の高い保育」とは。										
第2回	保育者になるために 保育職の免許制度と専門倫理について理解する。										
第3回	幼稚園教諭の仕事と1日の流れ 一日の流れと具体的な役割について事例から考える。										
第4回	保育士の仕事と1日の流れ 一日の生活と保育士の具体的な役割について事例から考える。										
第5回	子どもの内面や発達を理解する保育者 モノと出会い、コトを通して育っていく子どもを理解する。										
第6回	遊びの援助をする保育者 子どもの興味・意欲に基づく「挑戦」を支える。適切な介入と見守りについて理解する。										
第7回	個と集団を生かす保育者 一人ひとりの受容と、集団の中での育ち合いについて理解する。										
第8回	家庭や地域と連携・支援する保育者 保護者の心情への配慮、地域子育て支援の役割を理解する。										
第9回	多様な子ども理解と支援する保育者 障害児保育や特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援の実践について理解する。										
第10回	教材を通して学びを深める保育者（1） 絵本の教材研究。発達や興味に応じた選択。										
第11回	教材を通して学びを深める保育者（2） 教材研究の実践。手作り絵本の創作と表現。										
第12回	教材などを通して学びを深める保育者（3） 環境構成の役割。意欲を継続させる環境の在り方。										
第13回	成長する保育者と同僚性 職場における協力体制。学び合う関係（同僚性）の構築。										
第14回	保育者の専門性 専門職としての「原理・原則」の総括。実践を振り返る内省の技術。										
第15回	まとめ：私の保育者論 目指したい保育者像の構築。										
授業計画 備考2	事前学習・意見発表・グループ討議などを取り入れて、学生自身の保育観の自覚を促していく方法をとる。										
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢/態度	20		意欲的な学習態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。								
レポート	30		授業で提示される課題について、授業内容に関連させ自分の考えを具体的に述べているかを評価し、コメントを記入して返却する。								
小テスト											
定期試験	50		本科目の総合的な理解度を評価する。								
その他											
評価の方法：自由記載	提出物（レポートを含む）30%、授業への取組20%、試験50%										
受講の心得	本講義は専門職養成の場です。単なる聴講ではなく、自ら問いを立て、クラスメイトと対話し、自身の考えを振り返るプロセスを重視します。一人の保育者としての自覚を持ち、誠実かつ主体的に参加することを期待します。										
授業外学修	・テキスト以外の各テーマに関連した情報を収集すること。 ・授業時には自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したり、討議したりする。 ・できるだけ幼児と触れ合う経験を積み重ね、社会における保育の課題や保育者の資質について自主的に調べる。 以上の内容を週あたり2時間以上学修すること。										
使用テキスト											
書名	著者		出版社	ISBN			備考				
『アクティベート保育学02保育者論』	大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸		ミネルヴァ書房	9784623084340			2000円＋税				
使用テキスト：自由記載	『アクティベート保育学02保育者論』大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸〔編著〕ミネルヴァ書房										
参考図書											
書名	著者		出版社	ISBN			備考				
参考書：自由記載											
その他											
備考											

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	保育所指針・幼稚園教育要 領・幼保連携型認定こども園 教育・保育要領を踏まえ、教 育・保育過程の作成と日々の 保育を工夫し、自らよりよい実 践のために学び続ける意欲と 資質向上をめざす意思の基礎 を培う。	保育の本質を深く理解し、制 度、役割、倫理について広範 な知識に基づき正確に説明で きる。	保育の主要な概念や制度、 保育職の役割を正しく理解 し、専門用語を用いて概ね過 不足なく説明できる。	基本的な用語や職務内容は 理解しているが、知識が断片 的であったり、説明が一部不 十分であったりする。	専門用語の理解が不正確、 または限定的であり、保育の 本質や役割について最低限 の説明にとどまっている。	用語や制度、を全く理解して いない、または理解しようとす る姿勢が見られない。課題 が未提出である。
思考・問題解決能力	「子どもの姿から何を感じ取り、 どのような根拠を持って、どのよ うな援助や環境を導き出した か」という実践的ま思考プロセ スを重視して評価する。	子どもの姿に基づいた環境・教 材案を多角的視点から論理 的に構想でき、自己の課題を 客観的に分析・省察できる。	子どもの姿に合わせた適切な 援助や教材活用を考案でき、 自身の保育観を根拠を持って 論理的に構想できる。	具体的な案は提示されてい るが、根拠が主観的であったり、 自身の保育観の振り返りが浅 かったりする。	環境・教材の提案が大人中 心の視点に偏っており、自身 の保育観の構築が不十分で ある。	子どもの尊厳を傷つけるような 不適切な関わりを肯定する、 あるいは論理的な思考・省察 が全く見られない。

科目名	保育内容総論 1クラス		授業番号	CP207A	サブタイトル				
教員	岡崎 三鈴								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	乳幼児の発達と保育内容の目標を関連付け、5領域のねらい及び内容を理解するとともに、保育の全体的な構造を理解するとともに小学校以降の教育との関連について理解する。また、指導計画について理解し、園生活全体を通して総合的な指導を行うことを理解し、幼児の姿と関連付けて考えることができる。								
到達目標	【知識・理解】保育の基本原則、養護と教育の概念、歴史の変遷、および家庭・地域・小学校との連携の意義を体系的に理解している。 【思考・問題解決能力】子どもの発達や生活実態を分析し、アフォーダンス理論等を活用した環境構成や、多様なニーズに応じた援助方法を論理的に考案できる。なお、この科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <思考・問題解決能力>の習得に貢献する。								
授業計画 備考	各回のテーマについての基本的事項の理解を深める。さらに、保育内容と保育の構造について総合的に学ぶとともにその具体的内容についてワークシート等の利用により、グループ討議を実施する。								
回	概要						担当		
第1回	保育の基本及び保育内容の理解 法律に基づく保育の定義と「養護・教育」の基本目標								
第2回	保育の全体構造と保育内容 「養護」と「教育」の一体的な展開と資質・能力の3つの柱								
第3回	保育内容の歴史の変遷 創設期から現代に至る社会的背景と保育科目の推移								
第4回	子どもの発達の特性と保育内容 (5領域) - 乳幼児保育, 満1歳以上3歳未満児 - 乳児・3歳未満児における応答的な関わりと愛着形成								
第5回	子どもの発達の特性と保育内容 (5領域) - 3歳以上児, 異年齢 - 3歳以上児の生活習慣の自立と異年齢保育の意義								
第6回	個と集団の発達と保育内容 (5領域) 一人ひとりを生かした集団形成と自己課題への援助								
第7回	保育における観察と記録 乳幼児の目線に立つ観察の観点と時系列記録								
第8回	養護と教育が一体的に展開する保育の在り方 生命の保持と情緒の安定を基盤とした教育的援助								
第9回	環境を通して行う保育の在り方 アフォーダンス理論に基づく環境構成と直接体験の価値								
第10回	生活や遊びによる総合的な保育の在り方 幼児期にふさわしい生活の展開と「伴走する援助」の在り方								
第11回	遊びや発達の連続性に考慮した保育の在り方 家庭生活と園生活、体験の多様性を支える接続の在り方								
第12回	家庭、地域との連携をふまえた保育 保護者への伴走型支援 (見守り・気配り) と社会資源の活用								
第13回	小学校との連携をふまえた保育の在り方 教育方法の違いを理解し「円滑な接続」を図る発想の転換								
第14回	特別な支援を必要とする子どもの保育の在り方 個別の特性理解と専門機関・家庭とのチーム支援								
第15回	多文化共生の保育 多様な文化や背景を持つ子どもと家庭への理解と受容								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	事前学習、テキストの理解、意見交換などに積極的に取り組めたかを評価する。						
	レポート	30	自主的にワークシートを提出したかを評価し、コメントを記入して返却する。						
	定期試験	50	振り返りシートを中心に総合的な理解度を評価する。						
評価の方法：	自由記載								
受講の心得	発表やグループ討議など、主体的に参加すること。そのための予習、復習を欠かさないこと。								
授業外学修	事前学習をして授業に臨む。 授業後は必ず振り返りシートを記入する。 以上の内容を週あたり2時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	改定新版マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ保育内容総論	開 仁志 編著	保育出版社	987-4-909378-60-6	2270円＋税				
使用テキスト：	自由記載								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領								
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	
担当教員の 実務経験	
担当教員 以外で指導に 関わる実務経 験者の有無	
担当教員 以外で指導に 関わる実務経 験者	
実務経験を いかした教育 内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	保育の基本理念（養護と教育の一体性）、歴史的変遷、環境構成の理論、および家庭・地域・小学校・多文化連携に関する専門知識を体系的に理解している。	養護と教育の一体性や幼小接続、多文化共生の理論を深く理解し、それらの関連性を体系的に説明できる	各回の主要な概念を正しく理解し、専門用語を適切に用いて解説できる。	保育の基本用語や歴史、法令の概要を概ね理解しており、標準的な内容を説明できる。	保育者として最低限必要な基礎知識（資質・能力の3本柱など）を習得している。	基礎知識が著しく不足し、保育の目的や内容に関する専門用語を正しく使用できない。
思考・問題解決能力	子どもの発達や遊びの姿を分析し、アフォーダンス理論等を用いて、多様なニーズに応じた適切な保育の在り方を論理的に考案できる。	多様な背景を持つ子どもの姿を鋭く分析し、理論に基づいた独創的かつ説得力のある援助案や環境構成を提示できる。	学んだ発達理論や連携の意義を適切に応用し、子どもの姿に応じた具体的な配慮事項や環境の設定を考案できる。	提示された事例に対し、講義で示された標準的な援助方法や家庭連携の在り方を妥当に選択できる。	指示された状況下で、子どもの安全や発達に配慮した最低限の保育の判断ができる。	子どもの姿や環境の意図を適切に捉えることができず、適切な援助や環境構成を導き出せない

科目名	子どもと言葉指導法	授業番号	CP319	サブタイトル					
教員	伊藤 智里								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	模擬保育・事例などを基に、体験したり協議したりして領域「言葉」の視点から、幼児を理解し、環境構成、指導上の留意点及び、保育の構想などを理解する。								
到達目標	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 ・領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ・指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ・模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	保育内容領域「言葉」と指導法について 幼児教育の基本を踏まえ、保育内容領域「言葉」のねらい及び内容について理解する								
第2回	前言語期のコミュニケーションと保育 言葉を話す前の乳児の発達と関わり方について理解する								
第3回	子どもの発達と言葉（1） 乳児期の言葉の発達について理解する								
第4回	子どもの発達と言葉（2） 幼児期の言葉の発達について理解する								
第5回	言葉を育てる保育活動を考える 遊びを通じた幼児教育実践のための、環境構成、保育者の援助、幼児理解について考えながら日誌・指導案を作成することを理解する								
第6回	児童文化財の活用1 パネルシアターを活用した保育活動を例とした指導案作成について								
第7回	児童文化財の活用2 パネルシアターを活用した保育活動の指導案をもとにした模擬保育について								
第8回	児童文化財の活用3 模擬保育の評価・改善を行い、幼児理解と指導の援助、評価について理解する								
第9回	言葉を育てる児童文化財 様々な児童文化財について知り、領域「言葉」の視点から保育教材としての価値を理解する								
第10回	話し言葉の機能と発達 「話す」ということを理解し、話す力を育てる遊びの視点を持つ								
第11回	書き言葉の発達と保育 文字の読み書きの発達過程を理解し、書き言葉を育てる環境構成を考える								
第12回	配慮を必要とする子どもへの支援について 言語障害の基礎的知識を習得し、必要な支援や配慮について考える								
第13回	多文化共生時代における子どもの支援 外国にルーツのある子どもの現状理解と、その支援について考える								
第14回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域「言葉」 「遊びを通しての総合的な指導」と領域「言葉」の在り方について理解する								
第15回	保幼小接続と領域「言葉」 領域「言葉」の視点から保育・幼児教育と小学校との円滑な接続について理解する								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業への積極的な取組、発表などによる評価						
	レポート	20	提出物が課題・テーマに沿って具体的に述べられたり、整理されていたりすること。課題提出後の授業で全体的な傾向や内容の補足等についてコメントする。						
	定期試験	70	最終的な理解度を評価する。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに、具体的な指導を想定して保育を構想する方法を身に付けることができるよう主体的に受講する。								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習としてテキストを読み、疑問点等を自分なりに整理する。 2. 復習として授業の内容をまとめ、課題を作成する。 3. 発展学修として、言葉を育てる子どもの遊びについて文献等で調べる。 <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	保育学生のための「幼児と言葉」言葉指導法	馬見塚明久/小倉直子	ミネルヴァ書店	7984623092512					
使用テキスト：自由記載	テキストは、演習「子どもと言葉」で使用した『保育学生のための「幼児と言葉」言葉指導法』（馬見塚明久/小倉直子編著、ミネルヴァ書店、ISBN：798-4-623-09251-2）を使用する。 「子どもと言葉」の未受講者は、準備すること。								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を適宜使用する。								
その他									
備考	令和4年度改訂								

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 保育内容領域「言葉」の 理解	保育所保育指針, 幼稚園教 育要領, 幼保連携型認定こ ども園教育・保育要領の保 育内容「言葉」についての知識 を修得し, 養護及び教育がそ れぞれ関連性を持つことを理解 することができている。さらに, 育てたい資質・能力, 他領域と の関係, 保幼小接続と合わ せて理解することができている。	保育所保育指針, 幼稚園 教育要領, 幼保連携型認 定こども園教育・保育要領の 保育内容「言葉」についての 知識を修得でき, 養護及び 教育がそれぞれ関連性を持つ ことを理解することができてい る。さらに, 幼児期に育てたい 資質・能力の繋がりと合わせ て理解することができている。	保育所保育指針, 幼稚園 教育要領, 幼保連携型認 定こども園教育・保育要領の 保育内容「言葉」についての 知識を修得でき, 養護及び 教育がそれぞれ関連性を持つ ことを理解することができてい る。	保育所保育指針, 幼稚園 教育要領, 幼保連携型認 定こども園教育・保育要領の いずれかの保育内容「言葉」 について, ねらい及び内容を 知識として習得できる。	保育内容「言葉」について必 要な知識を修得することが不 十分である。
知識・理解	2. 言葉の獲得に関する子 どもの発達過程の理解	保育所保育指針における3つ の視点, 1歳以上3歳未満児 および3歳以上児の領域「言 葉」を通して子どもの発達過程 をとらえ, 子どもに対する理解 を深め, 児童文化財の使用 および発達にあわせた環境も 含めて保育内容を検討するこ とができている。	保育所保育指針における3つ の視点, 1歳以上3歳未満 児および3歳以上児の領域 「言葉」を通して子どもの発達 過程に関する知識を修得 し, 言葉を獲得するために必 要な援助と児童文化財を用 いた保育について考えること ができている。	保育所保育指針における3つ の視点, 1歳以上3歳未満 児および3歳以上児の領域 「言葉」を通して子どもの発達 過程に関する知識を修得 し, 言葉を獲得するために必 要な援助について理解するこ とができる。	保育所保育指針における3つ の視点, 1歳以上3歳未満 児および3歳以上児の領域 「言葉」を通して, 子どもが言 葉の獲得する発達過程につ いて理解することができる。	言葉の獲得に関する子どもの 発達過程について理解が不 十分である。
知識・理解	3. 指導計画に関する知識及 び理解	言葉に関する指導計画を全 体計画から日案まで通して計 画する必要性を理解し, 年齢 に応じた日案を計画するための 教材や児童文化財等の活用 と工夫, 計画, 実践, 記 録, 省察, 評価, 改善の一 連の保育の過程について十分 理解することができる。	言葉に関する指導計画を月 案から見通して計画する流れ を理解し, 年齢に応じた日案 を計画するための教材や児童 文化財等の活用, 計画, 実 践, 記録, 省察, 評価, 改善の一連の保育の過程に ついて理解することができる。	言葉に関する日案を計画する 必要性を理解し, 年齢に応 じた日案を計画するための教 材や児童文化財等の活用, 計画, 実践, 記録, 省 察, 評価, 改善の一連の保 育の過程についておおむね理 解することができる。	言葉に関する日案を計画する 必要性を理解し, 活動に基 づいた日案を計画すること や, 計画, 実践, 記録, 省察, 評価, 改善の一連の 保育の過程について理解する ことができる。	言葉に関する日案を計画する ことについての理解, 計画作 成が不十分である。
思考・問題解決能力	1. 子どもの発達過程に合わ せた活動を考える	同一の児童文化財を用いた 活動において場面や年齢に応 じて活動を変化させ, 展開し た遊びを考えることができる。遊 びの中で, 子どもが体験してい ることを想定することができ, 保育者の配慮すべき事項を十 分検討することができる。	同一の児童文化財を用いた 活動を年齢に応じた変化を付 けて考えることができ, 遊びの 中で子どもが体験しているこ とを想定することができ, 保育 者の配慮すべき事項について 検討することができる。	複数の児童文化財において 年齢に応じた活動を考えるこ とができる。遊びの中で, 子 どもが体験していることを想 定することができ, 保育者の 配慮すべき事項について検 討することができる。	特定の児童文化財において 年齢, 場面を設定して活動 を考えることができる。遊びの 中で, 子どもが体験している ことを想定することができ, 保 育者の配慮すべき事項につ いて検討することができる。	保育活動において年齢, 児 童文化財の特性を考える視 点が不十分であり, 子ども が体験していることへの想 定や保育者の配慮すべき事 項についての検討ができて いない。
思考・問題解決能力	2. 具体的な保育場面を想 定した指導計画を作成する	子どもの発達過程に即して具 体的な保育場面を想定しなが ら指導計画を立案することが でき, その計画の評価・改善 について, 年齢, 事前準備, 環境構成などを意識して適切 なねらいと配慮の整合性の取 れた改善策を考えることが できる。	子どもの発達過程に即して具 体的な保育場面を想定しなが ら指導計画を立案すること ができ, 立案した計画の評 価・改善について, ねらい, 内容, 年齢, 準備, 環境 構成, 時間, 配慮などの問 題点を意識して改善策を考 えることができる。	子どもの発達過程に即して具 体的な保育場面を想定しなが ら指導計画を立案すること ができ, 立案した計画の評 価・改善について, 子どもの 発達過程を意識した適切な ねらいと配慮を再考して改 善点を見つけることができる。	具体的な保育場面を想定し ながら指導計画を立案するこ とができ, 立案した計画につ いて実践することが難しい点 を見つけることができる。	保育場面を想定した指導計 画の作成が不十分である。
思考・問題解決能力	3. 言葉の獲得に関する思 考力	言葉の獲得に関する諸問題 について主体的な視点で問題 点を明らかにし, 自分なりの 意見や考えを持ち, 表現する ことができる。	言葉の獲得に関する諸問題 について主体的な視点でと らえ, 自分の考えを持つこと ができる。	言葉の獲得に関する諸問題 について理解し, 自分なりの 意見や考えを持つことが できる。	言葉の獲得に関する諸問題 について理解し, 授業で提 示した一般的な意見や考 えを知る。	言葉の獲得に関する諸問題 について一般的な情報を知る 努力が不十分である。

技能	1. 言葉の獲得を中心とした指導案作成	幼児教育・保育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ、言葉の獲得を意識し年齢に応じたねらい、内容、配慮等、必要な情報を全て揃えた指導案を作成することができる。幼児が体験し身につけていく内容と指導上の留意点の関係を理解し、整合性を取ることができる。	幼児教育・保育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ、言葉の獲得を意識し年齢に応じたねらい、内容、配慮等、必要な情報を全て揃えた指導案を作成することができる。幼児が体験し身につけていく内容と指導上の留意点の関係を理解することができる。	幼児教育・保育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ、言葉の獲得を意識し年齢に応じたねらい、内容、配慮等、必要な情報を全て揃えた指導案を作成することができる。	環境構成、時間、配慮など活動に必要な情報が不足しているが幼児教育・保育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ、一連の活動の最初から最後まで通した指導案を作成することができる。	指導案の内容が全体的に希薄で実践するために不十分である。
技能	2. 児童文化財指導の実践	それぞれの児童文化財の特性を十分に理解し、必要な準備や配慮を行って実践することができる。また、年齢に応じた声掛け等、実際の保育を十分に想定することができる。	それぞれの児童文化財の特性を十分に理解し、必要な準備や配慮を行って実践することができる。また、年齢に応じた声掛け等、実際の保育をある程度想定することができる。	それぞれの児童文化財の特性を十分に理解し、必要な準備や配慮を行って実践することができる。	それぞれの児童文化財の特性を理解し、必要な準備を行って実践することができる。	児童文化財を使用した実践の準備が不十分である。
技能	3. レポート作成技術	レポート、指導案などの提出物について、授業提示以外に自分で調べるなど内容が発展的に充足している。	レポート、指導案などの提出物について、授業提示以外に自分で調べるなど工夫して表現されている。	レポート、指導案などの提出物について授業提示した内容が適切に表現されている。	レポート、指導案などの提出物について授業提示した内容が不十分であるが部分的に理解して表現されている。	レポート、指導案などの提出物について授業提示した内容が不十分である。
態度	1. グループ活動の主体的な参加	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、積極的に話し合いや実践に参加することで、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き、自分なりの意見を伝え、グループ活動に関わることができる。	自分の意見は言えないが、他人の話を聞き、グループ活動に関わることができる。	グループ活動への参加ができておらず、個人活動となっている。
態度	2. 提出物準備や事前の内容学習など、自己学習をすることができる	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、発展的な内容を取り入れて制作することができる。期限内に提出することができる。	課外で予習復習を十分にすることができ、提出物の体裁を適切に整え、自分なりに工夫して制作することができる。期限内に提出することができる。	課外での予習復習をすることができ、提出物の体裁を整え、期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であるが、提出物をまとめ、期限内に提出することができる。	提出物の提出ができない。

科目名	子どもと表現指導法	授業番号	CP321	サブタイトル	
教員	土師 範子、伊藤 智里、廣畑 まゆ美				
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期
				授業形態	講義（対面授業科目）
					必修・選択
					選択
授業概要	幼児教育において育みたい資質・能力や領域「表現」のねらい及び内容について、関連する領域に触れながら講義する。その上で、幼児の発達段階に即して深い学びが実現するよう、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法や環境の設定などについて説明する。				
到達目標	<p>(1)幼児教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解できる。</p> <p>1)幼児教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>2)領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3)幼児教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>4)領域「表現」に関わる幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校の教科とのつながりを理解している。</p> <p>(2)幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけている。</p> <p>1)幼児の心情、認識、思考及び動きなどを視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>2)領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。</p> <p>3)指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>4)模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。</p> <p>5)領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>				
授業計画 備考	令和7年度改訂				
回	概要			担当	
第1回	領域「表現」とは 保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づく領域「表現」について、ねらいや内容を再確認するとともに、指導について検討する。			土師範子	
第2回	乳幼児における表現について 子どもが豊かに表現するための音楽を用いた身体表現を理解			土師範子	
第3回	乳幼児の身体表現① 日本の伝統文化を用いた楽曲や踊りから、乳幼児への導入方法や重要性を検討			土師範子	
第4回	乳幼児の身体表現② 子どもの表現を豊かにする表現活動を具体的に検討し、指導法を考案			土師範子	
第5回	子どもの表現を支える保育者の役割 音楽的表現における内的・外的要因の理解			廣畑まゆ美	
第6回	子どもの遊びとうた① わらべうたを基盤とした音楽表現の理解			廣畑まゆ美	
第7回	子どもの遊びとうた② 創造的・共同的な音楽づくりを通した表現活動の展開			廣畑まゆ美	
第8回	鑑賞がひらく表現活動 子どもの体験を豊かにする環境の構成			廣畑まゆ美	
第9回	乳幼児の造形表現 乳幼児が心動かされる環境、事象、素材に出合い、想像力を創造力へつなげて表現することへの理解			伊藤智里	
第10回	生活の中における子どもの表現① 年齢や季節に応じた表現活動を模索			土師範子	
第11回	生活の中における子どもの表現② 年齢や季節に応じた表現活動の指導方法の検討			土師範子	
第12回	保育者と表現 子どもが様々な表現を行うために保育者として姿を探る			土師範子	
第13回	表現遊びの実践 保育場面を想定した指導法の実践			廣畑まゆ美	
第14回	領域「表現」における今日的課題 模擬保育の実践から課題を抽出し検討			廣畑まゆ美	
第15回	子どもの感性や創造性を豊かにするための保育者の役割とは何か			廣畑まゆ美	
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な授業態度、予・復習の状況、毎授業後に提出するコメントペーパーによって評価する。		
	定期試験	50	授業の内容理解を筆記試験で評価する。		
	実践発表	30	模擬保育の準備・発表、ディスカッション等への参加状況等により評価する。		
評価の方法：自由記載	追・再試有り				
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことなのかについて探求してほしい。				
授業外学修	<p>1 復習として、課題を課すことがある。</p> <p>2 予習として、資料を配布することがある。</p> <p>3 発展学修として、授業で紹介された参考文献等を読む。</p> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>				
使用テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	幼稚園教育要領、保育所保育指針、保幼連携型認定こども園教育・保育要領				
参考図書					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	適宜提示する。				

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務経 験者の有無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務経 験者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 領域「表現」に関わる内容(音楽・造形・身体)の指導上の留意点を理解し,指導案を作成することができる	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を十分に理解した上で,具体的な指導場面を想定し指導案を作成し,指導上の留意点を説明することができる	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を理解した上で,具体的な指導場面を想定し指導案を作成し,指導上の留意点を理解している	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を理解した上で,具体的な指導場面を想定し指導案を作成することができる	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性は理解しているが,具体的な指導場面を想定し指導案を作成することが不十分である	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を理解できておらず,具体的な指導場面を想定し指導案を作成することができない
思考・問題解決能力	1. 実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて,子ども役等の視点からも振り返り,課題を見つけ,保育内容や環境を改善することができる	実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて,子ども役等の視点からも振り返り,個別の課題を見つけ,保育内容や環境を十分に改善することができる	実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて,子ども役等の視点からも振り返り,保育内容や環境を改善することができる	実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて,子ども役等の視点からも振り返り,保育内容や環境を改善する視点を持つことができる	実施した模擬保育に対して,保育内容や環境についての省察が不十分である	実施した模擬保育に対して,課題を発見したり改善する視点を持っていない
技能	1. 適切な環境を整え模擬保育を実践することができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を具体的に想定し,十分な環境設定ができ,幼児の表現意欲を引き出すための適切な援助や表現活動を促す活動ができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定し,環境設定ができ,幼児の表現意欲を引き出すための適切な援助ができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定し,環境設定ができ,幼児の表現意欲を引き出すための援助ができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定した環境設定はできるが,幼児の表現意欲を引き出すための援助が不十分である	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定した環境設定ができず,幼児の表現意欲を引き出すための援助をすることができない

科目名	子どもと音楽		授業番号	CP222	サブタイトル				
教員	川崎 泰子、土師 範子、河田 健二								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	弾き歌いの基礎から応用までを学べる授業です。弾き歌いを通じて教育現場に必要な音楽スキルの基礎を習得し、音楽を通じて子どもたちと心を通わせる力を養い実習先で役立つ音楽能力を学修します。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達を理解し、発達に応じた音楽表現に必要な理論及び音楽的技法を修得する。 ・弾き歌いの必要な知識を習得し、現場で実践できる技能を身につける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	授業説明、発声指導、音楽理論の基礎 授業の説明。楽典の基礎知識を確認する。発声の基礎を習得する。					川崎泰子 河田 健二 土師 範子			
第2回	弾き歌い・楽典の復習(1) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習					川崎泰子 河田 健二 土師 範子			
第3回	弾き歌い・楽典の復習(2) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習					川崎泰子 河田 健二 土師 範子			
第4回	弾き歌い・楽典の復習(3) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習					川崎泰子 河田 健二 土師 範子			
第5回	弾き歌い・楽典の復習(4) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習					川崎泰子 河田 健二 土師 範子			
第6回	弾き歌い・楽典の復習(5) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習					川崎泰子 河田 健二 土師 範子			
第7回	弾き歌い・楽典の復習(6) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン 音楽理論演習					川崎泰子 河田 健二 土師 範子			
第8回	小テスト これまで学習した弾き歌い曲の試験を行う					川崎泰子 河田 健二 土師 範子			
第9回	グループに分かれて演習(1) 楽器①、楽器②、合唱 に分かれそれぞれの特性を理解する					川崎泰子 河田 健二 土師 範子			
第10回	グループに分かれて演習(2) 楽器①、楽器②、合唱 に分かれそれぞれの特性を理解する					川崎泰子 河田 健二 土師 範子			
第11回	グループに分かれて演習(3) 楽器①、楽器②、合唱 に分かれそれぞれの特性を理解する					川崎泰子 河田 健二 土師 範子			
第12回	グループに分かれて演習(4) 楽器①、楽器②、合唱 に分かれそれぞれの特性を理解する					川崎泰子 河田 健二 土師 範子			
第13回	グループに分かれて演習(5) 楽器①、楽器②、合唱 に分かれそれぞれの特性を理解する					川崎泰子 河田 健二 土師 範子			
第14回	グループに分かれて演習(6) 楽器①、楽器②、合唱 に分かれそれぞれの特性を理解する					川崎泰子 河田 健二 土師 範子			
第15回	楽器①、楽器②、合唱 に分かれそれぞれの特性を理解し、練習の成果を発表する 終わり次第、それぞれのグループに対して好評を行う					川崎泰子 河田 健二 土師 範子			
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	30	弾き歌いなどの課題への取り組み。						
	音楽理論課題解答提出	30	学習内容の理解度および定着度を確認し、講評を付して添削後に返却します。						
	小テスト（弾き歌い/グループ発表）	40	弾き歌いはそれぞれの課題をクリアしている。グループ発表では協働してそれぞれのグループの目標を達成できている。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう、努力してください。 保育実践者を意識しながら自らが表現することを主眼に置くため、積極的であること。								
授業外学修	授業で提示される次回の内容について、予習すること。 授業で提示された課題を実施し、復習すること。 上記の内容を、週当たり1時間程度学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	こどものうた100（小林美実編著，チャイルド本社） 大人のための音楽ワーク・ドリル（ヤマハ出版）								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載	授業中に適宜資料を配布する。								
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校, 中学校, 私立中学, 私立高校講師などの教員歴 (20年)、少年少女合唱団主宰【2023年福武教育文化賞受賞】(12年)、数々の学校にて歌唱指導 (20年) 川崎泰子
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かし, 学校現場の体験を通して得た知識を伝えると共に, 専門的な知識・技能を深め, 学習指導力, 実践的な音楽実技指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 楽譜を読む力がある	問題なく音符を理解している	積極的に楽譜を理解しようとしている	時間はかかるが理解しようとしている	楽譜を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
知識・理解	2. 歌唱法が理解できている	小学校歌唱共通教材を通して発声法が理解できている	積極的に発声法を理解しようとする姿勢がみられる	歌唱は苦手ながらも発声法を学ぼうとする姿勢がみられる	発声法を理解しようとする姿勢があまりみられない	歌唱する姿勢が感じられない
知識・理解	3. 楽器の特性を理解している	問題なく楽器の特性を理解している	積極的に楽器の特性を理解しようとしている	楽器の特性を学ぼうとする姿勢がみられる	楽器の特性を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
知識・理解	4. 楽典の内容を理解している	質問するなど楽典の問題に積極的に取り組んでいる	楽典の問題に時間はかかるが積極的に問題を解こうとする姿勢がみられる	時間はかかるが理解しようとしている	苦手ながらも楽典の問題に取り組もうとしている	理解する姿勢が感じられない
思考・問題解決能力	1. 楽曲にふさわしい表現について考えて判断し, 工夫して表現に結びつけている	楽曲にふさわしい表現について考えて判断し, 工夫して的確に表現に結びつけている	楽曲にふさわしい表現について考えて判断し, 工夫して概ね表現に結びつけている	楽曲にふさわしい表現について考えて判断し, 工夫して表現に結びつけようと努めている	楽曲にふさわしい表現について考えるが表現が乏しく, 工夫して表現に結びつけようと努めている	楽曲にふさわしい表現について考えず, 工夫して表現に結びつけようとしていない
技能	1. 歌唱	歌う力が備わっている	積極的に歌唱しようとする姿勢がみられる	歌唱しようとする姿勢があり, 苦手ながらも参加している	苦手意識が高く, 声を出すのに補助がある	歌唱する姿勢が感じられない
技能	2. 弾き歌い	教育現場で必要なレパートリーが増え弾き歌いできている	積極的にピアノに触れ, 弾き歌いする姿勢がみられる	ピアノが苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高くピアノに触れる時間が少ない	弾き歌いする姿勢がみられない
技能	3. 器楽演奏	楽器を演奏する能力が備わっている	積極的に楽器に触れ, 演奏する姿勢がみられる	楽器が苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高く楽器に触れる時間が少ない	器楽演奏する姿勢がみられない
態度	1. グループ発表時に積極的に参加できている	積極的にグループで協働して創作ができ, 発表することができる	積極的にグループ演習に参加し, 協働する姿勢がみられる	グループ演習に参加し, 自分の役割分担を責任を持ってできている	グループ演習には参加するものの協働する姿勢がみられない	グループ発表する姿勢がみられない
態度	2. 積極的に授業に参加できる	授業目標を意識して積極的に授業に参加し, 次授業までに課題を主体的にしておく	授業目標を意識して積極的に課題をしておく	授業目標を意識してある程度授業に参加することができる	授業目標を意識して授業に参加することができる	授業目標を意識して授業に参加することができない

科目名	子どもと音楽研究	授業番号	CP323	サブタイトル	
教員	土師 範子				
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期
				授業形態	演習 (対面授業科目)
					必修・選択
					選択
授業概要	「基礎音楽A・B」で培った技能・経験をもとに、保育やの現場で要求される「表現」と「弾き歌い」の技術と知識を系統的に学習する。また、表現活動に係る教材の活用と具体的な展開を理解する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 ・身体表現、音楽表現、の表現活動に関する知識や技術を習得する。 ・表現活動に係る教材等の活用及び作成と、具体的展開のための技術を習得する。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。 				
授業計画 備考					
回	概要				担当
第1回	子どもと音楽表現について 様々な音楽表現について考える				
第2回	弾き歌いの表現方法 1 幼児期の弾き歌いの楽曲について技術を深める				
第3回	弾き歌いの表現方法 2 幼児期の様々な楽曲に取り組む				
第4回	子どもの歌とピアノリズム 1 子どもが歌いやすいようなピアノリズムについて模索する				
第5回	子どもの歌とピアノリズム 2 子どもと音楽表を楽しむためのピアノリズムの指導技術を深める				
第6回	音楽表現-歌唱 1- 季節行事に応じた歌唱を行う				
第7回	音楽表現-歌唱 2- 幼児向けの歌だけでなく、現代の生活に沿った歌へも取り組む				
第8回	音楽表現-身体表現 1- 様々な身体表現を模索する				
第9回	音楽表現-身体表現 2- 身体表現の簡易化、高度化について検討する				
第10回	音楽表現-器楽 1- 様々な楽器に取り組む				
第11回	音楽表現-器楽 2- 日本の楽器に取り組む				
第12回	音楽表現-リズム 1- 様々な楽器を用いたリズム演奏を行う				
第13回	音楽表現-リズム 2- 日本の楽器を用いたリズム演奏を行う				
第14回	音楽表現から発表へ 日々の遊び・取り組みから発表への接続を模索する				
第15回	表現法のまとめと考察				
授業計画 備考2					
評価の方法					
	種別	割合	評価基準・その他備考		
	授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的に受講しているか。苦手なことも克服しようと努力をしているか。発表やグループ活動など課題に積極的に参加をしているか。		
	レポート	30	課題・レポートの、理解度・定着度。添削後、返却する。返却時にコメントを記すか、全体で講評をする。		
	実践発表	40	学習内容を理解できているか。課題を達成しようと意欲的に努力をしているか。学んだ技術が習得できているか。		
評価の方法：自由記載	授業の特性上、再試は行わない。追試は行う。				
受講の心得	授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう、日々努力をしてください。 毎回の授業で提案される課題への取り組みが肝要。音楽の理論を理解し、毎日課題を演習することで、子どもに関わるために必要な音楽技法と進歩します。 保育実践者を意識しながら自らが表現することを主眼に置くため、積極的であること。				
授業外学修	授業で提示される次回の内容について、予習すること。 授業で提示された課題を実施し、復習すること。 上記の内容を、週当たり2時間程度学修すること。				
使用テキスト					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載	大人のための音楽ワーク「テキスト」及び「ドリル」、『こどものうた100』				
参考図書					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業の中で、その都度紹介します。				
その他					
備考					

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	保育の内容を理解し、子ども の遊びを豊かに展開するために 必要な知識を習得できる。	保育の内容を十分に理解し、 子どもの遊びを豊かにするた めに必要な知識を十分に習 得し、発展することができる。	保育の内容を十分に理解 し、子どもの遊びを豊かにす るために必要な知識を十分 に習得している。	保育の内容を理解し、子ども の遊びを豊かにするために必 要な知識を習得している。	保育の内容を理解しようと努 力し、知識を習得しようと努 力している。	保育の内容は理解しようと し、知識を習得しようとして いる。
知識・理解	身体表現、音楽表現の表現 活動に関する知識を習得でき る。	身体・音楽表現活動に関する 知識を十分に習得し、発展す ることができる。	身体・音楽表現活動に関 する知識を十分に習得してい る。	身体・音楽表現活動に関 する知識を習得している。	身体・音楽表現活動に関 する知識を習得しようと努力し ている。	身体・音楽表現活動に関 する知識を習得しようとして いる。
思考・問題解決能力	表現活動に係る教材等の活 用、及び作成することができる。	子どもの姿や、保育現場での 取り組みを想定することがで き、表現活動に係る教材等の 活用及び作成を十分にす ることができる。	表現活動に係る教材等の活 用、及び作成を十分にす ることができる。	表現活動に係る教材等の活 用、及び作成を十分にす ることができる。	表現活動に係る教材等の活 用、及び作成をしようと努 力している。	表現活動に係る教材等の活 用、及び作成をしようと努 力している。
技能	保育の内容を理解し、子ども の遊びを豊かに展開するた めに必要な技術を習得する ことができる。	保育の内容を理解し、子ども の遊びを豊かにするために必 要な技術を十分に習得し、発 展することができる。	保育の内容を理解し、子ども の遊びを豊かにするために必 要な技術を十分に習得してい る。	保育の内容を理解し、子ども の遊びを豊かにするために必 要な技術を習得している。	保育の内容を理解し、子ども の遊びを豊かにするために必 要な技術を習得しようと努 力している。	保育の内容を理解し、子ども の遊びを豊かにするために必 要な技術を習得しようとして いる。
技能	身体表現、音楽表現の表現 活動に関する技術を習得でき る。	身体・音楽表現活動に関する 技術を十分に習得し、発展さ せることができる。	身体・音楽表現活動に関 する技術を十分に習得してい る。	身体・音楽表現活動に関 する技術を習得している。	身体・音楽表現活動に関 する技術を習得しようと努力し ている。	身体・音楽表現活動に関 する技術を習得しようとして いる。
技能	表現活動に係る教材等の活 用、及び作成することができ る、具体的展開のための技術 を習得できる。	子どもの姿や、保育現場での 取り組みを想定することがで き、表現活動に係る教材等の 活用、及び作成を十分にす ることができ、具体的展開のた めの技術を十分に習得してい る。	表現活動に係る教材等の活 用、及び作成を十分にす ることができ、具体的展開のた めの技術を十分に習得してい る。	表現活動に係る教材等の活 用、及び作成することができ る、具体的展開のための技 術を習得している。	表現活動に係る教材等の活 用、及び作成することができ る、具体的展開のための技 術を習得しようと努力してい る。	表現活動に係る教材等の活 用及び作成をすることができ る、具体的展開のための技 術を習得しようとしている。
態度	授業の積極的な態度や意欲 を、発表への取り組みなどを 評価する。	自己課題を明確にし、授業 内容が定着するよう取り組む ことができる。積極的に発表や グループ活動を行い、課題に 十分取り組むことができる。	授業内容が定着するよう 取り組むことができる。積極 的に発表やグループ活動を行 い、課題に十分取り組むこと ができる。	授業内容が定着するよう 取り組むことができる。発表 やグループ活動を行い、課 題に取り組むことができる。	授業内容が定着するよう 努力している。発表やグル ープ活動に消極的である。	課題の未提出がある。発表 やグループ活動へ参加してい ない。

科目名	教育実習研究 A 1クラス		授業番号	CP329A	サブタイトル	
教員	齊藤 佳子、岡崎 三鈴					
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態
						実習(対面授業科目)
						必修・選択
						選択
授業概要	本科目では、教育実習(幼稚園実習)への自己課題を明確にし、教育実習の意義、実習計画と事前準備、心構え、指導案立案、実習日誌の書き方などを学び実習に備える。また、大学で学んだ様々な実践的知識及び技能を応用し、現場の実践と結びつけて考察し、実践へつなげる力を身につける。					
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた<知識・理解><思考・問題解決能力><技能>の修得に貢献する。 1. 幼稚園教育の実際の場合に入るにあたって、責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。 2. 実習のために必要で有効な知識・技能を学び、それを生かして実習できるよう準備する。 3. 実習の学習課題を明確にする。 4. 実習の体験を踏まえて、将来への希望と今後の学習への意欲を高める。					
授業計画 備考						
回	概要			担当		
第1回	教育実習の計画と準備 ・事前訪問(実習園才エンターション)について理解し、学生個人票(下書き)を作成する。・実習園への通勤方法の確認(学割の手続き)をする。					
第2回	実習日誌の書き方(1)、実習の目的と意義、目標、実習の心得 教育実習に参加し学ぶ者としての態度と心得について理解する。実習園からの調査票を確認する。					
第3回	教育実習の実際、指導計画(案)の書き方(1) 幼稚園生活の流れと教師の役割、実習生の活動、指導計画(案)作成の手順と内容について確認する。 学生個人票(清書)を作成する。					
第4回	教材研究、指導計画(案)の書き方(2) 絵本を見る活動、自ら選んだ遊び、製作遊び、造形遊び、運動遊び、登園・降園、弁当(給食)等、部分実習(部分指導)の指導案の立て方について確認し、指導案を作成する。					
第5回	教育実習の進め方、実習の自己課題作成 観察・参加・部分・全日実習についての詳細を理解する。実習へ向けての自己課題を明確にする。					
第6回	実習日誌の書き方(2) 実習の自己課題を実習日誌に記入する。 教育実習計画、実習園の概要、園庭・園舎を平面図を記入する。					
第7回	附属園見学前説明、実習に係る提出書類 見学記録の書き方、誓約書清書、提出書類(休園届、遅刻・早退・欠勤届等)、実習における異常気象時の対応、お礼状の書き方を確認する。					
第8回	特別支援教育 特別な配慮を必要とする幼児「気になる子ども」への指導について理解する。					
第9回	幼稚園における教師の役割(援助と環境構成) 現場における保育の実際を見学し、こども園での子どもたちの様子や保育教諭の生活の一端を知り、教職についての意義を知る。					
第10回	幼稚園の役割(学級経営・園生活全般) 保育の場における保育教諭と幼児のかかわり方及び1日の生活の流れを中心に見学し、幼児教育の目的や総合的な指導について学ぶとともに、具体的な保育教諭の指導を観察し、幼児教育の特徴を捉える。 実習日誌の見学記録を記入する。					
第11回	教育実習の振り返り(1)、お礼状の作成 振り返りのワークシートに取り組み、自己評価を行い、改善の手掛かりをつかむ。 実習中のエピソードや学んだこと、感動したことを整理する。					
第12回	教育実習の振り返り(2)、お礼状の作成 実習終了後、10日以内を目安に実習園へお礼の手紙を書く。					
第13回	教育実習のまとめ(1) 各自が体験した実習内容をもとにグループワーク討議に取り組み、分かりやすく説明する力、他者の体験を聞き取る力や共感する力を身に付けるとともに、様々な園の実態を知り、実習の学びを深める。					
第14回	教育実習のまとめ(2) 教育実習について振り返り、学んだことをグループごとにまとめ、発表準備を行う。					
第15回	教育実習のまとめ(3) 3~5歳クラスの遊びの特徴と教師の役割 教育実習について振り返り、学んだことをグループごとにまとめて報告会で発表する。					
授業計画 備考2						
評価の方法						
	種別	割合	評価基準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢/態度	30	授業で説明する実習の目的、意義について説明できる。また、実習に向けて健康管理と心構えをする。			
	レポート	70	事前及び事前指導時における実習生の学習の内容や程度に関する下記の諸点について評価する。 ・実習前に事前学習する授業内容について事前学習ページに記載する。 ・幼児の具体的な姿をイメージしながら部分指導の指導案を作成する。 ・附属園を訪問して実際の保育場面を観察・記録し、整理することで、理論で理解したことを確認する。 ・実習後には自己課題についてレポートを作成するとともに担当年齢の特徴や遊びの内容についてまとめる。 ・実習における幼児の姿や活動、環境構成、教師の援助の事例について分析・考察し、グループ討議を行い、その結果についてまとめ報告会で発表する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
評価の方法:	自由記載					
受講の心得	日常生活の中で「人を育てる」職業に就くことを意識し、人間として必要な態度・習慣(挨拶・着衣の状況、食生活、生活リズム等)を考えて生活する。また、人間として生まれながらにもつ「五感」を働かせ、生活の中で様々な事柄を感じて過ごし、幼稚園教諭としての感覚を研ぎ澄ますよう努力する。					
授業外学修	1. 授業で事前学習する内容(実習の目的、意義、実習の内容)について事前学習ページに記載する。 2. 実習に必要な教材準備を行う。					

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
必携 幼稚園教育実習	監修・著：森本眞紀子、編著：小野順子	ふくろう出版	978-4-861-86-880-1	本体価：2,100円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
必携 幼稚園教育実習	監修・著 森本眞紀子	ふくろう出版	978-4-86186-880-1	
参考書：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 実習の目的, 意義について理解している。	実習の目的, 意義について, 正確に理解し, 述べることができる。	実習の目的, 意義について, 正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	実習の目的, 意義について, 概ね述べることができる。	実習の目的, 意義について, 正確に述べることができないが, 自分の言葉で表現できる。	実習の目的, 意義について, まったく表現することができない。
知識・理解	2. 事前学習ページをまとめることができる。	事前学習ページをしっかりとまとめることができる。	事前学習ページをまとめることができる。	事前学習ページを概ねまとめることができる。	事前学習ページを十分にまとめることができていない。	事前学習ページをまったくまとめることができていない。
知識・理解	3. 実習日誌の書き方を理解している。	実習日誌の書き方を大変よく理解できている。	実習日誌の書き方を理解できている。	実習日誌の書き方を概ね理解できている。	実習日誌の書き方を十分に理解できていない。	実習日誌の書き方をまったく理解できていない。
思考・問題解決能力	1. 実習に向けて自己課題を明確にできている。	実習に向けて自己課題をきわめて明確にした上で適切に記述できる。	実習に向けて自己課題を明確にした上で記述できる。	実習に向けて自己課題を概ね明確にした上で記述できている。	実習に向けて自己課題を十分に明確にできていない上に, 十分に記述できていない。	実習に向けて自己課題をまったく明確にできていない。
思考・問題解決能力	2. 自己課題の達成度についてまとめることができる。	自己課題の達成度について大変よくまとめることができる。	自己課題の達成度についてまとめることができる。	自己課題の達成度について概ねまとめることができる。	自己課題の達成度について十分にまとめることができていない。	自己課題の達成度についてまったくまとめることができていない。
思考・問題解決能力	3. 担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について考えることができる。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について多角的に考察をしている。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について考察している。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について概ね考えている。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について十分に考えられていない。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容についてまったく考えていない。
技能	1. 指導計画を作成できる。	指導計画を正確に作成できる。	指導計画を作成できる。	指導計画を概ね作成できる。	指導計画を十分に作成できない。	指導計画をまったく作成できない。
技能	2. 学んだ知識を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるようしっかり準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう概ね準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう十分に準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるようまったく準備ができている。
技能	3. 学んだ技術を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるようしっかり準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう概ね準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう十分に準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるようまったく準備ができている。

科目名	教育実習 A		授業番号	CP430	サブタイトル	
教員	齊藤 佳子、岡崎 三鈴					
単位数	4単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態
						実習（対面授業科目）
						必修・選択
						選択
授業概要	幼稚園での幼児の主体的な活動を基本とし、幼児がよりよい方向へ向かい発達していくことを援助する実際に体験し、幼児と心と心を通わせ、幼児の興味・関心・要求などを汲み取りながら「援助」の意味を実践・体験を通して学び、「自らの意志で学ぶこと」の重要性に気づく力を身に付ける。また、観察実習・参加実習・部分実習・責任実習で幼児の観察記録と指導案を詳細に記述することができ、実践における教師の役割と環境構成の重要性に気付ける感性を養う。					
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。本科目はディプロマ・ポリシーの<技能><態度>の修得に貢献する。 1. 幼稚園教育の実際の場を経験し、責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。 2. これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより、その後の学習課題を明確にする。 3. 教員としての将来に希望をもち、その職務への自覚を深め、自己を陶冶する。					
授業計画 備考						
授業計画 自由記載	<p>第1週 観察実習</p> <p>(1) 実習園について理解する。 教育の基本方針、学級の人員構成・担当教諭の学級経営、環境（物的：敷地、建物の構造、配置及び施設設備・人的：職員構成、勤務形態等）を把握する。</p> <p>(2) 観察の仕方を学ぶ。</p> <p>第2～3週 参加実習</p> <p>(1) 幼児の発達の概要を知る。 (2) 幼稚園教育の一日の流れを把握する。 (3) 基本的な生活習慣の援助や遊びの指導について学び、担当教諭の補助をする。</p> <p>第3～4週 指導実習（部分実習・責任実習）</p> <p>(1) 3歳児から5歳児の各年齢の保育形態を理解する。 (2) 幼児の実態と指導計画に準じた環境の構成をする。 (3) 様々な環境にかかわって遊ぶ幼児の姿と教師の援助を予想して指導案を立てる。 (4) 指導上の技術を生活の指導・遊びの指導の両面から学ぶ。 (5) 指導の反省と評価の方法について学ぶ。 (6) 幼児の安全への配慮について理解する。（安全指導） (7) 保護者とのコミュニケーションの方法について学び、家庭・地域社会との連携について理解する。</p>					
授業計画 備考2						
評価の方法						
	種別	割合	評価基準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	70	実習園からの評価（評価表の内容）を基準にする。4週間の教育実習における次の8項目の評価により成績をつける。意欲、責任感、研究的態度、協調性、指導計画、指導技術、事務処理、総合評価。			
	レポート	30	実習日誌の内容、指導案立案（指導案の作成・実施・評価）の資料を基に評価する。日誌は添削して、返却する。			
	小テスト					
	定期試験					
	その他					
評価の方法：自由記載	教育実習における実習園の評価表、実習日誌、指導案立案、指導実習の準備や成果などを総合的に判断し、実習園での評価点60点以上の者に単位を認定する。					
受講の心得	現場での実践に積極的に臨み、自己課題・目標を達成できるよう取り組む。また、今後、社会人として役立つこととして、何を大切にすべきか、互いに協同し合うこととはどのようなことを学ぶ。					
授業外学修	<p>1. 幼児の活動と教師の配慮の関係性と実習生としての自分の活動を日誌に記入する。 2. その日の実習のねらいについて一日を振り返り、実習日誌に記入する。 3. 指導案等の実習指導計画を作成し、指導にあたっての教材研究をする。 以上の内容を、毎日2時間以上学修すること。</p>					
使用テキスト						
	書名	著者	出版社	ISBN	備考	
使用テキスト：自由記載						
参考図書						
	書名	著者	出版社	ISBN	備考	
参考書：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館					
その他						
備考						
注意事項						
担当教員の実務経験の有無	無					
担当教員の実務経験						
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有					
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	幼稚園及び認定こども園等の実習指導者					

実務経験をいかした教育内容	学生が幼稚園教諭の職務を体験し必要な知識及び技能を習得できるように、実際の幼児との生活の中で指導を行う。
---------------	--

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1. 指導計画を作成できる。	指導計画を大変よく作成できている。	指導計画を作成できている。	指導計画を概ね作成できている。	指導計画をほぼ作成できていない。	指導計画をまったく作成できていない。
技能	2. 指導技術を身につけている。	指導技術を大変よく身につけている。	指導技術を身につけている。	指導技術を概ね身につけている。	指導技術をほとんど身につけていない。	指導技術をまったく身につけていない。
技能	3. 事務処理ができる。	事務処理が大変よくできている。	事務処理ができている。	事務処理が概ねできている。	事務処理がほぼできていない。	事務処理がまったくできていない。
態度	1. 実習において意欲がみられる。	実習においてひととき意欲がみられる。	実習において意欲がみられる。	実習において概ね意欲がみられる。	実習において十分な意欲がみられない。	実習においてまったく意欲がみられない。
態度	2. 実習において責任感がみられる。	実習においてひととき責任感がみられる。	実習において責任感がみられる。	実習において概ね責任感がみられる。	実習において十分な責任感がみられない。	実習においてまったく責任感がみられない。
態度	3. 実習において研究的態度がみられる。	実習においてきわめて研究的態度がみられる。	実習において研究的態度がみられる。	実習において概ね研究的態度がみられる。	実習において十分な研究的態度がみられない。	実習においてまったく研究的態度がみられない。
態度	4. 実習において協調性がみられる。	実習においてひととき協調性がみられる。	実習において協調性がみられる。	実習において概ね協調性がみられる。	実習において十分な協調性がみられない。	実習においてまったく協調性がみられない。

科目名	地域福祉論			授業番号	CQ215	サブタイトル					
教員	中 典子										
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	地域福祉推進に向けて放課後児童クラブ支援員や保育所をはじめとする児童福祉施設の保育者を取り巻く社会資源に関する情報を示し、連携の方法について講義する。										
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を理解することができる。 2. 地域との連携・協働を実現するため、地域の社会資源を調べ、それをまとめることができる。 3. 地域の社会資源を活用し、子ども家庭に関わる地域（生活）課題を解決する方法を理解することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	地域社会と課題 地域・地域社会の意味、地域社会の機能、地域課題を理解する。										
第2回	地域福祉の推進(1) 地域福祉の概念と歴史的展開、地域福祉の推進の意義と理念を理解する。										
第3回	地域福祉の推進(2) 地域共生社会の実現、地域包括ケアシステムの構築の意味と住民を主体とした地域福祉推進の関係性を理解する。										
第4回	地域福祉に関わる法令 社会福祉法における地域福祉の詳細、保育所保育指針等と地域・地域社会の関係性、放課後児童クラブ運営指針と地域・地域社会の関係性、障害（児）関係法令と地域との関係性を理解する。										
第5回	ボランティア活動と福祉教育 ボランティア活動の歴史とボランティア元年、今日のボランティア活動の特徴、福祉教育の意義と現状を理解する。										
第6回	地域課題を探る 子どもと家庭に関わる地域（生活）課題、地域（生活）課題の特徴、傾向を理解する。										
第7回	地域福祉の推進機関・団体（社会福祉協議会） 社会福祉協議会の歴史と今日的意義、社会福祉協議会の活動原則・機能、現在の社会福祉協議会の体制、社会福祉協議会の活動と放課後児童クラブ・保育所等の関係性を理解する。										
第8回	地域福祉の推進機関・団体（国・都道府県・市町村と関係団体） 地域福祉に関わる国の機関の機能、都道府県・政令指定都市の機関、市町村の機、要保護児童対策地域協議会・障害者自立支援協議会の役割を理解する。										
第9回	地域福祉の推進機関・団体（民生委員児童委員・福祉委員） 民生委員児童委員の歴史と役割、主任児童委員の役割と活動、福祉委員の役割と活動、民生委員児童委員・福祉委員の活動と放課後児童クラブ・保育所等の関係性を理解する。										
第10回	地域福祉の推進機関・団体（NPO法人・自治会・中間支援団体・民間企業） 特定非営利活動（NPO）法人の機能と活動、自治会（町内会）の機能と活動、ボランティアセンター・市民活動支援センターの機能と活動、民間企業におけるCSRの現状を理解する。										
第11回	地域福祉を推進する専門職 コミュニティーカーの役割と専門性、地域支援コーディネーターの役割と専門性、ボランティアコーディネーターの役割と専門性を理解する。										
第12回	地域福祉援助技術（コミュニティワーク） コミュニティーオーガニゼーションからコミュニティワーク・コミュニティソーシャルワークに至る歴史的展開と、それぞれの意義と機能を理解する。										
第13回	伴走型支援 地域でつながり続けるための連携のあり方、伴走型支援に向けた体制の整備を理解する。										
第14回	参加支援の推進 包括的支援体制、個別支援と地域支援の統合のあり方を理解する。										
第15回	事例研究 演習事例に基づき、放課後児童クラブ、保育所等における地域(生活)課題解決のあり方、放課後児童クラブの支援員、保育所をはじめとする児童福祉施設の保育者等として地域福祉を推進する意味を理解する。										
授業計画 備考2											
評価の方法											
	種別	割合	評価基準・その他備考								
	授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、予習・復習の取り組み状況を評価する。								
	課題への取り組みの状況／態度	80	課題に対する発表態度やその内容を授業理解度、目標達成度を基準に評価する。								
評価の方法：	自由記載										
受講の心得	放課後児童支援員・保育所をはじめとする児童福祉施設で働く保育者が連携可能な社会資源について情報収集し、理解をすること。 授業内容の理解を深めるため、授業開始前までにテキストの内容を読んでおくこと。										
授業外学修	授業開始前までに、テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り、必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）										
使用テキスト											
	書名	著者	出版社	ISBN	備考						
	社会的孤立へのコミュニティソーシャルワーク実践	加藤昭宏	ミネルヴァ書房	9784623098262							
使用テキスト：	自由記載										

参考図書		書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載						
その他						
備考						
注意事項						
担当教員の 実務経験の有無	無					
担当教員の 実務経験						
担当教員以外で 指導に関わる実務経験者の有無	無					
担当教員以外で 指導に関わる実務経験者						
実務経験を いかした教育内容						

ルーブリック						
評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。	地域福祉の今日的な意義と理念を、根拠立てて説明することができる。	地域福祉の今日的な意義と理念を、自分の言葉で一通り説明することができる。	地域福祉の今日的な意義と理念を、教員の説明通りに一通り説明することができる。	地域福祉の今日的な意義と理念の一部を説明することができる。	地域福祉の今日的な意義と理念を、ほとんど説明することができない。
知識・理解	2. 地域の社会資源を調べ、それをまとめることができる。	地域の社会資源を調べ、まとめる方法を合理的に説明することができる。	地域の社会資源を自分自身で調べ、まとめる方法を自分なりに説明することができる。	地域の社会資源を調べ、まとめる方法を教員の説明通りに説明することができる。	地域の社会資源を調べ、まとめる方法を、一部のみ説明することができる。	地域の社会資源を調べ、まとめる方法をほとんど説明することができない。
思考・問題解決能力	1. 子どもと家庭に関わる地域(生活)課題を解決、緩和の方法について理解することができる。	子どもと家庭に関わる生活(地域)課題を、根拠立てて考察することができる。	子どもと家庭に関わる生活(地域)課題を、自分なりに考察することができる。	子どもと家庭に関わる生活(地域)課題を、グループで考察することができる。	子どもと家庭に関わる生活(地域)課題を、考察することができるのと、できないときがある。	子どもと家庭に関わる生活(地域)課題を、考察することがほとんどできない。

子ども学部 子ども学科
小学校教諭一種免許状

科目名	生活	授業番号	CO203	サブタイトル	(生活科の基本的内容)				
教員	齊藤 佳子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	(1)学習指導要領の内容を踏まえながら、他の学生と協力し、積極的に小单元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法などの基本を習得するとともに、具体的にイメージしながらそれらを作り上げる。 (2)「児童の気づきの質」を高めるための具体的な内容を学習する。								
到達目標	(1)学習指導要領の内容を踏まえながら、小单元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法などの基本を習得することができる。 この内容は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解>の習得に貢献する。 (2)「児童の気づきの質」を高めるための具体的な内容を理解することができる。 この内容は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解>の習得に貢献する。 (3)学習指導要領の内容を踏まえながら、小单元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法等を具体的な授業をイメージしながら作り上げる。 この内容は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<思考・問題解決能力>の習得に貢献する。 (4)他の学生と協力しながら積極的に小单元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法等を作り上げる。 この内容は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<態度>の習得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	学習指導要領改善のポイント 「教育課程の示し方の改善」「具体的な教育内容の改善・充実」「学習指導改善・充実や教育環境の充実」 「観察カードへのコメント」について								
第2回	生活科が目指すこと 「思いや願いの実現に向けた学習主体の学び」「生活科における資質・能力の育成とその構造」「教育課程の結節点としての生活科」小单元における目標設定等について								
第3回	生活科の内容1 9項目の内容構成 内容の階層化 「学校と生活」について 関連小单元の目標設定等								
第4回	生活科の内容2 飼育・栽培活動を進めるうえでの具体的な注意点 「家庭と生活」について 関連小单元目標設定等								
第5回	生活科の内容3 安全について 「地域と生活」について 関連小单元目標設定等								
第6回	生活科の内容4 内容構成の具体的な視点 「公共物や公共施設の利用」について 関連小单元目標設定等								
第7回	生活科の内容5 児童の気づきの質を高めるために 「季節の変化と生活」について 関連小单元目標設定等								
第8回	生活科の内容6 比較について 「自然や物を使った遊び」について 関連小单元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気づきの質を高めるためのポイントについて								
第9回	生活科の内容7 「動物の飼育・栽培」について 関連小单元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気づきの質を高めるためのポイントについて								
第10回	生活科の内容8 保護者、地域人材の活用について 「生活や出来事の伝え合い」について 関連小单元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気づきの質を高めるためのポイントについて								
第11回	生活科の内容9 「自分の成長」について 関連小单元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気づきの質を高めるためのポイントについて								
第12回	評価について 評価について 評価規準 評価基準 評価の手段等 小单元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気づきの質を高めるためのポイントについて								
第13回	指導計画の作成と内容の取扱い 指導計画作成上の配慮事項 小单元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気づきの質を高めるためのポイントについて								
第14回	生活科の授業について 生活科と自然環境 小单元目標設定・詳しい授業の流れ・指導法等								
第15回	中学年の各教科への接続 基本的な考え方 社会科との接続 理科との接続 総合的な学習の時間との接続 小单元目標設定・詳しい授業の流れ・指導法等								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢／態度		30	発表内容、意欲的な授業態度						
レポート		30	課題に対する授業内容に沿った具体的な例を挙げたレポートであること。なお、レポート提出後の授業で全体的な傾向についてコメントを行う。						
小テスト									
定期試験		40	最終的な理解度を評価する。						
その他									
評価の方法：自由記載									
受講の心得		小学校で実際に授業ができるよう、より具体的なイメージをもって授業に臨むこと。							
授業外学修		(1)身近な自然に親しみ、植物や動物を観察しながら、地域を散策すること。 (2)身近な生活から、生活科の授業にいかなる教材を発見する取り組みをすること。 (3)予習として、教科書のうち、授業内容に関わる部分を読み、積極的に授業に参加できる準備をすること。							

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校指導要領(平成29年告示)解説 生活科編	文部科学省	株式会社東洋館出版社	9784491034645	
新しい生活 下	田村学ほか84名	東京書籍株式会社	9784487111619	
使用テキスト：自由記載	教材用プリント			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	無			
担当教員の 実務経験				
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかした教育 内容	実際の小学校の授業に生かせるポイントを押さえた教育内容			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・士 力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	学習指導要領の内容を踏まえながら、小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法などの基本を習得することができる。	指導要領の内容を十分踏まえて基本を習得できている。	内容を大まかに踏まえて基本を習得できている。	内容を一部踏まえて基本を習得できている。	一部分基本を習得できている。	習得することができない。
知識・理解	「児童の気づきの質」を高めるための具体的内容を理解することができる。	具体的内容が十分理解できている。	全てではないが、多くの具体的内容が理解できている。	具体的内容は多くはないが理解できている。	具体的ではないが一部分理解できている。	理解できない。
思考・問題解決能力	学習指導要領の内容を踏まえながら、小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法等を具体的な授業をイメージしながら作り上げる。	十分具体的である。	全てではないが、多くの部分が具体的である。	具体的内容は多くはないが、作り上げることができる。	具体的ではないが作り上げることができる。	作り上げることができない。
態度	他の学生と協力しながら積極的に小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法等を作り上げる。	他の学生と協力しながら積極的に作り上げることができる。	他の学生と協力しながら多くの単元で積極的に作り上げることができる。	他の学生と協力しながらいくつかの単元で積極的に作り上げることができる。	他の学生と協力しながらいくつかの単元で作り上げることができる。	作り上げることができない。

科目名	音楽		授業番号	CO204	サブタイトル	小学校音楽1～6年			
教員	川崎 泰子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校音楽科における音楽科教育の意義を理解するとともに、授業を構成するために必要な知識や基礎的な技能等について学ぶ。								
到達目標	小学校音楽科の授業を行うために必要な、基礎的な知識や技能を身に付ける。そのために「器楽・歌唱・創作」における基礎的要素を確認し、それらに応用する知識を身につけ、各人の技能に応じた伴奏法の工夫が出来るようになる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	小学校における音楽科教育の目標と内容 ①「小学校学習指導要領 第2章 音楽」の読み取りと理解 ②小学校音楽科の意義を理解する								
第2回	表現－歌唱、器楽、創作－ 1年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校1年生共通教材弾き歌いについて理解・習得する								
第3回	表現－歌唱、器楽、創作－ 2年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校2年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める								
第4回	表現－歌唱、器楽、創作－ 3年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校3年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノコーダー）について指導のポイント等の考察・演習								
第5回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ 1～3年生までの共通教材歌唱成果発表（弾き歌いを含む）、評価について考察する								
第6回	表現－歌唱、器楽、創作－ 4年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校4年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノコーダー）について指導のポイント等の考察・演習								
第7回	表現－歌唱、器楽、創作－ 5年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校5年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノコーダー）について指導のポイント等の考察・演習								
第8回	表現－歌唱、器楽、創作－ 6年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校6年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノコーダー）について指導のポイント等の考察・演習								
第9回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ 3～6年生までの共通教材歌唱成果発表（弾き歌いを含む）、評価について考察する								
第10回	「表現」および「共通教材」～器楽～ ①器楽指導、創作 ②グループに分かれ器楽アンサンブル 楽器の演奏方法、アンサンブルについて理解する ③グループ器楽アンサンブル発表準備								
第11回	「表現」および「共通教材」～器楽～ ①器楽指導、創作 ②グループに分かれ器楽アンサンブル 楽器の演奏方法、アンサンブルについて理解する ③グループ器楽アンサンブル発表、評価について考察する								
第12回	「鑑賞」および「共通教材」1,2,3年生 ①小学校教育における鑑賞指導の意義と目的を理解 ②指導法のポイント及び「ICTの活用」について ③鑑賞曲について								
第13回	「鑑賞」および「共通教材」4,5,6年生 ①小学校教育における鑑賞指導の意義と目的を理解 ②指導法のポイント及び「ICTの活用」について ③鑑賞曲について								
第14回	共通事項 音楽理論の確認 ①「音楽を形づくっている要素」と「それらに関わる音符、休符、記号や用語」 ②楽譜の読み書きに用いる音楽用語を理解し、音階、移調について理解を深める ③小テスト								
第15回	まとめ「表現」および「共通教材」－歌唱、器楽、創作－ 1～6年生までの共通教材弾き歌い、ソプラノコーダー（課題曲2曲〈重唱含む〉）成果発表 評価について考察する 筆記試験についての説明								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度		20	意欲的な学習態度、予習及び復習の状況によって評価する。						
小テスト		50	各回の主要なポイントの理解を評価する。グループ発表、歌唱成果発表（弾き歌いを含む）などの実技を含む。実技発表の後、次の授業で全体的なコメントをする。						
定期試験		30	最終的な理解度を評価する。						

評価の方法： 自由記載	小テストでは実技も伴うため、授業中に行われる実技ポイントを理解しておくこと。
受講の心得	小学校教員への教職意識を持つこと。 授業内で適宜小テスト（実技を含む）を行うので、前時間の復習をして授業に臨むこと。 配布されたプリントや資料を整理しておくこと。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について、予習すること。 課題を実施すること。 上記を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校音楽科教育法		教育芸術社		
使用テキスト：自由記載	小学校音楽1～6年（教育芸術社）			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	【楽器の準備】 ソプラノコーダー（ジャーマン式 ドイツ式、GやDと記されている）を使用する為、授業が始まるまでに準備しておくこと。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	公立小学校、中学校、私立中学、私立高校講師などの教員歴（20年）、少年少女合唱団主宰【2023年福武教育文化賞受賞】（12年）、数々の学校にて歌唱指導（20年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かし、学校現場の体験（20年）を通して得た知識を伝えると共に、小学校音楽科教育に求められる専門的な知識・技能を深め、学習指導力、実践的な音楽実技指導力の向上に努める。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 楽譜を読む力がある	問題なく音符を理解している	積極的に楽譜を理解しようとしている	時間はかかるが理解しようとしている	楽譜を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
知識・理解	2. 歌唱法が理解できている	小学校歌唱共通教材を通して発声法が理解できている	積極的に発声法を理解しようとする姿勢がみられる	歌唱は苦手ながらも発声法を学ぼうとする姿勢がみられる	発声法を理解しようとする姿勢があまりみられない	歌唱する姿勢が感じられない
知識・理解	3. 楽器の特性を理解している	問題なく楽器の特性を理解している	積極的に楽器の特性を理解しようとしている	楽器の特性を学ぼうとする姿勢がみられる	楽器の特性を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
思考・問題解決能力	1. 音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて考えている	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を的確に知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて深く考えている	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことで感じたこととの関わりについて概ね考えている	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚しようとする姿勢がみられる	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚しようとする姿勢がみられない	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚しようとする姿勢がみられない
技能	1. 積極的に歌唱することができる	小学校歌唱共通教材を通して歌う力が備わっている	積極的に歌唱しようとする姿勢がみられる	歌唱しようとする姿勢があり、苦手ながらも参加している	苦手意識が高く、声を出すのに補助がいる	歌唱する姿勢が感じられない
技能	2. 積極的に弾き歌いすることができる	小学校歌唱共通教材を通して弾き歌いする能力が備わっている	積極的にピアノに触れ、弾き歌いする姿勢がみられる	ピアノが苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高くピアノに触れる時間が少ない	弾き歌いする姿勢がみられない
技能	3. 積極的に器楽演奏に参加することができる	小学校器楽教材を通して楽器を演奏する能力が備わっている	積極的に楽器に触れ、演奏する姿勢がみられる	楽器が苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高く楽器に触れる時間が少ない	器楽演奏する姿勢がみられない
態度	1. グループ発表時に積極的に参加できている	積極的にグループで協働して創作ができ、発表することができる	積極的にグループ演習に参加し、協働する姿勢がみられる	グループ演習に参加し、自分の役割分担を責任を持ってできている	グループ演習には参加するものの協働する姿勢がみられない	グループ発表する姿勢がみられない

科目名	図画工作		授業番号	CO205	サブタイトル						
教員	伊藤 智里										
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	必修	選択	
授業概要	この講義では、小学校図画工作科で行われる教科書題材を取り上げながら、「造形的な見方・考え方」について講義する。実際の活動を通して、図画工作科で取り扱う様々な素材や技法に触れ、造形活動における基本的な技術を修得し、「造形的な見方・考え方」を身につけることを目的とする。										
到達目標	<p>(1)「造形的な見方・考え方」を身につけることができる。</p> <p>1)表現及び鑑賞の活動を通して「造形的な見方・考え方」に関して深く理解できる。</p> <p>2)「感性」や「想像力」をもとに思考することができる。</p> <p>3)自分にとって新しいものやことをつくりだすように「発想」や「構想」することができる。</p> <p>(2)表現及び鑑賞の活動を通して、創造的に表現活動ができる。</p> <p>1)基本的な画材や材料や用具の特性を理解することができる。</p> <p>2)基本的な画材や材料や用具を適切に取り扱うことができる。</p> <p>3)題材に対して、「造形的な見方・考え方」を働かせ、表し方などを工夫することができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。</p>										
授業計画 備考											
回	概要					担当					
第1回	表現と鑑賞とは 図画工作科の目的と内容										
第2回	図画工作科におけるICT活用 ICTを活用した作品の制作と鑑賞について理解する。										
第3回	造形遊びを通じた表現と鑑賞1 色水遊びで色彩を楽しみ、工夫して表現する体験をする。										
第4回	造形遊びを通じた表現と鑑賞2 身近な廃材を活用した造形遊びと材料の工夫について理解する。										
第5回	立体にあらわす表現と鑑賞1 粘土を使った感触あそびを体験し、粘土の特性を理解する。										
第6回	立体にあらわす表現と鑑賞2 粘土を使って立体に表す表現について体験し、鑑賞する。										
第7回	立体にあらわす表現と鑑賞3 廃材を工夫して、立体にあらわす表現を体験する。										
第8回	工作にあらわす表現と鑑賞1 はさみと紙を使って表現活動を行い、鑑賞する。										
第9回	工作にあらわす表現と鑑賞2 身近にある紙または紙製品を使い、道具の使い方を理解し作品を作る。										
第10回	工作にあらわす表現と鑑賞3 身近にある紙または紙製品を使い、工夫して工作作品を完成させ、鑑賞を行う。										
第11回	絵にあらわす表現と鑑賞1 パスの基本的な扱いについて理解し、色彩について体験する。										
第12回	絵にあらわす表現と鑑賞2 絵の具の基本的な使い方を理解し、特性を使って作品を作る。										
第13回	絵であらわす表現と鑑賞3 版画について基本的な内容を理解し、作品の構想を練る。										
第14回	絵であらわす表現と鑑賞4 版や刷り等を工夫しながら作品を制作する。										
第15回	絵であらわす表現と鑑賞5 作品の発表、鑑賞と意見交換を行う。										
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢/態度	30		意欲的な授業態度、予習・復習の状況によって評価する。								
作品・課題	70		各回の主要なポイントの理解を提出された小レポートや作品課題によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。								
評価の方法：自由記載	授業に出席し、制作活動を行うことが前提である。										
受講の心得	この講義を通して「造形的な見方・考え方」について探求してほしい。										
授業外学修	<p>1 復習として、課題を課すことがある。</p> <p>2 予習として、資料を配布することがある。</p> <p>3 発展学修として、授業で紹介された参考文献等を読む。</p> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>										
使用テキスト											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
すがこうさく・図画工作(図画工作科用検定済教科書)1～6年上巻		日本文教出版									
使用テキスト：自由記載	教科書の他の資料については、適宜指示する。										
参考図書											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							

参考書：自由記載	適宜，提示する。
その他	はさみ，のり，セロハンテープ，クレパス，色鉛筆，水彩絵具，定規，コンパス，カッターなど，様々な画材，素材，道具を使用する。詳しい準備物は適宜授業の中で提示する。準備物を忘れると活動ができないため，忘れ物がないように注意して持参すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 学習指導要領で示された「造形的な見方・考え方」を理解している	「造形的な見方・考え方」について十分に理解し，図画工作科で育成する資質・能力を具体的に説明することができる	「造形的な見方・考え方」について十分に理解し，図画工作科で育成する資質・能力を説明することができる	「造形的な見方・考え方」について理解し，図画工作科で育成する資質・能力も理解している	「造形的な見方・考え方」について理解しているが，図画工作科で育成する資質・能力の理解は不十分である	「造形的な見方・考え方」や図画工作科で育成する資質・能力を理解していない
思考・問題解決能力	1. 各題材について理解している	各題材における自分なりの問題意識を持ち，表現及び鑑賞活動を通して，その解決方法を検討し，改善したり，児童への指導に活かすことができる	各題材における自分なりの問題意識を持ち，表現及び鑑賞活動を通して，その解決方法を検討し，改善することができる	各題材における自分なりの問題意識を持ち，表現及び鑑賞活動を通して，その解決方法を検討することができる	各題材における自分なりの問題意識を持つが，その解決方法の検討が不十分である	各題材に対して，自分なりの問題意識や改善する視点を持っていない
技能	1. 教育現場で活用できる実践的な技能を身につけている	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法を十分に理解し，それらを適切に取り扱い，表したいことを十分に表現することができる	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法を十分に理解し，それらを取り扱い，表したいことを十分に表現することができる	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法を理解し，それらを取り扱い，表したいことを表現することができる	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法は理解しているが，それらの取り扱い方が不十分である	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法を理解しておらず，それらの取り扱い方も不十分である

科目名	社会		授業番号	CO209	サブタイトル						
教員	山田 恵子										
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	小学校社会科は、社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することをおとし、市民としての資質（公的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校社会科を指導する際、身につけておくべき基礎的な内容（地理・歴史・政治・経済等）を概説する。										
到達目標	小学校社会科を指導する際に必要な基礎的な学力・知識を身に付ける。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。										
授業計画 備考											
回	概要					担当					
第1回	小学校社会科の意義と目標 社会科で育つ資質能力について理解する。										
第2回	小学校社会科の全体構造 学年別内容構造の特徴を知り、地理的・歴史的・公的の基礎的概念を理解する。										
第3回	児童の発達段階と社会科学習 具体的操作期の学習特性について知り、身近な地域から広がる学習構成について理解する。										
第4回	地理的分野①身近な地域の学習 地理的分野の基礎的概念を理解する。（身近な地域の調査、観察・見学・聞き取りの指導、地図・写真の活用）										
第5回	地理的分野②日本の国土と地域の特色 地理的分野の基礎的概念を理解する。（都道府県・地方区分、産業・自然環境・交通、比較を通じた地域理解）										
第6回	地理的分野③地図・資料の活用 地理的分野の基礎的概念を理解する。（白地図・統計資料・写真資料、ICTの活用）										
第7回	歴史的分野①歴史学習のねらいと方法 歴史的分野の基礎的概念を理解する。（歴史的思考力とは、年表・時代区分の考え方、人物中心の学習構成）										
第8回	歴史的分野②先史～古代の学習 歴史的分野の基礎的概念を理解する。（縄文弥生のくらし、資料活用、想像と根拠のバランス）										
第9回	歴史的分野③中世～近世の学習 歴史的分野の基礎的概念を理解する。（武士のくらしと政治、くらしと文化の変化、因果関係を考える授業）										
第10回	歴史的分野④近代～現代の学習 歴史的分野の基礎的概念を理解する。（明治以降の社会の変化、戦争・平和・民主主義、現代につながる歴史理解）										
第11回	公的的分野①くらしと政治 公的的分野の基礎的概念を理解する。（市町村の役割、税・公共施設・選挙）										
第12回	公的的分野②日本国憲法と民主主義 公的的分野の基礎的概念を理解する。（憲法の基本原理、人権・平和・主権）										
第13回	社会における探究的学習と評価 問いの設定、評価におけるルーブリックの活用について理解する。										
第14回	社会科授業づくり演習 探究的学習を重視した指導案作成の仕方を理解する。										
第15回	小学校社会科教師に求められる力量と今後の課題 社会科における教師の専門性の大切さについて振り返り、今後の学びへの展望をもつ。										
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢／態度	20		意欲的な授業への参加態度、グループワーク等の参加状況、毎回のミニレポートによって評価する。ミニレポートはコメントをつけて返却する。								
レポート	30		社会科の目標、内容、方法について自分なりに理解し、具体的な事例を挙げながら説明できているかについて評価する。課題やレポートについてはコメントをつけて返却する。								
小テスト											
定期試験	50		最終的な理解度を評価する。								
その他											
評価の方法：自由記載											
受講の心得	社会科は社会的事象を教材とする教科である。日常から新聞、ニュース、雑誌、書籍等の情報に留意することが必要である。										
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習として、次時の授業内容の教科書を読み、それに関わる情報を新聞、ニュース、雑誌等から集めておく。 2. 復習として、課題のレポートを書く。 3. 発展学習として、地域で社会科教育に関連すると思われる活動に参加して、自分の見解を述べられるようにする。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。										

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 社会編	文部科学省	日本文教出版	9784536590099	
小学社会 3年		日本文教出版	9784536181822	
小学社会 4年		日本文教出版	9784536181839	
小学社会 5年		日本文教出版	9784536181846	
小学社会 6年		日本文教出版	9784536181853	
使用テキスト：自由記載				

参考図書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	小学校（教諭3年 教頭3年 校長3年）、幼稚園（園長5年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	小学校社会科は、社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することをおして、市民としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校社会科を指導する際、身につけておくべき基礎的な内容（地理・歴史・政治・経済等）を小学校勤務経験を活かし概説する。			

ループブック						
評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、地理的分野の学習の理解ができています。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、地理的分野の学習の理解ができています。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、地理的分野の学習の理解がほぼできています。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、地理的分野の学習の基本が理解できています。	学習指導要領の目標・内容・方法は一部しか理解できていないが、地理的分野の学習の基本が理解できています。	地理的分野の学習の基本がほぼ理解できていない。
知識・理解	2. 学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、歴史的分野の学習の理解ができています。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、歴史的分野の学習の理解ができています。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、歴史的分野の学習の理解がほぼできています。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、歴史的分野の学習の基本が理解できています。	学習指導要領の目標・内容・方法は一部しか理解できていないが、歴史的分野の学習の基本が理解できています。	歴史的分野の学習の基本がほぼ理解できていない。
知識・理解	3. 学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、公民的分野の学習の理解ができています。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、公民的分野の学習の理解ができています。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、公民的分野の学習の理解がほぼできています。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で、公民的分野の学習の基本が理解できています。	学習指導要領の目標・内容・方法は一部しか理解できていないが、公民的分野の学習の基本が理解できています。	公民的分野の学習の基本がほぼ理解できていない。

科目名	音楽科教育法		授業番号	CO318	サブタイトル	小学校音楽1～6年			
教員	川崎 泰子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領、小学校における音楽科教育の意義、目標、指導内容について理解を深め、小学校音楽科で育成すべき資質や能力、そのために取り扱う内容、題材の構成(指導計画の作成)、教材の選択と配列及び指導法・評価法について理解する。学習指導案を作成し模擬授業を行う。								
到達目標	<p>小学校学習指導要領の目標を理解した上で、教材研究から指導案・模擬授業への指導の流れを理解する。</p> <p>(1)小学校学習指導要領について説明することができる。</p> <p>(2)第1～6学年の系統性を踏まえ、発達段階に対応した教科指導の在り方を検討することができる。</p> <p>(3)小学校音楽科における学習指導上の基本的な留意点及び「表現」「鑑賞」の各活動における基本的な指導方法について理解し、児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得させるための学習指導案を作成することができる。</p> <p>(4)上記の理解に基づいて作成した学習指導案を模擬授業において実施できる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	学習指導要領に示された小学校音楽科の目的と目標 歌唱演習の発声、声の出し方などを理解する								
第2回	研究教材と指導法 低学年・中学年の歌唱共通教材の歌唱法 歌唱・弾き歌いについて理解を深め演習する								
第3回	研究教材と指導法 中学年・高学年の歌唱共通教材の歌唱法 歌唱・弾き歌いについて理解を深め演習する								
第4回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ 1年生～6年生までの歌唱共通教材において指導する立場での演習（小テストあり） 評価・コメントは演習後個人伝える								
第5回	研究教材と指導法 鑑賞教材の返還と低学年、中学年、高学年の鑑賞曲 鑑賞教材の歴史について理解を深め、鑑賞指導法の考察 ICTを活用した音楽学習の検討								
第6回	リコーダーの扱い方と指導法 課題協の習得と各曲の指導法に理解を深める リコーダーアンサンブルの指導法とリコーダーアンサンブルの教材研究								
第7回	リコーダーアンサンブルの指導法とリコーダーアンサンブルの教材研究 グループでの研究発表と考察（小テストあり）								
第8回	音楽科学習指導案作成にあたって留意点 指導案作成の理解を深める グループに分かれ模擬授業の準備								
第9回	模擬授業準備 弾き歌い・楽器演奏・鑑賞教材についてグループでの検討 協働する力を身に付ける								
第10回	模擬授業の実践とディスカッション：グループⅠ グループに別模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める								
第11回	模擬授業の実践とディスカッション：グループⅡ グループに別模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める								
第12回	模擬授業の実践 模擬授業の実践とディスカッション：グループⅢ グループに別模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める								
第13回	模擬授業の実践とディスカッション：グループⅣ グループに別模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める								
第14回	模擬授業の実践とディスカッション：グループⅤ グループに別模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める								
第15回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ 今までの演習を活かして弾き歌い実技試験 1年生～6年生までの歌唱共通教材において課題曲と任意の曲を演奏する 評価・コメントは演習後個人伝える 筆記試験についての説明								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	弾き歌い・グループ発表などの実技系の小テスト						
	レポート	10	課題・レポート・指導案の、理解度・定着度。添削後、返却する。						
	模擬授業発表	40	課題の到達度を評価する。実技を含む。						
	定期試験	10	知識の理解度・定着度。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	小学校教員への教職意識を持つこと。 使用教科書の『小学校学習指導要領解説 音楽編』に目を通しておくこと。								
授業外学修	授業で提示される次回の内容について、予習すること。 授業で提示された課題を実施し、復習すること。 上記の内容を、週当たり4時間程度学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN			備考		
	小学校学習指導要領平成29年公示解説 音楽編		平成29年6月、文部科学省						
	小学校音楽1～6年		教育芸術社						
使用テキスト：自由記載									

参考図書		書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校音楽科教育法				教育芸術社		
参考書：自由記載						
その他	ソプラノリコーダーを持参すること。					
備考						
注意事項						
担当教員の実務経験の有無	有					
担当教員の実務経験	公立小学校、中学校、私立中学、私立高校講師などの教員歴（20年）、少年少女合唱団主宰【2023年福武教育文化賞受賞】（12年）、数々の学校にて歌唱指導（20年）					
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無					
担当教員以外で指導に関わる実務経験者						
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かし、学校現場の体験を通して得た知識を伝えると共に、小学校音楽科教育に求められる専門的な知識・技能を深め、学習指導力、実践的な音楽実技指導力の向上に努める。					

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)		評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	音楽科学習指導案の基礎的な内容を理解している	音楽科学習指導案の書き方および歌唱共通教材、器楽教材を理解するとともに、表したい音楽表現を授業で展開する技能が身につく。	音楽科学習指導案の書き方および歌唱共通教材、器楽教材をおおむね理解するとともに、表したい音楽表現を授業で展開するための技能が身につく。	音楽科学習指導案の書き方および表したい音楽表現を授業で展開するための技能の必要性を理解しているが、歌唱共通教材、器楽教材について半分程度理解していない。	音楽科学習指導案の書き方および歌唱共通教材は半分くらい理解できるものの、表したい音楽表現を授業で展開する技能が身につかない。	音楽科学習指導案の書き方および歌唱共通教材、器楽教材は半分くらい理解できておらず、表したい音楽表現を授業で展開する技能が身につかない。	
思考・問題解決能力	1. 音楽表現を考えながら模擬授業を行うことができる	音楽表現を考えて表現に対する思いや意図を持ち、授業づくりに必要な事柄について判断し、歌唱指導や器楽演奏指導を模擬授業として実地することができる。	音楽表現を考えて表現に対する思いや意図を持ち、授業づくりに必要な事柄について判断し、歌唱指導や器楽演奏指導を模擬授業としておおむね実地することができる。	音楽表現や授業づくりに必要な事柄について考え、歌唱指導や器楽演奏指導を模擬授業として他者の補助を借りながら実地することができる。	音楽表現や授業づくりに必要な事柄について考えられないものの、歌唱指導や器楽演奏指導を模擬授業として他者の補助を借りながら実地することができる。	音楽表現や授業づくりに必要な事柄について判断することができず、歌唱指導や器楽演奏指導の模擬授業が成立しない。	
技能	1. 歌唱表現を行うことができる	楽譜を理解し歌唱表現として申し分ない声で歌えている。	楽譜を理解し歌唱表現として声が出ている。	楽譜を理解し歌唱表現として積極的に声を出そうとしている。	楽譜は理解しているが歌唱表現として積極的に声を出せていない。	楽譜を読み取ることができず歌唱表現として声が出せていない。	
技能	2. 弾き歌いを行うことができる。	楽譜を理解し、ピアノ演奏技法、歌唱表現が申し分ないレベルできている。	楽譜を理解し、ピアノ演奏技法、歌唱表現ができている。	楽譜を理解し、積極的にピアノ演奏技法、歌唱表現を行おうとしている。	楽譜は理解しているが積極的にピアノ演奏技法、歌唱表現ができている。	楽譜を読み取ることができずピアノ演奏技法、歌唱表現ができている。	
技能	3. 楽器演奏を行うことができる	楽器の特性を理解し演奏技法が申し分ないレベルできている。	楽器の特性を理解し、止まることなく演奏ができている。	楽器の特性を理解し、止まりながらも積極的に演奏ができている。	楽器の特性を理解しているが、積極的に演奏ができている。	楽器の特性を理解しているが、演奏ができない。	
態度	1. 模擬授業に積極的に参加できる。	協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに主体的に歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加することができる。	様々な音楽に親しむとともに主体的に歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加することができる。	様々な音楽に親しみながら、歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加することができる。	協働して音楽活動をする楽しさを感じることができないものの、様々な音楽を聞きながら、歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加しようとする様子が見られる。	協働して音楽活動をする楽しさを感じるなどの親近感がなく、主体的に歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加することができない。	

科目名	図画工作科教育法		授業番号	CO319	サブタイトル						
教員	伊藤 智里										
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	必修	選択	
授業概要	この講義では、小学校図画工作科で行われる教科書題材を取り上げながら、「造形的な見方・考え方」を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質能力を育成する指導のあり方について講義する。										
到達目標	<p>(1)学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解できる。</p> <p>1)図画工作科の学習指導要領における目標及び主な内容並びに全体構造を理解できる。</p> <p>2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解できる。</p> <p>3)図画工作科における学習評価の考え方を理解できる。</p> <p>(2)基礎的な学習理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。</p> <p>1)子どもの認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解できる。</p> <p>2)情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。</p> <p>3)学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。</p> <p>4)模擬授業の実施と振り返りを通して、授業改善の視点を持つことができる。</p> <p>なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解><技能>の修得に貢献する。</p>										
授業計画 備考											
回	概要					担当					
第1回	図画工作科の学習指導要領 教科の目標と内容										
第2回	図画工作科の授業構造 図画工作科の活動領域と教科の構造										
第3回	図画工作科における教師の支援 指導上の留意点										
第4回	図画工作科における評価 学習評価の考え方										
第5回	図画工作科における安全指導 題材別の安全指導上の留意点										
第6回	「造形あそび」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点										
第7回	「絵にあらわす」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点										
第8回	「立体にあらわす」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点										
第9回	「工作にあらわす」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点										
第10回	「鑑賞」の授業の組立と支援 鑑賞活動の方法とICT、アートカード等教材研究と指導上の留意点										
第11回	図画工作科の学習指導案1 学習指導案の構成の理解										
第12回	図画工作科の学習指導案2 学習指導案の作成										
第13回	図画工作科の学習指導案3 学習指導案の作成、掲示物等の準備										
第14回	模擬授業の実施と振り返り1 参加模擬授業の実践と振り返り、意見交換を行う。										
第15回	模擬授業の実施と振り返り2 参加模擬授業の実践と振り返り、意見交換を行う。										
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢/態度	10		意欲的な授業態度、予習・復習の状況によって評価する。								
ノート・課題	60		各回の主要なポイントの理解を提出されたノートや課題によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。								
模擬授業	30		模擬授業の準備・発表、ディスカッション等への参加状況等により評価する。								
評価の方法：自由記載											
受講の心得	「造形的な見方・考え方」が活きた授業はどのようにすると実現することができるかについて探求してほしい。										
授業外学修	<p>1 復習として、課題を課すことがある。</p> <p>2 予習として、資料を配布することがある。</p> <p>3 発展学修として、授業で紹介された参考文献等を読む。</p> <p>以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。</p>										
使用テキスト											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
小学校学習指導要領解説 図画工作編		日本文教出版	974536590112								
小学校図画工作科教科書1 年～6年上・下巻		日本文教出版									
使用テキスト：自由記載	小学校図画工作科教科書（ずがこうさく・図画工作）の1～6年上巻については、講義「図画工作」のテキストと同じものを使用する。										
参考図書											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
参考書：自由記載	適宜、提示する。										

その他	はさみ、のり、テープ、色鉛筆、水彩絵具、定規、コンパス、カッターなど、様々な画材、素材、道具を使用する。詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 学習指導要領を理解している	学習指導要領に示された図画工作科の全体構造を十分に理解した上で、目標、内容、指導上の留意点、学習評価の考え方について説明することができる	学習指導要領に示された図画工作科の目標、内容、指導上の留意点、学習評価の考え方について理解し、説明することができる	学習指導要領に示された図画工作科の目標、内容、指導上の留意点、学習評価の考え方について理解している	学習指導要領に示された図画工作科の目標、内容は理解できているが、指導上の留意点、学習評価の考え方についての理解が不十分である	学習指導要領に示された図画工作科の目標、内容、指導上の留意点、学習評価の考え方についての理解ができていない
技能	1. 図画工作科の授業を設計し実践することができる	学習指導案の構成を十分に理解し、具体的な授業を想定した学習指導案を作成し、実践と振り返りを通して、授業を改善することができる	学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した学習指導案を作成し実践し、実践と振り返りを通して、授業改善の視点を持つことができる	学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した学習指導案を作成し実践することができる	学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した学習指導案を作成できるが、実践することが不十分である	学習指導案の構成を理解しておらず、具体的な授業を想定した学習指導案の作成や実践ができない

科目名	教職概論		授業番号	CP209	サブタイトル				
教員	太田 憲孝								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	教職概論は、子どもの生活と学校、教師の仕事、教師に求められる資質・能力等について、使用するテキスト及び関係する資料をもとに理解する。教職を目指す学生が、職業論（教職の全体像をつかむとともに、教職に関する基礎的な知識）を身に付け、教職に対する意欲を喚起し、専門職としての基礎を身に付ける。								
到達目標	子どもの生活と学校、教師の仕事、教師に求められる資質・能力等の観点から、教職に対する理解を深めるとともに、教師としての使命や責任を知り、教職に対する自らの意欲や適性を見つめ直すことを到達目標とする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉(態度)の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	本科目を学ぶ目的 「教師に対する保護者の意識を取り上げた配布資料を読み、教師の道を志すための構えを持つ。」								
第2回	最近の子どもの生活 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、最近の子どもの生活の現状や問題点、課題解決の取り組みについて考えをもつ。」								
第3回	学校の中での子ども（1） 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、いじめの現状と問題点、防止の取り組みについて考えをもつ。」								
第4回	学校の中での子ども（2） 「いじめの出現と学級集団のあり方に関する資料を読み、いじめの出現傾向と防止の方法について考えをもつ。」								
第5回	学習指導の役割と方法 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、学習指導とレイネス、家庭の文化資本等との関係について考えをもつ。」								
第6回	学習指導と指導過程 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、目標設定や学習過程に働く様々な内発的動機付けについて考えをもつ。」								
第7回	学習指導と学習形態 「使用するテキストの中の関係する頁や配布資料を読み、一斉学習や小集団学習等の活用の仕方について考えをもつ。」								
第8回	生徒指導の意義や目的、機能 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、生徒指導の教育的意義や様々な教育活動における機能等について考えをもつ。」								
第9回	生徒指導の方法 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、児童生徒理解の重要性、集団指導・個別指導を有効に機能させる3つのモデルについて考えをもつ。」								
第10回	キャリア教育の目的と内容 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、キャリア教育の目的や今までに経験した具体的な取り組みについて考えをもつ。」								
第11回	教育相談の目的と方法 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、教育相談の意義や目的、実際に教育相談を行うときの配慮について考えをもつ。」								
第12回	学級経営の内容及方法 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、学級経営の概念や学級経営のあり方について考えをもつ。」								
第13回	学級経営と特別活動 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、小学校特別活動の目的や内容を理解するとともに、よりよい学級づくりについて考えをもつ。」								
第14回	教師に求められる資質・能力 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、子どもと向き合う教師の姿や教師に求められる資質・能力について考えをもつ。」								
第15回	学び続ける教師 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、教育の本質を求め続ける教師の生き方について考えをもつ。」								
授業計画 備考2									
評価の方法									
種別		割合		評価基準・その他備考					
授業への取り組みの姿勢／態度		20		意欲的な学習態度や予習に対する取り組みを評価する					
レポート		30		授業毎の学習内容の理解を評価する。提出されたレポートはコメントを付けて返却し、学びの深まりを理解できるようにする。					
小テスト									
定期試験		50		最終的な理解度を評価する。					
その他									
評価の方法：自由記載									
受講の心得		テキストを読んだり、グループで話し合ったりすることを通して、教職や教師のあり方等について考えを深めること。							
授業外学修		1. 予習として、使用テキストの授業内容にかかわる部分を読み、課題をレポートにまとめる。 2. 教育に関するニュースに関心をもち、自分の考えや感想を話すことができるようにする。							

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新版(改訂二版)教職入門 教師への道	藤本典裕	図書文化	978-4-8100-9720-7	1980円
使用テキスト: 自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書:自由記載	授業において随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	公立小・中学校教員(27年), 国立附属中学校教員(4年), 市教育委員会指導主事(3年)			
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無			
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者				
実務経験をい かした教育内 容	小・中学校教員や指導主事等での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで, 実感を伴った理解を図り, 学習指導力, 生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.最近の子どもの生活や学 習の状況、教師の仕事、教師 に求められる資質・能力等につ いて理解している。	・最近の子どもの生活や学習 の状況、教師の仕事、教師に 求められる資質・能力等につ いて、教師の立場に立って深く理 解している。	・最近の子どもの生活や学習 の状況、教師の仕事、教師に 求められる資質・能力等につ いて、深く理解している。	・最近の子どもの生活や学習 の状況、教師の仕事、教師に 求められる資質・能力等につ いて理解している。	・最近の子どもの生活や学習 の状況、教師の仕事、教師に 求められる資質・能力につ いての理解がやや不十分であ る。	・最近の子どもの生活や学習 の状況、教師の仕事、教師に 求められる資質・能力の理解 が不十分である。
態度	1. 教職に関する基礎的な 知識・理解をもとに、教職に対 する自らの志や適性を見つめ 直そうとしている。	・教職に関する基礎的な知 識・理解をもとに、教職に対 する志や適性を見つめ直し、 自らの進路を総合的に熟考し 判断しようとしている。	・教職に関する基礎的な知 識・理解をもとに、教職に対 する志や適性を見つめ直し、 自らの進路を総合的に判断し ようとしている。	・教職に関する基礎的な知 識・理解をもとに、教職に対 する志や適性を見つめ直し、自 らの進路を判断しようとしてい る。	・教職に対する基礎的な知 識・理解をもとに、教職に対 する志や適性を見つめ直すこ とがやや不十分であり、進路の 判断に迷いがある。	・教職に対する基礎的な知 識・理解が不十分であり、教 職に対する自らの志や適正を 見つめ直すことが難しい。

科目名	国語		授業番号	CO201	サブタイトル				
教員	太田 憲孝								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	小学校教員免許の取得に関係して、『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』に示されている小学校国語科教育の目標及び内容について、小学校国語教科書に掲載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の教材をもとに具体的に理解し、授業力の基礎を身に付ける。グループによる話し合い等を通して、各教材及び教科の特質を理解するとともに、教材の見方や教材研究の素地を養う。								
到達目標	教科書に掲載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の教材等を分析することを通して、各教材の特質を理解するとともに、小学校学習指導要領(平成29年告示)に示されている小学校国語科の目標及び内容を具体的に理解できるようにする。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、(知識・理解)(思考・問題解決力)の修得に貢献する。								
授業計画 備考	一斉学習と小グループでの活動により授業を行う。								
回	概要					担当			
第1回	言葉の働き(本科目を学ぶ目的) 「4つの言語活動を確認するとともに、先行研究をもとに言葉の力について理解する。」								
第2回	国語科教育と国語教育 「国語科教育と国語教育について知るとともに、両者の関係を理解する。」								
第3回	文学的文章の指導(1) 「教科書に掲載されている物語を読み、虚構性や物語文法等について物語の特質を理解する。」								
第4回	文学的文章の指導(2) 「前時に取り上げた物語を再度読み、物語の表現や仕掛けと読者との関係を理解する。」								
第5回	文学的文章の指導(3) 「前時に取り上げた物語を再度読み、物語の構造と作者との関係について理解する。」								
第6回	「書くこと」の指導(1) 「教科書に掲載されている教材や小学校学習指導要領を読み、表現過程について理解する。」								
第7回	「書くこと」の指導(2) 「教科書に掲載されている教材を読み、現行の学習指導要領の特徴について具体的に理解する。」								
第8回	「書くこと」の指導(3) 「児童の生活作文を読み、人間形成を促す作文指導について理解する。」								
第9回	「話すこと・聞くこと」の指導(1) 「教科書に掲載されている教材を読み、話し合う活動の目的や方法等について理解する。」								
第10回	「話すこと・聞くこと」の指導(2) 「教科書に取り上げられている教材を読み、スピーチの特質について理解する。」								
第11回	説明的文章の指導(1) 「教科書に掲載されている教材や資料を読み、説明的文章の特質について理解する。」								
第12回	説明的文章の指導(2) 「前時に使用した説明的文章を再度読み、説明的文章の構造について理解する。」								
第13回	説明的文章の指導(3) 「前時に使用した説明的文章を再度読み、説得性や間色の表現等について理解する。」								
第14回	「主体的・対話的で深い学び」の趣旨と学習過程 「現行の小学校学習指導要領や資料を読み、趣旨や具体的な学習過程のあり方について理解する。」								
第15回	読書指導 「小学校学習指導要領に述べられている指導事項や教科書に掲載されている指導事例を読み、読書指導の意義について理解する。」								
授業計画 備考2	補講や天候等により授業内容が前後したり変更したりする場合がある。								
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	予習への取り組み、意欲的な学習態度や話し合い活動への参加を評価する。						
	レポート	30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートはコメントを付けて返却し、学習の深まりが理解できるようにする。						
	小テスト								
	定期試験	50	最終的な学習内容の定着度を評価する。						
	その他								
評価の方法：自由記載	レポートは、予習した内容や資料を写すのではなく、その授業において深まった内容や考えたことを記述するよう努力する。								
受講の心得	配布資料及びレポートは、整理してファイルしておくこと。 学生相互による話し合い活動では、積極的に参加し互いに考えを深めること。								
授業外学修	1. 予習として、資料や課題に示された教科書の部分を読み、レポートにまとめ提出すること。 2. 使用した教材をきっかけに、関連する教科書教材に関心を広げること。 3. 日常的に読書に親しむこと。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	はじめての国語 授業の基礎・基本	茅野正徳・榎谷孝徳	東洋館出版社	978-4-491-05775-0	1900円+税				
	使用テキスト：自由記載								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									
備考									

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立小中学校・小中一貫校国語科教員(27年), 国立附属中学校国語科教員(4年), 市教育委員会指導主事(3年)
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	小学校学習指導要領の理解, 教材分析

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点 (到達目標に 基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.教材を分析して、特徴的な表現や仕掛け、内容を捉え、その教材の特質を理解している。	・教材を分析して、それぞれの教材について特徴的な表現や仕掛け、内容等を捉え、その教材の特質や指導内容を構造的に理解している。	・教材を分析して、それぞれの教材について特徴的な表現や仕掛け、内容等を捉え、その教材の特質や指導内容を理解している。	・教材を分析して、それぞれの教材について特徴的な表現や仕掛け、内容の大体を捉え、その教材の特質や指導内容を理解している。	・教材を分析して、関心のあ る教材について特徴的な表現 や仕掛け、内容を捉え、その 教材の特質を理解している。	・教材を分析することが難しく、特徴的な表現や仕掛け、内容を捉えることが難しく、教材の特質を理解することが難しい。
思考・問題解決能力	1.教材分析の方法を身に付け、教材の特質を捉えるとともに、指導内容を明らかにしている。	・多様な教材分析の方法を身に付け、それを駆使して教材の特質を捉えるとともに、指導内容を明らかにすることができる。	・教材分析の方法を身に付け、効果的に活用して教材の特質を捉えるとともに、指導内容を明らかにすることができる。	・教材分析の方法を身に付け、それを活用して教材の特質を捉えるとともに、指導内容を明らかにすることができる。	・教材分析の方法が十分に身に付いていないため、教材の特質を捉えることが難しい。	・教材分析の方法が身に付いていないため、教材の特質を捉えることが難しい。

科目名	算数		授業番号	CO202	サブタイトル						
教員	岸 誠一										
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	必修	選択	
授業概要	本講義では、単なる計算技術の習得ではなく、数学という学問の背後にある「不思議」や「美しさ」を、実験や制作を通じて体験します。中学生レベルの知識があれば理解できるアプローチで、微分積分や無限といった高度な概念の「本質」に触れ、数学的な見方・考え方を養います。										
到達目標	1. 数学の情緒的理解: 数学の概念(無限、微分積分、確率など)を、抽象的な数式ではなく、具体的な現象や活動を通じて直感的に説明できる。2. 実験と検証の技能: 身の回りの事象を数値化・モデル化し、実験やシミュレーションを通じて数学的法則を導き出せる。3. 探究的態度: 「難しい」と感じる数学的課題に対し、手を動かし、試行錯誤することを楽しもうとする姿勢を持つ。本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	スマホの画面は「美の黄金比」? 身近なカードや画面の比率を測定し、人間が心地よいと感じる数理の正体を突き止める。										
第2回	満室なのに泊まれる「無限ホテル」の謎 直感に反する「無限」の世界をパズル感覚で解き明かし、数の深淵を体験する。										
第3回	針を落とすだけでnが求まる! ? 偶然の実験(ヒュフォンの針)で円周率を算出し、カオスの中に潜む秩序を発見する。										
第4回	銀行も驚く「魔法の数字e」の正体 複利計算の極限から生まれる自然対数の底eを、電卓を叩いて自分の手で導き出す。										
第5回	折り紙1枚で「不可能」を可能にする 定規では描けない「角の三等分」を折り紙で作成し、幾何学の自由な発想を会得する。										
第6回	綿棒で組み上げる「宇宙の設計図」 5つしかない正多面体を綿棒で制作し、宇宙の法則「オイラーの多面体定理」を検証する。										
第7回	「限りなく近い」をスマホでズームせよ! グラフの接点を極限までズーム撮影し、ε(エプシロン)の壁を直感的に理解する。										
第8回	今度の「ダービー」確率論で大儲け! ? オッズ表から「期待値」を計算し、ギャンブルの裏側にある数理モデルを分析する。										
第9回	1000回のサイコロが語る「必然の運命」 全員の試行データを集計し、偶然が必然(大数の法則)に変わる瞬間の美しさを鑑賞する。										
第10回	空飛ぶ「風の糸」が描く関数の正体 風のカーブを写真に撮り、放物線とは異なる「懸垂線(カテリリー)」を特定する。										
第11回	スピード違反の証拠は「微分」にあり 動画のコマ送りから「瞬間の速度」を割り出し、変化の瞬間を切り取る数学を実感する。										
第12回	池の面積を「薄切り」にして計り尽くせ 複雑な図形を細い長方形で埋めて面積を推定し、積分の「塵も積もれば」の精神を学ぶ。										
第13回	微分方程式で「100年後の未来」を予言する 人口増加のルールを数式化し、未来の社会がどう変化するかをPCでシミュレーションする。										
第14回	カリフラワーに潜む「無限ループ」の美 自然界の「フラクタル構造」をスケッチし、単純なルールが作る複雑な世界を考察する。										
第15回	「算数嫌いを卒業する自分への卒業証書」 14回の発見をポートフォリオにまとめ、子どもたちに語れる「数学の楽しさ」を再定義する。										
授業計画 備考2											
評価の方法											
	種別	割合	評価基準・その他備考								
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な学習態度、発表・討議への取り組みの姿勢を評価する。								
	レポート	30	「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。								
	小テスト	30	前回の授業の内容の理解を評価する。小テストは採点して返却し、解説する。								
	その他	20	ノートのまとめ方・算数図形作品を評価する。ノート・作品等はコメントを記入して返却する。								
評価の方法: 自由記載											
受講の心得	授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。 自分が小学校で経験した算数科の授業を想起しながら、実際に問題を解いたり、教え方を考えたりすること。										
授業外学修	1 配付資料や小テスト等を整理して、本時の講義内容をノートにまとめ復習する。 2 発展学習として、授業で興味を持った内容について調べ深める。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。										
使用テキスト											
	書名	著者	出版社	ISBN	備考						
使用テキスト: 自由記載											
参考図書											
	書名	著者	出版社	ISBN	備考						
	数学の感動	藤原 正彦	文春文庫		「数学の情緒的理解」を重視する先生のスタンスに非常に近い一冊です。数学が論理だけでなく、いかに美しさや情緒に基づいているかを説いている						
	ストロガッツ 数学の愉しみ	スティーヴン・ストロガッツ	岩波書店		微分積分やε(エプシロン)の壁、カオスの中の秩序 など、高度な概念を直感的かつ鮮やかに解説している						
参考書: 自由記載	・『無限ホテルへようこそ』(ジョン・D・パロー 著 / 岩波書店) 第2回「無限ホテル」のテーマである、無限の直感に反する性質をパズル感覚で楽しめる 『オイラーの贈物—人類の至宝 e ⁿ = -1 を学ぶ』(吉田 武 著 / ちくま学芸文庫) 第4回の自然対数の底eや第6回のオイラーの多面体定理の背景知識を整理するのに適した、数学教育の名著 『折り紙の数理』(トーマス・ナル 著 / 森北出版) 第5回の「角の三等分」など、折り紙幾何学の数学的背景を詳しく解説している										
その他											

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	教員(校長を含む)21年、岡山県教育委員会教育職員11年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	公立小学校, 教育委員会事務局等での実務経験を生かして, 教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

ループブック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	数学的概念の本質的理解	無限、微分積分、確率などの概念を、中学生にもわかるよう、身近な現象と結びつけて独創的かつ深く説明できる。	シラバスの各テーマにおける数学的背景を、具体的な事例を用いて概ね正確に説明できる。	授業で扱った数学的概念の基本を、最低限、中学生レベルの言葉で説明できる。	数学的概念の理解が断片的であり、説明に不正確な点が見られる。	数学的概念の本質を全く理解できていない、または説明が困難である。
技能	実験・検証・制作の遂行	ピュフオンの針や綿棒多面体等の実験・制作において、高い精度でデータを収集・分析し、独自の工夫を凝らした成果物を作成できる。	実験やワークシートの作成、模型制作を適切に実行し、論理的な手順で数学的法則を導き出せる。	提示された手順に従い、丁寧かつ正確に実験データの収集や模型制作を行うことができる。	実験や制作の過程で手順の誤りが目立ち、成果物の完成度が不足している。	実験・制作への取り組みが極めて不十分であり、留意点が反映されていない。
態度	探究的姿勢と気づきの表現	困難な課題に対しても試行錯誤を楽しみ、レポート等において自己の深い洞察や独自の発見を極めて豊かに表現できる。	授業や討議に意欲的に参加し、自身の気づきを明確な論理でレポート等にまとめることができる。	授業に積極的に参加し、自分なりの気づきを標準的なレベルでレポート等に表現できる。	参加姿勢が受動的であり、レポートにおける「自分の気づき」の表現が表面にとどまっている。	授業への参加意欲が低く、レポート等に気づきや考察がほとんど見られない。

科目名	理科	授業番号	CO210	サブタイトル					
教員									
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について概括するとともに、中学・高校での物理・化学・生物・地学領域の学習内容との関連について学修する。また、小学校理科の授業運営に必要な教材研究の方法について修得する。								
到達目標	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について、関連した物理・化学・生物・地学領域の知識を身に付ける。また、小学校理科の授業運営に必要な教材研究の技能を修得する。なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要				担当				
第1回	光の反射・屈折 光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの物質の境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだして理解する。								
第2回	凸レンズの働き 凸レンズの働きについての実験を行い、物体の位置と像の向きとの関係を見いだして理解する。								
第3回	植物の栽培（1） 学校園を整備し、植物の栽培を通して植物の葉、茎、根のつくりについての観察を行い、それらのつくりを理解する。								
第4回	電流と電圧 回路をつくり、回路の電流や電圧を測定する実験を行い、回路の各点を流れる電流や各部に加わる電圧についての規則性を見いだして理解する。								
第5回	電流と電圧と抵抗 金属線に加わる電圧と電流を測定する実験を行い、電圧と電流の関係を見いだして理解するとともに、金属線には電気抵抗があることを理解する。								
第6回	植物の栽培（2） 学校園を整備し、身近な植物の外部形態の観察を行い、その観察記録などを行う。その記録に基づいて、共通点や相違点があることを見いだして、植物の体の基本的なつくりを理解する。また、その共通点や相違点に基づいて植物が分類できることを見いだして理解する。								
第7回	電流とエネルギー 電流によって熱や光などを発生させる実験を行い、熱や光などが取り出せること及び電力の違いによって発生する熱や光などの量に違いがあることを見いだして理解する。								
第8回	力のつりあい 物体に働く2力、3力についての実験を行い、力がつり合うときの条件を見いだして理解する。								
第9回	仕事とエネルギー 仕事に関する実験を行い、仕事と仕事率について理解する。また、衝突の実験を行い、物体のもつ力学的エネルギーは物体が他の物体になしうる仕事で測れることを理解する。								
第10回	植物の細胞 生物の組織などの観察を行い、生物の体が細胞からできていること及び植物と動物の細胞のつくりの特徴を見いだして理解するとともに、観察器具の操作、観察記録の仕方などの技能を身に付ける。								
第11回	植物の体のつくり 植物の葉、茎、根のつくりについての観察を行い、それらのつくりと、光合成、呼吸、蒸散の働きに関する実験の結果とを関連付けて理解する。								
第12回	遺伝のしくみ 交配実験の結果などに基づいて、親の形質が子に伝わる際の規則性を見いだして理解する。								
第13回	酸・アルカリ・塩 酸とアルカリの性質を調べる実験を行い、酸とアルカリのそれぞれの特性が水素イオンと水酸化物イオンによることを知る。また、中和反応の実験を行い、酸とアルカリを混ぜると水と塩が生成することを理解する。								
第14回	火山岩と深成岩 火山の形、活動の様子及びその噴出物を調べ、それらを地下のマグマの性質と関連付けて理解するとともに、火山岩と深成岩の観察を行い、それらの組織の違いを成因と関連付けて理解する。								
第15回	地震の伝わり方 地震の体験や記録を基に、その揺れの大きさや伝わり方の規則性に気付くとともに、地震の原因を地球内部の働きと関連付けて理解し、地震に伴う土地の変化の様子を理解する。								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度、実験・観察に取り組む態度、予習・復習の状況によって評価する。						
	レポート	10	レポートの内容と提出状況によって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。						
	小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。小テストは採点して返却し、解説する。						
	定期試験	60	最終的な理解度を評価する。						
	その他								
評価の方法：自由記載									
受講の心得	毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。								
授業外学修	1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	東洋館出版		111

使用テキスト：自由記載	小学校理科教科書3～6年, 「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省				
参考図書					
書名	著者	出版社	ISBN	備考	
参考書：自由記載					
その他					
備考					
注意事項					
担当教員の実務経験の有無	有				
担当教員の実務経験	公立・国立小中学校教員, 公立中学校管理職 (29年) での実務経験を有する。				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容	公立・国立学校理科教員, 公立学校管理職 (29年) での実務経験を基に教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。				

ループブック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.努力を要する	E.相当の努力を要する
知識・理解	1. 小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について, 関連した物理・化学・生物・地学領域の内容を理解できる	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について, 関連した物理・化学・生物・地学領域の内容を広範囲かつ詳細に理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について, 関連した物理・化学・生物・地学領域の内容を広範囲に理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について, 関連した物理・化学・生物・地学領域の基礎的な内容を十分に理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について, 関連した物理・化学・生物・地学領域の基礎的な内容を十分に理解していない。	小学校学習指導要領に示された理科の学習内容について, 関連した物理・化学・生物・地学領域の基礎的な内容が理解していない。
技能	1. 小学校理科の授業運営に必要な教材研究の技能を身に付ける。	小学校理科の授業運営に必要な教材研究の技能を広範囲かつ詳細に身に付けている。	小学校理科の授業運営に必要な基礎的な教材研究の技能を広範囲に身に付けている。	小学校理科の授業運営に必要な基礎的な教材研究の技能を十分に身に付けている。	小学校理科の授業運営に必要な基礎的な教材研究の技能を十分に付けていない。	小学校理科の授業運営に必要な基礎的な教材研究の技能を身に付けていない。

科目名	家庭	授業番号	CO211	サブタイトル	家族や家庭、衣食住、消費や環境など生活事象の理解				
教員	齊藤 佳子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	家庭科教育で児童に何を指導し、何を学ばせ、どんな資質・能力を育むのかについて、衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して明らかにする。また、小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識及び技能を実習・実験等を通して身につける。								
到達目標	家庭科教育の意義を理解し、家庭生活を中心とした人間の生活を健康で豊かに営むことができる能力と社会の変化に対応できる家庭科力を身につける。また、家庭科に関心をもち、学んだことを生活に生かし、自分の生き方や生活改善に役立てる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考	最初の授業日に、学年暦で定められた授業日と回数を示し、各回のテーマや具体的な内容、教室及び準備物を記載した授業予定表を配付する。								
回	概要				担当				
第1回	小学校家庭科において育成を目指す資質・能力、小学校家庭科の内容構成 小学校家庭科の学習指導要領を読み、目標や内容について理解する。								
第2回	「A家族・家庭生活」 自分の成長と家族・家庭生活、生活時間、家庭生活と仕事、地域の人々との関わりの指導内容を理解する。								
第3回	「B衣食住の生活」：ねらいと内容構成、基礎縫いとボタンの付け方 「B衣食住の生活」のねらいと内容構成を理解する。 「衣生活」の指導内容を理解し、手縫いの基礎縫いとボタンの付け方における基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。								
第4回	「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための製作／フェルトを使った小物作り 「衣生活」の指導内容である手縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な使い方の知識及び技能を習得する。								
第5回	「B衣食住の生活」：緑黄色野菜の調理実験とじゃがいも、ゆで卵のゆで時間による変化 「食生活」の指導内容を理解し、「調理の基礎」の指定題材の青菜やじゃがいものゆで加熱における基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。								
第6回	「B衣食住の生活」：材料に適した炒め方 「食生活」の「調理の基礎」の指導内容である材料に適したため方に関する知識及び技能を習得する。								
第7回	「B衣食住の生活」：米飯及びみそ汁の調理 「食生活」の「調理の基礎」の内容の取扱いを理解し、伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理、和食の基本となるだしの役割に関する知識及び技能を習得する。								
第8回	「B衣食住の生活」：栄養を考えた食事、1食分の献立作成 「食生活」の「栄養を考えた食事」の指導内容を理解し、栄養素の種類と働き、食品の栄養的な特徴と組み合わせに関する基礎的・基本的な知識を習得する。 献立を構成する要素、1食分の献立作成の方法について理解する。								
第9回	「B衣食住の生活」：衣服の着用と手入れ 「衣生活」の指導内容である衣服の主な働きや季節や状況に応じた日常着の快適な着方、手入れの仕方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。								
第10回	「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」：快適な住まい方、環境に配慮した生活、実験・実習（通風・換気実験） 「住生活」と「環境に配慮した生活」の指導内容を関連付けて理解し、自然の力を活用した季節の変化に合わせた快適な住まい方について考える。								
第11回	「C消費生活・環境」：物や金銭の使い方と買物 「買物の仕組みや消費者の役割」「購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできること」に関する知識及び技能を習得する。								
第12回	「B衣食住の生活」：子どもの学びを高めるICTの活用 小・中・高等学校家庭科でのICT教育の指導上の配慮事項について理解し、ICTを活用した学習活動は、どのような学習内容に取り入れると効果が上がるのか考える。								
第13回	「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた物の製作(1)（エコバッグ・手提げバッグ・巾着袋等） 布の特徴について理解し、製作計画や製作に関する知識及び技能を習得する。								
第14回	「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた物の製作(2)（エコバッグ・手提げバッグ・巾着袋等） ミシン縫いの基本やミシンの安全な取り扱い方について知識及び技能を習得する。								
第15回	「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた物の製作(3)（エコバッグ・手提げバッグ・巾着袋等） ミシン縫いによる生活を豊かにするための布を用いた物の製作についての知識及び技能を習得する。								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業終了時に当日の講義の要約を記述して摘出を求めるコメントペーパーにより、評価を行う。						
	レポート	20	授業で学修した内容を深めることができたかを評価する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。						
	小テスト								
	定期試験	50	最終的な理解度を評価する。						
	その他	20	以下の製作した作品について評価する。作品についてはコメントを記入して返却する。 基礎縫い：5%、フェルトの小物：5%、エコバッグ・手提げバッグ・巾着袋等：10%						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	家庭科は、家庭生活を主な学習対象としている。講義で学んだことを日常生活でも実践するとともに、常に「自分が授業するなら、どの題材を用いて、どのような授業をしたいか」を考えながら受講する。								
授業外学修	シラバスで計画的な学修を促すため、授業予定表に、具体的な内容とその内容に該当する小学校家庭科の教科書のページと、中学校家庭科の教科書のページを明記しているため、予習として授業前に読んでおくこと。 授業後に復習として習った箇所のページを再度読んで確認する。この活動を毎回実施すること。 以上の内容を、週当たり2時間以上学修すること。								

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
わたしたちの家庭科	著作者代表内野紀子他	開隆堂	9784304080647	274円
小学校学習指導要領解説家庭編	文部科学省	東洋館出版社	9784491023748	103円
使用テキスト：自由記載	「私たちの家庭科」と小学校学習指導要領解説家庭編は絶対必要なテキストである。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新編 新しい技術・家庭(家庭分野)	佐藤文子・金子佳代子他	東京書籍	9784487122820	646円
平成29年改訂小学校教育課程実践講座 家庭	岡 陽子・鈴木明子編著	ぎょうせい	9784324103104	1944円

参考書：自由記載 中学校の家庭科教科書「新編 新しい技術・家庭 家庭分野」は、受講者全員に購入させる必要はないが、採用試験を受験する人は購入して欲しい。採用試験には、中学校の内容からも出題されているからである。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 家庭科教育の意義と目標を理解している。	家庭科教育の意義と目標を正確に理解し述べることができる。	家庭科教育の意義と目的をほぼ理解し述べることができる。	家庭科教育の意義と目的を大体述べることができる。	家庭科教育の意義と目的を正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	家庭科教育の意義や目的をまったく理解できていない。
知識・理解	2. 小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識について正確に理解し述べることができる。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識について正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識について大体述べることができる。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識について正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識についてまったく表現することができない。
思考・問題解決能力	1. 家庭科に関心をもち、学んだことを生活に生かし、自分の生き方や生活改善に役立てることについて考えたり、自分なりに工夫したりしている。	生活について見直し、身近な生活の課題を見付け、その解決を目指して多角的に考察をし工夫している。	生活について見直し、身近な生活の課題を見付け、その解決を目指して考察を加え工夫している。	生活について見直し、身近な生活の課題を見付け、自分の考えを述べることができる。	生活について見直し、身近な生活の課題を見付けることができる。	課題が未提出である。
技能	1. 小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通して身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通して大変よく身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通して身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通してある程度身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通して十分に身につけていない。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族、消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能をまったく身につけていない。
技能	2. 布を用いた生活を豊かにする小物の製作に関する基礎的な技能を身につけている。	生活を豊かにする布を用いた作品を正確にきれいに製作できる。	生活を豊かにする布を用いた作品を製作できる。	生活を豊かにする布を用いた作品を大体製作できている。	生活を豊かにする布を用いた作品を十分に製作できていない。	生活を豊かにする布を用いた作品をまったく製作できていない。
態度	意欲的かつ主体的に学修に取り組む姿が見られる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	授業に出席し、授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に欠席したり、出席しコメントシートを提出したりしているが、理解が不十分である。	授業に欠席、または出席しているが、コメントシートが未提出である。

科目名	英語		授業番号	CO212		サブタイトル			
教員	西田 寛子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	本講座の全体目標は、小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な「英語運用力」と英語に関する「背景的な知識」を身に付けることである。まず、「英語運用力」を身に付けるために、毎回の講座のペアやグループワークで、言語活動を継続的に行う。その中で、授業実践に必要なClassroom English, Teacher Talk等も、授業場面を想定して練習する。また、講座内で行う言語活動については、小学校の授業での応用について考察する。次に、「背景的な知識」については、事前課題でテキストを読み、そのポイントをしレポートにまとめた上で、授業中のグループディスカッションで共有・質疑応答をする。そして、指導者による講義を聞き、理解を深める。さらに、小学校の授業への応用についてグループ討議・考察を行う。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○英語に関する背景的な知識の修得 ・英語に関する基本的な事柄(音声, 語彙, 文構造, 文法, 正書法等)について理解している。 ・第二言語習得に関する基本的な事柄を理解している。 ・児童文学(絵本, 子供向けの歌や詩等)について理解している。 ・異文化理解に関する事柄について理解している。 ○授業実践に必要な英語力の向上 ・授業実践に必要な英語の4技能(聞く力, 話す力(やりとり・発表), 読む力, 書く力)を身に付けている。 本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち<知識・理解> <技能> <態度>の修得に貢献する。 								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ○イントロダクション ・本講座の目的, 内容, 評価方法等について確認する。 ・小学校英語教育の変遷を理解し, その成果と課題を考察する。 ○授業実践に必要な英語運用力の向上 ・ペアやグループで言語活動をするともに, 小学校の授業への応用について考察する。 								
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な「聞く力」を身に付けるための言語活動を行う。 ・小学校の授業への応用についてグループ討議, 考察する。 								
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な「話す力」を身に付けるための言語活動を行う。 ・小学校の授業への応用についてグループ討議, 考察する。 								
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な「読む力」を身に付けるための言語活動を行う。 ・小学校の授業への応用についてグループ討議, 考察する。 								
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な「書く力」を身に付けるための言語活動を行う。 ・小学校の授業への応用についてグループ討議, 考察する。 								
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な英語の「4技能」を身に付けるために、「領域統合型の言語活動」を行う。 ・小学校の授業への応用についてグループ討議, 考察する。 								
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ○背景的な知識の修得 ・英語の「音声」についての基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき, 小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 * これ以降の講座では、「背景的な知識の修得」を主活動とし、「英語運用力の向上」に係る活動は講座のウォームアップとして短時間で行う。 								
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ○背景的な知識の修得 ・英語の「文構造・文法」についての基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき, 小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上(ウォームアップとして実施) ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 								
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ○背景的な知識の修得 ・英語の「語彙」についての基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき, 小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上(ウォームアップとして実施) ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 								
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ○背景的な知識の修得 ・英語の「正書法」についての基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき, 小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上(ウォームアップとして実施) ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 								
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ○背景的な知識の修得 ・第二言語習得に関する基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき, 小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上(ウォームアップとして実施) ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 								
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ○背景的な知識の修得 ・児童文学(絵本)について理解する。 ・上記理解に基づき, 絵本の選定, ペアで絵本の読み聞かせを行う。 ○英語運用力の向上(ウォームアップとして実施) ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 								
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ○背景的な知識の修得 ・児童文学(子供向けの歌・詩)について理解する。 ・上記理解に基づき, 児童向けの歌を歌ったり, 詩の朗読を行ったりする。 ○英語力の向上(ウォームアップとして実施) ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 								
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ○背景的な知識の修得 ・異文化理解に関する基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき, 小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上(ウォームアップとして実施) ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 								
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ○英語運用力の向上(ウォームアップとして実施) ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 ○講座全体のまとめ・省察 ・講座全体を振り返って省察し, 今後の授業実践への応用について討議・考察する。 								
授業計画 備考2									

評価の方法		割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度		40	授業中の言語活動への取組やグループディスカッションでの発表等の意欲・態度ならびに自立的な学びの姿勢（予習・復習の状況）によって評価する。<態度>
レポート		40	レポートに記述された学びの状況を評価する。<知識・理解> *レポートはコメントを記入して返却する。また、優れたレポートをモデル例として全体に示し、受講者の今後の学びのポイントを解説する。
その他（英語運用力）		20	授業実践に必要な英語運用力について評価する。<技能>
評価の方法： 自由記載			
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> 授業中のペアやグループでの言語活動に意欲的に取り組むこと。 グループディスカッションでは、積極的に意見を述べたり、質問したりすること。 		
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> 事前にテキストを必ず読み、そのポイントや自分の意見をレポートにまとめて授業に臨むこと。 英語運用力向上のために、授業前後において、テキストの二次元バーコードで音声や動画を視聴して英語の音声聞き、繰り返し声に出して練習すること。 テキストによる専門的な知識の修得については、小学校の授業への応用を考えレポートに記述すること。 以上の学修を、週4時間以上行うこと。		

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校英語はじめる教科書（改訂第3版）外国語科・外国語活動指導者養成のためにーコア・カリキュラムに沿ってー	小川隆夫・東仁美	mpi	978-4-89643-863-5	2,640円
Crown Jr. 5	酒井英樹 ほか	三省堂	978-4-385-70642-9	337円
Crown Jr. 6	酒井英樹 ほか	三省堂	978-4-385-70643-6	337円
Let's Try!1	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25870-3	255円
Let's Try!2	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25871-0	255円
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編	文部科学省	開隆堂	978-4-304-05168-5	140円
使用テキスト：自由記載	後期の「英語科教育法」「児童英語演習」は、上記と同じテキストを使用するので、後期に改めて購入の必要はない。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年）、公立中高一貫教育校指導教諭（6年）、公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：1年）、県教育委員会指導主事（4年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし、小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語運用力を育成するとともに、英語に関する背景的な知識の修得を図る。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）				
		A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	英語に関する背景的な知識の修得	小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を十分かつ正確に身に付けている。	小・中学校の接続も踏まえながら、小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を十分に身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識の修得についてやや不十分なところがある。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識が身に付いていない。
技能	授業実践に必要な英語運用力の修得	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を、授業場면을意識しながら十分に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を、授業場면을意識しながら身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力についてやや不十分なところがある。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力が身に付いていない。
態度	1. 授業への貢献度	授業内容や関連する事柄に興味・関心をもち、自分の考えを自主的に発言し、クラス全体の学びに常に貢献している。	興味・関心をもち、自分の考えを自主的に発言し、クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば、自分の考えを発言し、クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば自分の考えを発言するが、クラス全体の学びに貢献するレベルには達していない。	指名されても自分なりの考えを発言できない。
態度	2. 自立的な学び（予習・復習）	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し、必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し、その内容を十分に理解した上で、自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し、その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが、その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	社会科学教育法		授業番号	CO314	サブタイトル						
教員	山田 恵子										
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	小学校社会科は、社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することとおして、市民としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校学習指導要領に規定されている社会科学教育の目標・内容や指導法及び学習指導案の作成について、模擬授業をおして基礎的な理解を深め、指導技術を身につけさせる。										
到達目標	小学校社会科の目標・内容・指導法及び学習指導案の作成について理解し、授業展開に関する基礎的な知識と技能を身に付ける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	小学校社会科の意義と役割 社会科の成立と役割、学習指導要領における社会科の位置づけについて理解する。										
第2回	小学校社会科の目標と内容（小学校学習指導要領 社会） 小学校社会科の目標と内容構造を学習指導要領に基づいて理解する。										
第3回	第3学年の目標と内容（地域の社会的現象） 学習指導要領の第3学年の目標と内容について理解する。										
第4回	第4学年の目標と内容（日本の国土と地域の特徴） 学習指導要領の第4学年の目標と内容について理解する。										
第5回	第5学年の目標と内容（我が国の産業や国土） 学習指導要領の第5学年の目標と内容について理解する。										
第6回	第6学年の目標と内容（我が国の歴史、政治、国際理解） 学習指導要領の第6学年の目標と内容について理解する。										
第7回	社会科の評価の観点と評価規準 問いの設定や思考・判断・表現の評価について理解する。										
第8回	小学校社会科学学習指導案の作成 児童の発達段階に応じた社会科授業を構想できる力を身につける。										
第9回	社会科の多様な学習活動 単元計画・指導案作成を通して探究的な学習方法を探る。										
第10回	模擬授業① 作成した学習指導案をもとに模擬授業をおこない、相互評価をする。										
第11回	模擬授業② 作成した学習指導案をもとに模擬授業をおこない、相互評価をする。										
第12回	模擬授業③ 作成した学習指導案をもとに模擬授業をおこない、相互評価をする。										
第13回	模擬授業④ 作成した学習指導案をもとに模擬授業をおこない、相互評価をする。										
第14回	模擬授業⑤ 作成した学習指導案をもとに模擬授業をおこない、相互評価をする。										
第15回	社会科学学習指導法の課題とまとめ 社会科指導法について振り返り、今後の学びへの展望をもつ。										
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢／態度	20		意欲的な授業への参加態度、グループワーク等の参加状況等を毎回のミニレポートで評価する。ミニレポートはコメントをつけて返却する。								
レポート	30		社会科学教育に関わる理論を理解できているか、それを科学的な根拠に基づき評価する。レポートについてはコメントをつけて返却する。								
小テスト											
定期試験	50		最終的な理解度を評価する。								
その他											
評価の方法：自由記載											
受講の心得	「なぜ社会科を学ぶのか」「なぜ学校教育に社会科が必要か」という問いをもって毎時間の授業に臨むこと										
授業外学修	1. 予習として、課題に必ず取り組む。（各自が取り組んだ課題をもとにグループワークを行う） 2. 復習として、課題のレポートを書く。 3. 発展学習として、社会科授業の指導案を読んだり自分で指導案を作成したりする。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。										
使用テキスト											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
小学校学習指導要領解説 社会編	文部科学省	日本文教出版	9784536590099								
小学社会3年		日本文教出版	9784536181822								
小学社会4年		日本文教出版	9784536181839								
小学社会5年		日本文教出版	9784536181846								
小学社会6年		日本文教出版	9784536181853								
使用テキスト：自由記載											
参考図書											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
参考書：自由記載											
その他											

備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	小学校（教諭3年 教頭3年 校長3年）、幼稚園（園長5年）での実務経験を有する。
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者の有 無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務 経験者	
実務経験を いかした教 育内容	小学校勤務経験を活かし、教科指導の大切さを伝えるとともに、小学校学習指導要領に規定されている社会科教育の目標・内容、指導法及び学習指導案の作成について、模擬授業をとおして基礎的な理解を深め、指導技術を身につけさせられるよう授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点（到達目標に基 づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 学習指導要領の目標・ 内容・方法を理解できている。	学習指導要領の目標・内容・ 方法を理解できている。	学習指導要領の目標・内 容・方法をほぼ理解でき ている。	学習指導要領の目標・内 容・方法の基本的な内容を 理解できている。	学習指導要領の目標・内 容・方法を一部しか理解 できていない。	学習指導要領の目標・内 容・方法をほぼ理解でき ていない。
知識・理解	2. 指導案を作成するた めの知識を身につけてい る。	指導案を作成するための知 識を身につけている。	指導案を作成するための知 識をほぼ身につけている。	指導案を作成するための知 識を簡単に身につけてい る。	指導案を作成するための知 識を一部しか身につけら れていない。	指導案を作成するための知 識をほぼ身につけていな い。

科目名	算数科教育法		授業番号	CO315	サブタイトル				
教員	平井 安久								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	算数科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために、小学校算数科の目標や指導内容、教材研究や指導計画、学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。								
到達目標	1) 算数科の指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的な事項を理解する。 2) 算数科の教材研究や学習指導案の作成等について知り、授業実践に活かそうとする。 3) 算数科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	算数教育の意義、目標 「数直線の役割」 算数教育の意義と目標を解説する。続いて具体的な事例として、算数科の各学年にわたって用いられている数直線の使い方や役割について整理する。文章題を解く過程として、「場面→式→答」のステップを考える際に、数直線はどこで機能するかを解説する。								
第2回	「わり算の指導の指導1」 わり算の最初の指導では、当分除と包含除で説明をおこなうことを具体的な事例で確認する。								
第3回	「わり算の指導の指導2」 学年が上がるにつれて、わり算の場面は複雑になっていく。数値に単位をつけて解釈することで、場面の違いをどのように分類すべきかを説明する。								
第4回	「小6等しい比の指導」 比の指導の困難さは、2つの数を用いて1つの関係を表現しようとする点にある。「割合」の単元で学習してきた概念をベースにしながら比の概念を構築するための注意点を説明する。								
第5回	「文章題：似た問題とは」 文章題の構造を見るには、何種類の「単位」が用いられているかを見ることが重要である。かけ算の文章題かわり算の文章題かという判断ではない。低学年から高学年までの算数文章題を通して、単位の付き方に目をつけて場面を考えることを説明する。								
第6回	「関係図の功罪とは」 具体的な乗除の文章題で、関係図を使って問題を解くことを体感する。さらに文章題中の数値に注意をとられると、同じ文章題でも、立式がかけ算になることもわり算になることも起こり得ることに気づかせたい。								
第7回	「乗除の文章題の分類」 算数科では高学年にいたるまでに多くの文章題にふれる。文章題に現れる数値に単位をつけることで、文章題(問題場面)を分類することができる。教師としての新たな視点をもつことを解説する。								
第8回	「多様な見方の危険性：小4変わり方の指導」 4年生の変わり方の単元の指導場面を例として、子どもの多様な見方を優先する形の授業進行をすることで、本来授業目標として教えるべき内容が強調できなくなる危険性について解説する。								
第9回	「小1たし算・ひき算ストラテジー」 1年生の児童がたし算・ひき算を学習する段階は、就学以前の計算方法に大きく依存している。指使用か暗算かという単純な仕組みではなく、被加数や加数をどこまで抽象的に記憶できるかのレベルに大きく依存する。結果的に子どものストラテジーとなって現れるという構造を解説する。								
第10回	「文章題：表をつかうストラテジー」 少々難しい文章題を解く場合は、手段として作った表が結果的に役に立つスタイルだったか否かで最終的な正解に結びつくかどうかに影響するという状況を説明する。さらには、立式のレベルにまで進んでしまうこともある点も説明する。								
第11回	「目標にあった授業：小5速さの指導」 5年生の速さの授業では、ともすると「速さくらべ」に力が入り、どのような比べ方を考えるかに時間を費やしてしまう傾向にある。重要なのは、速さが2つの異なる量から作られた新しい量なので、それを表記する仕方や読み方を強調しなければいけない点を説明する。								
第12回	「小数・分数の乗除の特徴」 「問題場面→式→答」という流れをベースにして考え、問題文中の数につく単位の種類を考えることで、同じ文章題でもことなる意味合いのかけ算(わり算)になることを説明する。								
第13回	「指導案の目標を確認する」 これまでの単元ごとの指導の目標を確認するために、(既に公表されている)実際の本事案事例について、目標や指導手段について確認する。								
第14回	「指導案的確さを検証する」 前回の授業で、自分で確認した手段や目標について、問題点などを整理し議論できるようにする。								
第15回	「指導案の改善事例を作る」 第13回と14回での活動結果をもとにして、自分なりの授業改善を試みる。授業本事案のスタイルとして完成させる。								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度によって評価する。						
	レポート	30	「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。レポートの解説をしながら、進めていく。						
	学習指導案の分析・作成などの努力	30	主要なポイントの理解を評価する。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	小学校の教員として、子どもたちに算数科の学習を仕組むときに、どのようなことに留意しなければならないかについて具体的に理解し実践する意志をもって授業に臨むこと。								

授業外学修	1 各単元で教えるべき目標や必要な手順があるので、教壇に立つ側の者として理論的に整理できるようにすること。 2 授業内容の研究は教材研究や模擬授業に先駆けて重要な仕事となる。模擬授業ですべてを学ぶことができるかのような勘違いに陥らないことが大切である。 3 教科書の記述にはどの単元でも共通した流れがある。その理屈を自分のことばで説明できるまでになしてほしい。
-------	--

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 算数編	文部科学省			
小学校算数教科書1年～ 6年		啓林館		
使用テキスト：自由記載	小学校学習指導要領解説 算数編，小学校算数教科書1年～6年は，在学中に最終的には揃えておくことが望ましい。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	無			
担当教員の 実務経験	無			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者	無			
実務経験を いかした教育 内容				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項を理解する	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項をよく理解している。	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項を概ね理解している。	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項を普通に理解している。	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項の理解がやや不十分である。	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項を全く理解していない。
思考・問題解決能力	1. 個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考え実践することができる。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考え積極的に実践することができる。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考え説明することができる。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考えることはできるが、自分から進んで実践する態度は見受けられない。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考えることはやや不十分であり、自分から進んで実践する態度は見受けられない。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考えることは全くできない。また、自分から進んで実践する態度も見受けられない。
技能	1. 算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法を理解している。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法をよく理解している。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法を概ね理解している。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法を普通に理解している。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法の理解がやや不十分である。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法を全く理解していない。

科目名	理科教育法		授業番号	CO316	サブタイトル						
教員	岸 誠一										
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	小学校学習指導要領に示された目標を分析し、育成すべき資質能力について概括する。また、理科の学習内容について教科書に沿って説明する。いくつかの単元を採り上げて、観察・実験の方法を習得し、教材研究の技能を身に付ける。その上で、学習指導案の作成に取りかかり、観察・実験を取り入れた模擬授業を行う。										
到達目標	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び、理科教育において育成を目指す資質・能力について理解する。また、学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面に想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	小学校理科の目標 学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた理科の目標の示し方について理解する。										
第2回	小学校理科の内容 理科で育成する三つの資質・能力の柱に応じた理科の内容の配列について理解する。										
第3回	理科で育成する資質・能力 学習指導要領改訂の方針に示された三つの資質・能力の柱について理解する。										
第4回	理科の学習理論 理科の学習指導に影響を与えた行動主義、認知主義、構成主義の各学習理論について理解する。										
第5回	理科の学習指導法 各学年の発達段階に応じた学習内容の配列やそれに応じた学習指導法について理解する。										
第6回	問題解決能力の育成 各学年に応じた理科の問題解決の能力が各学年の目標や内容にどのように位置づけられているか理解する。										
第7回	理科教科書での題材の配列 学習指導要領の各学年の内容に示された項目と、理科教科書の各単元の対応について理解する。										
第8回	教材研究の仕方 理科教科書に掲載されている教材について分かりやすい指導のための方法を習得する。										
第9回	学習指導案の作成 国立教育政策研究所や岡山県教育センターから出された学習指導要領の書き方の様式に沿って学習指導案を記述する技能を習得する。										
第10回	物質・エネルギーにかかわる教材研究 理科教科書に掲載されている物質・エネルギーにかかわる教材について分かりやすい指導の方法を習得する。										
第11回	生命・地球にかかわる教材研究 理科教科書に掲載されている生命・地球にかかわる教材について分かりやすい指導の方法を習得する。										
第12回	模擬授業 1 作成した学習指導案で取り上げた単元の教材研究を行い、模擬授業を実施することを通して授業実践の技能を身に付ける。また、自己評価、相互評価を通して授業を振り返る。										
第13回	模擬授業 2 作成した学習指導案で取り上げた単元の教材研究を行い、模擬授業を実施することを通して授業実践の技能を身に付ける。また、自己評価、相互評価を通して授業を振り返る。										
第14回	模擬授業 3 作成した学習指導案で取り上げた単元の教材研究を行い、模擬授業を実施することを通して授業実践の技能を身に付ける。また、自己評価、相互評価を通して授業を振り返る。										
第15回	模擬授業 4 作成した学習指導案で取り上げた単元の教材研究を行い、模擬授業を実施することを通して授業実践の技能を身に付ける。また、自己評価、相互評価を通して授業を振り返る。										
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢/態度	10		意欲的な受講態度、模擬授業、実験・観察に取り組む態度、予習・復習の状況によって評価する。								
レポート	10		レポートの内容と提出状況によって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する								
小テスト	20		各回の主要なポイントの理解を評価する。小テストは採点して返却し、解説する。								
定期試験	60		最終的な理解度を評価する。								
その他											
評価の方法：自由記載											
受講の心得	毎回、授業のはじめに小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。また、返却された小テストは、ノートに貼付し、復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。										
授業外学修	1 予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。										
使用テキスト											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
小学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	東洋館出版		111							
使用テキスト：自由記載	小学校理科教科書3～6年、「小学校学習指導要領解説 理科編」文部科学省										
参考図書											
書名	著者	出版社	ISBN	備考							
参考書：自由記載											

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭(13年), 公立小学校校長(8年), 公立幼稚園長(3年小学校長と兼務), 県生涯学習センター(3年), 県情報教育センター(6年)での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	公立小学校教諭,公立学校園管理職, 県生涯学習センター, 県情報教育センターでの実務経験を基に教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校学習指導要領に示された理科の目標及び, 理科教育において育成を目指す資質・能力について理解できる。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び, 理科教育において育成を目指す資質・能力について広範かつ詳細に理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び, 理科教育において育成を目指す資質・能力について広範に理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び, 理科教育において育成を目指す資質・能力について基礎的な内容を十分理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び, 理科教育において育成を目指す資質・能力について基礎的な内容を十分に理解していない。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び, 理科教育において育成を目指す資質・能力について基礎的な内容を理解していない。
知識・理解	2. 学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解できる。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて広範かつ詳細に理解している。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて広範に理解している。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて基礎的な内容を十分理解している。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて基礎的な内容を十分に理解していない。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて基礎的な内容を理解していない。
技能	1. 様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を広範かつ詳細に身に付けている。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を広範に身に付けている。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基礎的な方法を十分身に付けている。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基礎的な方法を十分に理解していない。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基礎的な方法を身に付けていない。

科目名	生活科教育法		授業番号	CO317	サブタイトル	(学習指導要領を大切にした指導案の作成)				
教員	齊藤 佳子									
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択	
授業概要	(1)学習指導要領の内容を踏まえながら、生活科の教科書に沿って、単元ごとに授業の具体的な内容・事例を検討し、指導案が作成できるようにする。									
到達目標	<p>(1)指導要領解説生活科編を参考に生活科の内容について理解を深めることができるとともに、資質能力の育成についても理解を深めることができる。さらに単元ごとに具体的な指導のポイントを把握することができる。</p> <p>この内容は、ティップマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解>の習得に貢献する。</p> <p>(2)生活科の教科書に沿って単元ごとに具体的な授業内容をイメージすることができ、内容を理解し具体的にイメージしたうえで各小単元の目標を立てることができる。そして、授業についてイメージし目標によって具体的な指導案を作成することができる。</p> <p>この内容は、ティップマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<思考・問題解決能力>の習得に貢献する。</p> <p>(3)上記の内容を踏まえ生活科の教科書に沿って具体的な授業についてイメージし他の学生と協力しながら積極的に単元目標の設定や具体的な指導案の作成を行うことができる。</p> <p>この内容は、ティップマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<態度>の習得に貢献する。</p>									
授業計画備考										
回	概要					担当				
第1回	学習指導要領 生活科の目標 第2章 教科の目標 第1節 教科目標 教科目標の構成 教科目標の趣旨 資質・能力の三つの柱としての目標の趣旨 観察カードの内容に対するコメントの書き方									
第2回	第2節 学年の目標 学年の目標の設定 学年の目標の趣旨 単元「はなをさかせよう」 小単元「たねをまこう」目標設定等 生活科の栽培活動について									
第3回	第3章 生活科の内容 第1節 内容構成の考え方 内容構成の具体的な視点 内容を構成する具体的な学習活動や学習対象 内容の構成要素と階層性 小単元「はなをそだてよう」「はなのようすをつたえよう」 「たねをとろう」目標設定、指導案の検討等									
第4回	第2節 生活科の内容 生活科の内容(1)～(3)について 単元「なつがやってきた」 小単元「こういでなつをさがそう」目標設定、指導案の検討等 「評価規準」について									
第5回	第2節 生活科の内容 生活科の内容(4)～(6) 単元「なつがやってきた」 小単元「こうえんでなつをさがそう」 「みずであそぼう」目標設定、指導案の検討等									
第6回	第2節 生活科の内容 生活科の内容(7)～(9) 単元「なつがやってきた」 小単元「なつのことをつたえよう」目標設定、指導案の検討等 「振り返りの活動、交流活動」について									
第7回	第2章 指導計画の作成と内容の取扱い 指導計画作成上の配慮事項その1 単元「いきものとなかよし」 小単元「むしをさがそう」目標設定、指導案の検討等 「動物飼育」について									
第8回	第2章 指導計画の作成と内容の取扱い 指導計画作成上の配慮事項その2 単元「いきものとなかよし」 小単元「どうぶつのせわをしよう」目標設定、指導案の検討等 「気づきの質を高めるための板書の構造化」について									
第9回	第2章 指導計画の作成と内容の取扱い 指導計画作成上の配慮事項その3 単元「たのしいあきいっぱい」 小単元「こういであきをさがそう」目標設定、指導案の検討等 気づきの質を高めるために									
第10回	第5章 指導計画の作成と学習指導 第1節 生活科における指導計画と学習指導の基本的な考え方 単元「たのしいあきいっぱい」 小単元「こうえんであきをさがそう」 「はっぱや みであそぼう」「あきのおもちゃをつくろう」 「いっしょにあそぼう」目標設定、指導案の検討等 「比較」について									
第11回	第5章 指導計画の作成と学習指導 第2節 生活科における年間指導計画の作成 単元「じぶんのできるよ」 小単元「いでのせいかつをみつめよう」 「じぶんのできることをしよう」目標設定、指導案の検討等 「実態把握、家庭との連携、家庭環境への配慮」について									
第12回	第5章 指導計画の作成と学習指導 第3節 単元計画の作成 「新しい学習指導が期待するもの」について									
第13回	第5章 指導計画の作成と学習指導 第4節 学習指導の進め方 「スタートカリキュラム」について 1									
第14回	スタートカリキュラム 単元「どきどきわくわく1ねんせい」 小単元「がっこうのいちにち」 「はじめましてともち」目標設定、指導案検討等 「スタートカリキュラム」について 2									

第15回	生活科のまとめ 学習内容を振り返るとともに重要なポイントを再度確認する。 単元「もうすぐ2ねんせい」 小単元「あたらしい1ねんせいをしようしよう」 「しようたいたことをはなしあおう」 「1ねんかんをふりかえろう」について目標設定、指導案の検討等	
授業計画備考2		
評価の方法		
種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な授業態度
レポート	30	課題に対する授業内容に沿った具体的な例を挙げたレポートであること。なお、レポート提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
小テスト		
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。
その他		
評価の方法： 自由記載		
受講の心得	小学校で実際に授業ができるよう、より具体的なイメージをもって授業を受けること。	
授業外学修	(1)身近な自然に親しみ、植物や動物を観察しながら、地域を散策すること。 (2)身近な生活から、生活科の授業にいかせる教材を発見する取り組みをすること。 (3)予習として、教科書のうち、授業内容にかかわる部分を読み、積極的に授業に参加できる準備をすること。	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校指導要領（平成29年告示）解説 生活科編	文部科学省	株式会社東洋館出版社	9784491034645	
新しい生活 上	田村学ほか84名	東京書籍株式会社	9784487106615	
実践・小学校生活科指導法	田村学編著	学文社	9784762032882	

使用テキスト：自由記載 教材用のプリントを用意する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	無			
担当教員の 実務経験				
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の有無	無			
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者				
実務経験を いかけた教育 内容	小学校における授業で実際に生かすことができるポイントを押さえた教育内容			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 指導要領において生活科の内容について理解を深めることができる。	具体的に理解することができる。	理解することができる。	大まかに理解することができる。	いくつかの内容について理解することができる。	理解することができない。
知識・理解	2. 資質能力の育成について理解を深めることができる。	具体的に理解することができる。	理解することができる。	大まかに理解することができる。	少し理解することができる。	理解できない。
知識・理解	3. 単元ごとに具体的な指導のポイントを把握することができる。	具体的な指導のポイントを把握することができる。	指導のポイントを把握することができる。	大まかな指導のポイントを把握することができる。	いくつかの単元で大まかな指導のポイントを把握することができる。	把握することができない。
思考・問題解決能力	1. 生活科の教科書に沿って単元ごとに具体的な授業内容をイメージすることができる。	具体的な授業内容をイメージすることができる。	授業内容をイメージすることができる。	大まかに授業内容をイメージすることができる。	いくつかの単元で大まかに授業内容をイメージすることができる。	イメージすることができない。
思考・問題解決能力	2. 内容を理解し具体的にイメージしたうえで各小単元の目標を立てる。	具体的な目標を立てることができる。	目標を立てることができる。	大まかな目標を立てることができる。	いくつかの単元で大まかな目標を立てることができる。	目標を立てることができない。
思考・問題解決能力	3. 授業についてイメージし目標にそって具体的な指導案を作成することができる。	具体的な指導案を作成することができる。	指導案を作成することができる。	大まかな指導案を作成することができる。	いくつかの単元で大まかな指導案を作成することができる。	指導案を作成することができない。
態度	1. 他の学生と協力しながら積極的に単元目標の設定や具体的な指導案の作成を行うことができる。	他の学生と協力しながら積極的に行うことができる。	他の学生と協力しながら多くの単元で積極的に行うことができる。	他の学生と協力しながらいくつかの単元で積極的に行うことができる。	他の学生と協力しながらいくつかの単元で行うことができる。	行うことができない。

科目名	家庭科教育法		授業番号	CO321		サブタイトル								
教員	齊藤 佳子													
単位数	2単位		開講年次	2年		開講期	後期		授業形態	講義(対面授業科目)		必修・選択	選択	
授業概要	小学校家庭科の授業を通して、「生きる力」や「確かな学力」を育成するという強い理念をもって、学習指導要領に求められる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」等、学ぶ意欲を児童に身に付けさせる授業を構想することができるようにする。 授業構想を具体化するために学習指導案を作成して模擬授業を実施し、模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身につける。													
到達目標	小学校家庭科の授業開発を通して、児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得するためには、どのような学習の工夫が必要かしっかり検討し、効果的な家庭科の授業を模擬授業を通して創造することができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。													
授業計画 備考	最初の授業日に、学年歴で定められた授業日と回数を示し、各回のテーマや具体的な内容、教室及び準備物を記載した授業予定表を配付する。模擬授業の実施・分析・評価については、模擬授業の実施日が決定した時点で、実施日と授業者の名前を記載したプリントを改めて配付する。													
回	概要						担当							
第1回	小学校家庭科の目標 小学校家庭科において育成を目指す資質・能力、目標について理解する。													
第2回	小学校家庭科の内容 小学校家庭科の内容構成のポイントについて理解する。													
第3回	家庭科の年間指導計画と題材指導計画、教育方法 2学年間を見通した指導計画作成のポイントと指導上の留意点について理解する。													
第4回	家庭科の評価と学習指導案の内容 家庭科の評価項目と学習指導案の書き方について理解する。													
第5回	学習指導案の作成と模擬授業、家庭科におけるICT機器の活用 既成の学習指導案を基に、教材研究をして学習指導案を作成する。													
第6回	既成の家庭科指導案を基に細案を作成 細案を作成し、板書計画や教師としてのどのように指示を出すか、授業の流れをどのようにするかを考察する。													
第7回	細案を基に模擬授業を実施1・2 「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」(5年生)の内容に関する模擬授業を実施し、模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身につける。													
第8回	細案を基に模擬授業を実施3・4 「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5・6年生)の内容に関する模擬授業を実施し、模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身につける。													
第9回	細案を基に模擬授業を実施5・6 「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5・6年生)の内容に関する模擬授業を実施し、模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身につける。													
第10回	教材研究と学習指導案の作成(1) 「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」領域の内容(5・6年生)を理解し、教材と指導案を考える。													
第11回	教材研究と学習指導案の作成(2) 細案を作成し、板書計画や教師としてのどのように指示を出すか、授業の流れをどのようにするかを考察する。													
第12回	模擬授業の実施・分析・評価1・2 「A 家族・家庭生活」「B 衣食住の生活」(5年生)の内容に関する模擬授業を実施し、模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身につける。													
第13回	模擬授業の実施・分析・評価3・4 「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(5年生)の内容に関する模擬授業を実施し、模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身につける。													
第14回	模擬授業の実施・分析・評価5・6 「B 衣食住の生活」「C 消費生活・環境」(6年生)の内容に関する模擬授業を実施し、模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身につける。													
第15回	模擬授業の総括：模擬授業全体の振り返りと授業改善 模擬授業を振り返り、適切な教材を用いたか、よりよい指導法はなかったのかなどその要因を考察し、授業改善を図る。													
授業計画 備考2														
評価の方法														
種別		割合		評価基準・その他備考										
授業への取り組みの姿勢／態度		10		授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントページにより、評価を行う。										
レポート		20		作成した指導案、模擬授業の振り返りなどの記述を評価する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。										
小テスト		10		小学校家庭科の主要なポイントの理解を評価する。										
定期試験		50		最終的な理解度について評価する。										
その他		10		模擬授業：授業態度、教師としての授業技術及び授業に内容に関する以下の項目について評価する。 授業技術に関する項目：声の大きさ、板書（見やすさ）、児童への目線、教材・教具の工夫、話し方等 授業内容に関する項目：導入の工夫、児童への発問の工夫、説明のわかりやすさ、学習活動の工夫、授業の流れのわかりやすさ等										
評価の方法：自由記載														
受講の心得		教材研究の深さが学習指導案と密接に関連し、更に児童の学習意欲とも深く関係していることを理解する。また、授業開始時に配付する授業予定表に、授業内容に該当する小学校と中学校の教科書のページを明記しているため、授業の事前・事後に必ず目を通し授業に臨む。												
授業外学修		1 事前に、模擬授業で取り上げる内容についてしっかり教材研究をする。 2 模擬授業についての感想を、授業後に数人発表する。 3 模擬授業について、学生に迅速で建設的なフィードバックを行い、次の模擬授業に活かす。 4 模擬授業についての感想を毎時間書かせ、授業者に一言コメントとして、良かった所や改善して欲しい所を書いたプリントを渡す。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。												
使用テキスト														
書名	著者	出版社	ISBN	備考										
わたしたちの家庭科	著作者代表内野紀子他	開隆堂	9784304080647	274円										
小学校学習指導要領解説家庭編	文部科学省	東洋館出版社	9784491023748	103円										

使用テキスト：自由記載					
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	新訂 新しい技術・家庭 (家庭分野)	佐藤文子・金子佳代子他	東京書籍	9784487122820	646円
参考書：自由記載	中学校の家庭科教科書「新編 新しい技術・家庭 家庭分野」は、採用試験を受験する人は購入して欲しい。採用試験には、中学校の内容からも出題されている。				
その他	採用試験には、具体的な指導方法を問う問題が出題される。模擬授業には、「自分ならどうするか」と考えながら参加する。小学校家庭科の内容は、全て実践して身に付けておくことが望ましい。				
備考					
注意事項					
担当教員の実務経験の有無	無				
担当教員の実務経験					
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識を理解している。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識について見につけて、正確に理解し述べることができる。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識を身につけて、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識について、大体述べることができる。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1. 学習指導要領に求められる学ぶ意欲を児童に身につけさせる授業を構想することができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察している。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対し、自分の考えを十分に述べることができない。	課題を考察することができていない。
思考・問題解決能力	2. どのような学習の工夫が必要か検討することができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に検討している。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った検討をしている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対し、自分の考えを十分に述べることができない。	課題に対し、考えていない。
思考・問題解決能力	3. 効果的な授業を模擬授業を通して考え創造することができる。	模擬授業を通して課題を見つけ、その解決を目指して論理的整合性を持ち、多角的に考察し工夫している。	模擬授業を通して課題を見つけ、その解決を目指してほぼ論理的整合性を持った考察を加え工夫している。	模擬授業を通して課題を見つけ、その解決を目指して自分の考えを述べることができる。	模擬授業を通して課題を見つけ、その解決を目指すことができるが、自分の考えを述べることができない。	課題を見つけることができていない。
技能	1. 児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能を身につけている。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能を大変よく身につけている。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能を身につけている。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能をある程度身につけている。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能を十分に身につけていない。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能をまったく身につけていない。
技能	2. 学習指導案を作成できる。	学習指導案を正確に作成できている。	学習指導案をほぼ作成できている。	学習指導案をある程度作成できている。	学習指導案を十分に作成できていない。	学習指導案をまったく作成できていない。
技能	3. 模擬授業を実施できる。	模擬授業を大変よく行うことができている。	模擬授業を行うことができている。	模擬授業をある程度行うことができている。	模擬授業十分に行うことができていない。	模擬授業をまったく行うことができていない。
技能	4. 模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身につけている。	模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を大変よく身につけている。	模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を身につけている。	模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力をある程度身につけている。	模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力を十分に身につけていない。	模擬授業の評価・分析を通して、授業実践力をまったく身につけていない。
態度	意欲的かつ主体的に学修に取り組む態度が見られる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	授業に出席し、授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に欠席したり、出席しコメントシートを提出したりしているが、理解が不十分である。	授業に欠席、または出席しているがコメントシートが未提出である。

科目名	英語科教育法		授業番号	CO322	サブタイトル				
教員	西田 寛子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	授業実践に必要な知識・技術を習得するために、事前にテキストを熟読してそのポイントについてまとめ、授業ではそれを指導に生かす具体的な方法についてディスカッションを通して考案する。また、授業づくりに必要な基本的な指導技術を身に付けるために、実際の授業観察や分析を行ったり、指導教員による授業を児童の立場で体験したりする。さらに、教師の立場で模擬授業を行い、省察・指導の改善を行うことにより、理論と実践の往還・統合を図る。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解する。 ・児童期の第二言語習得の特徴を理解し、模擬授業における指導に生かすことができる。 ・実践に必要な基本的な指導技術と実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付ける 本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・イントロダクション：講座の目標・内容・評価方法を確認する。 ・小学校外国語教育導入の背景・変遷、外国語活動・外国語科、小・中・高等学校の外国語科の目標、内容について理解する。 ・小・中・高等学校の連携と小学校の役割について理解する。 (授業ビデオ視聴とグループディスカッション)								
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・主教材の趣旨、構成、特徴について理解する。 (グループディスカッションで互いの気づきを共有する。) ・様々な指導環境に柔軟に対応するため、児童や学校の多様性について、基礎的な事柄を理解する。 								
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・言語使用を通して言語を習得することについて、授業体験を通して理解する。 ・音声によるインプットの内容の類推から理解への進むプロセスを経ることを、授業体験を通して理解する。 (上記の理解を踏まえた具体的な指導法について、ディスカッションを通して考案し、模擬授業に生かす。) 								
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達段階を踏まえた音声によるインプットの在り方について理解する。 ・コミュニケーションの目的や場面、状況に応じて意味のあるやり取りを行う重要性について、授業体験を通して理解する。 (上記の理解を踏まえた具体的な指導法について、ディスカッションを通して考案し、模擬授業に生かす。) 								
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・受信から発信、音声から文字へ進むプロセスを理解する。 ・国語教育との連携等による言葉の面白さや豊かさへの気づきについて理解する。 ・文字言語との出合わせ方、読む活動・書く活動への導き方について理解する。 (上記の理解を踏まえた具体的な指導法について、ディスカッションを通して考案し、模擬授業に生かす。) 								
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発話につながるよう、効果的に英語で語りかける。 ・児童の英語での発話を引き出し、児童とのやり取りを進める。 (授業場面を設定し、マイクロティーチングで上記の活動を行う。 Classroom English, Small Talk, Teacher Talk の練習をする。) 								
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT/JTE等とのチームティーチングによる指導の在り方について授業体験の中で理解する。 (授業場面を設定し、マイクロティーチングで上記の活動を行う。 Classroom English, Small Talk, Teacher Talk の練習をする。) 								
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT等の効果的な活用の仕方について理解し、活用法を考案する。また、デジタル教科書を指導に活用する。 (上記の理解を踏まえた具体的な指導法について、ディスカッションを通して考案し、模擬授業に生かす。) 								
第9回	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の評価(パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む)について理解する。 (上記の理解を踏まえた具体的な指導法について、ディスカッションを通して考案し、模擬授業に生かす。) 								
第10回	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での授業参観・分析や児童支援を通して、自身の授業構想・教材作成につなげる。 								
第11回	<ul style="list-style-type: none"> ・題材選定、教材研究の仕方について理解する。 ・模擬授業に向けて、適切に題材選定、教材研究を行う。 								
第12回	<ul style="list-style-type: none"> ・学習到達目標に基づいた指導計画(年間指導計画、単元計画、学習指導案、短時間学習等の授業時間の設定を含めたカリキュラム・マネジメント等)について理解する。 ・模擬授業に向けた学習指導案を立案する。 								
第13回	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロティーチング①：これまでの授業における知識・理解に基づき、模擬授業、省察、指導の改善を行う。 								
第14回	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロティーチング②：これまでの授業における知識・理解に基づき、模擬授業、省察、指導の改善を行う。 								
第15回	<ul style="list-style-type: none"> ・講座全体のまとめ、省察を行い、今後の指導の改善に向けて協議する。 								
授業計画 備考2	(講座前半の回) ①ウォームアップ：Classroom English, 授業で使えるゲームや歌等のアクティビティ ②事前学習としてテキストを読みポイントをもとにレポートをもちに、トピックに沿ったグループディスカッション ③指導教員による解説 * 授業テーマに沿った授業映像の視聴、指導教員による授業の体験を適宜実施 (講座後半の回) ①指導計画の作成(学習指導案の作成等) ②教材研究 ③模擬授業・相互参観(全員)→リフレクション・指導教員によるコメント →授業改善								
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	・授業中のディスカッション、模擬授業実践・省察・指導の改善における意欲的な態度ならびに自律的な学びの姿勢(予習・復習)を評価する。〈態度〉						
	レポート	40	・理論と実践の往還を図りながら考えたことの記述内容や、指導計画(学習指導案等)、指導実践の省察を評価する。〈知識・理解〉 * レポートについてはコメントを記入して返却するとともに、良い例はクラス全体に紹介する。						
	授業実践の技能	20	授業づくり、模擬授業実践における技能を評価する。〈技能〉						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	<ul style="list-style-type: none"> ・教師になる自覚と意欲をもって参加すること。 ・事前学習を前提に授業を進めるので、予習を必ずすること。また、授業中のディスカッションでは積極的に発言し、知識・理論を踏まえた指導・実践の具体案を提案すること。 ・授業後は、その日のうちに疑問に思ったことをリサーチしたり、模擬授業に必要な英語力の増強や具体的な指導方法の考案・記述を行うこと。 								
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にテキストを必ず読み、そのポイントや自分の意見をレポートにまとめて授業に臨むこと。 ・指導案・指導細案の作成や、模擬授業の練習を行うこと。 ・テキストによる専門的な知識や指導法の知識を模擬授業に生かし、テキストの二次元バーコードで音声や動画を視聴して、英語の音声を繰り返し声に出して練習すること。 以上の学修を、週4時間以上行うこと。								

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校英語はじめる教科書 (改訂第3版) 外国語科・ 外国語活動指導者養成のた めにーコア・カリキュラムに沿っ てー	小川隆夫・東仁美	mpi	978-4-89643-863-5	2,640円
Crown Jr. 5	酒井英樹 ほか	三省堂	978-4-385-70642-9	337円
Crown Jr. 6	酒井英樹 ほか	三省堂	978-4-385-70643-6	337円
Let's Try!1	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25870-3	255円
Let's Try!2	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25871-0	255円
小学校学習指導要領(平成 29年告示)解説 外国語活 動・外国語編	文部科学省	開隆堂	978-4-304-05168-5	140円
使用テキ スト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自 由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の 実務経験の有無	有			
担当教員の 実務経験	公立中学校教諭・指導教諭(28年)、公立中高一貫教育校指導教諭(6年)、公立小学校指導教諭(公立中学校指導教諭との兼務:1年)、県教育委員会指導主事(4年)での実務経 験を有する。			
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無				
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者				
実務経験をい かした教育内 容	英語科教員・指導主事としての実務経験(38年)を生かし、小学校の英語教育に携わる指導者に求められる総合的な英語運用力ならびに指導実践力を育成する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校外国語教育につ いての基本的な知識・理解	小学校外国語教育に係る背 景知識や主教材, 小・中・高 等学校の外国語教育における 小学校の役割, 多様な指導 環境について十分理解しており, 自分の言葉で分かりやすく 説明できる。	小学校外国語教育に係る背 景知識や主教材, 小・中・ 高等学校の外国語教育にお ける小学校の役割, 多様な 指導環境について十分理解 している。	小学校外国語教育に係る背 景知識や主教材, 小・中・ 高等学校の外国語教育にお ける小学校の役割, 多様な 指導環境について一定程度 理解している。	小学校外国語教育に係る背 景知識や主教材, 小・中・ 高等学校の外国語教育にお ける小学校の役割, 多様な 指導環境についての理解が やや不十分ところがある。	小学校外国語教育に係る背 景知識や主教材, 小・中・ 高等学校の外国語教育にお ける小学校の役割, 多様な 指導環境についての理解が不 十分である。
知識・理解	2. 子供の第二言語修得に ついての知識と活用	児童期の第二言語修得の特 徴について十分理解し, 指導 に生かす具体的な方法につ いて考察して実践できる。	児童期の第二言語修得の特 徴について十分理解し, 指 導に生かす具体的な方法に ついて考察できる。	児童期の第二言語修得の特 徴について十分理解してい る。	児童期の第二言語修得の特 徴についての理解がやや不 十分ところがある。	児童期の第二言語修得の特 徴についての理解が不十分で ある。
技能	1. 実践に必要な基本的な 指導技術の修得	英語での児童への効果的な 語りかけや児童とのやりとり, 読む・書く活動等への導き方 など, 実践に必要な基本的な 指導技術を十分身に付け, 指導に生かすことができる。	英語での児童への効果的な 語りかけや児童とのやりとり, 読む・書く活動等への導き方 など, 実践に必要な基本的な 指導技術を身に付け, 指 導に生かすことができる。	英語での児童への効果的な 語りかけや児童とのやりとり, 読む・書く活動等への導き方 など, 実践に必要な基本的な 指導技術を身に付けてい る。	英語での児童への効果的な 語りかけや児童とのやりとり, 読む・書く活動等への導き方 など, 実践に必要な基本的な 指導技術の習得がやや不 十分である。	英語での児童への効果的な 語りかけや児童とのやりとり, 読む・書く活動等への導き方 など, 実践に必要な基本的な 指導技術の習得が不十分 である。
技能	2. 授業づくりに必要な知識・ 技術の修得	実際の授業づくりに必要な知 識を十分身に付け, 指導計 画の作成, 模擬授業の実 施, 省察と指導の改善がで きる。	実際の授業づくりに必要な知 識を身に付け, 指導計画の 作成, 模擬授業の実施, 省 察と指導の改善ができる。	実際の授業づくりに必要な知 識を身に付け, 指導計画の 作成, 模擬授業の実施がで きる。	実際の授業づくりに必要な知 識をある程度身に付け, 指 導計画の作成, 模擬授業の 実施ができるが, その内容が 不十分である。	実際の授業づくりに必要な知 識の修得が不十分で, 指導 計画の作成, 模擬授業が実 施できない。
態度	1. 授業への貢献度	授業内容や関連する事柄に 興味・関心をもち, 自分の考え を自主的に発言し, クラス全 体の学びに常に貢献している。	授業内容や関連する事柄に 興味・関心をもち, 自分の考え を自主的に発言し, クラス全 体の学びに時々貢献してい る。	指名されれば, 自分の考えを 発言し, クラス全体の学びに 時々貢献している。	指名されれば自分の考えを 発言するが, クラス全体の学 びに貢献するレベルには達 していない。	指名されても自分なりの考え を発言できない。
態度	2. 自律的な学び (予習・復習)	自ら進んで予習・復習の範囲 を越えて学修し, 必要に応じて その内容を自分の言葉で説明 できる。	予習・復習の範囲を学修し, その内容を十分に理解した上 で, 自分の言葉で説明でき る。	予習・復習の範囲を学修し, その内容を十分に理解してい る。	予習・復習の範囲を学修す るが, その内容が不十分であ る。	予習・復習の範囲の学修が できていない。

科目名	児童英語演習		授業番号	CO226	サブタイトル				
教員	西田 寛子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	授業実践に必要な英語教育の理論的側面を概観し、その理論の実践面への応用を目指す。そのために、小学校の授業観察・分析や受講生による模擬授業・ディスカッションを通して指導の改善を行う。また、幼児英語教育との接続の観点から、こども園での英語の模擬保育も実施する。将来学校現場において、理論に裏打ちされた実践力を備え、自律的に学び続けるリフレクティブな教師となる基本を身に付ける。								
到達目標	<p>(全体目標) 小学校英語教育の実態・課題を踏まえて解決策を思考し、実践において解決しようとする態度・能力を身に付ける。</p> <p>(到達目標) ・英語によるコミュニケーションの指導や、ことばへの気づきをもたらす指導ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生や就学前の子どもの英語学習への意欲・技能の向上を図ることができる。 ・英語で授業を行ったり、ALTとの打ち合わせを英語で実施したりできる。 ・パフォーマンス評価を行うことができる。 <p>なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。</p>								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	・イントロダクション：講座の目標、内容、評価方法を確認する。 ・実践に必要な理論を概観する。(小学校英語教育導入の背景・変遷、外国語活動・外国語科の目標、言語使用を通じた言語活動・音声によるインプット、異校(園)種との連携・接続等)								
第2回	・実践に必要な理論を概観する。(学習指導要領の内容とその具現化に向けて等)								
第3回	・実践に必要な理論を概観する。(目的や場面・状況を明確にした言語活動、学習評価、ALTとのTTIによる指導の在り方等) ・実践に向けての演習をする。(小学校英語の授業体験)								
第4回	・小学校英語の授業(映像資料)を観察・分析をする。 ・指導の改善に向けたディスカッションを行い、改善案を考察する。								
第5回	・英語による保育(映像資料)を観察・分析する。 ・指導の改善に向けたディスカッションを行い、改善策を考察する。								
第6回	・学習指導案を作成する。								
第7回	・学習指導案の修正・改善を行う。								
第8回	・模擬授業の準備をする。(教材研究・作成、指導・評価の計画作成、授業練習)①								
第9回	・模擬授業の準備をする。(教材研究・作成、指導・評価の計画作成、授業練習)②								
第10回	・模擬授業・振り返り・指導の改善案作成を行う。①								
第11回	・模擬授業・振り返り・指導の改善案作成を行う。②								
第12回	・学外授業(小学校での授業実践)と省察を行う。								
第13回	・学外授業(子ども園での英語保育実践)と省察を行う。								
第14回	・小学校・こども園での指導の省察を行い、指導の改善案を作成する。								
第15回	・講座全体の振り返りとまとめを行い、今後の改善案について討議する。								
授業計画 備考2	* 学外授業については、受け入れ先との日程調整により、実施時期が前後する可能性がある。 上記予定が変更になる場合は、Google ClassroomかG-mailで連絡する。								
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	60	授業への貢献度(ディスカッション等)、自律的な学び(予習・復習の状況)、実践的な取組への態度を評価する。〈態度〉						
	レポート	40	小学校英語や子どもに関する学修内容についての考察や、指導・評価計画(学習指導案等)・省察の内容を評価する。〈思考・問題解決能力〉 * レポートはコメントを記入して返却するとともに、良い例をクラス全体で紹介する。						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	学外授業では、児童・園児に対して思いやりをもって接し、授業参観・授業参加では、教師を目指している学生としての自覚のもと、言動に責任をもつこと。								
授業外学修	・授業に向けて、指導・評価計画作成や教室英語の練習等の自己研鑽を30時間以上積むこと。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	Crown Jr. 5	酒井 英樹 ほか	三省堂	978-4-385-70642-9	337円				
	Crown Jr. 6	酒井 英樹 ほか	三省堂	978-4-385-70643-6	337円				
	Let's Try 1	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25870-3	255円				
	Let's Try 2	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25871-0	255円				
	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編	文部科学省	開隆堂出版	978-4-304-05168-5	140円				
使用テキスト：自由記載									

参考図書					
書名	著者	出版社	ISBN	備考	
小学校英語はじめる教科書 (改訂第3版) 外国語科・ 外国語活動指導者養成のため に「コア・カリキュラム」に沿っ て	小川隆夫・東仁美	mpi	978-4-89643-782-9	2,640円	
参考書：自 由記載					
その他					
備考					
注意事項					
担当教員の実 務経験の有無	有				
担当教員の実 務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年）、公立中高一貫教育校指導教諭（6年）、公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：1年）、県教育委員会指導主事（4年）での実務 経験を有する。				
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無					
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者					
実務経験をい かした教育内 容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を活かし、小学校・乳幼児教育施設の英語教育に携わる指導者に求められる英語運用力ならびに指導実践力を育成する。				

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点（到達目標に基 づく評価項目）	評価の観点				
		A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 小学校英語や子どもに関 する学修内容についての考察	小学校英語や子どもに関する 学修内容について、授業実 践に応用する具体策や、現 状における課題の解決策を考 察し、自分の言葉でわかりや すく説明できる。	小学校英語や子どもに関する 学修内容について、授業実 践に応用する具体策を考察 し、自分の言葉でわかりやす く説明できる。	小学校英語や子どもに関する 学修内容について、自分の 言葉でわかりやすく説明でき る。	小学校英語や子どもに関する 学修内容について説明でき る。	小学校英語や子どもに関する 学修内容について、説明でき ない。
思考・問題解決能力	2. 課題解決に向けた指導 技能	現状の課題解決に向け、対 象児童に適した模擬授業を計 画し、十分に実施できる。	現状の課題解決に向け、対 象児童に適した模擬授業を 計画し、一定程度実施でき る。	現状の課題解決に向けて模 擬授業を計画し、一定程度 実施できる。	現状の課題解決に向けて模 擬授業を計画したが、対象 児童に適した指導内容になっ ていない。	現状の課題解決に向けて模 擬授業を計画したり、実施し たりできない。
態度	1. 授業への貢献度	授業内容や関連する事柄に 興味・関心をもち、自分の考 えを自主的に発言し、クラス 全体の学びに常に貢献してい る。	授業内容や関連する事柄に 興味・関心をもち、自分の考 えを自主的に発言し、クラス 全体の学びに時々貢献してい る。	指名されれば、自分の考えを 発言し、クラス全体の学びに 時々貢献している。	指名されれば自分の考えを発 言するが、クラス全体の学び に貢献するレベルには達してい ない。	指名されても自分なりの考え を発言できない。
態度	2. 実践的な取組への態度	学んだ知識や技術を活用し て、模擬授業の具体的な立 案、実践、省察、改善に意 欲的に取り組もうとする。	学んだ知識や技術を活用し て、模擬授業の立案、実 践、省察、改善に取り組もう とする。	指示やヒントがあれば、模擬 授業の立案、実践、省察、 改善に一定程度、取り組もう とする。	指示やヒントがあれば、模擬 授業の立案、実践、省察、 改善に取り組もうとするが、そ の内容は十分でない。	指示やヒントがあっても、模擬 授業の立案、実践、省察、 改善に取り組もうとしない。
態度	3. 自律的な学び (予習・復習)	自ら進んで予習・復習の範囲 を越えて学修し、必要に応じて その内容を自分の言葉で説明 できる。	予習・復習の範囲を学修し、 その内容を十分に理解した上 で、自分の言葉で説明でき る。	予習・復習の範囲を学修し、 その内容を十分に理解してい る。	予習・復習の範囲を学修す るが、その内容が不十分であ る。	予習・復習の範囲の学修がで きていない。

科目名	体育	授業番号	CO206	サブタイトル					
教員	溝田 知茂								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域について、子どもの「教育的系統」に立脚する立場からその内容について追及する。まず、各種運動領域のそれぞれについて、領域の特性と教材の内容についての理解を図る。次に、運動自体の理解とともに、学習者の側にとってそれぞれの内容を追求し理解することを企図して授業を行う。								
到達目標	それぞれの教材の技能的特性を理解するとともに、自らも示範することができるようになる。 なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解> <技能>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	戦後学習指導要領にみる学習内容の変遷 体育における学習内容の改善点について理解する。								
第2回	ボール運動：ゴール型(バスケットボール)の理解と内容 各学年のゴール型(バスケットボール)の行い方を理解するとともに、投げる、受ける、ドリブルをするといったボール操作とボールを持たないときの動き方を考える。								
第3回	ボール運動：ゴール型(バスケットボール)の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、投げる、受ける、ドリブルをするといったボール操作とボールを持たないときのより良い動き方を考える。								
第4回	ボール運動：ネット型(バドミントン)の理解と内容 ネット型(バドミントン)の行い方を理解するとともに、用具の正しい操作の仕方や動き方を考える。								
第5回	ボール運動：ネット型(バドミントン)の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、どのように動いたら取りやすく、どこを狙えば決まるかを考える。								
第6回	ボール運動：ネット型(ソフトバレーボール)の理解と内容 ネット型(ソフトバレーボール)の行い方を理解するとともに、ボール操作の仕方と位置取りを考える。								
第7回	ボール運動：ネット型(ソフトバレーボール)の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、ボール操作の仕方や位置取り・ボールを触らない人の動き方を考える。								
第8回	体づくり運動の理解と内容 体づくりの行い方を理解するとともに、それぞれの構成内容とその動き方を考える。								
第9回	体づくり運動の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、どう動いたら楽しさや喜びを味わうことができるかを考える。								
第10回	器械運動：マット運動の理解と内容 マット運動の行い方を理解するとともに、各学年の内容の動き方を考える。								
第11回	器械運動：マット運動の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、どう動いたら、それぞれの技ができる楽しさや喜びを味わうことができるかを考える。								
第12回	器械運動：跳び箱運動の理解と内容 跳び箱運動の行い方を理解するとともに、各学年の内容の動き方を考える。								
第13回	器械運動：跳び箱運動の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて、どう動いたら、それぞれの技ができる楽しさや喜びを味わうことができるかを考える。								
第14回	陸上運動：短距離走の理解と内容 短距離走の行い方を理解するとともに、各学年の内容と手・足の動かかし方を考える。								
第15回	陸上運動：短距離走の動作の仕方とその実践 実際に走り、手・足の動きを確認しながら、速く走れるかを考える。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	40	意欲的な受講態度、発表や予習・復習の状況によって評価する。フィードバックは、その時その場で行う。						
	レポート	30	各領域ごとに学んだことを具体的に述べていること。レポートは、コメントを記入して返却する。						
	小テスト	30	全15回の授業を踏まえ、レポートを作成する。レポートは、コメントを記入して返却する。						
	定期試験								
	その他								
評価の方法：自由記載									
受講の心得	実技を伴うので、各運動領域に対して積極的に取り組むこと。								
授業外学修	・各領域ごとで取り上げる内容をしっかり教材研究をする。 ・運動に対する興味関心を高め、運動する習慣づくりを心がける。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	特に使用しない。(作成資料を活用)								
参考図書									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、ほぼ理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、基本的なところは理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性についての理解が十分ではない。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、理解できていない。
技能	1. 運動技能の習得に優れている。	運動技能が優れている。	基本的な運動技能が優れている。	基本的な運動技能が身についている。	基本的な運動技能が十分ではない。	基本的な運動技能が身につけていない。

科目名	国語科教育法		授業番号	CO313	サブタイトル						
教員	太田 憲孝										
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	教科書に記載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」等の教材分析を具体的にを行い、それぞれの教材の特質及び指導内容を理解するとともに、それをもとに学習指導案を作成し、模擬授業をするという一連の経験を通して、授業力の基礎を身に付ける。										
到達目標	教科書に記載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」等の教材を具体的に分析し、理解した教材の特質及び指導内容をもとに学習指導案を作成することができるようにする。このことにより、教材を分析する力、単元構想力や単位時間の学習指導案を作成する力を身に付ける。さらに、模擬授業を通して、学習過程に沿って授業を展開する力や学習者に対応する力等の基礎を身に付けることができるようにする。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。										
授業計画 備考											
回	概要					担当					
第1回	授業を支える要素 「授業を支える3要素について知り、授業を構成する教師、教材、子どもの関係を理解する。」										
第2回	基本的な学習過程 「基本的な学習過程について知り、学習過程を構成する導入、展開、終末の役割やつながりを理解する。」										
第3回	学びの深まりと教師の支援 「授業記録を分析し、児童の学びの深まりと教師の支援との関係を理解する。」										
第4回	説明的文章の教材研究（1） 「教科書に掲載されている説明的文章について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」										
第5回	説明的文章の教材研究（2） 「模擬授業を行う段落の文章を分析し、指導内容及び本時の学習の流れを構想する。」										
第6回	説明的文章の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」										
第7回	「話すこと・聞くこと」の教材研究（1） 「教科書に掲載されているインタビュー教材について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」										
第8回	「話すこと・聞くこと」の教材研究（2） 「模擬授業を行う学習場面について分析し、指導内容及び本時の学習の流れを構想する。」										
第9回	「話すこと・聞くこと」の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」										
第10回	物語の教材研究（1） 「教科書に掲載されている物語について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」										
第11回	物語の教材研究（2） 「模擬授業を行う学習場面について分析し、指導内容及び本時の学習の流れを構想する。」										
第12回	物語の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」										
第13回	「言葉の特徴」の教材研究（1） 「教科書に掲載されている「漢字の組み立て」について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」										
第14回	「言葉の特徴」の教材研究（2） 「模擬授業を行う学習場面について分析し、指導内容及び本時の学習の流れ等について構想する。」										
第15回	「漢字の組み立て」の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」										
授業計画 備考2											
評価の方法											
種別	割合		評価基準・その他備考								
授業への取り組みの姿勢／態度	30		予習課題の提出、模擬授業への積極的な参加・協力等を評価する。								
レポート	30		授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートはコメントを記載して返却し、理解の深まりを確認できるようにする。								
小テスト											
定期試験	40		最終的な学習内容の定着度を評価する。								
その他											
評価の方法：自由記載	グループによる教材分析や授業構想、模擬授業等に積極的に参加する姿勢を評価する。これが、授業力及び教師力の向上と深く関係する。										
受講の心得	グループの学生と協力して、教材分析、授業の構想、授業準備、模擬授業に積極的に取り組むこと。 教材を繰り返し読み込み、教材の特質を理解するように努めること。 模擬授業を1回は行うこと。										
授業外学修	1. 事前に配布された資料や指定された教材などをしっかり読み込み、授業に臨むこと。 2. 予習課題は、資料をしっかり読み込み、丁寧に仕上げ必ず提出すること。 3. 模擬授業のリハーサルや準備に積極的に参加すること。										
使用テキスト											
書名	著者		出版社		ISBN			備考			
使用テキスト：自由記載											
参考図書											
書名	著者		出版社		ISBN			備考			
参考書：自由記載											
その他											
備考											
注意事項											

担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立小中学校・小中一貫校国語科教員(27年), 国立附属中学校国語科教員(4年), 市教育委員会指導主事(3年)
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者の 有無	無
担当教員以外で 指導に関わる 実務経験者	
実務経験を いかした教育 内容	教材研究, 学習指導案の作成, 模擬授業の実施

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.教材研究の方法を理解している。	・学習指導要領の指導事項を踏まえ、教材の特性や教材を分析する方法を深く理解している。	・教材の特性や教材を分析する方法を深く理解している。	・教材の特性や教材を分析する方法を理解している。	・教材の特性理解が弱く、教材分析の方法理解も乏しい。	・教材の特性理解及び教材分析の方法理解も不十分である。
知識・理解	2.学習指導案の書き方を理解している。	・単元及び本時案の構想、学習過程の意味、学習活動と教師の支援の関係等を踏まえた学習指導案の書き方を十分理解している。	・学習過程の意味を深く理解し、学習活動と教師の支援の関係に留意した学習指導案の書き方を十分理解している。	・学習過程の意味を理解し、学習活動と教師の支援の関係に留意した学習指導案の書き方を理解している。	・学習過程の意味、学習活動と教師の支援の関係等の理解が不十分であり、学習指導案の書き方理解に課題がある。	・学習指導案作成に関係する様々な要素の理解が不十分であり、学習指導案を作成する段階に至っていない。
知識・理解	3.授業の進め方を理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿って、発問や補助教材、学習形態等を工夫し、児童の立場に立った効果的な授業の進め方を十分理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿って、発問や補助教材、学習形態等を工夫し、児童の立場に立った授業の進め方を理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿って、発問や補助教材、学習形態等を工夫して位置づけた授業の進め方を理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿っているが、授業の進め方の理解が浅く、学習活動と教師の支援のつながりに課題がある。	・学習指導案の作成と授業の進め方理解のつながりが弱く、学習活動のつながりに課題がある。
思考・問題解決能力	1.発問や補助資料を工夫して学習指導案を作成し、模擬授業に取り組んでいる。	・深い教材研究をもとに、発問や補助教材等を工夫して学習指導案を作成し、課題意識を持って模擬授業に取り組んでいる。	・深い教材研究をもとに、発問や補助教材等を工夫して学習指導案を作成し、自分の考えを持って模擬授業に取り組んでいる。	・教材研究をもとに、発問や補助教材、学習形態等を工夫した学習指導案を作成し、時間配分に留意しながら模擬授業に取り組んでいる。	・時間配分に留意し模擬授業に取り組んでいるが、教材研究や支援の工夫に自分らしい追究の姿勢が見られない。	・学習指導案の作成、模擬授業への取り組みに、自分らしい追究の姿勢が見られない。
思考・問題解決能力	2.学習過程の意味を理解し、模擬授業の展開を工夫している。	・学習活動や教師の支援を適切に工夫し、分かり易く、深まりのある模擬授業を展開している。	・学習活動や教師の支援を工夫し、分かり易く、深まりのある模擬授業を展開している。	・学習活動や教師の支援を工夫し、分かり易い模擬授業を展開している。	・教師の支援に工夫が乏しく、学習者にとって学習の流れが捉えにくい状況で模擬授業を展開している。	・学習指導案への記述を十分理解していないまま模擬授業を展開している。
技能	1.教材の特性を見抜き、学習者の立場に立った学習指導案(単元構想及び本時案)を作成している。	・中心教材を深く分析するとともに、学習指導要領も参照し、単元及び本時の目標を明確にした学習者の立場に立った学習指導案を作成している。	・中心教材を分析するとともに、学習指導要領も参照し、単元及び本時の目標が明確な、学習者にとって分かり易い学習指導案を作成している。	・中心教材を分析するとともに、学習指導要領も参照し、本時の目標が明確な、学習者にとって分かり易い学習指導案を作成している。	・中心教材の分析が弱く、学習活動と教師の支援の関係等が不明確なまま学習指導案を作成している。	・中心教材の分析が弱く、学習過程の意味も理解されないうまま、学習指導案を作成している。
技能	2.学習者のめあて解決の流れに沿って、適切に教師の支援を工夫し、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを十分に捉え、適切に支援を工夫しながら、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを十分に捉え、支援を工夫しながら、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを捉え、支援を工夫しながら、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れに対する意識が弱いまま、学習指導案に沿って模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを意識することなく、学習指導案に沿って模擬授業を展開している。

科目名	体育科教育法			授業番号	CO320	サブタイトル			
教員	溝田 知茂								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法の変遷を踏まえた上で、現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題について体育科が果たすべき役割と責任性について理解する。また、低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解し、指導案の作成並びに模擬授業、授業評価と授業を展開するうえでの一連の過程を実践する能力を身に付ける。								
到達目標	体育科における、「目標-内容-方法」について理解するとともに、子ども一人ひとりが意欲的に学ぶことのできる授業展開を計画・立案することができる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要						担当		
第1回	学習指導要領の変遷(総則) 学習指導要領(総則)における改善点について理解する。								
第2回	学習指導要領の変遷(体育科の目標) 学習指導要領(体育科の目標)の改善点について理解する。								
第3回	学習指導要領1・2年生の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領1・2年生の内容と目標を理解し、各運動領域の例示を理解できるようにする。								
第4回	学習指導要領3・4年生の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領3・4年生の内容と目標を理解し、各運動領域の例示を理解できるようにする。								
第5回	学習指導要領5・6年生の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領5・6年生の内容と目標を理解し、各運動領域の例示を理解できるようにする。								
第6回	学習指導要領3～6年生の保健の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領3～6年生の保健の内容と目標を理解し、各運動領域の例示を理解できるようにする。								
第7回	体育科の年間計画及び指導案作成について 体育科の年間計画を理解するとともに、指導案の作成について学ぶ。								
第8回	指導案の作成 体育教員の立場に立って、配慮事項も踏まえた指導案を作成する。								
第9回	模擬授業打ち合わせ グループに分かれて、体育教員の立場に立った授業の進め方を話し合う。								
第10回	模擬授業(1)1・2年生について 体育教員の立場に立って、配慮事項を踏まえて、模擬授業を行う。								
第11回	模擬授業(2)3・4年生について 体育教員の立場に立って、配慮事項を踏まえて、模擬授業を行う。								
第12回	模擬授業(3)5・6年生について 体育教員の立場に立って、配慮事項を踏まえて、模擬授業を行う。								
第13回	模擬授業(4)3～6年生の保健について 体育教員の立場に立って、配慮事項を踏まえて、模擬授業を行う。								
第14回	模擬授業の授業評価・修正 それぞれの模擬授業に対して、意見交換をして評価・修正する。								
第15回	授業評価を加味した指導案の作成 修正したことを踏まえて、指導案を作成する。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
	授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度、発表や予習・復習の状況によって評価する。フィードバックは、その時その場で行う。						
	レポート	60	指導案の理解・指導要領の理解。レポートは、コメントを記入して返却する。						
	小テスト								
	定期試験								
	その他	20	模擬授業の教師としての授業態度を評価する。フィードバックは、模擬授業の後にコメントをする。						
評価の方法:	自由記載								
受講の心得	小学校体育科において、教師が運動の知識を有していることはもちろん、からだと心の仕組みに対する理解を深めていくことも重要である。これらの点を踏まえつつ、将来の子どもがからだを育てていくという強い意欲をもって受講すること。								
授業外学修	<ul style="list-style-type: none"> 授業で行われる領域について「学習指導要領解説 体育編」を授業前に読んでおくこと。 事前に模擬授業で取り上げている内容をしっかり教材研究する。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。 								
使用テキスト									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
	小学校学習指導要領解説体育編	文部科学省	東洋館出版社						
使用テキスト:自由記載									
参考文献									
	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書:自由記載									
その他									
備考									

注意事項	
担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	

ループブック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性についてほぼ理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性について基本的な内容を理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性についての理解が十分ではない。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性についての理解ができいていない。
知識・理解	2. 低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解することができる。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解することができる。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性をほぼ理解することができる。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を簡単に理解できている。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性の理解が十分ではない。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解できていない。
知識・理解	3. 指導案を作成するための知識を身につけている。	指導案を作成するための知識を身につけている	指導案を作成するための知識をほぼ身につけている	指導案を作成するための簡単な知識を身につけている	指導案を作成するための知識が十分ではない。	指導案を作成するための知識が身につけていない。
思考・問題解決能力	1. 配慮が必要な子どもに対して考えることができる。	配慮が必要な子どもに対して考えることができる。	配慮が必要な子どもに対して理解することができる。	配慮が必要な子どもに対して情報収集することができる。	配慮が必要な子どもに対しての理解が十分ではない。	配慮が必要な子どもに対して考えることができいていない。
態度	1. 教師の立場としての振る舞い。	教師の立場としての振る舞いできている。	教師の立場としての振る舞いがほぼできている。	教師の立場としての基本的な振る舞いができている。	教師の立場としての理解が十分ではない。	教師の立場として考えることができいていない。

科目名	道徳教育指導論		授業番号	CO323	サブタイトル						
教員	重松 恵子										
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	必修	選択	
授業概要	道徳教育は大きな転換期を迎えた。道徳教育の改善・充実を図るため、小学校は平成30年度、中学校は令和元年度から、特別の教科「道徳(道徳科)」が教科化された。この改訂の内容を踏まえ、道徳教育の意義について全講義を通して明らかにしていく。道徳教育と道徳科の目標や内容・指導について講義する。また、学習指導案作成と模擬授業の演習を通して、指導方法の要点や道徳科の授業について講義し、授業実践力を身に付けることを目的とする。										
到達目標	道徳教育の改訂の要点について理解し、道徳教育の意義について考えることができるようになる。 道徳教育と道徳科の目標・内容・指導について学び、道徳教育指導全般について理解できるようになる。 道徳科の学習指導の在り方や工夫について演習を通して身に付け、授業実践ができるようになる。 なお、本科目はデュプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。										
授業計画 備考											
回	概要					担当					
第1回	道徳とは何か 自分と道徳 (1) 道徳教育の歴史 道徳教育の改訂の基本方針・要点 「特別の教科 道徳(道徳科)」への改訂の基本方針・要点・「考え議論する道徳」について理解する。										
第2回	道徳教育と道徳科の関係・つながり 道徳教育の目標 道徳科の目標 学校における道徳教育は道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであるということ、「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」という道徳教育・道徳科の目標について理解する。										
第3回	学校における道徳教育の指導計画及び配慮事項、道徳科の内容の取扱い 道徳教育の指導計画(全体計画・年間指導計画)作成の意義及び配慮事項、道徳科指導の配慮事項、道徳科の教材に求められる内容の観点、評価について理解する。										
第4回	道徳科の内容 内容項目の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点(1) 内容項目「善悪の判断、自律、自由と責任」「正直、誠実」等(内容項目1～12)の発表 内容項目ごとに概要や指導の要点をまとめて発表する活動を通して、道徳性を養う手掛かりとなる内容項目について理解する。										
第5回	道徳科の内容 内容項目の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点(2) 内容項目「公正、公平、社会正義」「勤労、公共の精神」等(内容項目13～22)の発表 内容項目ごとに概要や指導の要点をまとめて発表する活動を通して、道徳性を養う手掛かりとなる内容項目について理解する。										
第6回	道徳科の授業 示範授業に参加し授業を体験することを通して、道徳科学習指導案・一般的な学習指導過程・発問の工夫・板書の工夫など、道徳科の学習指導について理解する。										
第7回	道徳科の特質及び指導方法の工夫 示範授業に参加し授業を体験することを通して、道徳科の特質を生かした指導方法、活動の在り方について理解し、活動の意義について考えることができるようにする。授業実践をする教材を決め、教材の特質について理解する。										
第8回	道徳科の授業のつくりかた(1) 学習指導案の内容、作成の手順について理解する。 内容項目の分析・児童の実態・教材分析・主題名などについて理解し、指導案を作成する。										
第9回	道徳科の授業のつくりかた(2) 教材分析・ねらい・学習課題・学習のまとめ・本時のまとめ・発問の組み立てなどについて理解し、学習指導案を作成する。										
第10回	道徳科の授業のつくりかた(3) 学習指導過程の導入・展開前段・展開後段・終末について理解し、学習指導案を作成する。										
第11回	授業実践 模擬授業(1) 模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して、授業改善の視点(授業の雰囲気づくり・指導方法の工夫など)について理解する。										
第12回	授業実践 模擬授業(2) 模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して、授業改善の視点(教材提示及び学習活動の工夫など)について理解する。										
第13回	授業実践 模擬授業(3) 模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して、授業改善の視点(板書の工夫・児童の反応への対応など)について理解する。										
第14回	授業実践 模擬授業(4) 模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して、授業改善の視点(個に応じた指導・多様な学習指導・教態など)について理解する。										
第15回	道徳科の評価 よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成 自分と道徳(2) 道徳科における評価の意義や評価の基本的な考えについて理解する。よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための指導の配慮事項について理解する。 また、全講義内容をまとめる活動を通して、道徳教育の意義や道徳教育指導の理解、授業実践力の変容について明らかにする。										
授業計画 備考2											
評価の方法											
	種別	割合	評価基準・その他備考								
	授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度、発表・討議への参加態度、グループ活動における参加・協力的態度によって評価する。								
	レポート	50	各回の講義の主要なポイントをまとめていること・自分の考えを述べていることで評価する。レポートはコメントを記入して返却し、次の講義で記述内容を紹介したり補足説明をしたりして活用する。								
	その他	40	内容項目の発表及び模擬授業の学習指導案の内容・より良い指導案にしようとする工夫や模擬授業実践態度で評価する。模擬授業内容については一人一人にコメントを返す。								
評価の方法：自由記載											
受講の心得	様々な事象や出来事に対して自分の意見や考えをもち、授業実践とつないで考え、真剣に受講する。										

授業外学修	<p>1 予習として、「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」「4年小学どうとく 生きる力」のうち、次回の授業内容に関わる部分を読み、課題を把握しておくこと。</p> <p>2 授業後の知識の定着を図るため、復習を欠かさず行うこと。</p> <p>以上の内容を、週当たり2時間以上学習すること。</p>
-------	--

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
4年小学どうとく 生きる力		日本文教出版株式会社		
小学校学習指導要領解説特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版		平成29年告示
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考	令和6年度改訂（令和8年度版）			
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	38年学校教員として従事。公立小学校教諭・教頭・校長、公立幼稚園園長 岡山市教育委員会研修指導員（指導事務嘱託）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	道徳科の授業実践や教職員研修の講師等のこれまでの経験を、講義内容（道徳科授業の指導の在り方、指導方法の工夫、学習指導案作成、模擬授業改善の視点等）に生かして指導する。			

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点 (到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割についてほぼ理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について基本的な内容を理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割についての理解が十分ではない。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について理解できていない。
知識・理解	2. 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法を理解している。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法を理解することができている。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法をほぼ理解している。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法の基本的なことを理解している。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法の理解が十分ではない。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法を理解できていない。
知識・理解	3. 指導案を作成するための知識を身に付けている。	指導案を作成するための知識を身に付けている。	指導案を作成するための知識をほぼ身に付けている。	指導案を作成するための基本的な知識を身に付けている。	指導案を作成するための知識が十分ではない。	指導案を作成するための知識が身に付いていない。
技能	1. 教材研究や学習指導案の作成ができる。	教材研究や学習指導案の作成が十分できる。	教材研究や学習指導案の作成がほぼできる。	教材研究や学習指導案の作成が基本的にできる。	教材研究や学習指導案の作成が十分ではない。	教材研究や学習指導案の作成ができない。
技能	2. 内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力、授業力を身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力、授業力を十分身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力、授業力をほぼ身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して基本的な指導力、授業力を身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力、授業力が十分身に付いていない。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力、授業力が身に付いていない。

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法			授業番号	CP210	サブタイトル					
教員	太田 憲孝、山田 恵子										
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修	選択	
授業概要	特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義、目標、内容、学習過程、指導計画、家庭・地域等との連携、評価について演習を通して講義する。										
到達目標	特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義、目標、内容、学習過程、指導計画、家庭・地域等との連携、評価について理解することができるようになる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、〈知識・理解〉の修得に貢献する。										
授業計画 備考											
回	概要						担当				
第1回	教育課程としての特別活動の領域 教育課程における特別活動の内容である学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の位置づけについて理解する。						太田				
第2回	特別活動の目標と内容 学習指導要領に示された3つの資質・能力の柱と特別活動の目標と内容の関連について理解する。						太田				
第3回	特別活動の特質と教育的意義 特別活動を構成する学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事それぞれの特質と教育上の意義について理解する。						太田				
第4回	特別活動と各教科等との関連 各教科や総合的な学習の時間と特別活動で育成する資質・能力の特徴について理解する。						太田				
第5回	学級活動の目標と内容 学習指導要領に示された学級活動の目標や内容の特質を理解し、指導する方法を習得する。						太田				
第6回	学級活動の指導計画と指導過程 国立教育政策研究所や岡山県教育センターから示された様式に沿って学習指導案を作成する方法を習得する。						太田				
第7回	学級活動の模擬授業 作成した学習指導案に基づいて教材研究を行い、模擬授業を実施することを通して実践的指導力を身に付ける。また、自己評価及び相互評価を通して実践を振り返る。						太田				
第8回	児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標と内容、家庭・地域等との連携 学習指導要領の児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標と内容に示された活動の特質について理解する。						太田				
第9回	特別活動における評価 特別活動において設定した目標に応じた評価方法（パフォーマンス評価やポートフォリオ評価等）について理解する。						山田				
第10回	総合的な学習の時間の意義と教育課程における役割 総合的な学習の時間の歴史の変遷と教育的意義について理解する。						山田				
第11回	総合的な学習の時間の目標と内容 学習指導要領に示された総合的な学習の時間の目標と内容の特徴について理解する。						山田				
第12回	総合的な学習の時間と各教科等との関連 各教科や特別活動と総合的な学習の時間の関連について理解する。						山田				
第13回	総合的な学習の時間の学習過程 総合的な学習の時間の探究の過程に応じた学習指導法を習得する。						山田				
第14回	総合的な学習の時間の単元計画と年間指導計画 各学校の特質に応じた総合的な学習の時間の目標の設定方法について取得すると共に、単元計画や年間指導計画の立て方について理解する。						山田				
第15回	総合的な学習の時間における評価 各学校において設定した総合的な学習の時間の活動の特質に応じた評価の方法を習得する。						山田				
授業計画 備考2											
評価の方法											
	種別	割合	評価基準・その他備考								
	授業への取り組みの姿勢/態度	15	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。								
	レポート	15	学習指導案作成の適切さを評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。								
	小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。小テストは採点して返却し解説する。								
	定期試験	50	最終的な理解度を評価する。								
	その他										
評価の方法：自由記載											
受講の心得	<ol style="list-style-type: none"> 事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 学修したことや自分の考えなどをまとめ、振り返りシートを書くこと。 発表や討議に積極的に取り組むこと。 配付する資料を整理しておくこと。 										
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 復習として、テキストやノート、資料を読む。 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。										
使用テキスト											
	書名	著者	出版社	ISBN	備考						
	小学校学習指導要領解説特別活動編	文部科学省	東洋館出版	978-4-491-03469-0	141円＋税						
	小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間	文部科学省	東洋館出版	978-4-491-03468-3	126円＋税						
使用テキスト：自由記載											

参考図書		書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載		授業において随時紹介する。				
その他						
備考						
注意事項						
担当教員の 実務経験の有無	有					
担当教員の 実務経験		公立小中学校教員(27年), 国立附属中学校教員(4年), 市教育委員会指導主事(3年)(太田)				
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無					
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者						
実務経験をい かした教育内 容		教職等の経験を生かし, 教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。(太田, 山田)				

ルーブリック						
評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点(到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 学習指導要領に示され た総合的な学習の時間及び 特別活動の目標や内容につ いて理解できる。	学習指導要領に示された総 合的な学習の時間及び特別 活動の目標や内容について広 範かつ詳細に理解している。	学習指導要領に示された総 合的な学習の時間及び特別 活動の目標や内容について広 範に理解している。	学習指導要領に示された総 合的な学習の時間及び特別 活動の目標や内容について 基礎的事項を十分理解して いる。	学習指導要領に示された総 合的な学習の時間及び特別 活動の目標や内容について 基礎的事項を十分に理解し ていない。	学習指導要領に示された総 合的な学習の時間及び特別 活動の目標や内容について 基礎的事項を理解していな い。

科目名	生徒指導・進路指導の理論と方法			授業番号	CP211	サブタイトル			
教員	住野 好久								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義(対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	生徒指導・進路指導の意義及び教育課程における位置づけを『生徒指導提要』等を用いて学習するとともに、他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導を組織的に進めていくために必要な知識・技能を具体的な実践事例を通して学習する。								
到達目標	生徒指導・進路指導の意義及び教育課程における位置づけを理解するとともに、他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導を、組織的に進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
回	概要					担当			
第1回	生徒指導の意義と課題 「生徒指導」とはどのような指導のことかを、自らの体験を踏まえて考える。								
第2回	生徒指導の定義 『生徒指導提要』による生徒指導の定義づけを学ぶ。「進路指導」「キャリア教育」との関係性も学ぶ。								
第3回	生徒指導の実践上の視点 生徒指導実践の4つの視点について学ぶ。								
第4回	生徒指導の構造 『生徒指導提要』が提案する生徒指導の「2軸3類4層構造」を理解する。								
第5回	生徒指導の方法(1) 生徒指導の基本的な方法である「子ども理解」の方法について学ぶ。								
第6回	生徒指導の方法(2) 生徒指導の基本的な方法である「集団指導」「個別指導」について学ぶ。								
第7回	生徒指導の基盤 生徒指導の基盤となる「教職員集団の同僚性」「生徒指導マネジメント」「家庭や地域の参画」を学ぶ。								
第8回	生徒指導と教育課程(1) 生徒指導と教科指導との関係について理解する。								
第9回	生徒指導と教育課程(2) 生徒指導と道徳教育・総合的な学習の時間との関係について理解する。								
第10回	生徒指導と教育課程(3) 生徒指導と特別活動との関係について理解する。								
第11回	チーム学校による生徒指導体制 生徒指導に取り組む体制、関係機関との連携・協働等について学ぶ。								
第12回	個別の課題に対する生徒指導(1)いじめ いじめ問題の現状といじめに関する生徒指導の重層的支援構造を学ぶ。								
第13回	個別の課題に対する生徒指導(2)暴力行為 暴力問題の現状と暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造を学ぶ。								
第14回	個別の課題に対する生徒指導(3)不登校 不登校問題の現状と不登校に関する生徒指導の重層的支援構造を学ぶ。								
第15回	生徒指導と進路指導を通じた子どもの「生き方指導」 生徒指導は進路指導と結びつき、進路指導は生徒指導と結びつくことで、子どもの生き方影響を及ぼす効果的なものになることを学ぶ。								
授業計画 備考2									
評価の方法									
	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢/態度									
最終レポート		50	生徒指導を正しく理解し、生徒指導の内容・方法について適切に論述する。						
確認テスト		50	毎回の授業の最後に、授業内容に関する小テストを行う。次時の授業で全体的な傾向についてコメントをする。						
定期試験									
その他									
評価の方法： 自由記載									
受講の心得	1) 事前・事後にテキストや参考資料を読むこと。 2) 発表や討論に積極的に取り組むこと。 3) 配付する資料を整理しておくこと。								
授業外学修	1 予習として、テキストのうち、授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、課題のレポートを書く。 3 発展学修として、授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。								
使用テキスト									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
生徒指導提要-令和4年12月-	文部科学省	東洋館出版社	9784491051758	990円					
使用テキスト：自由記載									
参考図書									
書名	著者	出版社	ISBN	備考					
参考書：自由記載	授業において随時紹介する。								
その他									
備考									
注意事項									

担当教員の 実務経験の有無	無
担当教員の 実務経験	
担当教員以 外で指導に 関わる実務経 験者の有無	無
担当教員以 外で指導に 関わる実務経 験者	
実務経験を いかした教育 内容	

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学 士力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 生徒指導・進路指導の 意義を理解する。	生徒指導・進路指導の意義・ 目的・構造・組織等を説明で きる。	生徒指導・進路指導の意 義・目的・構造・組織等を理 解している。	生徒指導・進路指導の意 義・目的・構造・組織等をだ いたい理解している。	生徒指導・進路指導の意義 や目的は理解している。	生徒指導・進路指導の意義 や目的を理解していない。
知識・理解	2. 生徒指導・進路指導の 教育課程における位置づけを 理解する。	生徒指導・進路指導の教育 課程の全領域における位置づ けを説明できる。	生徒指導・進路指導の教育 課程の全領域における位置 づけをだいたい説明できる。	生徒指導・進路指導の教育 課程における位置づけを部分 的に説明できる。	生徒指導・進路指導の教育 課程における位置づけを部分 的に理解している。	生徒指導・進路指導の教育 課程における位置づけを理解 していない。
知識・理解	3. 他の教職員や関係機関 と連携することの重要性を理解 する。	他の教職員や関係機関とど のよう連携すべきかについて説 明できる。	他の教職員や関係機関と連 携することの重要性を説明で きる。	他の教職員や関係機関と連 携することの重要性を理解し ている。	他の教職員や関係機関と連 携することの重要性を十分理 解していない。	他の教職員や関係機関と連 携することの重要性を全く理 解していない。
技能	1. 集団的・個別的な生徒 指導・進路指導の技能を身に つける。	集団的・個別的な生徒指導・ 進路指導の技能を状況に応じ て実践できる。	集団的・個別的な生徒指 導・進路指導の基本技能に ついて実践できる。	集団的・個別的な生徒指 導・進路指導のいくつかの技 能を実践できる。	集団的・個別的な生徒指 導・進路指導の技能を理解し ている。	集団的・個別的な生徒指 導・進路指導の技能を理解し ていない。
技能	2. 生徒指導を組織的に進 めていく技能を身につける。	組織的な生徒指導に求めら れる技能を実践できる。	組織的な生徒指導に求めら れる技能のいくつかを実践で きる。	組織的な生徒指導に求めら れる技能を理解している。	組織的な生徒指導に求めら れる技能のいくつかを理解し ている。	組織的な生徒指導に求めら れる技能を理解していない。

科目名	教育実習研究 B		授業番号	CP331	サブタイトル	
教員	太田 憲孝、山田 恵子、溝田 知茂、小田 真一					
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態
						実習（対面授業科目）
						必修・選択
						選択
授業概要	小学校教育実習における中心的な内容である授業の「設計－実施－評価」のサイクルの中で、授業設計にかかわる学習指導案を作成できるようになることを目標とする。そのための基礎的・基本的事項として、教育実習の意義と目的、計画と準備、心構え、実習記録簿の作成の仕方についての理解を図る。また、教材研究や児童理解に基づいた確かな学習指導案の立案を繰り返すとともに、立案した学習指導案を基に模擬授業を実施する。					
到達目標	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことができる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。					
授業計画 備考						
回	概要					担当
第1回	教育実習の意義と目的 教育実習の意義・目的・内容を理解し、実習に向けての心構えをつくる。					太田
第2回	「教師の資質」とは何か 教師の資質についての理解を深め、守秘義務、子どもの人権について考える。					太田
第3回	実習記録の意義と方法 実習記録の意義と方法について理解し、記録のとおり方と省察方法を会得する。					太田
第4回	学習指導計画の立て方 各教科の学習指導計画の立て方を学修する。					太田
第5回	学習指導案の作成 I 各教科の学習指導案の作成方法を理解する。					太田
第6回	学習指導案の作成 II 「導入」「展開」「終末」を意識した学習指導案の作成方法を学修する。					太田
第7回	学習指導案の作成 III 工夫した発問や机間指導を位置づけた学習指導案の作成方法を学修する。					山田
第8回	実習日誌の書き方 実習日誌の書き方を理解する。					山田
第9回	実習日誌への記載内容の点検 実習日誌への記載内容の点検の仕方を理解する。					山田
第10回	実習日誌に基づく反省 実習日誌に基づく反省を行い、実習全体を振り返る。					山田
第11回	学校と子どもたちの実態と実習の課題 実習を振り返り、子どもたちの実態から課題を明らかにする。					山田
第12回	実習後の礼状の書き方 実習を振り返り、実習後の礼状の書き方を理解する。					山田
第13回	実習後の成果と課題 実習を振り返り、実習後の成果と課題を明らかにする。					溝田
第14回	小学校教育実習発表会の準備 自らの実習の成果と課題を振り返ってまとめる。					溝田
第15回	小学校教育実習発表会(まとめ) 実習を通じた気づきや学びと今後の課題についてまとめる。					溝田
授業計画 備考2						
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考			
	授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な態度・模擬授業の準備・実習の準備の状況によって評価する。			
	レポート	40	教材研究、学習指導案づくりの記載内容・到達度、模擬授業等によって評価する。確認後、コメントを記入し返却する。			
	その他	30	教育実習日誌への記入・整理等によって評価する。			
評価の方法：	自由記載					
受講の心得	小学校教師を志望する強い気持ちで授業に参加すること					
授業外学修	1 予習として、授業で配付される資料を読み、疑問点を明らかにする。 2 復習として、授業で提示された課題のレポートを書く。 3 発展学習として、授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。					
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考	
使用テキスト：自由記載	小学校教育実習日誌					
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考	
参考書：自由記載						
その他	4月初日から実習前までの期間に、補講を行う。一人一人が力を付けて自信をもって実習に臨めるようにする。					
備考	R4.1改訂					
注意事項						

担当教員の 実務経験の有無	有
担当教員の 実務経験	公立小中学校, 国立附属教育実習校教員, 市教育委員会指導主事 (太田憲孝) 公立小学校教員, 教頭, 校長(山田恵子)
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者の有無	無
担当教員以 外で指導に関 わる実務経験 者	
実務経験をい かした教育内 容	学校, 教育委員会事務局等での経験を生かして, 教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学士 力)	評価の観点 (到達目標に基 づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について基本的なことを理解する。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について十分に理解している。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について概ね理解している。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について最低限理解している。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等についてやや理解が不十分。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について全く理解していない。
技能	1. 学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことができる。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことが大変良くできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことがよくできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことが普通に行うことができる。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことがあまりできない。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことが全くできない。

科目名	教育実習 B		授業番号	CP432	サブタイトル				
教員	太田 憲孝、山田 恵子、溝田 知茂								
単位数	4単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	大学の授業で学んだ理論や身に付けた知識や技能を基にして、実践的指導力（学習指導力）「生徒指導力」「マネジメント力」を身に付ける。実際に児童の前で授業を展開し、実践を評価・分析することを通して、改善点を見付け、工夫・改善していく。つまりP D C Aサイクルを教育実習の中で繰り返しながら、小学校教師としての実践的指導力を総合的に高めていく。4週間の教育実習の中で、第1週には、観察実習、第2.3週には、授業実践実習、第4週には一日経営実習を行う。また、4週間を貫く教育実習課題を個々に設定し、課題意識を明確にして教育実習に取り組む。								
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 「学習指導力」として、学習指導案の作成や教材・教具の工夫の仕方、分かりやすい授業のために指導技術などを修得する。 「生徒指導力」として、授業規律や生活規律の徹底を図るための指導方法、児童の人間関係づくりの構築方法を修得する。 「マネジメント力」として、学級担任になったことを想定して、学級経営の計画を立て、学習活動の組織の仕方を取得する。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1週 観察実習 ・配属学級での授業観察を通して次のことを中心に観察する。 (1)指導案と実際の授業との対応 (2)「教師－児童」の相互作用の実際 (3)学級経営の具体的な取り組み 第2～3週 授業実践実習 ・授業の「設計－展開－評価－（改善）」を各教科等の授業実践を通して実習する。 <各段階で求められると想定する技術> 設計：指導案を書く技術 展開：児童に学習内容を理解させる技術 評価：授業を観察・記録する技術 ・第3週目に研究授業を実施する。 第4週 一日経営実習 ・一日学級担任として、学級経営を中心に授業（2時間）を実施する。								
授業計画 備考2									
評価の方法	種別	割合	評価基準・その他備考						
授業への取り組みの姿勢／態度									
レポート									
小テスト									
定期試験									
その他		100	教育実習校での評価（80%），教育実習日誌（20%）						
評価の方法：自由記載									
受講の心得	小学校教師を志望する強い気持ちで教育実習に参加すること								
授業外学修	<ol style="list-style-type: none"> 予習として、実習校で配付される資料を読み、疑問点を明らかにする。 授業を実践する際に、十分な教材研究を行い、指導計画を立てる。 授業後には、授業実践を振り返る。 以上の内容を、週当たり1時間以上学修すること。								
使用テキスト	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
使用テキスト：自由記載	小学校教育実習日誌								
参考図書	書名	著者	出版社	ISBN	備考				
参考書：自由記載									
その他									
備考									
注意事項									
担当教員の実務経験の有無	有								
担当教員の実務経験	公立小中学校教員(27年)、国立附属教育実習校教員(4年)、市教育委員会指導主事(3年) 太田								
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有								
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	山田恵子、溝田知茂								
実務経験をいかした教育内容	学校、教育委員会事務局等での経験を生かして、教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。								

ルーブリック

評価の基準 (ディプロマポリシー・学力)	評価の観点(到達目標に基づく評価項目)	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価ができる。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価が十分にできる。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価がおおむねできる。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価が不十分である。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価ができない。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価ができるようになる。
技能	1. 学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことができる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことが大変良くできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことがよくできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことが普通にできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことがあまりできない。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことが全くできない。
態度	1. 小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務等について実践しようとする。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について十分に実践しようとしている態度が見られる。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について実践しようとしている態度がおおむねうかがえる。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について実践しようとしている態度が最低限。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務についてやや実践しようとする態度が不十分。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について全く実践しようとする態度がない。